

公第12卷 (通算第23卷)

公益財団法人
日本生命濟生会

日本生命
病院年報

公第十二卷
(通算第三卷)
(2023年4月～2024年3月)



公益財団法人日本生命濟生会
日本生命病院年報
2023年4月～2024年3月

vol. 12

2023年度 日本生命病院年報の発刊にあたって



院長 立花 功

2023年度版年報(公第12巻：2023年4月～2024年3月)をお届けします。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、通常診療の一部に組み込まれました。2024年元日には能登半島地震が発生し、医療機関も含めて甚大な被害が出ました。今後30年の間には南海トラフ地震が発生すると予想されています。これからの時代、パンデミックや自然災害での医療体制が重要となりそうです。一方で、がんや生活習慣病の医療は日進月歩で向上しており、診断や治療法が多様となっています。患者さんそれぞれに最適な医療が提供される、いわゆる個別化医療が進んでいます。

この1年も当院は診療機能の向上に取り組みました。救急搬送受入を増やしその件数が初めて年間3000件を超えました。ダヴィンチを用いたロボット支援手術は、産婦人科、泌尿器科で保険診療を行っていましたが、消化器外科にも手術対象を拡大しました。アルツハイマー病では、その診断に必要なアミロイドPETの保険適用による検査を開始、2024年3月から脳機能センター主導で新薬レカネマブによる治療を開始しました。胸部X線検査での異常所見の見落としを防ぐため、AIによる読影サポートシステムを導入し診療の安全性を向上させました。外国人患者は前年度の2923人から3561人に増加し、国際室職員が専門的医療通訳を実施しました。

日本生命済生会は「済生利民」(生命や生活を救済し人々のお役に立つこと)を理念とし、時代のスピード・環境の変化に適応して地域・社会に貢献することを目標に掲げています。引き続き日本生命病院へのご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

目 次

2023年度日本生命病院年報の発刊にあたって 院長 立花 功

第I章 軌跡

1. 日本生命病院理念と基本方針	4
2. 患者さんの権利と義務について	4
3. 施設概要	6
4. 学会認定状況	8
5. 主要医療機器	9
6. 日本生命済生会 組織図	10
7. 会議・委員会	11
8. 2023年度 業績概要	12
9. 日本生命済生会（日本生命病院）の沿革	13
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長	16

第II章 病院統計

1. 全体統計	17
1) 一日平均外来患者数	17
2) 一日平均入院患者数	18
3) 患者年齢・診療圏構成	19
4) 病床稼働率	21
5) 救急患者数	22
6) 退院患者医療評価指標	23
①退院患者統計	23
②診療科別・月別・患者数	24
③診療科別・在院期間別・患者数	25
④疾病統計	26
⑤悪性新生物統計	28
⑥診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	29
7) 手術件数	30
①診療科別・月別手術件数（手術室実施）	30
②診療科別・年間手術件数（総件数のうち、上位のみ）	31
2. 医事統計	34
1) 診療科別医療収入	34
2) 医療行為別医療収入	36
①外来	36
②入院	37
3. その他統計	38
1) 病院従業員数	38
2) セカンドオピニオン外来件数	38

第III章 部門別概要〈診療科・センター・部(室)〉

循環器内科	39
消化器内科	41
内分泌・代謝内科	43
呼吸器・免疫内科	45
血液・化学療法内科	48
脳神経内科	49
腎臓内科	51
消化器外科	53
呼吸器外科	55
乳腺外科	56

心臓血管外科	57
産婦人科	58
小児科	60
神経科・精神科	62
脳神経外科	65
整形外科	66
皮膚科	68
泌尿器科	71
眼科	73
耳鼻咽喉・頭頸部外科	74
形成再建外科	76
放射線診断・IVR科	77
放射線治療科	78
麻酔・緩和医療科	79
リハビリテーション科	82
救急総合診療科	85
検査診断科	86
病理診断科	87
予防診療科	88
救急総合診療センター	89
がん治療センター	90
女性骨盤底センター	92
糖尿病・内分泌センター	93
消化器内視鏡センター	95
血液浄化センター	96
脳機能センター	97
乾癬センター	99
臨床研修部	101
輸血管理室	102
化学療法室	103
リハビリテーション室	104
中央手術管理部	108
中央臨床検査部	109
中央放射線部	112
栄養管理室	113
薬剤部	116
臨床工学室	119
臨床研究管理室	120
医療安全対策室	121
感染対策室	122
あったかサポートセンター	125
ニッセイ訪問看護ステーション	134
ニッセイケアプランセンター	136
看護部	137
国際室	144
ニッセイ予防医学センター	146

第IV章 諸活動

1. 日本生命病院医学セミナーUpdate	148
2. 1年目研修医オリエンテーション	149
3. 実習生等受け入れ	150
4. 講演会・研修会	151
5. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞	155
6. 地域活動等	155
7. ボランティアについて	156
8. 広報関係(各種メディア、表彰等)	157
9. 院内行事	158

1. 日本生命病院理念と基本方針

理念

日本生命病院は公益財団法人日本生命済生会の基本理念である「濟生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 地域・社会のニーズに対応した変革を進め、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 地域から愛され信頼される、安全・安心な病院を目指します。
7. 上記6項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者さんの権利と義務について

《患者さんの権利》

医療は患者さんと医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合って作り上げていくものです。日本生命病院では、患者さん中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者さんの権利を大切にします。

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者さんは、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者さんは、十分な説明と情報提供を受けたうえで治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者さんは、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者さんは、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

《患者さんの義務》

日本生命病院では、ご来院・ご入院されるすべての患者さんに対し、安全・安心な環境において、良質な医療サービスを提供します。患者さんにおかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いします。

1. 患者さんには、自らの過去の病歴を含む健康に関する詳細な情報、診療中の変化を正確に伝える義務があります。
2. 患者さんには、治療や検査などの治療方針について、医療者から説明があった場合は、できるだけ明確な意思表示をする義務があります。
3. 患者さんには、医療が安全かつ効果的に実施されるよう、患者さんのご本人確認を含めた診療行為に積極的に参加し、協力する義務があります。
4. 患者さんには、病院内では、当院の規則および公共の場のルールを守って他の方の迷惑にならないよう行動する義務があります。
5. 患者さんには、医療費を支払う義務があります。
6. 患者さんには、医療は医学、社会、経済、倫理等の様々な要因により限界があることを認識する義務があります。

2019年4月 制定

3. 施設概要

1. 名称 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院
2. 所在地 大阪府大阪市西区江之子島2丁目1番54号
3. 竣工年月日 2018年1月5日
工事期間 2015年10月～2017年12月
4. 開設年月日 2018年4月30日
5. 構造 鉄骨造（免震構造）
6. 延床面積 38,185.66㎡
7. 階数 地下1階、地上14階、塔屋2階
8. 高さ 67.99m
9. 設備概要 受変電：22kV特高スポットネットワーク受電（TR1.250kVA×3台）
発電機：非常用発電機（ガスタービン）高圧 1,500kVA
常用発電機（マイクロCGS）低圧 31kVA×10台
無停電電源：医療用100kVA、情報用100kVA
通信・信号：ナースコール、インターホン、テレビ共同受信、監視カメラ、入退室管理、
電話、LAN
熱源方式：ジェネリンク機、モジュールチラー、マイクロコージェネ
空調方式：空調機、ファンコイル、空冷パッケージエアコン、（放射空調）
給湯設備：ガス給湯ヒーター、ガス連結式瞬間型給湯器、貯湯式電気温水器
消火設備：スプリンクラー、連結送水管、泡消火、窒素ガス消火、フード消火
医療ガス：酸素、笑気、窒素、炭酸ガス、圧縮空気、吸引
エレベータ：一般乗用5台、寝台用1台、人荷用2台、非常用2台、小荷物専用3台
エスカレータ：6台
10. 許可病床数 350床

	14階 (1,604㎡)
	13階 (1,604㎡)
	12階 (1,604㎡)
一般病棟	11階 (1,604㎡)
	10階 (1,604㎡)
	9階 (1,611㎡)
	8階 (1,601㎡)
女性病棟 (LDR室、新生児室)	7階 (1,859㎡)
リハビリ庭園	リハビリテーション室／機械室／栄養管理室／厨房 6階 (2,419㎡)
	管理部門／医局／研修医スペース／看護部管理室／福祉事業局／医療安全対策室／ 感染対策室／診療情報管理室／情報システム室／国際室／技術トレーニング室／会議室／応接室 5階 (3,577㎡)
	手術室／集中治療室／化学療法室／血液浄化センター／ 中央臨床検査部 (検体・病理・細菌検査)／薬剤部／臨床工学室 4階 (3,577㎡)
	予防医学センター (人間ドック・健診)／消化器内視鏡センター／ 中央放射線部／臨床研究管理室 3階 (3,577㎡)
	外来／生理検査室／採血室／栄養指導室／医事サービス部／ あったかサポートセンター／がん治療センター／糖尿病・内分泌センター／乾癬センター 2階 (3,769㎡)
ニッセイ四季彩ガーデン	救急総合診療センター／リニアック治療室／訪問看護ステーション／ あったかふれあいホール／工房／コリドー／レストラン・カフェ／コンビニ 1階 (3,534㎡)
	駐車場 B1階 (3,811㎡)

- ・第8回みどりのまちづくり賞ランドスケープデザイン部門「大阪府知事賞」(最高賞) 受賞
- ・第39回大阪都市景観建築賞 (愛称: 大阪まちなみ賞)「緑化賞」 受賞



ニッセイ四季彩ガーデン



病院外観



コリドー

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・高速回転式経皮経管アテレクトミー（Rotablator）施設認定
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本膵臓学会認定指導施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本超音波医学会専門医制度研修施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本アレルギー学会専門医準教育施設
- ・日本血液学会血液研修施設
- ・日本血液学会専門研修認定施設
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会認定医制度認定施設
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
- ・日本呼吸器外科学会専門研修連携施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
- ・四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会
腹部ステントグラフト実施施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術の関する委員会
ロボット支援下婦人科良性疾患手術実施施設
- ・日本産科婦人科学会腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）登録施設
- ・日本精神神経学会専門医制度研修施設
- ・日本総合病院精神医学会
一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本形成外科学会専門医制度認定施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
インプラント実施施設
- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医研修施設
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・画像診断管理認証施設（MRI安全管理に関する事項）
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本造血・免疫細胞療学会
非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科）
- ・日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
- ・日本認知症学会専門医制度教育施設
- ・卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設
- ・日本インターナショナルホスピタルズ

（2024年4月1日現在）

5. 主要医療機器

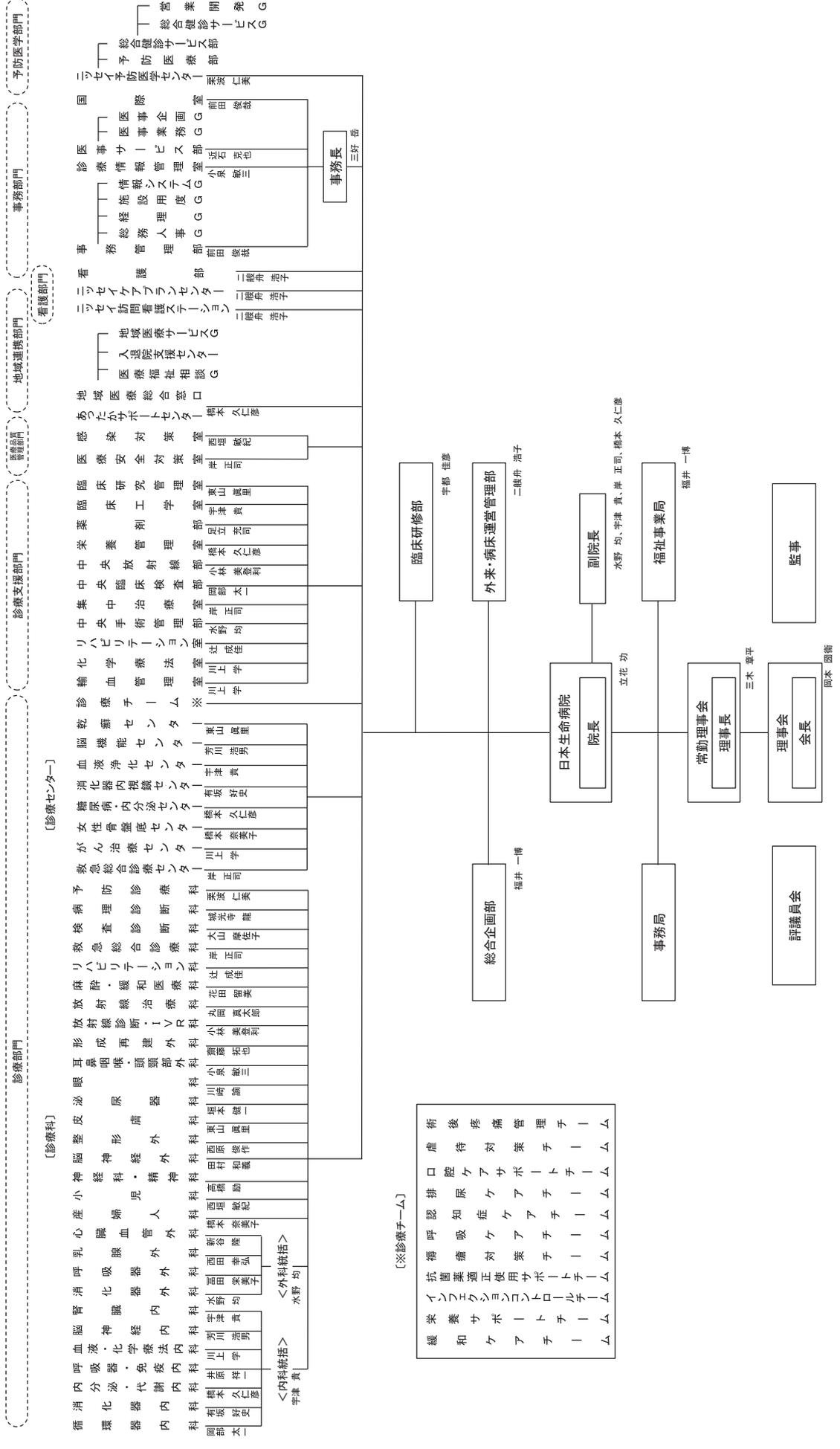
品名	設置部署
補助循環用バルーンポンプ駆動装置 CARDIOSAVE	循環器内科
体外循環装置用遠心ポンプ駆動装置 SP200C	循環器内科
超音波内視鏡 GF-UE260AL5 GF-UCT260	消化器内視鏡 センター
超音波内視鏡観測装置 EU-ME2	消化器内視鏡 センター
超音波診断装置 Aplio i700	中央臨床検査部・ 予防医学センター
超音波診断装置 Aplio i600	予防医学センター・ 中央臨床検査部
超音波診断装置 Aplio i300	乳腺外科・ 中央手術管理部
内視鏡本体・スコープ EVIS LUCERA ELITE	消化器内視鏡 センター
内視鏡本体・スコープ VP-7000	消化器内視鏡 センター
ステレオ定位乳腺バイオプシーシステム	乳腺外科
体外衝撃波結石破碎装置 Integra	泌尿器科
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼科
走査型超広角眼底撮影装置 CLARUS	眼科
光干渉断層計 (OCT) シラスhd-oct prus	眼科
眼撮影装置CASIA2	眼科
キャビン型紫外線治療器 UV7002K-TL01	皮膚科
X線一般撮影装置	中央放射線部・ 予防医学センター
デジタルX線TVシステム	中央放射線部・ 予防医学センター
ポータブル撮影装置	中央放射線部
16列治療計画用CT Aquilion LB	中央放射線部
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE	中央放射線部
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE/NATURE	中央放射線部
放射線治療システム True Beam	中央放射線部
大動脈内バルーンポンプ IABP	中央放射線部
経皮的心肺補助装置 PCPS	中央放射線部
1.5テスラ全身用磁気共鳴装置 (MRI) MAGNETOM Altea	中央放射線部
3.0テスラ磁気共鳴断層装置 (MRI) MAGNETOM Skyra	中央放射線部
デジタルガンマカメラ SYMBIA-E	中央放射線部
PET-CT装置 Discovery IQ.e	中央放射線部

品名	設置部署
心臓用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD10/10	中央放射線部
汎用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD20	中央放射線部
透視下内視鏡用Cアーム VersiFlex VISTA	中央放射線部
マンモグラフィシステム AMULET Innovality	中央放射線部・ 予防医学センター
三次元放射線治療計画システム Eclipse	中央放射線部
FSVセントラルシステム (胎児集中監視システム)	病棟
超音波診断装置 ARIETTA850	中央臨床 検査部
血液検査分析器 HSトランスポートーション	中央臨床 検査部
血液分析装置 XN-3000/XN-1000	中央臨床 検査部
生化学分析装置 LABOSPECT008 a	中央臨床 検査部
微生物分類同定分析装置 バイテックMS	中央臨床 検査部
遠心型血液成分分離装置 スペクトラオプティア	中央臨床 検査部
自動染色装置 ベンチマークULTRA	中央臨床 検査部
自動検体搬送装置 IDS-CLAS+X-1	中央臨床 検査部
採血管準備装置 BC・ROBO8001RFID/P62T、BC・ROBO8001RFID/T4	中央臨床検査部・ 予防医学センター
眼科用手術顕微鏡 OPMI Lumera700	中央手術 管理部
白内障手術装置 センチュリオンビジョンシステム	中央手術 管理部
耳鼻咽喉・頭頸部外科用手術顕微鏡 M525 F40	中央手術 管理部
手術室用FD搭載Cアーム Cios Alpha iV	中央手術 管理部
手術室用X線透視診断装置 CALNEO CROSS	中央手術 管理部
ライカ脳神経外科手術顕微鏡 M530-OHX	中央手術 管理部
超音波手術装置 CUSA C37-1005	中央手術 管理部
ロボット手術システム da Vinci Xi	中央手術 管理部
腹腔鏡装置 VISERA ELITE II	中央手術 管理部
ストライカーナビゲーション NAV3iプラットフォーム	中央手術 管理部
高圧蒸気滅菌器	中央手術 管理部
過酸化水素ガス滅菌装置	中央手術 管理部
自動注射払出機 YS-APF	薬剤部

6. 日本生命済生会 組織図

(2024.3.1)

患者・受診者・家族の皆さん、地域の皆さん、連携医療機関



7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が3月・6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数	委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	中川 厚	11	治験審査委員会	東山 真里	13
安全衛生委員会	高橋 励	12	DPC・質向上委員会	川崎 諭	3
医療安全管理委員会	岸 正司	12	当直・救急・集中治療室検討委員会	岸 正司	6
医療ガス安全管理委員会	小泉 敏三	1	透析機器安全管理委員会	宇津 貴	2
医療機器・ディスプレイ検討委員会	立花 功	7	日本生命病院医学顕彰委員会	橋本久仁彦	2
医療従事者業務検討委員会	立花 功	2	年報作成委員会	花田 留美	2
院内感染対策委員会	西垣 敏紀	12	病院機能向上委員会	宇津 貴	1
栄養・給食委員会	橋本久仁彦	6	防災管理委員会	有坂 好史	2
化学療法運営委員会	西田 幸弘	3	放射線安全および医療放射線安全委員会	丸岡真太郎	1
教育委員会	橋本久仁彦	5	訪問看護運営委員会	二艘舟浩子	1
クリティカルパス委員会	垣本 健一	3	薬事管理委員会	立花 功	2
研修推進委員会	宇都 佳彦	3	輸血療法委員会	川上 学	6
研修管理委員会	立花 功	3	臨床検査適正化委員会	岡部 太一	2
情報管理委員会	西原 俊作	1	臨床工学室運営委員会	宇津 貴	6
褥瘡対策委員会	齋藤 拓也	3	倫理委員会	水野 均	9
診療情報提供委員会	橋本奈美子	0	利益相反管理委員会	水野 均	1
診療録管理委員会	小泉 敏三	6			

8. 2023年度 業績概要

総収入	12,919百万円 (11,931百万円*)		
新入院患者数	9,511人	平均在院日数	10.3日
入院患者数(1日平均)	292人	入院単価	72,477円
病床稼働率	83.4%		
外来延患者数	240,196人	外来単価	17,885円
外来患者数(1日平均)	984人		
紹介率	91.7%	逆紹介率	97.7%

* ()内は病院単独

9. 日本生命済生会(日本生命病院)の沿革

1924年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	1974 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂(1979年発刊)
1925 4	健康相談所(無料診療所)を開設 大地震に救護班派遣	1976 1	RI検査室を新設
1930 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け (大阪市西区新町)	1978 3	「(新)病院建築基本構想委員会」設置
1931 6	日生病院(内科、外科、理学的診療科)開院	1978 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ昇格
1932 4	看護婦養成所を設立	1979 4	医療事務をコンピュータ化
1932 7	産婦人科、小児科を新設	1982 4	新病院(現在地)の竣工、開院
1942 1	耳鼻咽喉科を新設	1983 3	日本生命と第一回特別委員会 (5カ年計画策定)
1947 1	眼科新設(その後皮膚泌尿器科、歯科、 整形外科新設)	1984 3	全科で午後外来診療を開始
1947 4	インターン制度の開始 (第1期生9名受入れ)	1984 4	社会事業局を福祉事業部に改組
1948 9	健康保険、労災保険病院の指定を受ける	1985 4	病理部を再設置
1949 7	結核病棟を設置(1973年8月、閉鎖)	1987 12	HBS社(医療経営コンサルト)の診断を受ける
1955 12	第二種社会福祉事業(無料低額診療)を開始	1988 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術連合 会議からパイオニア賞を受賞
1956 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣工 (350床へ)	1989 2	夕食を午後6時配膳
1956 6	健康精密検査室(人間ドック)を開設	1989 10	専門外来(10科)開始
1957 8	総合病院の認可を受ける	1989 11	自動再診受付機を設置
1958 4	済生会組織、三部門体制へ (現行体制スタート)	1990 10	学校、創立30周年記念式典
1958 10	甲表採用、三基準認可	1991 4	4週6休制試行開始
1959 10	神経科新設	1991 10	地域の「健康講座」に講師派遣
1960 4	学校、准看護学院から高等看護学院 (正看護婦養成)へ	1992 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
1961 6	日本生命済生会労働組合の結成	1993 2	「病院運営会議」を再開
1965 8	各診療科に部長制採用	1993 4	MRIの稼働開始
1967 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ 拡大、充実	1993 6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得
1968 8	第1回「社会福祉カウンセリング講座」開講	1993 10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成
1969 4	沖中重雄氏(虎の門病院長)を顧問委嘱	1994 3	内科外来等で予約診療開始
1970 9	第1回「篤志解剖者慰霊祭」執行	1994 7	創立70周年記念式典、諸行事実施 (7~11月)、70年史の編纂開始
1971 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行	1994 10	脳ドック検診開始
1972 4	臨床研修指定病院の認定を受ける	1994 10	新看護体系「2:1(A)」の承認
1973 2	「日生病院医学雑誌」第1巻第1号を刊行	1994 11	無菌治療室設置、使用開始
1973 3	紀要「地域福祉研究」第1集刊	1995 2	保温保冷配膳車導入
1973 4	放射線学会「専門医修練機関」認定	1995 8	日生医学賞・医学奨励賞創設、 第1回表彰式実施
1973 9	病歴図書部を新設	1995 8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞受賞
1973 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」 開発で機械振興会賞を受賞	1996 5	総合案内・看護相談の試行実施
		1996 10	「歯科口腔外科」標榜
		1997 2	経営改善推進本部・部会の発足

1997	3	歯科臨床教育病院の新規指定	2012	4	生活習慣病センターから糖尿病センターへ組織名称変更
1997	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト(医療経済研究機構)に選ばれ、参加(全国17モデル病院)	2012	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次元画像解析」(眼科)が承認される
1998	2	「日生病院だより」創刊号発行	2012	8	320列マルチスライスCT導入
1998	5	総合診療科機能発足	2013	4	新病院新設準備室の新設
1998	7・8	DRG/PPS分析結果報告会開催	2013	4	予防医学センターで「統合健診システム」の稼働
1998	11	院外処方箋発行開始	2013	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨隆固定術」(産婦人科)が承認される
1998	11	薬剤管理指導料全科算定認可	2013	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント「自然に学ぶ!自然に遊ぶ!健康キッズ」開催
1999	3	医療材料院外SPD(物品管理システム)始動	2014	1	広報誌「日生病院あったかサポート通信『Saisei Rimin(済生利民)』」を発売
1999	7	インフラ工事開始(2000年4月:3階新病棟オープン)	2014	1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設
2000	3	日生訪問看護ステーションを開設	2014	4	「変革4ヵ年計画」がスタート
2000	4	日生ケアプランセンター設置	2014	4	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管理部、女性骨盤底センター、救急診療センター、中央放射線部、事務管理部の新設
2001	4	病院機能評価認定証取得	2014	4	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定
2001	4	「日生病院の理念」制定、「患者様の権利」院内掲示	2014	5	新電子カルテシステムが全面稼働
2001	6	公開学術講演会開催(講師:北村国立循環器病センター総長)	2014	7	日本生命済生会 創立90周年「90年小史」作成
2001	7	第1回日生病院病診連携フォーラム開催	2014	9	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始
2002	1	開放型病院資格取得	2015	1	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定
2003	4	医療安全対策室設置	2015	4	中央手術管理部の新設
2003	4	予防医学センター設置	2015	7	新病院開設許可受ける
2004	2	内科二次救急指定病院取得	2015	9	休日診療の試験実施(9月23日、11月23日)
2005	3	電子カルテシステム稼働	2015	10	新病院着工
2006	4	血液・化学療法内科新設	2016	1	呼吸器外科新設
2006	7	DPC導入(入院医療費)	2016	3	日本産科婦人科学会の倫理委員会で承認された、不妊治療の臨床研究に係る卵巣ミトコンドリア採取手術を開始
2007	2	土曜日閉院 4週8休制開始	2016	4	耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に改組
2007	3	7対1入院基本料算定開始	2016	4	内科統括・外科統括職制の新設
2007	3	日生看護専門学校閉校	2016	6	日本総合病院精神医学会 施設認定
2007	11	がん治療センター、低侵襲医療センター開設	2016	7	腎臓・透析センター、腎臓内科を新設
2008	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン	2016	7	「入退院支援センター」をあったかサポートセンター内に設置
2008	7	生活習慣病センター開設	2016	10	日本大腸肛門病学会 施設認定
2008	10	乳腺外科新設	2016	11	日本消化管学会 施設認定
2009	3	第1回日生病院市民公開講座開催	2016	12	新病院上棟式
2009	4	大阪府がん診療拠点病院に指定	2017	3	日本胆道学会 施設認定
2010	8	無料乳がん検診開始	2017	4	形成再建外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、放射線治療科を新設
2011	4	消化器内視鏡センター開設	2017	4	日本腎臓学会 施設認定
2012	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮体がん根治手術」(産婦人科)が承認される			
2012	4	公益財団法人へ移行			
2012	4	地域医療総合窓口あったかサポートセンター創設			

2017	5	日本婦人科腫瘍学会 施設認定	2020	7	アミロイドPET検査開始、 「糖尿病予防プログラム」の有償サービス 開始、日本造血細胞移植学会 施設認定
2018	1	日本呼吸器外科学会 施設認定	2020	12	10階病棟をコロナ専用として運用開始
2018	2	「地域医療支援病院」として大阪府より承認	2021	3	「大阪市西区消防記念日表彰」 (救急業務運営協力医療機関) を受ける
2018	4	日本ペインクリニック学会 施設認定	2021	4	日本肝臓学会、日本神経学会、 日本認知症学会 施設認定
2018	4	「日本生命病院」に改称し、江之子島へ 移転・開院	2021	9	電子カルテシステム更新
2018	6	ダヴィンチによる手術開始	2021	10	総合内科を内分泌・代謝内科、 呼吸器・免疫内科に改組
2018	10	みどりのまちづくり賞・大阪府知事賞を受賞	2022	1	あったかふれあいホールを「臨時外来」に 転用し、発熱患者の診察やPCR検査を実施
2018	11	神経内科を脳神経内科に改組	2022	3	放射線治療システムを増強
2018	12	「スマートフォン診察呼出アプリ」の 運用開始	2022	4	予防診療科の新設
2019	1	日本膵臓学会 施設認定	2022	5	化学療法室の増床
2019	4	乾癬センターの新設、総合入院体制加算の 算定開始、日本超音波医学会 施設認定	2022	11	タブレット端末導入等による訪問看護シス テムのリニューアル
2019	5	大阪府「外国人患者受入地域拠点医療機関」 に選定される	2022	11	オンライン資格確認の運用開始
2019	10	国際室の新設	2022	12	集中出版による「癒しと安らぎの環境賞 2022」受賞
2020	1	「帰国者・接触者外来」の設置	2023	3	外来フロアの案内表示をリニューアル
2020	3	JCEPの臨床研修評価を受審し認定を受ける			
2020	4	救急総合診療科の改組新設、 「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」 の認証を受ける			

(2023年度沿革)

2023年11月	治験文書クラウド管理システムを導入
2024年1月	ダヴィンチによる結腸悪性腫瘍手術の施設基準を取得
2024年3月	認知症新薬承認に伴う保険診療
2024年3月	胸部X線読影についてのAIによる読影サポートシステムを導入
2024年3月	ニッセイケアプランセンターを収束

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長

設立時の常任理事	小河 滋次郎	1924年～1925年
日本生命済生会 会 長	弘世 現	1960年～1991年
	川瀬 源太郎	1991年～2000年
	小林 幹司	2000年～2005年
	宇野 郁夫	2005年～2016年
	岡本 圀衛	2016年～
日本生命済生会 理 事 長	手塚 太郎	1925年～1932年
	弘世 助太郎	1932年～1936年
	成瀬 達	1936年～1951年
	弘世 現	1951年～1960年
	若林 源蔵	1960年～1968年
	浜田 勝巳	1968年～1980年
	浅井 啓三	1980年～1986年
	鳥井 静夫	1986年～1992年
	弟子丸 兆生	1992年～1994年
	平島 一	1994年～1996年
	沼田 輝夫	1996年～2002年
	小林 三紘	2002年～2008年
	野崎 篤彦	2008年～2018年
	三木 章平	2018年～
	日本生命病院 院 長	長雄 勝馬
清水 寛一		1937年～1946年
勝部 育郎		1946年～1948年
新海 輝一		1948年～1971年
諏訪 信吾		1971年～1974年
上野 元男		1974年、1976年～1977年
乾 久朗		1974年～1976年
中井 俊夫		1977年～1990年
山本 昌弘		1990年～2000年
佐藤 文三		2000年～2004年
宗田 滋夫		2004年～2008年
寺川 直樹		2008年～2013年
笠山 宗正		2013年～2021年
立花 功		2021年～



会長 岡本 圀衛



理事長 三木 章平



院長 立花 功

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	55 (55)	55 (56)	49 (51)	53 (54)	51 (54)	52 (55)	54 (53)	52 (56)	55 (56)	55 (55)	57 (56)	52 (55)	53 (54)
消化器内科	73 (70)	74 (76)	73 (72)	74 (72)	69 (65)	76 (76)	79 (75)	76 (79)	76 (74)	74 (76)	77 (76)	73 (74)	74 (74)
内分泌・代謝内科	89 (91)	85 (89)	89 (91)	85 (85)	84 (84)	90 (96)	90 (93)	88 (87)	94 (98)	88 (88)	94 (87)	91 (93)	89 (90)
呼吸器・免疫内科	71 (62)	73 (62)	75 (61)	75 (66)	69 (61)	79 (69)	73 (69)	78 (68)	71 (69)	79 (66)	77 (68)	77 (72)	75 (66)
血液・化学療法内科	36 (33)	36 (37)	32 (34)	34 (36)	34 (35)	37 (36)	39 (38)	41 (38)	42 (36)	39 (35)	39 (37)	36 (36)	37 (36)
脳神経内科	30 (28)	31 (29)	28 (30)	30 (30)	29 (31)	30 (30)	31 (30)	31 (31)	30 (32)	32 (29)	29 (30)	30 (28)	30 (30)
腎臓内科	30 (27)	30 (28)	28 (26)	31 (29)	29 (28)	31 (29)	30 (27)	31 (27)	33 (31)	31 (30)	32 (28)	33 (27)	31 (28)
内科(計)	384 (365)	385 (376)	374 (366)	380 (371)	365 (357)	395 (391)	396 (385)	398 (385)	400 (396)	399 (380)	404 (381)	391 (384)	389 (378)
消化器外科	18 (19)	21 (20)	19 (21)	18 (17)	19 (19)	19 (19)	19 (19)	21 (19)	20 (19)	20 (17)	21 (20)	21 (18)	20 (19)
呼吸器外科	4 (4)	4 (3)	4 (4)	4 (3)	5 (4)	5 (3)	5 (4)	4 (4)	4 (3)	5 (3)	5 (4)	4 (3)	4 (3)
乳腺外科	19 (19)	20 (20)	19 (18)	19 (19)	17 (17)	22 (19)	16 (19)	16 (19)	17 (20)	14 (20)	13 (20)	14 (18)	17 (19)
心臓血管外科	7 (7)	6 (6)	7 (8)	7 (7)	6 (5)	7 (7)	6 (6)	7 (6)	8 (8)	7 (7)	7 (6)	7 (7)	7 (7)
外科(計)	48 (49)	51 (46)	48 (50)	49 (45)	46 (45)	52 (48)	47 (48)	48 (48)	49 (50)	47 (47)	46 (49)	46 (46)	48 (48)
産婦人科	79 (81)	87 (87)	76 (81)	82 (83)	80 (77)	84 (88)	85 (81)	86 (85)	84 (80)	83 (79)	81 (78)	88 (80)	83 (82)
小児科	33 (29)	36 (29)	36 (31)	37 (30)	34 (28)	35 (30)	31 (30)	35 (28)	38 (32)	32 (31)	33 (32)	34 (31)	34 (30)
神経科・精神科	57 (57)	58 (65)	51 (54)	54 (59)	49 (58)	54 (62)	54 (61)	53 (63)	53 (59)	57 (65)	56 (62)	55 (61)	54 (60)
脳神経外科	5 (5)	5 (4)	3 (4)	4 (4)	4 (4)	3 (4)	3 (6)	3 (4)	3 (4)	4 (5)	3 (5)	4 (4)	4 (4)
整形外科	54 (47)	56 (54)	54 (50)	52 (45)	48 (48)	56 (53)	56 (55)	50 (53)	54 (50)	50 (55)	55 (51)	54 (56)	53 (51)
皮膚科	101 (103)	105 (104)	100 (99)	103 (104)	96 (103)	112 (108)	104 (106)	105 (104)	105 (105)	105 (107)	107 (107)	106 (102)	104 (104)
泌尿器科	43 (45)	41 (44)	41 (39)	43 (45)	38 (38)	44 (42)	44 (44)	38 (39)	43 (42)	42 (46)	44 (41)	40 (44)	42 (42)
眼科	53 (47)	51 (47)	49 (51)	50 (50)	46 (42)	51 (53)	49 (49)	47 (48)	47 (50)	45 (47)	45 (47)	46 (48)	48 (48)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	32 (34)	32 (35)	31 (36)	33 (32)	32 (30)	36 (35)	34 (33)	38 (34)	37 (34)	36 (35)	32 (32)	32 (34)	34 (34)
形成再建外科	11 (11)	12 (15)	10 (14)	9 (14)	8 (12)	9 (12)	8 (13)	9 (14)	10 (13)	8 (13)	9 (13)	10 (12)	9 (13)
放射線診断科	6 (4)	5 (5)	6 (5)	4 (4)	5 (4)	5 (5)	5 (4)	5 (6)	4 (5)	4 (5)	6 (4)	6 (6)	5 (5)
放射線治療科	11 (12)	11 (8)	12 (8)	10 (9)	10 (9)	11 (11)	13 (9)	15 (11)	11 (13)	11 (14)	13 (16)	9 (15)	11 (11)
麻酔・緩和医療科	14 (16)	15 (16)	14 (16)	16 (17)	22 (16)	22 (15)	22 (16)	22 (16)	20 (14)	21 (14)	21 (15)	20 (14)	19 (15)
リハビリテーション科	7 (15)	7 (17)	6 (15)	5 (18)	5 (17)	6 (18)	6 (7)	6 (6)	4 (7)	4 (5)	4 (6)	3 (6)	5 (11)
救急総合診療科	17 (20)	20 (23)	17 (19)	24 (40)	25 (30)	23 (21)	19 (18)	18 (19)	21 (24)	26 (28)	22 (18)	18 (17)	21 (23)
糖尿病・内分泌センター	7 (7)	7 (8)	7 (7)	6 (8)	7 (7)	6 (7)	7 (8)	7 (7)	7 (9)	6 (7)	8 (7)	6 (7)	7 (7)
血液浄化センター	13 (10)	14 (11)	12 (11)	12 (12)	11 (12)	12 (13)	11 (13)	11 (12)	12 (13)	13 (13)	13 (12)	13 (13)	12 (12)
予防診療科	2 (2)	2 (1)	2 (3)	2 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (3)	1 (2)	1 (2)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	975 (959)	998 (996)	946 (959)	975 (991)	931 (940)	1,020 (1,017)	995 (988)	996 (983)	1,003 (1,003)	996 (998)	1,003 (980)	981 (982)	984 (982)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入
2. ()内は前年同月

[医事サービス部]

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	21 (22)	21 (19)	17 (20)	14 (17)	15 (15)	16 (19)	17 (20)	18 (25)	19 (23)	21 (27)	21 (22)	20 (21)	18 (21)
消化器内科	22 (20)	21 (15)	25 (25)	33 (25)	28 (30)	27 (30)	24 (25)	26 (27)	31 (22)	24 (26)	30 (31)	28 (21)	27 (25)
内分泌・代謝内科	17 (16)	15 (16)	17 (14)	13 (16)	19 (18)	18 (15)	14 (13)	12 (10)	14 (13)	14 (15)	15 (14)	17 (18)	15 (15)
呼吸器・免疫内科	48 (44)	50 (40)	59 (43)	56 (43)	52 (47)	47 (35)	48 (38)	47 (46)	47 (47)	57 (45)	62 (48)	57 (49)	52 (44)
血液・化学療法内科	26 (30)	29 (24)	30 (28)	28 (29)	24 (30)	26 (29)	29 (29)	25 (27)	28 (30)	26 (34)	33 (26)	32 (26)	28 (28)
脳神経内科	9 (5)	11 (7)	9 (9)	8 (10)	11 (11)	12 (9)	12 (12)	12 (11)	11 (9)	10 (12)	11 (12)	12 (10)	11 (10)
腎臓内科	9 (20)	11 (18)	16 (15)	12 (15)	13 (15)	12 (12)	9 (11)	9 (8)	16 (15)	18 (15)	19 (10)	17 (12)	13 (14)
内科(計)	153 (157)	159 (139)	173 (153)	163 (155)	162 (166)	158 (150)	154 (148)	150 (154)	165 (159)	168 (174)	190 (164)	182 (157)	165 (156)
消化器外科	15 (17)	16 (14)	17 (14)	17 (17)	17 (14)	16 (16)	16 (13)	14 (15)	17 (13)	17 (14)	17 (15)	19 (15)	17 (15)
呼吸器外科	2 (2)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	4 (3)	4 (4)	3 (3)	2 (4)	2 (2)	3 (1)	4 (2)	4 (2)	3 (2)
乳腺外科	5 (4)	5 (3)	7 (5)	7 (6)	6 (7)	9 (4)	5 (6)	3 (6)	1 (7)	0 (4)	0 (3)	0 (4)	4 (5)
心臓血管外科	2 (4)	5 (3)	4 (4)	5 (4)	5 (2)	6 (3)	6 (3)	6 (4)	6 (2)	5 (3)	4 (4)	4 (3)	5 (3)
外科(計)	25 (26)	30 (24)	30 (25)	32 (30)	33 (26)	35 (27)	32 (26)	24 (29)	28 (25)	26 (23)	24 (22)	28 (25)	28 (25)
産婦人科	31 (24)	28 (28)	30 (29)	28 (30)	30 (25)	30 (28)	26 (33)	27 (28)	30 (30)	24 (27)	27 (28)	29 (32)	28 (28)
小児科	5 (2)	5 (3)	7 (5)	6 (3)	5 (3)	5 (5)	4 (7)	5 (5)	6 (4)	3 (4)	4 (3)	6 (5)	5 (4)
神経科・精神科	9 (4)	9 (5)	14 (7)	12 (10)	9 (7)	8 (11)	13 (8)	10 (8)	9 (6)	11 (10)	9 (6)	10 (8)	10 (8)
脳神経外科	2 (2)	1 (3)	1 (2)	2 (3)	1 (3)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	3 (5)	2 (6)	2 (2)	3 (1)	2 (3)
整形外科	19 (18)	14 (14)	16 (17)	17 (19)	16 (15)	13 (18)	13 (18)	13 (18)	16 (19)	10 (14)	14 (19)	13 (17)	15 (17)
皮膚科	5 (8)	4 (5)	5 (8)	6 (10)	7 (7)	4 (7)	6 (9)	6 (11)	6 (9)	3 (8)	4 (7)	7 (6)	5 (8)
泌尿器科	11 (8)	7 (8)	11 (10)	9 (10)	8 (12)	7 (7)	8 (11)	10 (10)	7 (10)	6 (7)	6 (12)	7 (12)	8 (10)
眼科	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (2)	2 (1)	3 (2)	3 (2)	2 (2)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	5 (7)	8 (3)	7 (6)	6 (8)	7 (7)	9 (10)	11 (11)	12 (12)	11 (8)	11 (6)	7 (8)	10 (6)	9 (8)
形成再建外科	3 (1)	1 (2)	2 (2)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (2)	2 (1)	2 (1)
放射線診断科	0 (0)												
放射線治療科	0 (0)												
麻酔・緩和医療科	0 (0)												
リハビリテーション科	0 (0)												
救急診療センター	9 (8)	11 (10)	11 (8)	14 (8)	19 (7)	14 (10)	10 (6)	11 (5)	13 (11)	17 (10)	16 (8)	14 (11)	13 (8)
合計	278 (269)	278 (245)	308 (274)	299 (288)	302 (281)	286 (277)	281 (280)	272 (287)	295 (288)	284 (290)	308 (284)	312 (281)	292 (278)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入
2. ()内は前年同月

[医事サービス部]

3 患者年齢・診療圏構成

外来 年齢階級	年度	総数	大阪市内訳(主要区)										
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0~9	2013	2,255	85	47	2,123	1,456	310	58	68	63	23	43	102
	2014	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
	2015	2,092	75	48	1,969	1,293	293	52	82	76	30	42	101
	2016	1,894	56	47	1,791	1,190	271	44	103	59	30	29	65
	2017	1,771	55	44	1,672	1,144	216	37	118	50	28	21	58
	2018	1,909	68	42	1,799	1,147	234	38	155	69	30	37	89
	2019	2,010	83	64	1,863	1,151	228	33	154	68	50	51	128
	2020	1,422	42	56	1,324	735	151	35	79	56	45	50	173
	2021	1,586	60	72	1,454	811	175	25	107	65	58	41	172
	2022	1,546	44	65	1,437	767	198	27	113	64	63	45	160
	2023	1,741	69	58	1,614	867	216	37	123	61	73	54	183
10~19	2013	601	27	29	545	307	93	44	28	23	5	8	37
	2014	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
	2015	635	33	35	567	324	73	42	42	23	9	4	50
	2016	604	31	32	541	289	97	48	35	20	8	6	38
	2017	600	39	43	518	271	91	44	29	22	9	9	46
	2018	647	30	56	561	299	92	33	37	24	17	6	53
	2019	792	49	67	676	337	98	46	50	25	12	10	98
	2020	705	37	60	608	251	86	39	40	20	19	7	146
	2021	795	39	68	688	252	110	44	51	25	25	6	170
	2022	829	30	64	735	295	105	43	60	23	22	14	173
	2023	827	43	72	712	321	112	32	69	32	32	9	175
20~29	2013	2,280	264	302	1,714	838	207	91	65	113	82	58	260
	2014	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
	2015	2,254	255	303	1,696	791	222	88	61	112	105	44	273
	2016	2,444	317	365	1,762	792	235	88	67	115	106	49	310
	2017	2,293	284	334	1,675	809	181	73	77	139	89	38	269
	2018	2,246	281	334	1,631	788	182	88	60	108	73	55	277
	2019	2,307	275	314	1,718	800	183	96	69	122	83	49	316
	2020	2,123	203	295	1,625	702	148	67	67	127	119	52	343
	2021	2,064	187	283	1,594	680	153	78	48	130	104	48	353
	2022	2,032	207	299	1,526	652	145	66	46	113	98	69	337
	2023	2,009	258	273	1,478	593	153	54	43	134	102	51	348
30~39	2013	4,259	381	598	3,290	1,645	377	173	125	167	142	115	546
	2014	4,137	403	578	3,156	1,592	362	157	133	171	146	127	498
	2015	4,221	420	604	3,197	1,528	369	155	148	168	171	121	537
	2016	4,363	436	638	3,289	1,573	360	184	168	199	199	110	496
	2017	4,289	454	640	3,195	1,522	352	156	125	193	183	120	544
	2018	4,122	421	605	3,096	1,404	324	159	143	222	173	124	547
	2019	4,016	390	551	3,075	1,438	302	133	120	232	173	113	564
	2020	3,592	286	491	2,815	1,231	289	132	124	225	191	97	526
	2021	3,400	270	463	2,667	1,166	262	127	123	215	198	105	471
	2022	3,269	265	436	2,568	1,147	238	126	92	186	169	111	499
	2023	3,191	273	448	2,470	1,043	237	119	98	184	156	114	519
40~49	2013	4,997	612	1,020	3,365	1,233	544	276	155	135	126	126	770
	2014	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
	2015	5,541	718	1,152	3,671	1,340	561	328	162	161	162	123	843
	2016	5,806	722	1,245	3,839	1,385	607	341	169	162	156	140	879
	2017	5,670	689	1,283	3,898	1,417	568	288	181	190	197	149	918
	2018	5,695	671	1,147	3,877	1,427	575	296	183	171	192	150	883
	2019	5,656	613	1,039	4,004	1,575	526	303	203	183	212	170	832
	2020	5,006	470	922	3,614	1,352	492	257	172	196	214	134	797
	2021	4,802	458	845	3,499	1,309	466	235	176	213	191	122	787
	2022	4,637	409	798	3,430	1,340	462	221	157	184	177	143	746
	2023	4,593	402	829	3,362	1,341	401	214	143	212	215	131	705
50~59	2013	4,218	646	881	2,691	949	431	277	148	119	104	72	591
	2014	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
	2015	4,722	748	985	2,989	988	504	309	175	127	104	92	690
	2016	4,978	782	1,014	3,182	1,063	522	288	202	131	120	110	746
	2017	5,103	772	1,068	3,263	1,025	559	301	196	135	127	107	813
	2018	5,377	817	1,120	3,440	1,134	597	309	185	140	144	117	814
	2019	5,922	875	1,230	3,817	1,259	632	369	202	160	181	122	892
	2020	5,522	786	1,164	3,572	1,176	609	318	182	152	169	107	859
	2021	5,670	781	1,188	3,701	1,251	625	321	197	161	164	101	881
	2022	5,775	773	1,188	3,804	1,298	684	327	182	180	160	111	892
	2023	6,072	764	1,220	4,088	1,360	705	362	195	206	170	125	965
60~69	2013	5,769	816	1,090	3,863	1,482	556	500	263	201	102	75	684
	2014	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
	2015	5,789	784	1,061	3,944	1,441	600	511	308	196	113	71	704
	2016	5,883	771	1,072	4,040	1,423	654	524	330	200	116	79	714
	2017	5,633	761	1,046	3,826	1,333	618	475	330	194	129	70	677
	2018	5,512	747	986	3,779	1,300	646	435	327	177	121	76	697
	2019	5,435	814	1,002	3,619	1,249	584	384	302	164	132	77	727
	2020	5,012	700	894	3,418	1,168	576	362	275	154	129	65	689
	2021	4,954	691	915	3,348	1,141	552	347	263	161	122	73	689
	2022	5,082	689	911	3,482	1,155	622	361	271	157	122	82	712
	2023	5,271	664	956	3,651	1,220	628	388	285	164	124	81	761
70~79	2013	5,085	472	832	3,781	1,416	700	515	180	215	77	70	608
	2014	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
	2015	4,891	446	721	3,724	1,322	717	533	233	203	87	66	563
	2016	5,143	473	736	3,934	1,371	796	554	276	199	87	64	587
	2017	5,466	553	788	4,125	1,398	826	572	292	207	119	81	630
	2018	5,947	560	862	4,525	1,525	915	598	354	253	128	93	659
	2019	6,615	634	971	5,010	1,685	1,067	608	436	272	123	105	714
	2020	6,210	545	871	4,794	1,620	993	578	421	259	130	101	692
	2021	6,238	521	848	4,869	1,679	969	584	442	255	131	107	702
	2022	6,279	487	812	4,980	1,741	951	609	475	251	125	103	725
	2023	6,335	507	798	5,030	1,763	980	618	494	238	120	100	717
80~89	2013	2,539	171	309	2,059	801	356	265	82	121	74	32	328
	2014	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
	2015	2,718	184	275	2,259	852	414	275	96	130	73	50	369
	2016	2,834	186	294	2,354	901	450	296	117	125	73	47	345
	2017	2,887	194	328	2,365	891	482	285	109	117	56	56	369
	2018	3,094	213	308	2,573	950	573	295	138	114	81	59	363
	2019	3,527	236	376	2,915	1,032	700	348	180	123	88	60	384
	2020	3,281	208	343	2,730	971	642	302	170	130	84	45	386
	2021	3,473	215	332	2,926	1,038	712	346	187	135	72	50	386
	2022	3,535	188	325	3,022	1,112	711	364	201	141	76	58	359
	2023	3,834	218	367	3,249	1,201	771	394	224	155	76	60	368
90以上	2013	328	16	24	288	143	46	30	3	16	8	7	35
	2014	377	19	25	333	138	58	45	10	18	16	8	40
	2015	432	19	25	388	153	69	47	10	33	18	9	49
	2016	485	20	31	434	176	87	43	21	32	22	12	41
	2017	473	25	35	413	184	70	40	13	28	24	13	41
	2018	519	31	35	453	195	79	48	18	25	23	13	52
	2019	647	36	54	557	225	102	70	18	30	26	15	71
	2020	527	25	35	467	187	78	51	14	33	22	13	69
	2021	566	25	44	497	207	88						

入院 年齢階級	年度	総数	大阪市内訳(主要区)										
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0~9	2013	168	9	1	158	101	27	27	4	10	3	5	4
	2014	319	16	9	294	165	70	70	12	10	7	17	21
	2015	481	21	17	443	285	84	9	16	14	7	7	17
	2016	433	16	11	406	228	100	7	27	12	7	13	12
	2017	374	19	5	350	199	87	1	39	4	6	2	12
	2018	374	19	8	347	196	61	9	36	13	4	8	20
	2019	296	8	4	284	170	53	5	27	3	11	3	12
	2020	195	13	5	177	90	26	4	11	11	9	9	17
	2021	265	18	17	230	132	27	3	16	16	11	8	17
	2022	278	14	13	251	128	36	2	21	11	18	13	22
2023	341	7	9	325	177	44	5	30	13	22	12	22	
10~19	2013	52	3	2	47	19	12	12	7	2	2	2	2
	2014	56	1	3	52	22	7	7	8	5	1	7	7
	2015	74	4	4	66	25	11	12	3	5	1	0	9
	2016	74	6	6	62	26	14	5	4	5	4	1	3
	2017	65	9	4	52	21	13	7	3	2	0	0	5
	2018	64	4	6	54	28	6	4	3	1	1	2	9
	2019	66	4	2	60	30	6	7	3	5	1	2	6
	2020	46	3	4	39	16	6	5	2	3	2	1	4
	2021	50	2	5	43	17	8	6	3	3	1	0	5
	2022	54	2	4	48	19	12	5	4	4	0	0	4
2023	86	4	9	73	32	15	4	8	4	1	0	9	
20~29	2013	367	38	39	290	114	51	51	22	14	15	16	42
	2014	433	48	50	335	135	50	50	23	18	28	13	52
	2015	410	49	44	317	109	54	23	10	30	20	11	60
	2016	466	61	75	330	107	54	17	21	22	22	15	72
	2017	454	58	87	289	100	37	16	19	27	18	11	60
	2018	465	76	67	342	140	35	23	23	27	18	16	60
	2019	422	61	84	321	115	28	21	12	28	20	12	58
	2020	389	44	54	291	111	35	13	8	27	25	17	55
	2021	404	37	50	317	127	29	19	14	38	19	8	63
	2022	331	34	50	247	81	33	11	9	26	19	11	57
2023	360	34	50	276	105	20	18	4	36	17	11	65	
30~39	2013	867	84	99	684	290	115	115	39	36	33	36	99
	2014	840	68	111	661	324	87	87	28	29	27	36	97
	2015	925	91	120	714	303	105	38	27	44	31	34	132
	2016	869	83	134	652	265	84	35	42	52	42	32	100
	2017	802	87	135	580	257	65	23	22	38	37	37	101
	2018	914	85	122	707	295	86	24	40	46	41	35	140
	2019	879	74	104	701	317	68	32	24	52	51	37	120
	2020	849	53	101	695	295	74	27	28	54	50	32	135
	2021	832	46	103	683	287	73	28	32	51	62	28	122
	2022	727	48	79	600	270	57	15	26	51	45	27	109
2023	744	57	84	603	264	59	26	26	41	49	21	117	
40~49	2013	785	78	162	545	164	96	96	52	23	23	23	136
	2014	903	113	180	610	195	92	92	63	27	24	25	161
	2015	907	104	191	612	191	87	77	28	29	38	27	135
	2016	823	91	196	536	167	85	45	21	29	26	27	136
	2017	870	99	189	582	172	82	54	38	32	47	22	135
	2018	828	85	185	558	180	90	41	30	24	35	17	141
	2019	877	71	156	650	222	81	53	38	36	43	34	143
	2020	824	58	137	629	209	81	50	35	48	44	26	136
	2021	816	48	145	623	223	81	39	33	33	46	12	156
	2022	747	55	135	557	172	73	47	29	35	34	22	145
2023	795	43	157	595	208	83	44	20	43	48	17	132	
50~59	2013	657	78	128	300	123	55	55	41	28	16	15	85
	2014	655	86	130	439	146	67	68	47	30	19	20	100
	2015	618	77	109	432	151	78	45	25	19	15	15	84
	2016	534	63	95	376	110	71	43	25	17	14	10	86
	2017	567	59	97	411	111	93	46	27	25	21	9	79
	2018	620	72	117	431	141	84	44	27	20	15	19	81
	2019	730	84	108	538	168	108	52	32	26	22	11	119
	2020	737	65	125	547	159	79	68	35	24	29	17	136
	2021	740	57	133	550	188	103	47	32	22	24	14	120
	2022	765	77	125	563	166	105	49	31	33	24	14	141
2023	806	87	143	576	172	99	57	32	26	34	16	140	
60~69	2013	1,050	118	223	709	229	104	104	106	60	18	40	141
	2014	1,037	139	167	731	257	129	125	87	49	46	25	131
	2015	967	61	152	300	123	37	110	62	41	19	11	126
	2016	857	89	109	659	217	124	86	63	36	15	11	107
	2017	874	73	132	669	221	121	86	66	31	16	12	116
	2018	866	83	127	656	212	130	74	57	36	17	11	119
	2019	879	101	111	667	211	136	75	64	34	11	9	127
	2020	864	69	118	677	213	114	77	57	28	31	11	146
	2021	820	78	107	635	192	106	70	49	27	24	12	155
	2022	882	84	123	675	187	137	79	56	40	24	10	142
2023	882	78	106	698	197	136	80	59	45	19	13	149	
70~79	2013	1,271	105	234	932	318	191	191	121	41	13	60	169
	2014	1,275	79	187	1,009	350	194	196	147	62	54	27	158
	2015	1,191	82	145	964	299	201	131	74	69	29	20	151
	2016	1,042	73	110	859	277	191	123	68	52	12	10	126
	2017	1,221	73	1,009	304	304	218	161	61	71	28	17	149
	2018	1,335	90	155	1,090	336	264	146	82	58	29	21	154
	2019	1,468	99	148	1,221	385	312	135	108	59	26	33	163
	2020	1,501	90	160	1,251	363	277	147	108	76	29	26	225
	2021	1,510	72	146	1,292	413	261	174	116	68	27	25	208
	2022	1,525	75	156	1,294	397	283	180	115	71	27	21	200
2023	1,548	97	144	1,307	424	276	166	129	73	26	26	187	
80~89	2013	790	47	103	640	230	106	106	84	34	24	42	111
	2014	845	38	84	723	243	125	126	102	36	52	22	126
	2015	857	41	79	737	255	129	110	31	55	24	14	119
	2016	810	33	72	705	260	133	97	41	44	21	11	98
	2017	897	47	75	775	279	161	92	43	48	25	15	112
	2018	973	45	77	851	314	192	96	60	34	29	19	107
	2019	1,054	46	86	922	300	254	104	55	50	27	22	110
	2020	1,013	45	64	904	300	227	89	54	50	28	8	148
	2021	1,067	42	79	946	328	236	90	63	42	22	12	153
	2022	1,136	41	73	1,022	342	240	105	80	50	19	24	162
2023	1,252	51	94	1,107	373	277	131	84	56	24	28	134	
90以上	2013	128	5	10	113	53	14	14	12	3	6	8	14
	2014	177	12	12	153	61	27	27	20	6	12	6	20
	2015	188	6	9	173	57	32	24	8	20	6	1	25
	2016	200	8	7	185	72	33	19	13	18	11	2	17
	2017	217	11	11	195	89	32	19	10	12	9	1	23
	2018	216	14	8	194	83	29	18	8	13	12	1	30
	2019	278	10	18	250	95	45	32	13	14	13	8	30
	2020	224	9	14	201	62	31	22	7	18	8	5	48
	2021	238	8	18	212	88	28	27	6	10	7	3	43
	2022	260	12	11	237	76	38	31	13	13	3	8	55
2023	277	13	13	251	88	51	27	10	13	10	8	44	
総計	2013	6,062	565	1,001	4,496	1,647	771	771	488	245	153	250	803
	2014	6,540	600	933	5,007	1,898	719	848	537	272	273	180	869
	2015	6,618	572	870	5,176	1,898	908	579	284	326	180	139	862
	2016	6,108	523	815	4,770	1,729	889	477	325	287	174	132	757
	2017	6,341	535	874	4,912	1,803	909	505	320	290	126	173	793
	2018	6,655	553	872	5,230	1,925	977	479	366	272	201	149	861
	2019	6,969	558	818	5,593	2,013	1,100	516	376	307	225	168	888
	2020	6,642	449	782	5,411								

4 病床稼働率

		定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均	前年度累計平均
7階	1日平均患者数(人)	41	39	34	37	38	38	39	33	33	36	28	34	34	35	36
	稼働率		94.7%	84.0%	89.4%	91.6%	93.5%	94.1%	79.6%	79.3%	88.6%	69.5%	82.2%	83.3%	85.8%	87.4%
8階	1日平均患者数(人)	44	36	36	42	40	39	37	35	36	39	37	41	41	38	38
	稼働率		82.0%	82.2%	94.5%	90.4%	87.7%	85.0%	80.6%	81.6%	88.1%	84.8%	92.6%	93.5%	86.9%	86.1%
9階	1日平均患者数(人)	43	33	35	38	36	36	35	37	35	35	35	38	38	36	38
	稼働率		76.8%	81.7%	88.3%	83.3%	83.0%	82.4%	86.6%	80.5%	80.9%	80.3%	88.0%	89.2%	83.4%	87.8%
10階	1日平均患者数(人)	42	33	34	37	36	37	34	34	35	36	34	38	38	36	16
	稼働率		77.7%	81.3%	87.8%	86.4%	88.2%	81.9%	81.6%	82.4%	85.4%	81.4%	89.8%	91.2%	84.6%	38.9%
11階	1日平均患者数(人)	43	35	36	39	39	39	35	37	33	37	36	39	41	37	38
	稼働率		82.5%	83.3%	90.5%	90.3%	89.9%	82.1%	86.0%	77.0%	86.5%	84.6%	91.3%	94.5%	86.5%	88.7%
12階	1日平均患者数(人)	44	36	33	39	36	37	33	34	33	36	36	38	39	36	37
	稼働率		81.4%	75.1%	88.5%	82.4%	84.1%	74.9%	76.3%	75.3%	82.4%	81.9%	87.1%	87.7%	81.4%	85.2%
13階	1日平均患者数(人)	43	32	32	39	36	37	35	35	33	36	36	38	38	36	35
	稼働率		73.7%	74.5%	89.5%	83.2%	86.3%	80.7%	82.3%	77.8%	83.1%	83.7%	88.4%	89.1%	82.7%	81.8%
14階	1日平均患者数(人)	42	32	33	36	35	36	34	33	33	37	37	38	38	35	36
	稼働率		76.7%	79.3%	86.0%	84.2%	85.6%	80.0%	78.9%	77.5%	87.8%	87.7%	90.6%	91.6%	83.8%	86.1%
小計	1日平均患者数(人)	342	276	274	306	296	298	282	279	270	292	280	304	308	289	275
	稼働率		80.6%	80.1%	89.4%	86.5%	87.2%	82.6%	81.5%	78.9%	85.3%	81.8%	88.8%	90.1%	84.4%	80.4%
集中治療室	1日平均患者数(人)	8	3	4	2	3	3	4	3	2	4	5	4	4	3	4
	稼働率		33.8%	47.2%	29.6%	37.1%	39.9%	45.0%	33.1%	30.4%	45.2%	58.1%	52.6%	52.8%	42.1%	46.4%
計	1日平均患者数(人)	350	278	278	308	299	302	286	281	272	295	284	308	312	292	278
	稼働率		79.6%	79.4%	88.0%	85.3%	86.2%	81.7%	80.4%	77.8%	84.4%	81.3%	88.0%	89.2%	83.4%	79.6%

[医事サービス部]

5 救急患者数

	人 数													累計	(内、入 院 数)													入院計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
循環器内科	17 (5)	19 (8)	12 (4)	12 (1)	6 (3)	16 (4)	20 (9)	22 (11)	18 (10)	15 (2)	20 (8)	22 (6)	199 (71)	17 (5)	18 (8)	12 (4)	12 (1)	6 (3)	16 (4)	20 (9)	18 (8)	18 (10)	13 (2)	19 (8)	22 (6)	191 (68)		
消化器内科	32 (8)	44 (2)	42 (10)	48 (4)	41 (5)	38 (3)	43 (11)	36 (8)	36 (5)	44 (5)	41 (5)	30 (8)	475 (74)	31 (8)	43 (2)	42 (10)	48 (4)	39 (3)	38 (3)	42 (11)	36 (8)	35 (5)	43 (5)	41 (5)	29 (8)	467 (72)		
内分泌・代謝内科	15 (8)	15 (6)	13 (6)	10 (7)	27 (15)	22 (13)	10 (3)	16 (7)	12 (7)	14 (5)	19 (10)	18 (6)	191 (93)	14 (7)	11 (4)	12 (5)	10 (7)	23 (13)	21 (12)	9 (3)	15 (6)	12 (7)	12 (4)	18 (9)	18 (6)	175 (83)		
呼吸器・免疫内科	29 (13)	42 (8)	35 (8)	36 (13)	33 (16)	35 (12)	32 (13)	27 (13)	35 (9)	44 (18)	42 (11)	36 (10)	426 (144)	28 (13)	40 (8)	34 (8)	35 (12)	28 (14)	34 (11)	31 (12)	27 (13)	34 (9)	44 (18)	41 (10)	35 (10)	411 (138)		
血液・化学療法内科	20 (4)	19 (6)	14 (3)	13 (2)	18 (9)	13 (2)	14 (3)	12 (3)	19 (5)	18 (7)	14 (6)	21 (2)	195 (52)	16 (4)	16 (5)	13 (3)	13 (2)	17 (8)	12 (2)	13 (3)	12 (3)	19 (5)	15 (6)	13 (5)	21 (2)	180 (48)		
脳神経内科	5 (4)	6 (3)	5 (2)	5 (3)	4 (2)	11 (3)	8 (4)	12 (3)	5 (2)	7 (2)	4 (0)	6 (5)	78 (33)	4 (3)	6 (3)	5 (2)	5 (3)	4 (2)	10 (3)	8 (4)	12 (3)	4 (1)	7 (2)	4 (0)	6 (5)	75 (31)		
腎臓内科	5 (1)	11 (2)	14 (0)	12 (5)	13 (6)	13 (7)	9 (2)	11 (1)	22 (7)	18 (5)	16 (4)	17 (6)	161 (46)	5 (1)	10 (1)	14 (0)	11 (5)	13 (6)	13 (7)	9 (2)	10 (1)	21 (6)	18 (5)	16 (4)	17 (6)	157 (44)		
内科 (計)	123 (43)	156 (35)	135 (33)	136 (35)	142 (56)	148 (44)	136 (45)	136 (46)	147 (45)	160 (44)	156 (44)	150 (43)	1,725 (513)	115 (41)	144 (31)	132 (32)	134 (34)	130 (49)	144 (42)	132 (44)	130 (42)	143 (43)	152 (42)	152 (41)	148 (43)	1,656 (484)		
消化器外科	3 (0)	8 (3)	5 (0)	4 (1)	5 (2)	7 (0)	3 (1)	8 (1)	10 (3)	4 (1)	7 (2)	7 (1)	71 (15)	2 (0)	8 (3)	5 (0)	4 (1)	4 (2)	7 (0)	3 (1)	8 (1)	9 (3)	3 (1)	6 (1)	6 (1)	65 (14)		
呼吸器外科	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	2 (1)	1 (0)	1 (1)	2 (1)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	16 (6)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	2 (0)	0 (1)	1 (2)	2 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	13 (6)		
乳腺外科	5 (2)	1 (1)	5 (2)	2 (0)	8 (2)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (9)	5 (2)	1 (1)	5 (2)	2 (0)	8 (2)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (9)		
心臓血管外科	1 (0)	2 (0)	0 (0)	5 (1)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	3 (2)	19 (6)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	5 (1)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	3 (2)	18 (6)		
外科 (計)	10 (2)	12 (4)	10 (2)	11 (2)	17 (6)	13 (4)	6 (1)	10 (3)	13 (5)	9 (2)	9 (2)	10 (3)	130 (36)	8 (2)	12 (4)	10 (2)	11 (2)	16 (6)	13 (4)	5 (1)	10 (3)	12 (5)	6 (2)	8 (1)	9 (3)	120 (35)		
産婦人科	126 (9)	128 (8)	127 (11)	102 (11)	119 (10)	96 (4)	110 (7)	118 (12)	134 (11)	86 (9)	84 (6)	104 (13)	1,334 (111)	41 (5)	39 (0)	44 (4)	42 (1)	42 (5)	39 (3)	34 (3)	35 (5)	41 (7)	26 (4)	29 (3)	49 (7)	461 (47)		
小児科	13 (0)	24 (1)	28 (1)	20 (1)	18 (0)	15 (2)	18 (4)	9 (0)	17 (0)	13 (0)	18 (1)	30 (2)	223 (12)	13 (0)	22 (0)	27 (0)	18 (0)	18 (0)	13 (1)	18 (4)	8 (0)	17 (0)	11 (0)	17 (1)	29 (1)	211 (7)		
神経科・精神科	2 (1)	2 (0)	4 (1)	3 (0)	2 (0)	2 (1)	6 (1)	2 (0)	4 (1)	4 (0)	4 (2)	5 (0)	40 (7)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (1)	6 (1)	2 (0)	4 (1)	4 (0)	4 (2)	5 (0)	38 (5)		
脳神経外科	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (2)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (5)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (2)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (5)		
整形外科	7 (5)	5 (2)	5 (3)	4 (3)	5 (2)	5 (4)	1 (0)	6 (2)	2 (1)	4 (0)	0 (0)	6 (2)	50 (25)	5 (3)	2 (1)	1 (3)	3 (0)	0 (2)	0 (0)	5 (1)	1 (1)	4 (1)	0 (1)	0 (3)	1 (14)	26 (14)		
皮膚科	8 (0)	13 (2)	9 (0)	8 (0)	12 (1)	9 (0)	13 (0)	13 (1)	7 (2)	9 (2)	12 (0)	9 (0)	122 (8)	8 (0)	11 (2)	9 (0)	8 (0)	12 (1)	9 (0)	11 (1)	12 (1)	6 (1)	7 (1)	12 (0)	9 (0)	114 (6)		
泌尿器科	5 (1)	8 (3)	8 (2)	7 (2)	2 (0)	1 (0)	8 (1)	3 (1)	3 (1)	5 (1)	2 (1)	5 (1)	57 (14)	3 (1)	6 (3)	7 (2)	6 (1)	2 (0)	1 (0)	6 (0)	3 (1)	3 (1)	4 (1)	1 (0)	3 (1)	45 (11)		
眼 科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)		
耳鼻咽喉・頭頸部外科	5 (2)	6 (2)	3 (1)	5 (3)	12 (5)	7 (0)	6 (0)	9 (2)	8 (5)	6 (2)	9 (6)	6 (4)	82 (32)	4 (1)	4 (0)	2 (0)	5 (3)	10 (3)	7 (0)	6 (0)	7 (1)	4 (2)	5 (1)	5 (3)	2 (0)	61 (14)		
形成再建外科	0 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	11 (3)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (2)		
放射線診断・IVR科	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)												
放射線治療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)														
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)		
救急診療センター	240 (152)	289 (194)	256 (164)	348 (226)	402 (262)	329 (202)	273 (167)	259 (162)	323 (208)	376 (235)	303 (196)	261 (165)	3,659 (2,333)	60 (48)	82 (60)	64 (45)	85 (65)	115 (89)	74 (52)	53 (34)	75 (52)	85 (62)	99 (76)	83 (60)	79 (49)	954 (692)		
合 計	540 (215)	644 (251)	588 (218)	648 (285)	736 (343)	628 (263)	582 (227)	569 (232)	660 (282)	675 (298)	598 (258)	587 (233)	7,455 (3,105)	259 (101)	325 (101)	301 (87)	319 (154)	352 (107)	306 (87)	275 (106)	288 (106)	317 (124)	320 (129)	311 (111)	336 (105)	3,709 (1,323)		

(注) 1. 各欄下段の()の数値は救急車で搬送された患者数 [医事サービス部、救急・当直・集中治療室検討委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。
2016年退院患者から、厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10(2013年版)準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。
2016年退院患者から、日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計した。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計した。

	算定式	2012年度 (2012.4 -2013.3)	2013年度 (2013.4 -2014.3)	2014年度 (2014.4 -2015.3)	2015年度 (2015.4 -2016.3)	2016年度 (2016.4 -2017.3)	2017年度 (2017.4 -2018.3)	2018年度 (2018.4 -2019.3)	2019年度 (2019.4 -2020.3)	2020年度 (2020.4 -2021.3)	2021年度 (2021.4 -2022.3)	2022年度 (2022.4 -2023.3)	2023年度 (2023.4 -2024.3)
病床数 (床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均 在院患者数 (人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	273	277	291	284	281	293	291	301	289	270	279	292
病床稼働率 (%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	78.0	79.1	83.1	81.1	80.3	83.7	83.1	86.0	82.6	77.1	79.7	83.4
平均在院日数 (日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	12.3	12.6	12.1	12.8	12.6	12.5	11.2	10.9	10.7	10.0	10.3	10.3
実退院患者数 (人)		7,490	7,435	8,119	8,244	7,573	7,963	8,736	9,282	9,011	8,967	8,983	9,480
転科数		208	192	241	278	870	791	396	426	808	880	803	899
総退院患者数		7,698	7,627	8,360	8,522	8,443	8,754	9,132	9,708	9,819	9,847	9,786	10,379
実退院患者 平均在院日数 (日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	13.2	13.5	13.2	12.3	13.6	13.6	12.2	12.0	11.7	11.2	11.3	11.1
院内粗死亡率 (%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.3	2.8	2.8	2.4	2.8	3.2	2.2	2.5	2.3	2.4	2.1	2.3
院内精死亡率 (%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.1	2.4	2.5	2.3	2.4	2.8	2.0	2.3	2.1	2.4	1.8	2.0
剖検率 (%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	8.1	9.3	6.2	7.5	5.7	5.5	2.6	4.3	2.3	4.1	2.1	2.3
術後死亡率 (%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	-	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	0.01	-	0.02
帝王切開率 (%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	14.2	16.6	15.7	16.8	19.4	19.1	21.2	23.0	19.3	22.3	20.4	23.0
分娩死亡率 (%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率 (%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
紹介入院率 (%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	39.3	41.5	39.8	40.1	41.6	37.9	38.4	39.1	34.2	36.4	36.8	37.9

[診療情報管理室]

② 診療科別・月別・患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検	
総数	計	9,480	766	748	812	803	865	778	760	782	877	715	760	814	214	5
	男	4,282	361	345	382	351	370	360	347	347	367	315	367	370	126	3
	女	5,198	405	403	430	452	495	418	413	435	510	400	393	444	88	2
循環器内科	計	563	53	46	50	36	49	39	46	44	58	43	47	52	19	-
	男	340	29	30	29	26	26	26	29	29	26	27	29	34	11	-
	女	223	24	16	21	10	23	13	17	15	32	16	18	18	8	-
消化器内科	計	1,317	105	101	105	118	108	104	110	123	127	104	111	101	31	1
	男	705	73	51	56	60	58	63	54	61	71	48	57	53	16	-
	女	612	32	50	49	58	50	41	56	62	56	56	54	48	15	1
内分泌・代謝内科	計	417	30	28	32	33	45	39	36	29	42	34	31	38	7	-
	男	196	14	17	16	16	15	19	18	14	17	13	20	17	-	-
	女	221	16	11	16	17	30	20	18	15	25	21	11	21	7	-
呼吸器・免疫内科	計	1,169	94	96	100	98	102	103	94	87	98	96	109	92	62	2
	男	701	60	59	67	52	59	60	58	48	61	54	68	55	43	2
	女	468	34	37	33	46	43	43	36	39	37	42	41	37	19	-
血液・化学療法内科	計	469	31	35	47	38	40	31	43	37	47	33	40	47	33	1
	男	295	22	20	35	19	22	23	25	28	29	17	24	31	24	1
	女	174	9	15	12	19	18	8	18	9	18	16	16	16	9	-
脳神経内科	計	137	9	12	9	7	10	11	18	12	11	7	9	22	5	-
	男	71	6	7	5	6	4	2	11	6	5	4	4	11	4	-
	女	66	3	5	4	1	6	9	7	6	6	3	5	11	1	-
腎臓内科	計	388	28	24	31	33	33	35	19	27	40	33	37	48	11	1
	男	223	16	11	20	18	22	19	9	18	21	16	22	31	4	-
	女	165	12	13	11	15	11	16	10	9	19	17	15	17	7	1
消化器外科	計	425	39	38	35	32	34	31	36	34	36	34	36	40	9	-
	男	232	23	20	16	13	19	18	26	24	14	20	20	19	6	-
	女	193	16	18	19	19	15	13	10	10	22	14	16	21	3	-
呼吸器外科	計	123	8	9	9	8	14	15	12	5	9	7	14	13	-	-
	男	87	8	4	8	6	7	9	7	4	7	6	10	11	-	-
	女	36	-	5	1	2	7	6	5	1	2	1	4	2	-	-
乳腺外科	計	125	19	11	17	17	19	14	11	11	5	1	-	-	2	-
	男	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	123	19	11	17	16	18	14	11	11	5	1	-	-	2	-
心臓血管外科	計	129	12	17	8	10	13	7	7	15	15	9	8	8	1	-
	男	73	6	9	5	6	8	5	3	7	8	6	4	6	1	-
	女	56	6	8	3	4	5	2	4	8	7	3	4	2	-	-
産婦人科	計	1,650	137	134	145	138	145	138	134	133	147	125	125	149	2	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,650	137	134	145	138	145	138	134	133	147	125	125	149	2	-
小児科	計	391	29	38	45	39	37	38	27	29	35	22	23	29	-	-
	男	216	13	26	27	20	19	22	18	16	16	12	13	14	-	-
	女	175	16	12	18	19	18	16	9	13	19	10	10	15	-	-
神経科・精神科	計	89	7	3	8	8	6	8	10	8	7	8	8	8	1	-
	男	24	1	-	3	2	-	3	2	3	2	1	4	3	-	-
	女	65	6	3	5	6	6	5	8	5	5	7	4	5	1	-
脳神経外科	計	38	4	3	4	6	2	2	-	3	4	3	4	3	-	-
	男	18	1	2	2	3	2	2	-	2	1	1	1	1	-	-
	女	20	3	1	2	3	-	-	-	1	3	2	3	2	-	-
整形外科	計	261	23	22	23	24	24	23	16	21	26	18	19	22	-	-
	男	97	10	9	7	8	9	6	7	10	6	10	8	7	-	-
	女	164	13	13	16	16	15	17	9	11	20	8	11	15	-	-
皮膚科	計	194	18	11	18	14	25	13	19	14	18	9	17	18	-	-
	男	98	8	5	13	6	14	5	12	6	9	2	9	9	-	-
	女	96	10	6	5	8	11	8	7	8	9	7	8	9	-	-
泌尿器科	計	436	47	30	39	46	37	34	30	41	36	28	32	36	5	-
	男	347	40	27	30	34	28	26	25	28	26	24	28	31	3	-
	女	89	7	3	9	12	9	8	5	13	10	4	4	5	2	-
眼科	計	375	27	29	31	27	38	23	36	41	26	30	36	31	-	-
	男	168	11	17	16	16	20	10	13	15	7	19	14	10	-	-
	女	207	16	12	15	11	18	13	23	26	19	11	22	21	-	-
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	284	16	17	19	23	29	25	27	30	33	26	18	21	3	-
	男	151	7	6	9	16	14	11	18	12	17	17	11	13	3	-
	女	133	9	11	10	7	15	14	9	18	16	9	7	8	-	-
形成再建外科	計	87	4	9	8	6	6	6	8	9	12	7	4	8	-	-
	男	47	3	7	6	1	2	4	4	4	5	4	3	4	-	-
	女	40	1	2	2	5	4	2	4	5	7	3	1	4	-	-
麻酔・緩和医療科	計	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
救急総合診療科	計	399	26	34	29	40	43	37	21	29	45	38	30	27	22	-
	男	179	10	17	12	20	15	25	8	12	19	14	17	10	11	-
	女	220	16	17	17	20	28	12	13	17	26	24	13	17	11	-
予防医学センター	計	12	-	1	-	2	6	2	-	-	-	-	1	-	-	-
	男	12	-	1	-	2	6	2	-	-	-	-	1	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[診療情報管理室]

③ 診療科別・在院期間別・患者数

診療科	総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	32～61日	62～91日	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総数	計	9,480	5,894	1,729	794	459	459	86	52	7	-	11.1
	男女	4,282	2,447	839	427	223	271	42	29	4	-	12
循環器内科	計	563	315	117	56	29	32	8	6	-	-	12.2
	男女	340	212	61	30	14	15	5	3	-	-	10.9
消化器内科	計	1,317	958	201	80	35	38	4	1	-	-	7.2
	男女	705	507	114	36	22	23	2	1	-	-	7.3
内分泌・代謝内科	計	417	129	175	62	23	25	2	1	-	-	13.8
	男女	196	59	79	32	11	14	-	1	-	-	14.4
呼吸器・免疫内科	計	1,169	484	272	156	103	125	18	10	1	-	16.2
	男女	701	290	153	102	59	79	11	7	-	-	16.3
血液・化学療法内科	計	469	112	105	105	60	67	9	9	2	-	21.9
	男女	295	67	67	69	38	44	4	4	2	-	21.7
脳神経内科	計	137	40	26	20	15	24	6	6	-	-	26.5
	男女	71	15	16	9	8	17	3	3	-	-	28.5
腎臓内科	計	388	178	107	41	35	24	3	-	-	-	12.5
	男女	223	98	59	30	20	16	-	-	-	-	12.6
消化器外科	計	425	240	90	27	22	29	10	6	1	-	14.7
	男女	232	137	46	11	11	17	4	5	1	-	15.4
呼吸器外科	計	123	51	68	3	-	1	-	-	-	-	9
	男女	87	36	48	2	-	1	-	-	-	-	9.1
乳腺外科	計	125	76	27	6	4	8	3	1	-	-	11.9
	男女	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	13.5
心臓血管外科	計	129	91	14	10	6	3	2	2	1	-	12.7
	男女	73	50	10	6	2	2	1	1	1	-	13.6
産婦人科	計	1,650	1,460	169	10	7	4	-	-	-	-	6.3
	男女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小児科	計	391	368	19	4	-	-	-	-	-	-	4.8
	男女	216	207	7	2	-	-	-	-	-	-	4.6
神経科・精神科	計	89	15	12	14	17	17	4	8	2	-	39.5
	男女	24	5	3	2	3	6	1	4	-	-	46.1
脳神経外科	計	38	15	13	5	1	4	-	-	-	-	13.9
	男女	18	8	5	3	-	2	-	-	-	-	13.3
整形外科	計	261	20	46	108	61	21	4	1	-	-	21
	男女	97	11	23	37	15	9	2	-	-	-	19.5
皮膚科	計	194	110	66	13	2	3	-	-	-	-	9.4
	男女	98	59	30	7	1	1	-	-	-	-	9
泌尿器科	計	436	319	76	24	11	6	-	-	-	-	6.8
	男女	347	256	63	18	5	5	-	-	-	-	6.4
眼科	計	375	372	2	1	-	-	-	-	-	-	2.2
	男女	168	168	-	-	-	-	-	-	-	-	2
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	284	191	62	11	3	11	6	-	-	-	10.3
	男女	151	93	31	9	2	10	6	-	-	-	13
形成再建外科	計	87	68	7	5	3	1	3	-	-	-	9.2
	男女	47	39	1	4	2	-	1	-	-	-	8.1
麻酔・緩和医療科	計	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	男女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
救急総合診療科	計	399	268	55	33	22	16	4	1	-	-	9.4
	男女	179	117	23	18	9	10	2	-	-	-	9.9
予防医学センター	計	12	12	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	男女	12	12	-	-	-	-	-	-	-	-	2

[診療情報管理室]

④ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数（大分類）

コード	国際分類大項目分類	総数	循内	消内	内分泌	呼免内	血液内	神内	腎内	消外	呼外	乳腺外	心外	
	総数	計	9,480	563	1,317	417	1,169	469	137	388	425	123	125	129
		男	4,282	340	705	196	701	295	71	223	232	87	2	73
		女	5,198	223	612	221	468	174	66	165	193	36	123	56
I	感染症及び寄生虫症	計	268	4	36	10	47	12	4	11	5	2	2	-
		男	128	2	14	5	19	8	2	6	2	1	-	-
		女	140	2	22	5	28	4	2	5	3	1	2	-
II	新生物(腫瘍) (悪性新生物(腫瘍))	計	3,457	-	880	7	673	304	1	-	209	88	116	1
		男	1,653	-	502	3	434	199	-	-	115	56	2	1
		女	1,804	-	378	4	239	105	1	-	94	32	114	-
III	血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	計	96	1	5	3	12	43	-	1	3	-	4	-
		男	35	-	3	-	6	21	-	1	1	-	-	-
		女	61	1	2	3	6	22	-	-	2	-	4	-
IV	内分泌、栄養及び 代謝疾患	計	296	3	7	213	4	3	2	15	1	-	-	-
		男	144	1	1	109	2	2	1	8	1	-	-	-
		女	152	2	6	104	2	1	1	7	-	-	-	-
V	精神及び行動の障害	計	133	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-
		男	45	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女	88	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-
VI	神経系の疾患	計	130	5	-	4	2	-	60	-	-	-	-	-
		男	65	3	-	3	2	-	34	-	-	-	-	-
		女	65	2	-	1	-	-	26	-	-	-	-	-
VII	眼及び付属器の疾患	計	392	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
		男	175	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
		女	217	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VIII	耳及び乳様突起の疾患	計	70	2	1	1	2	-	1	-	-	-	-	-
		男	28	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
		女	42	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
IX	循環器系の疾患	計	745	502	6	5	11	5	35	26	1	-	-	127
		男	439	302	1	2	8	4	19	18	-	-	-	71
		女	306	200	5	3	3	1	16	8	1	-	-	56
X	呼吸器系の疾患	計	855	26	12	65	293	43	12	34	2	32	-	-
		男	507	16	4	30	184	31	5	22	1	29	-	-
		女	348	10	8	35	109	12	7	12	1	3	-	-
XI	消化器系の疾患	計	602	1	337	9	2	9	1	10	200	-	-	-
		男	302	1	162	5	1	5	1	7	110	-	-	-
		女	300	-	175	4	1	4	-	3	90	-	-	-
XII	皮膚及び 皮下組織の疾患	計	131	-	3	4	4	-	-	-	-	-	-	-
		男	66	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-
		女	65	-	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-
XIII	筋骨格系及び 結合組織の疾患	計	320	3	4	2	56	1	1	7	1	-	-	-
		男	126	2	4	2	14	-	-	3	1	-	-	-
		女	194	1	-	-	42	1	1	4	-	-	-	-
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	計	837	6	11	33	11	15	5	178	1	-	3	-
		男	249	4	6	7	3	5	4	105	-	-	-	-
		女	588	2	5	26	8	10	1	73	1	-	3	-
XV	妊娠、分娩及び 産じょく	計	480	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女	480	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI	周産期に発生した病態	計	132	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		男	67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVII	先天奇形、変形及び 染色体異常	計	26	-	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-
		男	8	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
		女	18	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
XVIII	症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他 に分類されないもの	計	7	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-
		男	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
		女	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
XIX	損傷、中毒及び その他の外因の影響	計	292	1	5	3	10	6	5	83	2	-	-	1
		男	125	-	3	-	4	3	2	37	1	-	-	1
		女	167	1	2	3	6	3	3	46	1	-	-	-
XXI	健康状態に影響を 及ぼす要因及び 保健サービスの利用	計	22	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-
		男	18	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
		女	4	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
XXII	特殊目的用コード	計	189	9	8	56	37	17	6	21	-	-	-	-
		男	99	8	3	27	19	10	2	15	-	-	-	-
		女	90	1	5	29	18	7	4	6	-	-	-	-

産婦科	小児科	神 経	脳 外	整 形	皮膚科	泌尿器	眼 科	耳鼻科	形成	麻醉科	救 急	予 防
1,650	391	89	38	261	194	436	375	284	87	2	399	12
-	216	24	18	97	98	347	168	151	47	-	179	12
1,650	175	65	20	164	96	89	207	133	40	2	220	-
5	29	-	-	-	63	1	-	1	-	-	36	-
-	21	-	-	-	35	1	-	-	-	-	12	-
5	8	-	-	-	28	-	-	1	-	-	24	-
721	1	-	-	2	19	298	-	88	37	2	9	1
-	-	-	-	1	10	247	-	55	21	-	6	1
721	1	-	-	1	9	51	-	33	16	2	3	-
13	6	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3	-
-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
13	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-
1	25	4	-	-	-	2	-	4	1	-	11	-
-	9	1	-	-	-	-	-	2	1	-	6	-
1	16	3	-	-	-	2	-	2	-	-	5	-
-	-	73	-	-	-	-	-	-	-	-	54	-
-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-
-	-	56	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-
-	-	10	15	-	1	-	-	18	1	-	14	-
-	-	5	4	-	-	-	-	7	-	-	7	-
-	-	5	11	-	1	-	-	11	1	-	7	-
-	1	-	-	-	-	-	372	-	18	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	167	-	7	-	-	-
-	1	-	-	-	-	-	205	-	11	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	34	-	-	29	-
-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	11	-
-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	18	-
-	-	-	8	-	1	-	-	-	3	-	15	-
-	-	-	4	-	1	-	-	-	2	-	7	-
-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	-	8	-
1	134	-	-	-	-	-	-	111	-	-	90	-
-	80	-	-	-	-	-	-	64	-	-	41	-
1	54	-	-	-	-	-	-	47	-	-	49	-
7	1	-	-	-	-	3	-	6	-	-	16	-
-	1	-	-	-	-	2	-	1	-	-	6	-
7	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	10	-
-	6	-	-	-	96	-	-	3	12	-	3	-
-	4	-	-	-	48	-	-	-	8	-	1	-
-	2	-	-	-	48	-	-	3	4	-	2	-
-	5	-	1	214	3	-	2	1	2	-	17	-
-	3	-	1	83	2	-	-	1	2	-	8	-
-	2	-	-	131	1	-	2	-	-	-	9	-
401	3	-	-	-	-	130	1	12	1	-	26	-
-	2	-	-	-	-	96	1	4	-	-	12	-
401	1	-	-	-	-	34	-	8	1	-	14	-
480	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
480	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	132	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	10	-	1	1	-	1	-	-	3	-	-	-
-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
6	5	-	1	1	-	1	-	-	2	-	-	-
-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
13	37	2	13	42	9	1	-	3	9	-	47	-
-	21	1	9	13	2	1	-	1	5	-	21	-
13	16	1	4	29	7	-	-	2	4	-	26	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	28	-
-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	13	-
2	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	15	-

[診療情報管理室]

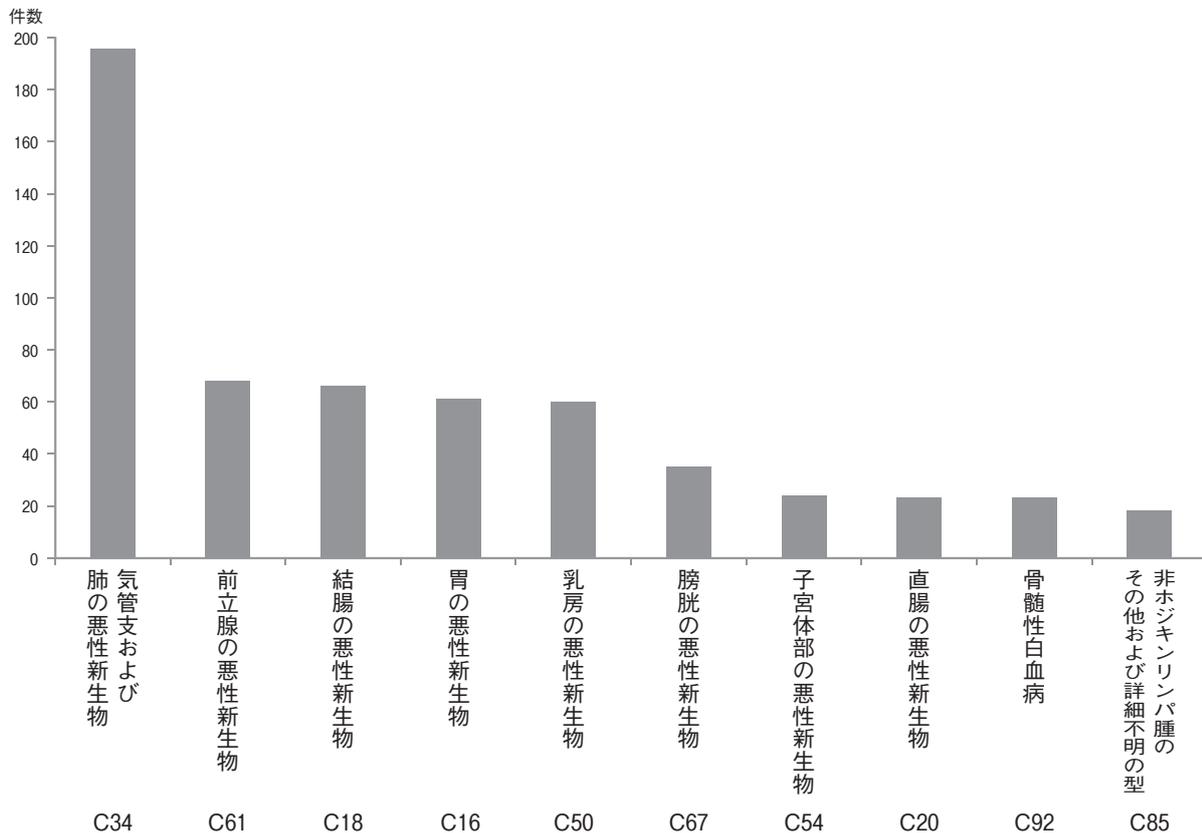
⑤ 悪性新生物統計

	算定式	平成26年度 (2014.4- 2015.3)	平成27年度 (2015.4- 2016.3)	平成28年度 (2016.4- 2017.3)	平成29年度 (2017.4- 2018.3)	平成30年度 (2018.4- 2019.3)	2019年度 (2019.4- 2020.3)	2020年度 (2020.4- 2021.3)	2021年度 (2021.4- 2022.3)	2022年度 (2022.4- 2023.3)	2023年度 (2023.4- 2024.3)
悪性新生物：比率 (%)	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	14.5	14.6	16.2	16.4	16.2	19.5	22.3	23.5	24.3	24.7
悪性新生物：新発患者数		403	447	519	547	593	752	765	819	874	857

○ 2023年 4月～2024年 3月ー初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

ICD-10	疾患名	件数	在院日数計	平均在院日数
C34	気管支および肺の悪性新生物	195	2,223	11
C61	前立腺の悪性新生物	68	366	5
C18	結腸の悪性新生物	66	713	11
C16	胃の悪性新生物	61	872	14
C50	乳房の悪性新生物	60	569	9
C67	膀胱の悪性新生物	35	214	6
C54	子宮体部の悪性新生物	24	165	7
C20	直腸の悪性新生物	23	476	21
C92	骨髄性白血病	23	529	23
C85	非ホジキンリンパ腫のその他および詳細不明の型	18	430	24

[診療情報管理室]



⑥ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科	総数	月別												兼科患者数	退院患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
総数	死亡 剖検	214 (5)	16 (1)	14 (-)	15 (1)	14 (-)	21 (1)	18 (2)	12 (-)	22 (-)	16 (-)	22 (-)	19 (-)	25 (-)	48 (1)	9,480	214	190	5
循環器内科	死亡 剖検	19 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	4 (-)	3 (-)	2 (-)	7 (-)	563	19	18	-
消化器内科	死亡 剖検	31 (1)	- (-)	2 (-)	3 (-)	3 (-)	5 (1)	2 (-)	1 (-)	4 (-)	3 (-)	3 (-)	2 (-)	3 (-)	8 (1)	1,317	31	30	1
内分泌・代謝内科	死亡 剖検	7 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	417	7	7	-
呼吸器・免疫内科	死亡 剖検	62 (2)	5 (1)	5 (-)	5 (-)	2 (-)	8 (-)	6 (1)	4 (-)	6 (-)	4 (-)	4 (-)	4 (-)	9 (-)	14 (-)	1,169	62	60	2
血液・化学療法内科	死亡 剖検	33 (1)	4 (-)	5 (-)	2 (1)	3 (-)	3 (-)	3 (-)	- (-)	3 (-)	3 (-)	1 (-)	2 (-)	4 (-)	10 (-)	469	33	32	1
脳神経内科	死亡 剖検	5 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	137	5	4	-
腎臓内科	死亡 剖検	11 (1)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	3 (1)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	388	11	9	1
消化器外科	死亡 剖検	9 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	425	9	8	-
呼吸器外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	123	-	-	-
乳腺外科	死亡 剖検	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	125	2	2	-
心臓血管外科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	129	1	-	-										
産婦人科	死亡 剖検	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1,650	2	2	-						
小児科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	391	-	-	-
神経科・精神科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	89	1	1	-						
脳神経外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	38	-	-	-
整形外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	261	-	-	-
皮膚科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	194	-	-	-
泌尿器科	死亡 剖検	5 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	436	5	4	-
眼科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	375	-	-	-
耳鼻咽喉・頭頸部外科	死亡 剖検	3 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	284	3	2	-
形成再建外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	87	-	-	-
麻酔・緩和医療科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	2	1	1	-									
救急総合診療科	死亡 剖検	22 (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	5 (-)	4 (-)	3 (-)	1 (-)	399	22	10	-
予防医学センター	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	12	-	-	-

[診療情報管理室]

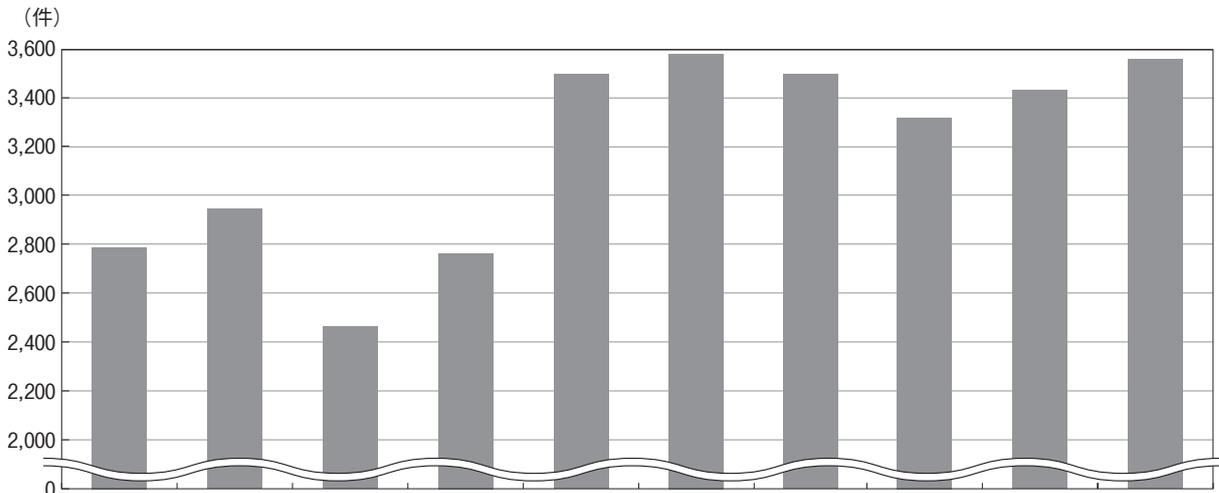
7 手術件数

① 診療科別・月別手術件数（手術室実施）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2023年度 合計	2022年度 合計
循環器内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内分泌・代謝内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器・免疫内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液・化学療法内科	全麻	0	0	2	1	0	0	2	1	0	0	1	0	7	6
	合計	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	5	2
脳神経内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	全麻	29	34	31	29	34	30	26	31	25	30	32	37	368	329
	合計	24	30	26	24	29	25	20	26	20	23	31	30	308	281
呼吸器外科	全麻	8	11	8	8	15	13	13	4	8	10	12	11	121	101
	合計	8	11	8	8	15	13	13	4	8	10	12	11	121	101
乳腺外科	全麻	9	9	10	10	7	12	5	4	1	0	0	0	67	110
	合計	8	6	7	9	7	8	5	4	0	0	0	0	54	95
心臓血管外科	全麻	9	17	20	15	8	10	7	12	13	12	11	9	143	137
	合計	3	6	5	7	3	2	2	2	4	3	3	3	43	40
産婦人科	全麻	90	86	93	82	99	94	90	95	92	87	97	96	1,101	1,133
	合計	72	61	72	60	76	63	68	67	66	62	66	76	809	808
脳神経外科	全麻	0	3	1	3	3	0	1	2	1	1	1	4	20	33
	合計	0	2	0	0	1	0	0	1	1	1	1	3	10	19
整形外科	全麻	24	20	25	24	25	22	21	21	21	21	21	19	264	304
	合計	24	19	25	23	24	20	21	20	21	19	20	19	255	280
皮膚科	全麻	15	18	20	14	20	19	16	17	18	17	17	14	205	206
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	全麻	32	27	26	33	21	29	26	27	29	24	27	27	328	323
	合計	15	10	14	10	9	11	12	12	12	11	14	8	138	152
眼科	全麻	33	39	30	36	37	26	45	51	34	47	42	39	459	316
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	0
耳鼻咽喉・頭頸部外科	全麻	13	15	14	16	23	14	22	26	19	21	12	18	213	168
	合計	12	11	10	12	19	11	18	23	15	18	10	17	176	137
形成再建外科	全麻	24	22	20	19	18	21	21	21	25	24	17	29	261	266
	合計	2	2	2	3	4	1	1	2	6	1	1	1	26	17
麻酔・緩和医療科	全麻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
合計	全麻	287	301	300	290	310	290	295	312	286	294	290	304	3,559	3,433
	合計	168	158	171	157	187	154	161	162	153	148	159	172	1,950	1,932

手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[手術室]



	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
手術件数	2,787	2,942	2,462	2,768	3,467	3,583	3,478	3,375	3,433	3,559

② 診療科別・年間手術件数（総件数のうち、上位のみ）

循環器内科

総件数	164
経皮的冠動脈ステント留置術(その他のもの)	75
経皮的冠動脈ステント留置術 (不安定狭心症に対するもの)	18
ペースメーカー交換術	12
経皮的冠動脈形成術(その他のもの)	11
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	9
植込型心電図記録計移植術	7
経皮的冠動脈形成術(高速回転式経皮経管アテ レクトミーカテーテルによるもの)	7
経皮的冠動脈ステント留置術 (急性心筋梗塞に対するもの)	5

消化器内科

総件数	712
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	441
内視鏡的胆道ステント留置術	70
内視鏡的消化管止血術	43
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術 (早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術)	24
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	18
内視鏡的大腸粘膜切除術(長径2cm以上)	14
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみのもの)	14
内視鏡的胆道結石除去術(その他のもの)	13
小腸結腸内視鏡的止血術	12
内視鏡的食道粘膜切除術 (早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術)	9
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	7
内視鏡的胆道結石除去術(胆道碎石術を伴うもの)	7
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術 (その他のポリープ・粘膜切除術)	6
血管塞栓術(腹腔内血管等)(選択的動脈化学塞栓術)	5

血液・化学療法内科

総件数	14
造血幹細胞移植(臍帯血移植)	6
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(同種移植)	5
造血幹細胞移植(骨髄移植)(同種移植)	1
造血幹細胞採取(末梢血幹細胞採取)(自家移植)	1
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(自家移植)	1

腎臓内科

総件数	96
経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	55
末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術) (単純なもの)	16
バイパス移植術(その他の動脈)	8
経皮的シャント拡張術・血栓除去術 (初回の実施後3月以内に実施する場合)	8
中心静脈注射用植込型カテーテル設置 (頭頸部その他)	4
ステントグラフト内挿術(シャント)	3
連続携帯式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	2

消化器外科

総件数	396
腹腔鏡下胆嚢摘出術	93
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	50
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル 設置(頭頸部その他)	32
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	22
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	15
ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)	11
腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍)	11
中心静脈注射用植込型カテーテル設置 (頭頸部その他)	10
腹腔鏡下人工肛門造設術	7
腹腔鏡下小腸切除術(その他のもの)	6
腹腔鏡下ヘルニア手術(腹壁瘢痕ヘルニア)	6
腹腔鏡下結腸切除術 (小範囲切除、結腸半側切除)	6
人工肛門閉鎖術(腸管切除を伴う)(その他のもの)	5
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術) (内視鏡手術用支援機器使用)	4
腹腔鏡下腸管癒着剥離術	4
腹腔鏡下試験切除術	4
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切断術)	4
腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術) (内視鏡手術用支援機器使用)	4
気管切開術	4

呼吸器外科

総件数	122
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)	33
胸腔鏡下肺切除術(肺嚢胞手術(楔状部分切除によるもの))	20
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)	11
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(部分切除)	11
肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)	8
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	7
胸腔鏡下膿胸腔搔爬術	7
胸腔鏡下試験切除術	6
胸腔鏡下肺切除術(部分切除)	5

乳腺外科

総件数	87
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(マンモグラフィ又は超音波装置によるもの)	17
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	17
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術・腋窩部郭清を伴わないもの)	11
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	9
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術・胸筋切除併施しない)	6
動脈(皮)弁及び筋(皮)弁を用いた乳房再建術(乳房切除後)(一次的)	5

心臓血管外科

総件数	194
吸着式潰瘍治療法	40
四肢の血管拡張術	34
末梢動脈瘻造設術(内シャント造設術(単純なもの))	21
下肢静脈瘤血管内焼灼術	16
断端形成術(骨形成を要す)(足・指)	12
ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	11
動脈血栓内膜摘出術(その他)	9
経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	8
血管塞栓術(腹腔内血管等)(その他のもの)	7
バイパス移植術(足部動脈)	6
経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回の実施後3月以内に実施する場合)	5

産婦人科

総件数	1,306
子宮附属器腫瘍摘出術(両側、腹腔鏡)	223
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	199
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	153
子宮内膜ポリープ切除術(電解質溶液利用のもの)	96
子宮頸部(腔部)切除術	79
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器使用)	56
帝王切開術(選択切開)	44
子宮附属器癒着剥離術(両側、腹腔鏡)	39
子宮内膜搔爬術	36
子宮鏡下子宮筋腫摘出術(電解質溶液利用のもの)	36
帝王切開術(緊急切開)	26
腹腔鏡下子宮内膜症病巣除去術	21
流産手術(妊娠11週まで)(手動真空吸引法によるもの)	19
頸管裂創縫合術(分娩時)	17
子宮脱手術(腔壁形成手術・子宮全摘術)	16
卵管全摘除術(両側、腹腔鏡)	15
膀胱脱手術(その他のもの)	14
異所性妊娠手術(腹腔鏡)	14
子宮全摘術	13
子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)	13
腹腔鏡下仙骨腔固定術	13
会陰(腔壁)裂創縫合術(分娩時・肛門に及ぶ)	12
子宮悪性腫瘍手術	12
子宮筋腫摘出(核出)術(腹式)	11
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)(手術用支援機器使用)	11
子宮附属器腫瘍摘出術(両側、開腹)	10

小児科

総件数	1
新生児仮死蘇生術(仮死第1度)	1

脳神経外科

総件数	19
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	8
水頭症手術(シャント手術)	7
水頭症手術(シャント再建術)(腹側のもの)	2

整形外科

総件数	373
関節形成手術(指・足)	53
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方椎体固定)	52
人工関節置換術(股)	49
骨切り術(指(手、足))	46
人工関節置換術(膝)	36
第一足指外反症矯正手術	21
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓切除)	17
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓形成)	15
椎間板摘出術(後方摘出術)	14
人工骨頭挿入術(股)	10

皮膚科

総件数	23
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	6
皮膚腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm以上6cm未満)	5
皮膚腫瘍摘出術(露出部)(長径4cm以上)	3
皮膚腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	3
皮膚腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	2

泌尿器科

総件数	246
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術・電解質溶液利用のもの)	77
経尿道的尿路結石除去術(レーザーによるもの)	47
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	25
経尿道的尿管ステント留置術	19
包茎手術(環状切除術)	9
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)(その他のもの)	8
経尿道的前立腺吊上術	7
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	6
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器)(原発病巣が7cm以下)	6

眼科

総件数	435
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合・その他のもの)	419
硝子体切除術	3
角膜移植術	3
結膜嚢形成手術(部分形成)	3
水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない場合)	2

耳鼻咽喉・頭頸部外科

総件数	341
口蓋扁桃手術(摘出)	145
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	16
リンパ節摘出術(長径3cm未満)	16
粘膜下鼻甲介骨切除術	14
気管切開術	12
アデノイド切除術	10

形成再建外科

総件数	151
眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	23
皮膚腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm以上6cm未満)	12
眼瞼下垂症手術(その他)	10
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	9
皮膚腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	8
リンパ節摘出術(長径3cm未満)	8
皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術(25平方cm未満)	7
皮膚腫瘍摘出術(露出部)(長径4cm以上)	5
全層植皮術(25cm ² 未満)	5
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	5

麻酔・緩和医療科

総件数	9
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	9

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科	12,171	42,755	54,926	11,217	41,087	52,304	11,003	33,331	44,334	11,499	28,372	39,871	11,065	36,189	47,254	10,837	32,696	43,532	11,770	35,492	47,263
消化器内科	27,116	39,593	66,709	20,827	39,194	60,021	23,138	45,554	68,693	22,251	51,622	73,873	24,594	42,884	67,477	23,429	42,502	65,931	28,710	41,862	70,573
内分泌・代謝内科	23,848	22,990	46,838	21,102	20,947	42,049	25,823	23,145	48,968	21,522	19,739	41,261	24,444	32,193	56,637	22,634	25,993	48,628	24,937	19,012	43,949
呼吸器・免疫内科	64,615	76,848	141,462	71,844	85,136	156,980	76,336	92,331	168,667	63,246	92,525	155,771	75,382	92,070	167,451	79,933	81,003	160,936	83,337	81,876	165,213
血液・化学療法内科	40,905	72,940	113,844	28,697	71,367	100,064	34,799	87,212	122,011	32,209	105,966	138,175	39,864	74,119	113,983	30,114	75,604	105,718	53,562	85,670	139,231
脳神経内科	4,618	11,871	16,489	4,341	14,349	18,690	4,906	10,398	15,303	3,826	11,449	15,275	4,819	15,906	20,726	4,654	16,060	20,714	4,404	16,237	20,641
腎臓内科	7,729	13,213	20,943	8,022	18,859	26,882	8,278	24,492	32,770	8,132	20,372	28,503	8,175	23,636	31,812	7,985	21,309	29,294	8,344	13,668	22,012
内科(計)	181,002	280,210	461,212	166,050	290,940	456,990	184,284	316,463	500,746	162,684	330,045	492,730	188,343	316,996	505,339	179,585	295,167	474,752	215,064	293,818	508,882
消化器外科	10,365	33,794	44,160	9,200	42,618	51,818	9,490	40,880	50,370	9,705	38,385	48,090	9,356	40,196	49,552	9,897	42,241	52,138	10,976	35,233	46,209
呼吸器外科	1,696	7,760	9,456	1,305	17,162	18,467	1,391	11,992	13,383	1,814	10,326	12,140	2,064	21,849	23,913	1,822	17,399	19,221	2,621	18,693	21,313
乳腺外科	16,270	11,218	27,488	14,016	11,526	25,542	17,456	15,985	33,441	15,565	14,143	29,708	11,973	16,632	28,605	14,993	15,167	30,160	11,366	9,676	21,042
心臓血管外科	1,391	12,392	13,783	1,017	26,382	27,399	1,250	17,931	19,182	1,138	18,917	20,055	937	13,086	14,023	937	17,166	18,103	1,319	15,582	16,901
外科(計)	29,722	65,164	94,887	25,538	97,688	123,226	29,587	86,789	116,376	28,222	81,771	109,993	24,330	91,762	116,093	27,648	91,974	119,622	26,282	79,185	105,466
産婦人科	21,039	97,233	118,272	23,402	90,326	113,728	23,858	100,227	124,084	21,347	90,329	111,676	23,786	106,326	130,112	22,117	93,837	115,954	22,981	93,514	116,495
小児科	12,463	9,798	22,261	11,532	9,933	21,465	15,991	13,571	29,562	15,311	12,042	27,354	12,025	11,276	23,301	13,553	8,907	22,461	15,982	9,336	25,319
神経科・精神科	5,243	8,814	14,056	5,481	8,872	14,353	5,649	12,494	18,143	5,238	10,346	15,584	5,139	8,581	13,719	5,629	7,576	13,205	6,008	13,432	19,440
脳神経外科	1,332	2,870	4,202	956	2,780	3,736	1,320	1,725	3,046	979	3,782	4,761	1,067	1,808	2,875	794	237	1,031	824	360	1,185
整形外科	8,036	47,106	55,142	9,832	34,060	43,892	9,862	45,797	55,659	8,267	44,958	53,225	8,886	46,483	55,369	8,461	33,750	42,211	9,573	36,588	46,161
皮膚科	32,857	6,771	39,627	32,572	6,302	38,874	33,369	7,120	40,489	37,702	7,947	45,648	36,913	9,334	46,247	33,228	5,697	38,925	37,911	8,763	46,674
泌尿器科	17,865	23,955	41,820	19,396	19,940	39,337	16,474	22,993	39,467	18,218	21,853	40,071	18,556	21,154	39,710	16,353	18,613	34,965	17,737	20,946	38,683
眼科	9,665	6,161	15,826	10,158	7,304	17,462	9,974	6,420	16,394	9,414	6,915	16,329	10,500	7,419	17,919	10,292	5,141	15,433	10,518	8,421	18,940
耳鼻咽喉・頭頸部外科	6,254	10,260	16,513	6,286	13,912	20,198	6,911	12,344	19,255	6,303	12,812	19,115	7,042	15,626	22,668	6,674	19,524	26,198	7,314	22,317	29,631
形成再建外科	2,026	4,726	6,752	1,517	1,936	3,454	1,419	4,393	5,812	1,433	3,808	5,241	1,347	5,263	6,609	1,433	2,784	4,217	1,886	4,129	6,015
放射線診断科	3,252	0	3,252	3,046	0	3,046	3,400	0	3,400	2,498	20	2,518	2,719	0	2,719	2,850	0	2,850	2,991	2	2,993
放射線治療科	3,176	4,813	7,990	3,227	4,547	7,774	4,131	7,206	11,338	3,121	4,484	7,605	3,855	6,306	10,161	3,173	5,338	8,511	4,650	4,312	8,962
麻酔・緩和医療科	636	2,162	2,798	750	1,711	2,461	597	1,909	2,506	789	1,872	2,661	719	2,428	3,147	726	2,245	2,971	842	2,088	2,930
救急診療センター	6,892	16,151	23,043	6,887	21,263	28,150	6,765	18,151	24,916	9,017	28,496	37,512	10,490	41,381	51,871	8,761	25,372	34,133	7,583	19,671	27,254
糖尿病センター	453	0	453	460	0	460	496	0	496	478	0	478	514	0	514	420	0	420	462	0	462
リハビリテーション科	524	9,650	10,175	552	10,422	10,975	487	11,708	12,195	395	11,116	11,512	377	11,828	12,206	458	11,584	12,042	473	11,608	12,081
血液浄化センター	7,108	0	7,108	7,901	0	7,901	6,815	0	6,815	7,020	0	7,020	7,217	0	7,217	6,924	0	6,924	6,213	0	6,213
予防診療科	306	0	306	258	0	258	237	0	237	285	0	285	212	0	212	189	0	189	143	0	143
その他	26	0	26	20	0	20	28	0	28	17	0	17	35	0	35	26	0	26	30	0	30
計	349,879	595,844	945,723	335,823	621,936	957,759	361,654	669,309	1,030,963	338,739	672,596	1,011,335	364,072	703,971	1,068,043	349,296	627,744	977,040	395,467	628,491	1,023,959
百分率	37%	63%	100%	35%	65%	100%	35%	65%	100%	33%	67%	100%	34%	66%	100%	36%	64%	100%	39%	61%	100%

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累計	対前年 差額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
10,546	35,301	45,847	11,416	44,732	56,147	11,619	45,761	57,379	11,244	44,934	56,178	10,441	45,479	55,920	134,827	466,127	600,954	658,054	▲ 57,100
26,253	45,709	71,962	23,774	52,321	76,095	25,277	41,719	66,996	24,081	48,162	72,243	27,278	45,879	73,157	296,728	537,002	833,729	828,936	4,793
22,596	19,026	41,622	25,124	20,301	45,425	21,202	22,534	43,736	22,587	21,969	44,555	22,622	26,833	49,455	278,442	274,682	553,124	539,360	13,765
79,849	82,827	162,677	82,930	80,678	163,608	79,595	101,525	181,120	75,966	99,776	175,742	81,474	93,693	175,167	914,505	1,060,288	1,974,793	1,697,336	277,457
46,950	72,669	119,619	47,310	81,085	128,395	37,522	64,966	102,489	45,334	91,450	136,784	34,060	95,459	129,519	471,327	978,507	1,449,834	1,397,434	52,400
3,879	15,579	19,458	4,418	12,542	16,960	3,233	11,422	14,655	4,120	11,855	15,976	9,609	19,449	29,058	56,827	167,117	223,944	214,621	9,323
8,219	16,624	24,843	8,840	30,379	39,219	7,733	31,282	39,015	8,000	29,408	37,408	8,048	27,832	35,880	97,505	271,076	368,581	345,364	23,217
198,292	287,735	486,027	203,812	322,037	525,849	186,181	319,209	505,390	191,332	347,554	538,886	193,532	354,624	548,156	2,250,161	3,754,799	6,004,959	5,681,105	323,855
10,320	32,844	43,164	8,099	38,732	46,832	9,982	39,965	49,947	8,934	38,030	46,963	11,418	41,994	53,412	117,744	464,913	582,657	543,254	39,403
1,722	6,489	8,211	1,607	11,532	13,139	1,971	15,894	17,865	1,904	18,005	19,908	1,914	15,961	17,875	21,830	173,061	194,890	161,434	33,456
8,761	6,205	14,966	11,265	2,933	14,197	10,736	128	10,864	8,900	37	8,937	10,816	271	11,087	152,114	103,922	256,037	335,026	▲ 78,990
1,568	17,675	19,243	1,668	19,405	21,072	1,430	17,291	18,721	1,148	16,090	17,239	1,134	17,496	18,630	14,936	209,414	224,351	197,749	26,602
22,371	63,213	85,583	22,638	72,602	95,240	24,119	73,278	97,397	20,885	72,162	93,047	25,281	75,723	101,004	306,625	951,310	1,257,935	1,237,464	20,471
23,271	90,331	113,602	22,419	99,280	121,700	21,201	79,947	101,147	21,476	86,697	108,173	22,962	99,489	122,451	269,859	1,127,535	1,397,394	1,379,777	17,617
13,038	7,704	20,742	13,375	12,336	25,711	12,158	4,921	17,079	12,656	6,468	19,123	13,103	10,654	23,757	161,187	116,946	278,133	257,795	20,338
5,136	8,859	13,995	5,402	9,036	14,438	5,376	10,912	16,288	5,624	8,379	14,002	5,887	12,889	18,776	65,810	120,189	185,999	169,622	16,377
805	2,134	2,939	1,114	4,961	6,075	1,119	2,678	3,797	711	2,977	3,688	899	4,860	5,760	11,921	31,173	43,094	78,550	▲ 35,456
8,428	33,630	42,058	8,697	37,769	46,466	6,900	30,611	37,511	7,775	31,658	39,433	8,224	35,050	43,275	102,942	457,459	560,401	596,742	▲ 36,341
34,246	7,897	42,143	32,284	7,915	40,200	33,927	4,140	38,067	37,840	6,859	44,699	34,867	9,501	44,368	417,716	88,246	505,961	521,422	▲ 15,461
16,910	23,950	40,860	17,038	18,791	35,829	16,278	17,613	33,891	16,503	16,210	32,713	16,587	16,190	32,777	207,915	242,207	450,122	488,182	▲ 38,059
9,868	10,769	20,637	9,859	8,072	17,931	9,106	9,016	18,122	9,277	8,954	18,231	9,715	11,352	21,067	118,347	95,944	214,291	173,368	40,923
7,594	21,829	29,423	6,752	18,860	25,612	7,126	19,686	26,812	6,955	12,715	19,670	7,574	17,477	25,051	82,783	197,363	280,146	253,815	26,331
1,141	3,448	4,589	1,297	4,400	5,698	1,272	2,626	3,898	1,275	1,905	3,180	1,655	3,489	5,144	17,702	42,909	60,611	52,403	8,208
2,979	0	2,979	2,438	0	2,438	2,419	0	2,419	3,058	0	3,058	3,031	0	3,031	34,682	22	34,704	39,472	▲ 4,768
6,824	5,238	12,062	3,624	5,195	8,820	3,620	4,663	8,283	4,108	3,565	7,672	3,230	4,705	7,935	46,741	60,371	107,112	97,918	9,194
815	2,056	2,871	857	2,170	3,027	709	1,837	2,545	693	2,047	2,741	589	2,439	3,027	8,722	24,962	33,685	29,695	3,990
6,492	19,943	26,434	7,874	23,327	31,201	9,226	33,491	42,716	7,457	28,031	35,488	6,304	25,983	32,287	93,747	301,258	395,005	338,843	56,162
457	0	457	489	0	489	402	0	402	456	0	456	365	0	365	5,452	0	5,452	6,103	▲ 650
483	12,118	12,601	382	11,523	11,904	344	10,445	10,789	292	10,509	10,801	259	10,149	10,408	5,027	132,662	137,689	101,372	36,316
6,436	0	6,436	6,334	0	6,334	7,487	0	7,487	8,261	0	8,261	8,164	0	8,164	85,879	0	85,879	82,196	3,683
175	0	175	185	0	185	127	0	127	112	0	112	113	0	113	2,341	0	2,341	4,060	▲ 1,718
20	0	20	24	0	24	26	0	26	23	0	23	23	0	23	299	0	299	379	▲ 80
365,779	600,854	966,633	366,895	658,273	1,025,168	349,123	625,072	974,196	356,767	646,688	1,003,455	362,365	694,573	1,056,938	4,295,859	7,745,353	12,041,212	11,590,281	450,932
38%	62%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	34%	66%	100%	36%	64%	100%	-	-

2 医療行為別医療収入

① 外来

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
初診料	3,417	3,585	3,974	3,655	3,896	3,442	3,369	3,371	3,415	3,200	3,232	3,091	41,646	43,445	▲ 1,799
再診料	11,352	11,620	12,142	11,521	11,965	11,996	12,211	11,590	12,313	11,167	11,067	11,583	140,529	138,691	1,838
指導料	27,636	26,601	28,696	27,025	28,101	28,557	27,955	26,831	28,437	26,914	26,839	26,262	329,854	335,141	▲ 5,287
処方料	8,283	4,399	3,294	4,088	3,819	2,876	8,639	6,070	5,987	4,243	5,646	5,734	63,079	104,150	▲ 41,071
注射料	128,699	116,166	128,884	125,173	138,704	125,697	160,139	143,614	142,431	138,179	141,556	142,902	1,632,145	1,612,102	20,042
処置料	8,550	9,457	8,847	9,492	9,787	9,670	8,223	8,238	8,109	8,672	9,081	8,856	106,982	103,192	3,790
手術料	6,844	6,122	5,496	5,534	5,735	5,696	7,077	5,282	6,869	5,589	6,000	5,865	72,110	78,233	▲ 6,124
検体検査料	93,502	94,822	102,525	92,473	97,455	97,968	99,797	95,539	96,718	95,269	93,694	93,681	1,153,443	1,128,383	25,060
画像検査料	42,162	42,237	45,856	39,931	43,051	42,771	44,487	41,291	41,224	37,069	39,745	44,355	504,179	498,471	5,708
リハビリ その他	13,776	13,839	14,991	13,540	14,591	13,916	15,729	17,270	14,822	13,629	14,115	13,466	173,685	173,260	425
自費	5,658	6,976	6,948	6,307	6,968	6,706	7,839	6,683	6,568	5,193	5,792	6,568	78,208	76,013	2,195
計	349,879	335,823	361,654	338,739	364,072	349,296	395,467	365,779	366,895	349,123	356,767	362,365	4,295,859	4,291,082	4,777

[医事サービス部]

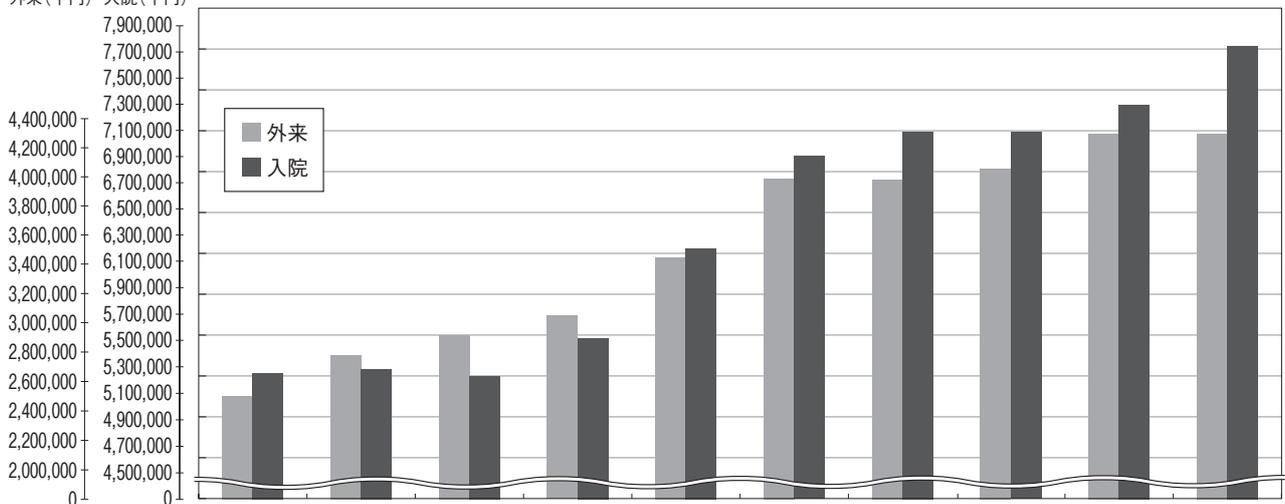
② 入院

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
診察料	280	303	266	278	510	337	279	314	464	378	402	273	4,084	3,480	604
指導料	7,186	8,086	7,970	8,251	8,196	8,507	7,452	7,782	8,655	8,108	8,600	7,646	96,438	92,820	3,619
処方料	5,909	7,078	7,219	8,042	10,653	7,656	9,575	8,049	10,392	7,461	8,601	8,929	99,564	81,196	18,368
注射料	19,801	19,507	35,008	52,457	37,672	29,153	18,669	24,164	16,790	26,191	23,312	27,652	330,376	237,748	92,628
処置料	2,887	2,898	4,420	3,956	4,217	4,285	2,687	3,267	4,276	4,980	2,980	3,229	44,082	53,470	▲ 9,388
手術料	140,201	152,485	150,781	137,362	164,914	146,629	143,853	133,997	141,892	135,155	140,423	146,436	1,734,128	1,713,584	20,544
検体検査料	13,055	12,301	13,064	14,711	15,565	12,607	11,390	11,855	13,475	12,504	12,632	12,731	155,890	167,927	▲ 12,037
画像検査料	1,279	1,793	1,659	2,388	2,594	1,653	1,561	1,603	1,482	1,913	1,770	2,370	22,063	20,051	2,013
リハビリ その他	14,291	14,853	18,731	15,341	17,871	16,483	15,684	16,473	16,357	14,895	13,762	14,413	189,153	153,127	36,026
入院料	66,598	70,831	75,518	83,095	99,430	77,214	70,142	66,963	76,277	74,743	70,170	87,316	918,297	824,271	94,025
DPC	273,850	279,076	293,749	287,416	281,260	270,953	292,891	275,018	307,493	287,216	309,859	322,216	3,480,997	3,293,018	187,979
食事療養費	13,332	13,910	14,863	14,836	15,001	13,353	13,820	12,977	14,735	14,030	14,019	15,411	170,288	163,005	7,283
自費	37,174	38,814	46,063	44,464	46,088	38,915	40,488	38,391	45,986	37,500	40,159	45,951	499,993	495,504	4,489
計	595,844	621,936	669,309	672,596	703,971	627,744	628,491	600,854	658,273	625,072	646,688	694,573	7,745,353	7,299,199	446,154

[医事サービス部]

外来(千円) 入院(千円)



	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	2,499,811	2,777,604	2,912,746	3,114,564	3,431,167	3,991,417	3,958,995	4,085,589	4,291,082	4,295,859
入院	5,250,034	5,283,258	5,232,252	5,578,012	6,266,133	6,901,386	7,096,119	7,091,769	7,299,199	7,745,353

3. その他統計

1 病院従業員数 (2023年4月1日時点)

		職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート	
			男	女					
医師	2023年度	95	68	27	18	13	1	36	
	2022年度	92	62	30	22	13	3	32	
薬剤師	2023年度	21	8	13	0	0	0	2	
	2022年度	21	8	13	0	0	0	2	
放射線技師	2023年度	20	13	7	0	0	0	0	
	2022年度	20	13	7	0	0	0	0	
医学物理士	2023年度	0	0	0	0	0	0	1	
	2022年度	0	0	0	0	0	0	1	
臨床検査技師	2023年度	36	13	23	0	0	0	3	
	2022年度	37	15	22	0	0	0	3	
理学療法士	2023年度	11	10	1	0	0	0	0	
	2022年度	11	10	1	0	0	0	0	
作業療法士	2023年度	4	3	1	0	0	0	0	
	2022年度	2	2	0	0	0	0	0	
管理栄養士	2023年度	4	0	4	0	0	0	0	
	2022年度	4	0	4	0	0	0	0	
ケースワーカー	2023年度	8	0	8	0	0	0	0	
	2022年度	8	0	8	0	0	0	0	
視能訓練士・眼鏡士	2023年度	1	0	1	0	0	0	2	
	2022年度	1	0	1	0	0	0	2	
公認心理師	2023年度	0	0	0	0	0	0	0	
	2022年度	0	0	0	0	0	1	2	
臨床心理士	2023年度	0	0	0	0	0	0	0	
	2022年度	0	0	0	0	0	0	0	
臨床工学技士	2023年度	10	5	5	0	0	0	0	
	2022年度	10	5	5	0	0	0	0	
看護師	2023年度	355	16	339	0	0	0	17	
	2022年度	359	18	341	0	0	0	18	
准看護師	2023年度	0	0	0	0	0	0	5	
	2022年度	0	0	0	0	0	0	5	
看護助手	2023年度	0	0	0	0	0	0	3	
	2022年度	0	0	0	0	0	0	4	
事務員	2023年度	50	26	24	0	0	0	33	
	2022年度	49	25	24	0	0	0	34	
一般技能労務職	2023年度	2	2	0	0	0	0	2	
	2022年度	2	2	0	0	0	0	2	
小計	2023年度	617	164	453	18	13	1	104	
	2022年度	616	160	456	22	13	4	105	
ニッセイ予防医学センター	医師	2023年度	6	1	5	0	0	1	4
		2022年度	6	1	5	0	0	1	4
	放射線技師	2023年度	5	2	3	0	0	0	5
		2022年度	4	2	2	0	0	0	4
	臨床検査技師	2023年度	1	1	0	0	0	0	8
		2022年度	0	0	0	0	0	0	9
	公認心理士	2023年度	0	0	0	0	0	0	3
		2022年度	0	0	0	0	0	0	3
	看護師	2023年度	10	0	10	0	0	0	8
		2022年度	11	0	11	0	0	0	6
	事務員	2023年度	16	6	10	0	0	0	21
		2022年度	15	6	9	0	0	0	21
	一般技能労務職	2023年度	1	1	0	0	0	0	0
		2022年度	1	1	0	0	0	0	0
小計	2023年度	39	11	28	0	0	1	49	
	2022年度	37	10	27	0	0	1	47	
訪問看護	看護師	2023年度	6	0	6	0	0	0	0
		2022年度	6	0	6	0	0	0	8
小計	2023年度	6	0	6	0	0	0	0	
	2022年度	6	0	6	0	0	0	8	
総計	2023年度	662	175	487	18	13	2	153	
	2022年度	659	170	489	22	13	5	160	

[総務人事G]

2 セカンドオピニオン外来件数 (年間計)

消化器内科 1 件、産婦人科 2 件、脳神経外科 2 件、計 5 件

[あったかサポートセンター]

循環器内科

スタッフ 部長：岡部太一（中央臨床検査部長）
 担当部長：中川 厚（救急総合診療センター副センター長）
 医 長：和田有希、吉川秀人
 副医長：坂口健太

1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、不整脈疾患、末梢血管疾患に加え、その危険因子である高血圧症、脂質異常症、糖尿病も併せて診療を行っている。

循環器疾患のなかでも、特に大きな課題を抱えているのが心不全である。団塊の世代が全員75歳以上になる2025年問題が指摘、2030年には心不全患者が爆発的に増加する「心不全パンデミック」も懸念されており、当科も積極的に受け入れ対応を実施、心不全の進展についてステージDである高齢化に伴う心不全の緩和ケアの重要性が増すと共に、未病という考えから心不全に至る危険因子の管理も非常に重要であり、外来においては積極的に他診療科やドック、他院よりの紹介を積極的に受け入れ、安定した後は登録医の先生方への逆紹介を行っている。

待機的な冠動脈造影検査については近年、300件程度、経皮的冠動脈形成術（PCI）も120件程度で推移している。急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても少ないスタッフの状況においても診療時間内・外共に積極的に対応して。

近年保険診療においてPCI実施については可能な限り虚血所見の証明を必要とされており、当院ではシンチ検査や運動負荷シンチ検査、心臓カテーテル検査時に冠血流予備量比測定（FFR・iFRなど）にて虚血評価を実施の上、カテーテル治療を実施している。

また当科では虚血性非閉塞性冠疾患（INOCA）のにも注目しており、狭心症が疑われるも狭窄が認められない症例については心臓カテーテル検査中に併せて精査を今年度途中より開始した。

下肢閉塞性動脈硬化症については、現在は心臓血管外科に移行している。

不整脈治療について、頻脈性不整脈に対するカテーテル心筋症焼灼術については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学出身の不整脈専門医の協力にて症例を選択して当院でアブレーション治療を再開（主に当院外来通院患者）、現状は定期的なアブレーション治療は実施していないが、薬物治療・アブレーション治療による治療の要否について循環器専門医が判断、必要と判断した症例については実施可能施設に紹介している場合もある。

徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）に対するペースメーカー治療（新規植込み・電池交換）に

ついては吉川医長、坂口副医長が植込み手術を実施している。

心疾患患者の運動耐容能と予後改善をめざし心臓リハビリテーションを当院でも開始、主に入院患者を対象に急性心筋梗塞後のみならず心不全や閉塞性動脈硬化症などに対して実施、可能な症例に対しては入院から外来へと継続実施している。心臓リハビリテーション実施に際して安全にかつ有効に実施するため心肺運動負荷試験（CPX）実施、嫌気性代謝閾値を相定、評価実施、運動処方を行っている。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、循環器一般診療・内科一般疾患に対しても関連疾患の診療も他科と協力、幅広く診療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）
 - ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜 全日、木曜・全日、尚、緊急時には適時対応）
 - ・薬剤負荷心筋シンチ（火・木午前）
 - ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜 午後）
 - ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
 - ・経食道心臓超音波検査（午後適時）
 - ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）
 - ・ホルター心電図検査（月～木様、午前）
 - ・CPX：心肺運動負荷試験（午後適時）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）
- 3) 検査実績
 - 心臓カテーテル検査件数：306件（内、緊急24件）
 - PCI（冠動脈インターベンション治療）：168件（内、緊急12件）
 - ペースメーカー治療（新規/交換）：12/10件
 - 冠動脈CT：339件
 - 心臓超音波検査：4139件
 - 経食道心臓超音波検査：1件
 - トレッドミル負荷心電図：104件
 - 負荷心筋シンチ：28件

冠血流予備量比測定：55件
ホルター心電図検査：201件
CPX件数：1件

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医

4名（岡部、中川、和田、吉川）

日本内科学会総合内科専門医 1名（岡部）

循環器専門医

3名（岡部、中川、和田）

日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医

1名（中川）

5. 業績

論文・著書

1. 木下聡子, 中川 厚, 坂口健太, 友瀨彰人, 吉川秀人, 和田有希, 岡部太一：冠動脈穿孔に対し、冠灌流型バルーンとカバードステットを用いて回避した狭心症の1例, 日本生命病院医学雑誌, 51：36-41, 2023年
2. 岸 正司, 暮部裕之, 宇都佳彦, 中川 厚, 新谷 隆, 水野均：当院における中心静脈カテーテル挿入認定制度の策定, 大阪救急, 108：10-15, 2023年

学会発表

1. 本郷卓英, 木下聡子, 吉川秀人, 中川 厚, 岡部太一：院外停止を来した重症冠攣縮性狭心症が疑われた一例, 第135日本循環器学会近畿地方会, 2023年7月, 豊中
2. 吉岡佑太, 岡崎浩也, 岡部太一：洞不全症候群に対してペースメーカー留置後心不全が増量した一例, 第135日本循環器学会近畿地方会, 2023年7月, 豊中
3. 吉岡佑太, 岡崎浩也, 田口貴大, 坂口健太, 吉川秀人, 中川厚：CLSモードを使用した恒久的ペースメーカー留置により透析中の血圧低下が改善された一例, 第31回日本心血管インターベンション治療学会, 2023年8月, 福岡
4. 岡崎浩也, 吉岡佑太, 田口貴大, 坂口健太, 吉川秀人, 中川厚：微少循環障害で緊急カテーテルを実施した一例, 第31回日本心血管インターベンション治療学会, 2023年8月, 福岡
5. 中嶋七海, 坂口健太, 吉川秀人, 和田有希, 中川 厚, 岡部太一：尿意切迫感が冠微少循環障害に影響を与えた一例, 第136日本循環器学会近畿地方会, 2023年12月, 大阪
6. 中本和宏, 坂口健太, 吉川秀人, 和田有希, 中川 厚, 岡部太一：冠微少循環障害が鑑別に有用であった3症例, 第136日本循環器学会近畿地方会, 2023年12月, 大阪
7. 村上萌恵, 坂口健太, 吉川秀人, 和田有希, 中川 厚, 岡部太一：ロータブレードによる冠動脈穿孔に対しガイドプラスでカバードステット留置に成功しベイルアウトできた冠動脈硬化症の一例, 第42回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 2024年3月, 大阪

研究会発表

1. 坂口健太：冠微小循環評価の経験, あわぎ循環WEBセミナー, 2023年6月, 大阪（Web開催）
2. 坂口健太：Physiology deviceを用いた冠疾患診療, FH seminar～超音波で診るアキレス腱～, 2023年6月, 大阪
3. 岡部太一：心房細動について脈をチェックして脳梗塞を予防しよう, 30分でよくわかる健康講座, 2023年7月, 大阪
4. 中川 厚：標的血管の同定に難渋した冠動脈硬化症の一例, 京阪奈Physiology研究会～OmniSyncVision活用術～, 2023年12月, 京都

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
吉川	坂口	岡部	永田	中川	吉川	岡部	宮本	坂口	中川
中川				和田/ 長谷川 (予約)※				和田	

※岡部は1・4・5週の予約再診、長谷川は2・3週の初診のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス (8:30~9:00)	カンファレンス 心臓カテーテル	合同カンファレンス (放科・心外) (8:00~9:00)	カンファレンス 心臓カテーテル	カンファレンス
午後				カンファレンス	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
心エコー	● 紹・予									
頸動脈エコー	● 紹・予									
ホルター心電図		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		
末梢血管エコー		● 紹・予								
トレッドミル		○ 診								
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診			○ 診	○ 診		
負荷心筋シンチ			○ 診						○ 診	

●：紹介状・予約が必要 ○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	12,558	12,092	12,815	13,293	13,010
入院	6,896	6,345	8,301	7,640	6,720

表5 2023.4~2024.3一入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症	256	5
心不全	127	25
急性心筋梗塞	27	12
肺炎、病原体不詳	26	20
房室ブロックおよび左脚ブロック	18	12
心房細動および粗動	10	10
その他の肺性心疾患	9	3
その他の不整脈	9	18
COVID-19	8	17
非リウマチ性大動脈弁障害	7	8
尿路系のその他の障害	5	10
睡眠障害	4	2

消化器内科

スタッフ 主任部長：有坂好史（消化器内視鏡センター長）
副部長：田中敏雄（部長待遇）、若原ちか、萩巣恭平
医 長：河田奈都子、北田隆起、板東正貴
専攻医：森本祐太郎
顧問：中村秀次

1. 診療内容

全人的な医療をモットーとして、消化器疾患全般に対する診療を行っている。外科合同カンファレンス、放射線科合同カンファレンスを継続して行い、外科・放射線科の連携のもと集学的診断治療に努めている。上部・下部消化管内視鏡検査では、NBI拡大内視鏡、色素内視鏡を用いて、食道癌、胃癌、大腸癌の早期診断など高い診断精度を目指す。胆膵疾患および消化管粘膜下腫瘍に対しては超音波内視鏡検査を駆使し、超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も導入し、診断能の向上を図っている。治療の手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術に加えて、胃・食道の早期癌に対して粘膜下層剥離術（ESD）も積極的に実施しており、早期大腸癌のESDも行っている。膵・胆管領域では、総胆管結石や閉塞性黄疸に対して内視鏡的逆行性胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。食道や胃の進行癌だけでなく膵癌、胆管癌に対しても、化学療法、放射線療法など集学的治療を行っている。肝疾患では、B型慢性肝炎に対するエンテカビル、テノホビル、TAF投与、C型慢性肝炎に対するIFN-free DAA経口療法を積極的に実施している。肝硬変に対しては肝癌の早期発見さらに発癌抑制も踏まえたきめ細かな診療を心がけ、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法、難治性腹水に対するCART療法など、QOLおよび生存率の向上を目指した治療を行っている。肝細胞癌に対しては、外科、放射線科との緊密な連携の下、外科切除、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例には分子標的治療薬も積極的に導入し、集学的治療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定医
5名（有坂、河田、北田、板東、中村）
日本内科学会総合内科専門医 3名（若原、萩巣、北田）
日本内科学会認定指導医
4名（有坂、河田、北田、中村）
日本消化器病学会認定専門医
7名（有坂、若原、萩巣、河田、北田、板東、中村）
日本消化器病学会認定指導医
6名（有坂、若原、萩巣、河田、北田、中村）
日本消化器内視鏡学会認定専門医
7名（有坂、若原、萩巣、河田、北田、板東、中村）
日本消化器内視鏡学会認定指導医
3名（有坂、若原、中村）
日本肝臓学会認定肝臓専門医
4名（萩巣、河田、北田、中村）
日本肝臓学会認定指導医 2名（河田、中村）
日本胆道学会認定指導医 2名（有坂、萩巣）
日本膵臓学会認定指導医 2名（有坂、河田）
日本臨床腫瘍学会暫定指導医 1名（中村）
日本超音波医学会専門医 1名（河田）
日本がん治療認定医 2名（河田、北田）

5. 業績

論文・著書

1. 河田奈都子, 森本祐太郎, 楠下 萌, 板東正貴, 北田隆起, 花本浩一, 萩巣恭平, 若原ちか, 田中敏雄, 山下晋也, 中村秀次, 有坂好史: 診断に難渋し被疑薬中止まで4年を要した腸間膜静脈硬化症の1例, 漢方と最新治療, 32 (4): 326-331, 2023年
2. Yamashita S, Matsushita K, Kitada R, Jokoji R, Kawada N, Wakahara C, et al: A Case of Resected Type 4 Rectal Cancer with Difficulty in Preoperative Diagnosis, Gan To Kagaku Ryoho, 50 (4): 532-534, 2023年
3. Tsujimae M, Masuda A, Takagi M, Kato T, Nakano R, Ogisu K, et al; KPEC study group: Relapse and side effects of steroid therapy beyond 3 years in autoimmune pancreatitis: A multicenter retrospective study, Pancreatolgy, 24 (2): 223-231, 2024年

学会発表

1. 森本祐太郎, 萩巣恭平, 井口謙志, 板東正貴, 北田隆起, 若原ちか, 河田奈都子, 田中敏雄, 有坂好史, 中村秀次: 薬剤性肝障害を契機に発症した自己免疫性肝炎の1例, 第242回日本内科学会近畿地方会, 2023年12月, 大阪

2. 北田隆起, 中村秀次, 萩巢恭平, 河田奈都子, 若原ちか, 有坂好史: 抗酒薬による薬剤性肝障害の1例, 第45回日本肝臓学会西部会, 2023年12月, 京都

研究会発表

1. 板東正貴: 慢性膵炎の診断と治療, 第21回大阪肝胆膵疾患地域連携会, 2023年9月, 大阪
2. 有坂好史: 慢性膵炎診療ガイドライン2021 ~改訂をめぐって~, 第5回あわぎ消化器合同病診連携会, 2023年10月, 大阪 (Web開催)
3. 有坂好史: Mirizzi症候群とETGBD, 第2回 WEST OSAKA Regional Workshop, 2023年10月, 大阪
4. 有坂好史: 「膵臓の病気~膵炎と膵癌」, 西部大阪肝胆膵疾患地域連携会 市民公開講座: 本当に大事な肝臓・胆道・膵臓, 2024年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール (完全予約制)

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
有坂	萩巢	田中 (敏)	北田	中村	中村	中村	中村	有坂	若原
北田		若原	森本	河田	河田	坂東	永瀬	田中 (敏)	
		坂東		萩巢					

表2 病棟スケジュール

月	火	水	木	金
肝生検	内視鏡 カンファレンス	肝生検 造影超音波検査	RFA 放射線科合同 カンファレンス 病棟患者 カンファレンス	回診

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内視鏡 胃	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	
内視鏡 大腸		○ 診		○ 診		○ 診				○ 診
EUS									○ 診	
ERCP			○ 診					○ 診		
膵精密エコー						● 紹・予				

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	19,449	17,624	16,730	17,951	18,152
入院	10,461	9,424	7,484	9,025	9,729

表5 2023.4~2024.3入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
結腸、直腸、肛門および 肛門管の良性新生物	388	2
結腸の悪性新生物	104	4
腸の憩室性疾患	61	5
胆石症	58	11
腸のその他の疾患	52	3
胃の悪性新生物	47	8
胆道のその他の疾患	33	12
肝および肝内胆管の悪性新生物	29	14
膵の悪性新生物	28	16
麻痺性イレウスおよび腸閉塞、 ヘルニアを伴わないもの	28	14
その他の胃腸炎および大腸炎、感染症 および詳細不明の原因によるもの	25	6
口腔および消化器の性状不詳または 不明の新生物	23	5
胃炎および十二指腸炎	19	2
直腸の悪性新生物	18	8
アルコール性肝疾患	18	18

スタッフ 部 長：橋本久仁彦

(副院長、糖尿病・内分泌センター長、栄養管理室長、あったかサポートセンター長)

医 長：大畔健太

医 員：

専 攻 医：楠下 萌 (2023年4～2024年3月)、落合 進 (2023年4～2024年3月)、

熨斗 優 (2023年4月～2024年1月、2024年3月)、

橋本紘宜 (2023年8月～11月、2024年2月～2024年3月)

森田香菜子 (2023年4月～2024年3月)

兼 任：笠山宗正 (名誉院長)、三木俊治 (予防医学センター)、宇都佳彦 (救急総合診療科)、

松島 希 (予防医学センター)、高森啓成 (救急総合診療科)

1. 診療内容

2019年度より内分泌・代謝内科は、内分泌・糖尿病疾患を主な対象疾患として診療を担当している。具体的には、①糖尿病を持っている患者に対する知識獲得や療養についての支援、経口薬やインクレチン受容体作動薬・インスリンなどの注射薬による血糖マネジメント、糖尿病性ケトアシドーシス・高血糖高浸透圧症候群などの糖尿病救急に対する対応、糖尿病合併症治療および感染症治療など、②下垂体機能低下症を主体とする下垂体疾患、甲状腺機能亢進症・低下症・眼症、副甲状腺疾患、原発性アルドステロン症・クッシング症候群を主体とする副腎疾患などの内分泌疾患の診断・治療を内科専攻医とともに全人的に行った。

総合内科的な診療についても、多数の内科専攻医が所属する内分泌・代謝内科において多くの患者を担当した。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール (表1)

2) 病棟体制 (表2)

担当患者数は、主観患者は20名弱、共観患者は30-35名程度であり、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医4～5名であり、部長および常勤医の指導の下、研修医と専攻医・常勤医により症例によっては複数主治医体制で診療を行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表3)

2023年度外来述べ患者数は、21,671人であった。2022年度に比べ少し減少している。通院患者の高齢化による、かかりつけ医への逆紹介も影響していると推測する。

2) 入院診療実績 (表3、4)

2023年度入院述べ患者数は、5,669人であった。2022年度に比べて212名増加しており、積極的な患者受け入れの結果と推測する。内分泌・代謝内科における入院患者内訳については2021年、2022年と同様に疾患別では2型糖尿病が第1位、COVID-19が第2位であり、内分泌疾患では下垂体疾患が最も多かった。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医

4名 (橋本、大畔、三木、笠山)

日本内科学会認定指導医

4名 (橋本、大畔、三木、笠山)

日本内科学会総合内科専門医

3名 (橋本、大畔、三木)

日本内分泌学会指導医

2名 (橋本、笠山)

日本内分泌学会専門医

3名 (橋本、大畔、笠山)

日本糖尿病学会指導医

2名 (橋本、笠山)

日本糖尿病学会専門医

3名 (橋本、大畔、笠山)

日本高血圧学会指導医

1名 (笠山)

日本人間ドック学会認定医

1名 (橋本)

日本プライマリ・ケア連合学会認定医

1名 (橋本)

5. 業績

論文・著書

1. 笠山宗正：職員のモラル向上のための取り組み～患者の満足度が高く職員の活力があふれる病院づくり, 医事業務, 655: 12-15, 2023年

学会発表

- 笠山宗正, 宮本浩樹, 高田紅瑠美：最近10年間の当院職員の学術・研究活動の実績, 第15回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
- 笠山宗正, 住谷 哲, 橋本久仁彦：10年間メトホルミン単投与で管理された2型糖尿病患者の臨床的特徴, 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023年5月, 鹿児島
- 大畔健太, 森本尚喜, 松尾剛明, 大西彩乃, 西岡美保, 高森啓成, 松島 希, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦：トロポニンI高値を認めるも急性心筋梗塞が否定された糖尿病性ケトアシドーシス (DKA) 4症例の臨床的特徴, 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023年5月, 鹿児島
- 最上伸一, 馬屋原豊, 武呂誠司, 安田哲行, 小杉圭右, 橋本久仁彦, 北川良裕, 徳田好勇, 谷本吉造, 川岸隆彦, 谷口敏雄, 庄司繁市, 久米田靖郎, 吉内和富, 岡野理江子, 村田佳織, 姜 信牛：大阪市南部地区における病院連携の試み (第23報)～GLP-1受容体作動薬の使用状況に関するアンケート調査報告～, 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023年5月, 鹿児島
- 大西彩乃, 森本尚喜, 松尾剛明, 西岡美保, 松島 希, 高森啓成, 大畔健太, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦：当院における原発性アルドステロン症診療の現状, 第96回日本内分泌学会学術総会, 2023年6月, 名古屋
- 板東雅樹, 森本尚喜, 森田香菜子, 熨斗 優, 楠下 萌, 落合進, 大畔健太, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦：著明な乳酸

アシドーシスを呈したCOVID-19の1例, 第241回日本内科学会近畿地方会, 2023年9月, 大阪

7. 落合 進, 橋本紘宣, 熨斗 優, 森田香菜子, 楠下 萌, 大畔健太, 高森啓成, 松島 希, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 肺カンジダ症と糖尿病性ケトアシドーシス (DKA) を来した1例みた続発性副腎機能低下症の特徴, 第60回日本糖尿病学会近畿地方会, 2023年10月, 神戸
8. 楠下 萌, 橋本紘宣, 熨斗 優, 森田香菜子, 落合 進, 大畔健太, 高森啓成, 松島 希, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 糖尿病性ケトアシドーシスとともに急性壊死性食道炎を発症した1型糖尿病の1例, 第60回日本糖尿病学会近畿地方会, 2023年10月, 神戸
9. 熨斗 優, 橋本紘宣, 森田香菜子, 楠下 萌, 落合 進, 大畔健太, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦: SGLT2阻害薬導入により肥満、高中性脂肪血症、脂肪肝が同時に改善した2型糖尿病の1例, 第60回日本糖尿病学会近畿地方会, 2023年10月, 神戸
10. 森田香菜子, 松尾剛明, 橋本紘宣, 熨斗 優, 楠下 萌, 落合 進, 大畔健太, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 急性膵炎を契機に緩徐進行1型糖尿病 (Probable) を診断した1例, 第60回日本糖尿病学会近畿地方会, 2023年10月, 神戸
11. 橋本紘宣, 森田香菜子, 熨斗 優, 楠下 萌, 落合 進, 大西彩乃, 大畔健太, 高森啓成, 松島 希, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦: アナモレリンが糖尿病性ケトアシドーシスの一因と考えられた肺癌合併糖尿病患者の1例, 第60回日本糖尿病学会近畿地方会, 2023年10月, 神戸
12. 橋本紘宣, 竹本美保, 熨斗 優, 森田香菜子, 楠下 萌, 落合 進, 松島 希, 大畔健太, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 負荷試験に対する反応性からみた続発性副腎機能低下症の特徴, 第24回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 2023年10月, 枚方
13. 中本和宏, 宇都佳彦, 落合進, 楠下萌, 大畔健太, 笠山宗正, 板東正貴, 有坂好史, 橋本久仁彦: Edwardsiella Tarda感染による菌血症を繰り返した2型糖尿病の一例, 第243回日本内科学会近畿地方会, 2024年3月, 大阪

研究会発表

1. 橋本紘宣, 竹本美保, 熨斗 優, 森田香菜子, 楠下 萌, 落合 進, 松島 希, 大畔健太, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 負荷試験に対する反応性からみた続発性副腎機能低下症の特徴, 第16回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス, 2023年6月, 大阪
2. 笠山宗正: 准高齢者の徒然草, 第25回つながる会, 2023年9月, 大阪
3. 橋本紘宣, 竹本美保, 熨斗 優, 森田香菜子, 楠下 萌, 落合 進, 松島 希, 大畔健太, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 負荷試験に対する反応性からみた続発性副腎機能低下症の特徴, 第7回OEMレジデントサミット, 2024年2月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
大畔	落合	三木	橋本(紘)	笠山	笠山	笠山	笠山	橋本(久)	落合
宇都※		橋本(久)	橋本(久)	橋本(久)	高森※	大畔	熨斗		
						三木	森田		
						宇都※			

※救急総合診療科所属 ※※予防医学センター所属

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後	部長回診	症例カンファレンス		抄読会	

表3 年度別外来・入院延べ患者数*

	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度	2023年度
			うち、内分 代謝内科			
外来	45,755	41,825	38,454	11,230	21,985	21,671
入院	20,685	23,300	24,488	3,042	5,457	5,669

*2018年～2020年は総合内科の人数。
2021年は旧総合内科計の人数、内分・代謝内科(10月～)の人数を記載。
2022年度は内分・代謝内科の人数。

表4 2023.4～2024.3—入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	144	13
COVID-19	55	11
肺炎、病原体不詳	53	19
尿路系のその他の障害	18	16
その他の副腎障害	13	9
急性腎盂腎炎	12	14
1型糖尿病	11	13
下垂体疾患(下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	11	7
その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	10	11
その他の膵内分泌障害	8	5

スタッフ 部長：井原祥一
副部長：甲原雄平
医 長：二宮隆介、小中八郎
副医長：廣海汐理
医 員：田中雅樹
専攻医：神島 望、柳澤 篤
兼 任：立花 功（院長）

1. 診療内容

2021年10月より総合内科から呼吸器・免疫内科および内分泌内科にわかれた。2023年度は呼吸器・免疫内科としての診療を開始して2年度目であった。

呼吸器内科では下気道・胸腔の臓器疾患を担当しており、原因疾患にかかわらず当該臓器に呈した異常に対して積極的な診断をおこなっている。また下気道・胸腔を由来とする疾患においてはその合併症を含め全身管理を行っている。一方、免疫内科は自己免疫疾患を担当している。自己免疫疾患は免疫という機構の異常に伴う疾患でありその臓器特異性は低い。免疫内科では特定の臓器ではなく免疫機構の異常により惹起される様々な臓器の異常に配慮し全身疾患としての診療を行っている。臓器による診療科名である“呼吸器内科”と機構による診療科名である“免疫内科”は異質の命名であり当然病態が重複しうる。免疫機構の異常が肺野の異常陰影や胸膜・心膜の異常として検出されることがや免疫疾患の加療中に呼吸器に異常をきたすことはしばしば見受けられ、さらには呼吸器悪性腫瘍に対する免疫治療の増加から悪性腫瘍治療中に免疫機構異常による病態を呈する症例も増加しており呼吸器内科医師・免疫内科医師が協力して呼吸器・免疫内科診療にあたっている。

対応している疾患として、悪性腫瘍・呼吸器での炎症・全身性結合組織疾患に分類される疾患が入院患者の上位を占めていた。疾患にかかわらず、信頼できる教科書および信頼できる論文総説、さらに根本的な科学法則に基づいた知識などを論理的思考を以て運用し適切な治療を施せるよう心がけている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

病棟管理においては、40-70名程度の入院患者に対して常勤医6名・後期研修医2名が主治医師として対応を行った。さらに担当医師である初期研修医の指導を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2023年度には、呼吸器・免疫内科の外来患者として18,194名の診療にあたった。前年度と比較しても外来診療患者数は増加しており積極的に医療供給の需要に応じている。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院延患者数は、2023年度は19,214名であった。これは2022年度の15,961名の1.2倍に相当し入院対応においても積極的な医療供給をおこなっている。患者への対応は医師の最も重要な責務のひとつであるが、呼吸器・免疫内科入院患者数は時に日本生命病院の全入院患者数の約4分の1を占め病院運営の点からも呼吸器・免疫内科の実績はおおきい。

3) 検査実績

気管支鏡検査は入院で施行している。検査数は377件と経年的に増加している。（2022年度343件）

免疫内科担当医師はすべて日本リウマチ学会登録ソノグラファーであり、積極的に関節超音波検査を診療に役立てている。

これら診療科専門的な検査に加え、医師に必須の手技である心嚢液採取・心嚢ドレナージや内科一般的な検査である脳脊髄液採取・骨髄検査なども適応を吟味し積極的に施行している。

4. 認定医・専門医など

日本内科医学会認定内科医

5名（立花、井原、甲原、二宮、小中）

日本内科学会内科専門医

2名（廣海、田中）

日本内科学会総合内科専門医

3名（井原、甲原、小中）

日本内科学会内科指導医

2名（立花、井原）

日本リウマチ学会専門医

2名（小中、廣海）

日本リウマチ学会指導医

1名（小中）

日本呼吸器学会専門医

4名（立花、井原、甲原、二宮）

日本呼吸器学会指導医

3名（立花、井原、甲原）

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

2名（立花、井原）

日本呼吸器内視鏡学会気管支指導医

1名（立花）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

1名（甲原）

日本アレルギー学会専門医

1名（廣海）

5. 業績

論文・著書

1. Kuge T, Shiroyama T, Tamiya A, Tamiya M, Kanazu M, Kinehara Y, et al : Impact of Lymphopenia Recovery After Chemoradiotherapy on Durvalumab Consolidation Therapy in Stage III NSCLC, *JTO Clin Res Rep*, 4 (5) : 100500, 2023年
2. Edahiro R, Ihara S et al : Single-cell analyses and host genetics highlight the role of innate immune cells in COVID-19 severity, *Nat Genet.*, 55 (5) : 753-767, 2023年
3. Inoue E, Hiroumi S, Sato S, Hayashi M, Konaka H, Tsuji S, Higashiyama M : Palmoplantar pustulosis and pustulotic arthro-osteitis associated with multiple venous occlusion: A case report and literature review., *J Dermatol.*, 50 (8) : 1076-1080, 2023年
4. COVID-19 Host Genetics Initiative : A second update on mapping the human genetic architecture of COVID-19, *Nature*, 621 (7977) : E7-E26, 2023年
5. Kinehara Y, Shiroyama T, Tamiya A, Tamiya M, Minami S, Kanazu M, et al : Pneumonitis During Durvalumab Consolidation Therapy After survival in Stage III NSCLC, *JTO Clin Res Rep*, 4 : 11, 2023年
6. Yanagisawa A, Kinehara Y, Tanaka M, Ninomiya R, Nishioka M, Ochiai S, et al : Candida Pneumonia in a Young Vegan Man with Diabetic Ketoacidosis, *Internal Medicine*, 62 (24) : 3679-3683, 2023年
7. Konaka H, Kato Y, Hirano T, Tsujimoto K, Park J, Koba T, et al : Secretion of mitochondrial DNA via exosomes promotes inflammation in Behçet's syndrome, *EMBO J*, 42 (20) : e112573, 2023年
8. Kinehara Y, Shiroyama T, Tamiya A, Tamiya M, Minami S, Kanazu M, et al : Pneumonitis during durvalumab consolidation therapy affects survival in stage III NSCLC, *JTO Clin Res Rep*, 4 : 100586, 2023年
9. Takami K, Tsuji S, Sato S, Akaji K, Yamashita C, Hiroumi S, et al : Long-term retention rates of anti-tumour necrosis factor and anti-interleukin-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, *Mod Rheumatol*, doi:10.1093/mr/road111 : Online ahead, 2023年
10. Satoh S, Miyake K, Adachi Y, Masuhiro K, Futami S, Konaka H, et al : Cancer-associated SNRPD3 mutation confers resistance to hypoxia, which is attenuated by DRP1 inhibition, *Biochem Biophys Res Commun*, 696 : 149511, 2024年
11. Matsubara Y, Ihara S, et al : Gastrointestinal symptoms in COVID-19 and disease severity: a Japanese registry-based cohort study, *J Gastroenterol.*, 59 (3) : 195-208, 2024年
12. 田坂 定, 讃井将満 他 (井原祥一) : ARDS診療ガイドライン2021, ARDS診療ガイドライン2021, 2023年

学会発表

1. 柳澤 篤, 甲原雄平, 田中雅樹, 二宮隆介, 西岡美保, 落合 進, 井原祥一, 橋本久仁彦, 立花 功 : 糖尿病性ケトアシドーシスで搬送された菜食主義の若年男性に発症したカンジダ肺炎の一例, 第63回日本呼吸器学会学術講演会, 2023年4月, 東京
2. 小中八郎, 廣海汐理 : 当施設におけるフィルゴチニブ使用症例の検討, 第67回日本リウマチ学会総会, 2023年4月, 福岡
3. 本郷卓英, 二宮隆介, 神島 望, 柳澤 篤, 田中雅樹, 廣海汐理, 小中八郎, 甲原雄平, 井原祥一, 立花 功 : 乳癌治療を契機に自己免疫性肺胞蛋白症が寛解した一例, 第101回日本呼吸器学会近畿地方会, 2023年7月, 神戸
4. 小中八郎, 廣海汐理 : イキセキズマブ投与後早期に全身性エリテマトーデスを発症した乾癬性関節炎の1例, 第33回日本

脊椎関節炎学会, 2023年9月, 兵庫

5. 多田詩野, 田中雅樹, 神島 望, 柳澤 篤, 二宮隆介, 甲原雄平, 井原祥一, 立花 功 : 胸部CT検査における小葉間隔壁肥厚からアミロイドーシス, 多発性骨髄腫と診断し得た1例, 第102回日本呼吸器学会近畿地方会, 2024年1月, 大阪
6. 神島 望, 田中雅樹, 柳澤 篤, 二宮隆介, 甲原雄平, 井原祥一, 立花 功 : 非小細胞肺癌に対しデュルバルマブ及びトレメリムマブを導入後, 血球貪食性リンパ組織球症を発症した1例, 第102回日本呼吸器学会近畿地方会, 2024年1月, 大阪

研究会発表

1. 立花 功 : 肺がんの診断と治療, 西区医師会健康講座, 2023年10月, 大阪
2. 小中八郎 : 膠原病領域における病診連携診療, 港区医師会講演会, 2023年11月, 大阪
3. 小中八郎 : イキセキズマブ投与後早期に全身性エリテマトーデスを発症した乾癬性関節炎の1例, 第6回あわさ乾癬セミナー, 2023年11月, 大阪
4. 井原祥一 : COPDの診療, 大阪市中央区東医師会講演会, 2023年11月, 大阪
5. 小中八郎 : 膠原病関連の間質性肺疾患, 第3回大阪府薬剤師講演会 第5支部研修会, 2024年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
井原	井原	甲原	二宮	暮部 ※	井原	立花	立花	二宮	田中 (雅)
小中	神島 小中	田中 (雅)	八木 田	小中	小中	柳澤 村上	甲原	小中	

※救急総合診療科所属

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			気管支鏡 検査		
午後			気管支鏡 検査	症例検討会・ 抄読会	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
気管支鏡					○	○				

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数※

	2019年度	2020年度	2021年度	うち、呼吸器・ 免疫内科	2022年度	2023年度
入院	20,685	23,300	24,488	9,148	15,961	19,214

※2017年～2020年は総合内科の人数。

2021年は旧総合内科計の人数、呼吸器・免疫内科（10月～）の人数を記載。

表5 2023.4～2024.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	640	15
肺炎、病原体不詳	105	17
その他の間質性肺疾患	56	21
全身性結合組織疾患	44	30
COVID-19	36	15
喘息発作重積状態	22	9
その他の外的因子による呼吸器病態	19	17
その他の慢性閉塞性肺疾患	18	14
その他の非結核性抗酸菌による感染症	17	10
肺および縦隔の膿瘍	16	21
気胸	14	16
他に分類される疾患における呼吸器障害	12	17

血液・化学療法内科

スタッフ 主任部長：川上 学（輸血管理室長、化学療法室長、がん治療センター長）
副部長：加藤るり（部長待遇）、中江吉希
専攻医：赤井奎太、阿部凌子
予防医学センター兼任：吉田好機

1. 診療内容

急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。白血球減少が高度な場合や同種造血幹細胞移植後等、免疫不全が高度な場合には無菌室で治療を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

主として外来13診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺、骨髄生検、輸血などの診療も外来化学療法室や中央処置室において行われた。

2) 病棟体制（表2）

部長含め3名の常勤医と2名の専攻医にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺、骨髄生検は、中央処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数はのべ 9,043名（昨年度比+291）であった。

外来化学療法数は、874件（昨年度比-272）であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院延べ数 10,183（昨年比-203）であった。疾患の内訳を表4に示す。

同種造血幹細胞移植を13件行った。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会 総合内科専門医 3名（川上、加藤、中江）
日本血液学会専門医 血液指導医 2名（川上、中江）
日本血液学会専門医 1名（加藤）
日本造血細胞移植学会 造血細胞移植認定医 2名（川上、中江）

日本がん治療認定医機構 がん治療専門医 2名（川上、加藤）
日本老年学会 老年病専門医・指導医 1名（中江）

5. 業績

研究会発表

- 加藤るり：B細胞性腫瘍と抗体医薬, 第162回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年12月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
加藤	赤井	川上	川上	川上	中江	加藤		中江	川上
	中江								吉田

表2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週1回)
・抄読会	(月1回)
・血液標本検討会	(適宜)
・内科合同カンファレンス	(月1回)
・内科・地域合同症例検討会	(年1回)

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	7,481	7,649	8,081	8,752	9,043
入院	10,383	9,821	9,067	10,386	10,183

表4 2023.4~2024.3-入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
非ホジキンリンパ腫	156	22
骨髄性白血病	50	30
肺炎、病原体不詳	40	19
リンパ性白血病	34	18
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	23	28
骨髄異形成症候群	20	23
紫斑病およびその他の出血性病態	19	30
COVID-19	14	10
単球性白血病	11	19
臓器および組織の提供者<ドナー>	11	5

脳 神 経 内 科

スタッフ 部長：芳川浩男（特任副院長、脳機能センター長）
副部長（部長待遇）：仁科拓也
医 長：塚原彰弘、顧問（非常勤）：森 悦朗
非常勤医師：佐々木絢子

1. 診療内容

神経内科部門は2013年4月より循環器・神経内科から分離独立し、浅野彰彦と仁科拓也の2名で発足したが、同年6月より佐藤智彦が加わり3名体制で運営していた。また2017年より前東北大学神経内科教授の森悦朗先生に特任顧問に就任いただき認知症分野の充実も図っていたが、2019年11月に前兵庫医科大学脳神経内科教授の芳川浩男が浅野彰彦の後任の主任部長となった。2021年3月末佐藤智彦が退職し、9月以降は鈴木由希子が加わり、外来診察のみを担当。2022年4月より塚原彰弘が新たにスタッフとなった。なお、2023年4月より、隔週水曜日午後のもの忘れ外来を佐々木絢子が担当している。

めまいや痺れ、頭痛、もの忘れといった身近な症状の相談から、てんかん、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やアルツハイマー型認知症、パーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞が最も多く、次にパーキンソン病関連疾患となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生による往診での訪問診療や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応しているが、今後ともより一層努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も脳神経内科医師が対応できるように分担している。救急診療要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

仁科・塚原の両医師が主治医となり運営しているが、毎週月曜日の回診と火曜日のカンファレンスで主科と共観の全患者の病状と治療方針を情報共有している。

3) 検査スケジュール

脳神経内科医師が実際に担当する検査は針筋電図のみであるが、脳波や誘発電位検査は中央臨床検査部と連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期が長く、神経内科単独のデータはまだ5年目であるが、

延べ外来患者数は順調に増加している。また診療内容も一般内科疾患の割合が減少し、より神経内科疾患に特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表2、3）

順調に新規入院患者数は増加し、平均在院日数はほぼ横ばいで延べ入院患者数も増加していたが、COVID-19感染症の影響で2021年度は入院総数が減少している。

3) 検査実績

CT・MRA・RIなど各種検査は部門別の統計となっており、当科単独の実績としては計算していない。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の准教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医 4名（塚原、仁科、芳川、森）

日本内科学会総合内科専門医 1名（仁科）

日本神経学会専門医 3名（仁科、芳川、森）

日本循環器学会専門医 1名（仁科）

日本老年精神医学会専門医 1名（芳川）

日本認知症学会専門医 1名（森）

日本脳卒中学会専門医 1名（森）

5. 業績

論文・著書

- 鈴木由希子, 山本論希, 塚原彰弘, 仁科拓也, 曾根淳朗, 森 悦朗, 芳川浩男: 異常行動で発症した神経核内封入体病の1例, 日本生命病院医学雑誌, 51: 42-47, 2023年

研究会発表

- 芳川浩男: 認知症とフレイル, 2022年度長寿社会福祉事業オンラインセミナー (Live配信), 2023年1月, 大阪 (Web開催)
- 芳川浩男: 認知症に対する正しい理解と対応, ベネッセ「介護医療セミナー」, 2023年11月, 伊丹
- 芳川浩男: 認知症をよりよく理解するために, 認知症等高齢者支援地域連携事業, 2023年11月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
芳川	仁科	芳川	芳川	仁科	(物忘れ外来) ※①	芳川	芳川 ※②	塚原 (初診)	
			仁科				森 (高次脳機能 障害外来)		
			森 (物忘れ外来)						

※① 1・3・5週は佐々木、2・4週は芳川 ※② 2・4週は塚原

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	6,881	6,783	7,317	7,245	7,335
入院	2,943	3,040	1,030	3,563	3,899

表3 2023.4~2024.3-入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
脳梗塞	29	22
パーキンソン（Parkinson）病	13	51
アルツハイマー（Alzheimer）病	12	3
肺炎、病原体不詳	11	57
炎症性多発（性）ニューロパチ<シ>-	7	21
COVID-19	6	12
重症筋無力症およびその他の神経筋障害	5	22

スタッフ 部長：宇津 貴（副院長、内科統括、血液浄化センター長、臨床工学室長）
副部長：水本 綾、光本憲祐
医 員：西垣内俊也
専攻医：平井祐里、山下千賀子（2023年4月～7月、10月～3月）

1. 診療内容

急性腎不全などの急性腎疾患、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群から末期腎不全に至るまで、腎疾患全てを対象としている。特に、糖尿病性腎臓病に関しては、早期腎症から末期腎不全まで、血糖・血圧・脂質管理を含めた合併症予防に対する総合的な治療を行っている。

慢性腎臓病（CKD）に対しては、連携診療による進行予防に努めると共に、適切な時期に共通意思決定（SDM）により腎代替療法（血液透析、腹膜透析療法、腎移植）への導入を行うとともに、血管合併症の検査・治療を行い予後の改善に努めている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本内科学会認定医	3名（宇津、水本、光本）
日本内科学会総合内科専門医	2名（宇津、水本）
日本腎臓学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）
日本糖尿病学会専門医	1名（宇津）
日本高血圧学会専門医・指導医	1名（宇津）
日本透析医学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）

5. 業績

論文・著書

1. Hirai Y, Mitsumoto K, Uzu T. : Reversible hypoglycemic encephalopathy in a nondiabetic patient with end-stage kidney disease. *The Apher Dial*, 27 (3) : 595-596, 2023年
2. Katsunuma R, Mitsumoto K, Mizumoto A, Hirai Y, Nakauchi C, Uzu T. : Fanconi Syndrome Associated with Long-term Treatment with Zoledronate. *Intern Med*, 62 (14) : 2103-2105, 2023年
3. 宇津 貴：これからの腎性貧血治療－HIF-PH阻害薬への期待と適正使用－, *大阪透析研究会会誌*, 40 (2) : 147-150, 2023年
4. 宇津 貴：慢性腎臓病（CKD）患者はなぜ低血糖を起こしやすいのか～腎臓における糖代謝の調節とケトン体の関与～, *日本生命病院医学雑誌*, 51 : 9-11, 2023年

5. Nishigaito T, Mitsumoto K, Katsunuma R, Hirai Y, Yamashita C, Mizumoto A, Uzu T. : Crystalline Light Chain Casts and Hypercalcemia Induced Acute Kidney Injury : A Rare Presentation of Multiple Myeloma. *Intern Med*, doi: 10. 2169/internalmedicine. 2603-23 : Online ahead, 2023年
6. Takashi Uzu : Proximal Renal Tubular Dysfunction Induces Severe Hypocalcemia in the Elderly (Editorial) , *Intern Med*, doi: 10. 2169/internalmedicine. 3077-23 : Online ahead, 2023年

学会発表

1. 宇津 貴：糖尿病診療におけるSGLT2阻害薬への期待と懸念, 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会ランチョンセミナー, 2023年3月, さいたま
2. 宇津 貴：糖尿病診療における高血圧診療の実情と課題, 第66回日本糖尿病学会年次学術集会（教育講演）, 2023年5月, 鹿児島
3. 水本 綾, 勝沼倫子, 光本憲祐, 宇津 貴：当院における腎代替療法選択におよぼすShared Decision Makingの影響, 第66回日本腎臓学会学術総会, 2023年6月, 横浜
4. 平井祐里, 勝沼倫子, 光本憲祐, 水本 綾, 山下晋也, 宇津 貴：皮膚症状を契機に大腸癌が診断された血液透析患者の1例, 第68回日本透析医学会学術集会・総会, 2023年6月, 神戸
5. 宇津 貴, 平井祐里, 勝沼倫子, 光本憲祐, 水本 綾：COVID-19（C）治療中に再燃を示した2例の血液透析患者, 第68回日本透析医学会学術集会・総会, 2023年6月, 神戸
6. 光本憲祐, 勝沼倫子, 水本 綾, 宇津 貴：下痢に伴い内因性腹膜炎を繰り返した腹膜透析患者の1例, 第68回日本透析医学会学術集会・総会, 2023年6月, 神戸
7. 田口貴大, 加藤千尋, 北濱知美, 田中恵介, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津 貴：SpectraOptiaによる遠心分離型血漿交換の使用経験～膜型血漿交換との比較～, 第68回日本透析医学会学術集会・総会, 2023年6月, 神戸
8. 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 光本憲祐, 水本 綾, 川上 学, 宇津 貴：意識障害を呈した輸血依存状態の血液透析患者の1例, 第241回日本内科学会近畿地方会, 2023年9月, 大阪
9. 阿坂 玲, 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 光本憲祐, 水本 綾, 加藤るり, 宇津 貴：腎生検にて診断し得たゲムシタピン（GEM）長期投与中に生じた血栓性微小血管症（TMA）の1例, 第241回日本内科学会近畿地方会, 2023年9月, 大阪
10. 光本憲祐, 中山彩子, 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 水本 綾, 宇津 貴：原発性と二次性を合併した副甲状腺機能亢進症に対して、副甲状腺全摘術を施行した透析患者の1例, 第99回大阪透析研究会, 2023年9月, 大阪
11. 宇津 貴：ステージ4CKD患者に対するアンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬の効果, 第45回日本高血圧学会総会, 2023年9月, 大阪
12. 光本憲祐, 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 水本 綾, 廣海汐理, 宇津 貴：TNF阻害薬（アダリムマブ）で寛解維持療法中に急性尿細管間質性腎炎を来した完全型ベーチェット病の一例, 第53回日本腎臓学会西部学術集会, 2023年10月, 岡山
13. 西垣内俊也, 山下千賀子, 平井祐里, 勝沼倫子, 光本憲

祐, 水本 綾, 加藤るり, 宇津 貴: 2種の円柱によるCast Nephropathy (CN) を呈した多発性骨髄腫 (MM) の1例, 第53回日本腎臓学会西部学術集会, 2023年10月, 岡山

14. 宇津 貴: 新しい時代を迎えた糖尿病診療～糖尿病関連腎臓病とSGLT2阻害薬の位置づけ～, 第38回日本糖尿病合併症学会 (ランチョンセミナー), 2023年10月, 岡山
15. 平井祐里, 光本憲祐, 山下千賀子, 西垣内俊也, 水本 綾, 廣海汐理, 宇津 貴: 強皮症腎クリーゼにより維持血液透析導入となった、抗RNAポリメラーゼⅢ抗体陽性びまん性皮膚硬化型全身性強皮症の1例, 第241回日本内科学会近畿地方会, 2023年12月, 大阪

研究会発表

1. 宇津 貴: 高血圧治療におけるARNIへの期待, 高血圧診療のUp To Date, 2023年4月, 草津
2. 宇津 貴: 糖尿病性腎臓病予防を見据えた糖尿病診療ーSGLT2阻害薬をどう活かすかー, Diabetes Web Conference, 2023年4月, 八王子
3. 宇津 貴: 糖尿病性腎臓病予防を見据えた糖尿病診療, 京都医師会学術講演会, 2023年5月, 福岡県京都郡
4. 宇津 貴: 心保護の視点に立った腎不全診療～カリウム管理を中心に～, 西陣地区CKD・透析連携の会, 2023年6月, 京都
5. 宇津 貴: 糖尿病に忍びよる“糖尿病性腎臓病”にどう立ち向かうか?, 中四国 心腎代謝連関 Up To Date, 2023年6月, 広島
6. 西垣内俊也: 2種の円柱によるCast Nephropathy (CN) を呈した多発性骨髄腫 (MM) の1例, 第108回大阪腎疾患研究会, 2023年6月, 大阪
7. 宇津 貴: これからの糖尿病性腎臓病診療とカナグルへの期待, 第108回大阪腎疾患研究会, 2023年6月, 大阪
8. 宇津 貴: 糖尿病合併症を見据えた糖尿病診療～GLP-1受容体作動薬をどう使うか～, GLP-1 web Seminar, 2023年7月, 八王子
9. 宇津 貴: 合併症予防を考えた糖尿病診療, T2DM Online Seminar, 2023年8月, 松山
10. 宇津 貴: 骨ミネラル代謝異常が診断に寄与したCKD症例, 第5回あわぎ内内分泌・糖尿病病診連携セミナー, 2023年9月, 大阪
11. 宇津 貴: 合併症予防を目指したこれからの糖尿病診療, これからの糖尿病治療を考える会, 2023年9月, 鎌倉
12. 宇津 貴: 糖尿病性腎症予防を見据えた糖尿病治療の課題と展望, Diabetes Web Seminar, 2023年10月, 吹田
13. 宇津 貴: 透析生活を充実させるために～ヘルシーエイジングを考える～, 大阪腎臓病患者協議会大会 (ランチョンセミナー), 2023年11月, 大阪
14. 宇津 貴: これからの糖尿病診療～合併症予防とSGLT2阻害薬への期待～, Diabetes Online Conference, 2023年11月, 水戸
15. 宇津 貴: 腎臓内科医からみた心腎貧血連関, Expert Web Seminar～心臓腎臓 貧血を再考する～, 2023年11月, 大阪
16. 宇津 貴: CKD連携診療と共同意思決定 (SDM) 実践への課題, 第2回かふかCKD医療連携を考える会, 2023年12月, 甲賀

表1 外来診察スケジュール

月	火		水		木		金		
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
宇津	宇津	水本	水本	光本	光本	光本	宇津	水本	交代※
西垣内	平井	宇津			西垣内		光本 (腹膜透析外来)		

※ 1・3・5週は宇津、2・4は山下

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
腎生検				○診				○診		

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	5,476	5,410	6,107	6,839	7,485
入院	3,488	4,703	4,427	5,010	4,841

表4 2023.4～2024.3ー入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
腎生検目的	54	-
透析導入	32	-
慢性腎不全	89	14
心臓および血管のプロステーシス、挿入物および移植片の合併症	72	5
肺炎、病原体不詳	28	17
慢性腎炎症候群	19	5
COVID-19	19	13
反復性および持続性血尿	15	8
心不全	12	18
急性腎不全	12	19
ネフローゼ症候群	10	23
尿路系のその他の障害	10	14
2型糖尿病	7	11

消化器外科

スタッフ 部長：水野 均（副院長、外科統括、中央手術管理部長）
副部長（部長待遇）：生島裕文、太田英夫、山下晋也、星野宏光

1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。上部消化管（生島）、下部消化管（水野、山下）、肝胆膵（太田、星野）の消化器外科の広い領域の疾患に対応している。頻度の多い疾患としては、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌などの悪性疾患、胆石症や鼠径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患などである。手術は腹腔鏡手術を積極的に導入しており、虫垂炎や胆石症のみならず、食道癌、胃癌、大腸癌等の悪性疾患や鼠径ヘルニアに対しても腹腔鏡手術を積極的に行っている。2022年4月からは結腸悪性腫瘍に対するda Vinci手術が保険収載され、当院でも2022年10月から開始している

手術以外にも、化学療法、緩和治療、栄養療法にもチームとして取り組んでいる。また、化学療法等で用いられる皮下埋め込み型中心静脈リザーバーに関しては他科の患者さんにも対応している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表に示す予定で外来診療を行っている。院内／院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

表に示す予定で病棟診療を行っている。
研修医1名と常勤医5名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、主治医以外でも代理医が対応している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数を表3に示している。

2) 手術実績（表4）

手術件数を表4に示している。

3) 検査実績

手術対象患者さんを中心に上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医 5名（水野、生島、太田、山下、星野）
日本外科学会指導医 3名（太田、山下、星野）
日本消化器外科学会専門医 4名（生島、太田、山下、

星野）

日本消化器外科学会指導医 2名（太田、山下）
日本消化器病学会専門医 4名（水野、太田、山下、星野）
日本大腸肛門病学会専門医 1名（山下）
日本がん治療認定医機構がん治療認定医 4名（水野、太田、山下、星野）
日本内視鏡外科学会技術認定医 3名（水野、太田、山下）

5. 業績

論文・著書

- Shiota T, Murata K, Kishimoto M, Yao T, Noura S, Morita S, et al, Sugihara K : Clinicopathological features of appendiceal goblet cell adenocarcinoma in japan: a multicenter retrospective study, Surgery Today, 53 : 174-181, 2023年
- 山下晋也, 城光寺龍, 水野 均 : 術前診断に難渋した虫垂子宮内膜症による虫垂重積の1切除例, 大腸肛門病学会雑誌, 76 : 359-364, 2023年
- 河田奈津子, 森本祐太郎, 楠下 萌, 板東正貴, 北田隆起, 花本浩一, 萩巣恭平, 若原ちか, 田中敏雄, 山下晋也, 中村秀次, 有坂好史 : 診断に難渋し被疑薬中止まで4年を要した腸間膜静脈硬化症の1例, 漢方と最新治療, 32 : 326-331, 2023年
- 太田英夫, 横山茂和, 河井邦彦, 森麻奈加, 大内祥平, 田中絵里, 小森真人, 飯尾禎元, 福永 陸 : 塩化ビニルモノマー曝露との関連性が疑われ肝血管肉腫との鑑別が困難であった巨大偽腺管型肝細胞癌の1切除例, 肝臓, 64 : 280-288, 2023年
- 河井邦彦, 太田英夫, 横山茂和, 松下克則, 小森孝通, 福永陸 : 遺伝性出血性末梢血管拡張症 (Rendu-Osler-Weber 病) を併存した胆嚢ポリープに対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を行い早期胆嚢癌と判明した1例, 日鏡外会誌, 28 : 279-285, 2023年
- Ota H, Yokoyama S, Yanagawa K, Iio S, Fukunaga M : Neuroendocrine tumor of the minor duodenal papilla with lymph node metastasis: a case report and literature review, Int Cancer Conf J, 12 : 255-262, 2023年
- 山下晋也, 松下和子, 北田隆起, 城光寺龍, 河田奈都子, 若原ちか, 永井健一, 太田英夫, 生島裕文, 有坂好史, 水野 均 : 術前診断に難渋した4型直腸癌の1切除例, 癌と化学療法, 50 : 532-534, 2023年
- 星野宏光, 太田英夫, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均 : 穿孔性虫垂炎と急性胆嚢炎を合併した肝門部胆管癌の虫垂転移の1例, 癌と化学療法, 50 : 1609-1611, 2023年
- 岸 正司, 暮部裕之, 宇都佳彦, 中川 厚, 新谷 隆, 水野均 : 当院における中心静脈カテーテル挿入認定制度の策定, 大阪救急, 108 : 10-15, 2023年

学会発表

1. 生島裕文, 星野宏光, 山下晋也, 太田英夫, 水野 均: 術前に胃glomus腫瘍と診断しLECSにて切除した1例, 第95回日本胃癌学会総会, 2023年2月, 札幌
2. 山下晋也, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均: 膀胱癌術後代用膀胱を伴う直腸癌の1切除例, 第19回日本消化管学会総会学術集会, 2023年2月, 東京
3. Hiromitsu Hoshino, Hideo Ota: A case of appendiceal metastasis from hilar cholangiocarcinoma with acute perforated appendicitis and acute cholecystitis, 第35回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2023年6月, 東京
4. 平井祐里, 勝沼倫子, 光本憲祐, 水本 綾, 山下晋也, 宇津貴: 皮膚症状を契機に大腸癌が診断された血液透析患者の1例, 第68回日本透析医学会学術集会, 2023年6月, 神戸
5. 太田英夫, 星野宏光, 山下晋也, 生島裕文, 萩原恭平, 有坂好史, 水野 均: 急速増大を示した膵尾部腺扁平上皮癌の1切除例, 第78回日本消化器外科学会総会, 2023年7月, 函館
6. 山下晋也, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均: 当院で経験した大腸癌卵巣転移の切除例の検討, 第78回日本消化器外科学会総会, 2023年7月, 函館
7. 星野宏光, 太田英夫, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均: 術前診断に苦慮した浸潤性膵管内乳頭粘液癌の一例, 第78回日本消化器外科学会総会, 2023年7月, 函館
8. 太田英夫, 星野宏光, 萩原恭平, 有坂好史: 閉塞性黄疸を契機に発症した胆嚢胆管瘻を伴うMirizzi 症候群 (Corlette II 型, Csendes II 型) の1例, 第59回日本胆道学会学術集会, 2023年9月, 札幌
9. 星野宏光, 太田英夫, 萩原恭平, 有坂好史: 術前診断が可能であった十二指腸乳頭部NETの1切除例, 第59回日本胆道学会学術集会, 2023年9月, 札幌
10. 山下晋也, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均: 腸間膜リンパ管腫の1切除例, 第78回日本大腸肛門病学会学術集会, 2023年11月, 熊本
11. 太田英夫, 星野宏光: 増大傾向を示し巨大化した肝海綿状血管腫の1切除例, 第45回日本肝臓学会西部会, 2023年12月, 京都
12. 太田英夫, 星野宏光, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均: 妊娠中の胆石性胆嚢炎に対して妊娠21週目に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例, 第36回日本内視鏡外科学会総会, 2023年12月, 横浜
13. 山下晋也, 高山敬範, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均: 単孔式腹腔鏡下両側子宮付属器切除術を施行した大腸癌卵巣転移の1例, 第36回日本内視鏡外科学会総会, 2023年12月, 名古屋

研究会発表

1. 山下晋也, 植村 守, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均: 馬蹄腎を伴うS状結腸癌に対して腹腔鏡下S状結腸切除術を施行した1例, 第45回癌局所療法研究会, 2023年6月, 東京
2. 星野宏光, 太田英夫, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均: 穿孔性虫垂炎と急性胆嚢炎を合併した肝門部胆管癌の虫垂転位の1例, 第45回日本癌局所療法研究会, 2023年6月, 東京
3. 山下晋也: 当院における大腸癌手術の現状～ロボット手術も含めて～, 第157回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年7月, 大阪
4. 山下晋也: 当院における大腸がんのロボット手術の現状, 第5回あわぎ消化器合同病診連携会, 2023年10月, 大阪
5. 村上萌恵, 山下晋也, 新名航平, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均: 重積により肛門外脱出を伴うS状結腸癌に対してロボット支援下S状結腸切除術を施行した1例, 第653回大阪外科集談会, 2024年3月, 大阪

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
水野	水野	交代	交代	山下	山下	星野	交代	太田	太田
生島	生島								

表 2 病棟体制

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
	術後回診		術後回診		術後回診				術後回診
						部長回診、術前術後症例検討		消化器外科・消化器内科合同カンファレンス	

表 3 外来延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	4,761	4,819	4,878	4,622	4,785

表 4 手術実績

手術名	件数	
胃悪性腫瘍手術	開腹	3件
	腹腔鏡手術	13件
結腸悪性腫瘍切除術	腹腔鏡手術 (ロボット支援)	31件 (3件)
直腸悪性腫瘍切除術	腹腔鏡手術 (ロボット支援)	23件 (8件)
膵臓悪性腫瘍切除術	開腹	1件
肝臓悪性腫瘍切除術	開腹	3件
	腹腔鏡手術	3件
胆嚢摘出術	腹腔鏡手術	93件
虫垂切除術	腹腔鏡手術	5件
鼠径ヘルニア手術	腹腔鏡手術	50件

呼 吸 器 外 科

スタッフ 部長代行：富田栄美子
副 医 長：川岸耕太郎

1. 診療内容

当科は2016年1月よりで診療を開始した。2023年4月からは川岸医師が着任し、2名体制で診療を行っている。

対象疾患としては肺癌が最も多く、呼吸器・免疫内科で診断及び病期判定を行った後に紹介されるケースが多いが、他院呼吸器内科からの手術依頼も増加傾向である。昨今、肺癌治療において組織採取の重要性が増しており、生検手術も積極的に取り組んでいる。

その他の疾患としては、自然気胸、転移性肺腫瘍、胸腔感染症、縦隔腫瘍などを診察している。

2021年度からは、術後合併症の予防目的に、リハビリテーション科及び手術部と協力し、トライボール等を使用した呼吸訓練を手術決定時から開始する取り組みを行っている。術前から器具を用いて呼吸訓練を行うことで、患者意識も高まり、術後無気肺などの発生頻度が低下している。

胸腔鏡下手術を主に行っているが、2023年からは術後疼痛対策として、肋間神経ブロックを取り入れ、術後早期の疼痛管理として良好な効果を得ている。また、これによって硬膜外麻酔が不要となり、手術室在室時間も短縮できたため、今後も継続予定である。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医 2名（富田・川岸）
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医 2名（富田・川岸）

5. 業績

学会発表

1. 富田栄美子：上縦隔発生の限局型キャスルマン病の1例、第40回呼吸器外科学会総会、2023年7月、新潟

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
				川岸	川岸				
				富田	富田				

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術	手術			
午後	手術	手術		病棟回診 カンファレンス	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	508	623	760	823	1,051
入院	529	706	1,084	888	1,034

表4 2023.4～2024.3—入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	65	9
気胸	21	10
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	8	6
膿胸（症）	6	12
中耳および呼吸器系の良性新生物	3	7
中耳、呼吸器および胸腔内臓器の性状不詳または不明の新生物	3	5

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
 副 部 長：中内千暁（～2023年9月）、
 副 医 長：加藤 彩（2023年10月～2024年3月）

1. 診療内容

乳癌検診に関しては、マンモグラフィと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に病理検査等を施行し1～2週間後には結果を出すシステムである。もし悪性の場合にはがん性疼痛看護認定看護師も同席し告知します。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の化学療法室にて、初回入院の後は術前・術後ともに通院での外来化学療法を行っている。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応している。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し必要に応じて再建術も施行しております。再建術は当院形成再建外科にてすべての術式に対応できる。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検では、より確実なOSNA法を併用しより正確な診断を目指している。また乳癌の約10%を占める遺伝性乳癌に関しては原因の一つである遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）該当する患者さんに対してBRCA遺伝子検査も実施しております。陽性の患者さんには希望により対側乳房切除+再建術や両側卵巣提出術の予防手術も行っております。診断部門では、微細な石灰化に対する診断としてステレオガイド下マンモトーム生検も実施している。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会認定医 1名（西田）
 がん治療認定医 1名（西田）
 マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
 マンモグラフィ 読影認定医 1名（西田）
 日本外科学会専門医 1名（西田）

5. 業績

学会発表

1. 中内千暁, 西田幸弘：免疫組織学的検査にて施行可能な再発予測toolの比較検討, 日本乳癌学会学術総会, 2023年6月, 横浜

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
加藤		西田	西田	加藤				西田	西田

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前				手術	
午後	回診 病棟カンファ		検査 超音波・ステレオ ガイド下吸引生検	検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	4,309	4,192	4,529	4,642	4,220
入院	1,504	1,448	1,512	1,787	1,435

表4 2023.4～2024.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	102	11
その他の部位の続発性悪性新生物	6	19
その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	5	4
その他の細菌性腸管感染症	2	70
無顆粒球症	2	6
尿路系のその他の障害	2	7
気管支および肺の悪性新生物	1	9
皮膚のその他の悪性新生物	1	24
リンパ節の続発性および部位不明の悪性新生物	1	10

心 臓 血 管 外 科

スタッフ 部長代行：新谷 隆
医 長：山田 裕

1. 診療内容

2018年4月から「血管外科」を専門とした常勤医師による診療を開始した。下肢閉塞性動脈硬化症を主とした末梢動脈疾患に対して薬物・運動療法を第一として適応に応じて血管内治療や外科的バイパス術などの血行再建術を実施している。下肢静脈瘤に対しては低侵襲である血管内焼灼術や血管内塞栓術、従来のストリッピング術や硬化療法も行っている。また腎臓内科と連携し慢性腎不全患者の透析用血管アクセス治療も行っている。内シャント作製、修復と内シャント血管内治療も積極的に行っている。2019年度より腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を開始した。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午前に血管外科外来を行っている。

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本外科学会専門医 2名（新谷、山田）
日本心臓血管外科専門医 2名（新谷、山田）
日本脈管学会専門医 1名（新谷）

5. 業績

学会発表

- 山田 裕：膝窩動脈外膜嚢腫の成因から考える治療法の検討 ～術前MRIの有用性～、第51回日本血管外科学会学術総会、2023年5月、東京
- 新谷 隆：下腿穿通枝由来の静脈うっ滞性潰瘍に対し血管内塞栓術と硬化療法を併用した1例、第43回日本静脈学会総会、2023年7月、愛媛
- 山田 裕：人工関節置換術後に足背動脈損傷を呈し内側足底動脈へのバイパスにて救肢し得た1例、第37回日本血管外科学会近畿地方会、2024年3月、大阪

研究会発表

- 新谷 隆：下肢静脈鬱滞性潰瘍に対する血管内塞栓術の治療経験、CAC潰瘍座談会、2023年11月、大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
山田 (予約)				新谷 (予約)		澁谷 ※ (予約)		新谷 (予約)	

※1・3・5週のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			カンファレンス		
午後		手術		手術	血管内治療

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	930	982	1,272	1,596	1,664
入院	938	1,335	1,704	1,194	1,809

※2017.1～心臓血管外科を新設

表4 2023.4～2024.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
アテローム〈じゅく〈粥〉状〉硬化（症）	47	14
大動脈瘤および解離	36	5
下肢の静脈瘤	21	4
動脈の塞栓症および血栓症	11	46
その他の動脈瘤	9	18
尿管の悪性新生物	1	3
その他の末梢血管疾患	1	8
心臓および血管のプロステーシス、挿入物および移植片の合併症	1	14

産婦人科

スタッフ 部長：橋本奈美子（女性骨盤底センター長）
副部長：高山敬範、八田幸治、田中絢香
医 長：小和貴雄、角田沙保里、宮本真由子、志村寛子
副医 長：金光麻衣、高木江利華、山田芙由美（2023年8月～）
専攻 医：植田真帆、北山和樹、藤崎佳乃

1. 診療内容

当科では、良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の半数以上を占めている。婦人科悪性腫瘍に対しては、広汎子宮全摘術・傍大動脈リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、放射線治療を行っている。また、子宮筋腫、子宮体癌、骨盤臓器脱に対するロボット支援手術を導入している。2021年度には、腹腔鏡下広汎子宮全摘術（子宮頸癌）に関する施設認定を受け、悪性疾患に対する低侵襲医療も積極的に行っている。

骨盤底疾患に対しては「女性骨盤底センター」にて従来の膣式子宮全摘術、膣壁形成術などに加え、メッシュを利用した腹腔鏡下仙骨膣固定術（LSC/RSC）、を行っている。

周産期においては、自然分娩を基本とし、助産師外来・母乳育児相談を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

2023年度

- ・分娩数：369件
- ・総手術総数：1,306件

腹腔鏡下手術

- 腹腔鏡下膣式子宮全摘術 255件
（ロボット支援56件含む）
- 腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術 223件
- 腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 153件
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体癌） 16件
（ロボット支援 11件含む）
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸癌） 1件

子宮鏡下手術

- 子宮鏡下子宮筋腫摘出術 36件
- 子宮内膜ポリープ切除術 96件

開腹手術

- 子宮悪性腫瘍手術 12件
- 子宮附属器悪性腫瘍手術（卵巣癌） 13件
- 開腹単純子宮全摘術 13件
- 帝王切開術 70件

骨盤臓器脱（女性骨盤底センター）

- 腹腔鏡下仙骨膣固定術 22件

（ロボット支援 9件含む）

- 膣壁形成術（膀胱瘤手術） 14件
- 子宮脱手術（子宮全摘術及び膣壁形成） 16件
- 膣閉鎖 3件
- 腹圧性尿失禁
- 中部尿道スリング手術（TOT手術） 7件

4. 認定医・専門医など

- 日本産科婦人科学会専門医 11名
（橋本、高山、八田、田中、小和、宮本、角田、志村、金光、高木、山田）
- 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 5名
（橋本、高山、八田、田中、宮本）
- 日本内視鏡外科学会技術認定医 3名
（橋本、高山、八田）
- 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 1名（橋本）
- 母体保護法指定医 6名
（橋本、高山、田中、小和、宮本、金光）
- 日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 4名
（橋本、小和、宮本、角田）
- 麻酔標榜医 1名（八田）
- 周産期専門医 1名（小和）

5. 業績

学会発表

1. 金光麻衣、植田真帆、北山和樹、新垣佑里香、角田沙保里、志村寛子、宮本真由子、小和貴雄、邨田裕子、田中絢香、八田幸治、高山敬範、橋本奈美子：帝王切開癒痕部妊娠に対して薬物療法後に子宮鏡下妊娠部位除去術実施した1例、第75回日本産科婦人科学術講演会、2023年5月、東京
2. 橋本奈美子：〈ランチョンセミナー2〉〈テーマ〉ピギナーからエキスパートまで 良性腹腔鏡手術 上達のポイント〈演題〉TLH困難症例への対応 内膜症合併～その時どうする？、第148回 近畿産科婦人科学会学術集会、2023年6月、和歌山
3. 小和貴雄、北山和樹、植田真帆、新垣佑里香、志村寛子、角田沙保里、宮本真由子、邨田裕子、田中絢香、八田幸治、高山敬範、佐伯典厚、橋本奈美子：子宮鏡下手術での灌流液が生理食塩水であったため水中毒を回避出来た2例、第148回近畿産科婦人科学会学術集会、2023年6月、和歌山
4. 角田沙保里、植田真帆、北山和樹、新垣佑里香、金光麻衣、志村寛子、宮本真由子、小和貴雄、邨田裕子、田中絢香、八田幸治、高山敬範、佐伯典厚、橋本奈美子：卵管卵巣腫瘍に対し腹腔鏡下手術で根治し得なかった1例、第148回近畿産科婦人科学会、2023年6月、和歌山
5. 植田真帆、田中絢香、北山和樹、新垣佑里香、金光麻衣、角田沙保里、志村寛子、宮本真由子、小和貴雄、邨田裕子、八田幸治、高山敬範、佐伯典厚、橋本奈美子：緊急帝王切開術後の絞扼

性イレウスに対して腹腔鏡下腸管癒着剥離術を施行した1例、第148回近畿産科婦人科学会、2023年6月、和歌山

6. 北山和樹, 藤崎佳乃, 植田真帆, 高木江利華, 山田美由美, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 八田幸治, 高山敬範, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 慢性骨髄性白血病により腹腔内に大量出血をきたした卵巣出血の一例, 第148回近畿産科婦人科学会学術集会, 2023年6月, 和歌山
7. 高木江利華, 植田真帆, 橋本奈美子: 月経困難症と産婦人科救急, 第42回日本思春期学会学術集会, 2023年8月, 東京
8. 小和貴雄, 藤崎佳乃, 北山和樹, 植田真帆, 金光麻衣, 高木江利華, 志村寛子, 角田紗保里, 宮本真由子, 田中絢香, 八田幸治, 高山敬範, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 当院における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術と腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の手術成績についての検討, 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2023年9月, 大津
9. 植田真帆, 八田幸治, 藤崎佳乃, 北山和樹, 高木江利華, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 田中絢香, 高山敬範, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 腹腔鏡下子宮全摘後に診断された子宮原発PEComaの2例, 第63回日本産科婦人科内視鏡学会, 2023年9月, 大津
10. 橋本奈美子: 〈医工連携企画 Women surgeon & SDGs〉〈演題〉Girls, be ambitious!, 第36回日本内視鏡外科学会, 2023年12月, 横浜
11. 橋本奈美子: 〈パネルディスカッション18〉〈テーマ〉子宮内膜症の最新内視鏡手術〈演題〉ロボット支援手術は内膜症をどこまで攻略できるのか〜尿管子宮内膜症, 第37回日本内視鏡外科学会, 2023年12月, 横浜

研究会発表

1. 北山和樹, 藤崎佳乃, 植田真帆, 高木江利華, 山田美由美, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 八田幸治, 高山敬範, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 産婦人科救急と月経困難症, 第22回思春期診療研究会, 2023年4月, 大阪
2. 橋本奈美子: 〈特別講演Ⅰ〉〈テーマ〉先を見据えた術後予防〈演題〉腹腔鏡下筋腫核出 安全な手術のためのストラテジー, BD&TERUMO collaboration SEMINAR, 2023年5月, 大阪
3. 高山敬範: 生殖補助医療と周産期医療, 第156回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年6月, 大阪
4. 北山和樹, 藤崎佳乃, 植田真帆, 高木江利華, 山田美由美, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 八田幸治, 高山敬範, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 産婦人科救急と月経困難症, 第11回あわぎ産婦人科病診連携懇話会, 2023年7月, 大阪
5. 橋本奈美子: 〈特別講演〉子宮筋腫 患者さんに寄り添う治療を考える, あすか製薬 第3回 Aska Women's Talk Session, 2023年9月, 大阪
6. 橋本奈美子: 〈特別講演Ⅱ〉産婦人科医が本当に知りたい貧血治療〜産科編〜, 日本新薬 鉄欠乏性貧血Webセミナーin OSAKA, 2023年12月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
橋本	橋本	佐伯	佐伯	橋本	橋本	小和	小和	田中	田中
宮本	宮本	八田	八田	高山	高山	金光	金光	北山	北山
高木	高木	植田	植田	角田	角田			山田	山田
					藤崎				

初診・再診ともに、すべて予約が必要（紹介状をお持ちの方、妊娠されている方は11:30迄にお越しの場合、予約なしでも受診できます）

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会 周産期 カンファレンス				
午後		病理/ CTGカンファ (月1回)		術前 カンファレンス	画像 カンファレンス

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
子宮鏡検査		○ 紹・予								
パッドテスト								○ 紹・予		○ 紹・予

○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	21,479	20,145	20,546	19,931	20,211
入院	11,684	11,444	11,111	10,358	10,325

表5 2023.4~2024.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	419	7
単胎自然分娩	294	7
卵巣の良性新生物	123	6
女性性器のポリープ	106	3
子宮内膜症	66	7
子宮頸（部）の異形成	66	3
女性性器脱	61	7
子宮体部の悪性新生物	60	7
子宮頸(部)の悪性新生物	33	7
女性生殖器の性状不詳または不明の新生物	32	7
卵巣の悪性新生物	29	8
子宮外妊娠	26	6
受胎のその他の異常生成物	23	2
分娩のその他の合併症、他に分類されないもの	22	9

小 児 科

スタッフ 部 長：西垣敏紀（感染対策室長）
副 部 長：中長摩利子（部長待遇）、三浦夕子
医 長：巽 亜子

1. 診療内容

外来診療では、午前診は感染症を中心とした一般小児科診療、午後診は、神経・発達・代謝（月・木曜：西垣）、発育・栄養・内分泌（月・木曜：中長）、アレルギー（木曜：巽）、フォローアップ外来（金曜：三浦）の専門外来を設けて診療を行っている。神経・発達・代謝外来では、小児神経疾患（てんかん、神経筋疾患、神経発達症、知的発達症など）、代謝疾患を対象とするが、言語発達遅滞、神経発達症の受診が増えている。代謝疾患に対しては酵素補充療法を含む多様な治療に対応している。発育・栄養・内分泌外来では低身長症、思春期早発症、甲状腺疾患など広く小児内分泌疾患を扱う。また、消化器疾患に関しては消化器内科に協力いただき、年長児に対しての内視鏡検査も行っている。アレルギー外来では喘息、アレルギー性鼻炎に対してアレルギー免疫療法（ダニ・スギ）も行い、乳児湿疹やアトピー性皮膚炎ではスキンケア指導、食物アレルギーに対しては食物経口負荷試験を行い食物の摂取指導、エピペン導入も含めてアレルギー症状出現時の対処法の指導を行なっている。

当院出生児は、退院後1か月検診（水曜）を行い、必要に応じて、そのフォローアップ（金曜）も行っている。フォローアップ外来では当院出生の児を中心として新生児から乳児～幼児期にわたり、病的症候だけでなく発育発達を含めフォローアップしている。

また、基礎疾患を有する小児も含め、ワクチンを接種（火曜、BCG接種は第2金曜、HPVワクチン接種は随時）している。

第1・3・5火曜午後には、発達の評価が必要な外来患者に対して、臨床心理士・公認心理師による心理検査を行っている。

入院診療は、感染症を中心とした急性期疾患の精査・加療に加え、内分泌負荷テスト、食物経口負荷試験、鎮静を要する画像検査など検査入院を行っている。また、院内出生新生児全員に、出生時、退院時の診察を行い、周産期の病態に応じた緊急処置、検査、加療が必要な場合、小児科入院の上対応している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2022年4月以降の外来診察スケジュールを表1に示した。午後は、専門外来、検診、予防接種、心理検査で、原則として予約外来としている。

2) 病棟体制

8階病棟で入院診療、7階新生児室で小児科入院新生児の管理を行った。小児科カンファレンス（火曜）では、情報を共有し、治療方針を検討した。また、産婦人科との合同周産期カンファレンス（月曜）を行っている。

3. 診療実績

新型コロナウイルス感染症が、5月から5類感染症の位置づけとなった。この後、小児を中心とした様々な感染症が流行し、2023年度の外来受診患者、入院患者数の増加に反映した。

1) 外来診療実績（表2）

専門外来で対応する患者はコロナ禍の中においても増加していたが、2023年度は感染症患者の受診増にともない一般外来受診者が増加、外来延べ患者数は、コロナ禍以前の数に戻った。

2) 入院診療実績（表2、3、4）

小児の呼吸器感染症の流行（RSウイルス3～7月、ヒトメタニューモウイルス6～12月、マイコプラズマ11月～、インフルエンザ11～3月）がみられ、肺炎、呼吸状態悪化などを理由とした入院が増加した。呼吸器感染症の入院は前年度の約2.5倍となり、入院患者の約半数を占めた。食物アレルギー患者に対する入院での食物経口負荷試験も毎週金曜日入院が定着した。新生児は、院内出生児の3分の1強の136名が、小児科管理入院となった。うち14例を呼吸管理等が必要と判断、他院NICUに搬送した。また、COVID-19妊婦から出生（経陰分娩）の新生児3名は、いずれもSARS-CoV-2感染を認めなかった。

4. 認定医・専門医など

日本小児科学会専門医 4名（西垣、中長、三浦、巽）
日本小児神経学会専門医 1名（西垣）
ICD（インфекションコントロールドクター） 1名（西垣）
臨床遺伝専門医・指導医 1名（西垣）
小児感染症認定医 1名（巽）
日本小児栄養消化器肝臓学会認定医 1名（中長）
日本アレルギー学会専門医 1名（巽）
新生児蘇生法専門コースインストラクター 1名（三浦）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
西垣 (予約)	神経・発達 西垣 (予約)	巽	予防接種 巽 (予約)	西垣	1カ月検診 (予約)	西垣	神経・代謝 西垣 (予約)	西垣	フォローアップ 三浦 (予約)
中長	内分泌・ 消化器 中長 (予約)	三浦		巽		中長	内分泌・ 消化器 中長 (予約)	三浦	
							アレルギー 巽 (予約)		

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	7,706	5,041	6,908	7,306	8,390
入院	1,843	1,013	1,458	1,472	1,839

表3 2023.4~2024.3—小児科入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
肺炎、病原体不詳	57	4
有害作用、他に分類されないもの	37	1
急性気管支炎	20	5
下垂体疾患（下垂体機能低下症、 クッシング病、先端巨大症など）	16	2
急性細気管支炎	16	6
インフルエンザウイルスが分離された インフルエンザ	11	4
喘息	9	6
部位不明のウイルス感染症	8	5
その他の胃腸炎および大腸炎、感染症 および詳細不明の原因によるもの	7	3
ウイルス性およびその他の明示された 腸管感染症	6	3
その他の体液、電解質および 酸塩基平衡障害	5	6
全身性結合組織疾患	5	8
新生児の哺乳上の問題	5	4
紫斑病およびその他の出血性病態	3	7

表4 2023.4~2024.3—新生児入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
新生児の呼吸窮（促）迫	39	6
その他および詳細不明の原因による 新生児黄疸	22	4
妊娠期間短縮および低出産体重に 関連する障害、他に分類されないもの	17	8
出産時仮死	12	7
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	8	5
現在の妊娠とは無関係の場合もありう る母体の病態により影響を受けた胎児 および新生児	5	6
胎児および新生児に特異的な 一過性糖質代謝障害	5	8
その他の多量の溶血による新生児黄疸	3	7
新生児の哺乳上の問題	3	8

スタッフ 部 長：高橋 励
副 部 長：青木保典
医 員：前西真梨子

1. 診療内容

2023年5月にCOVID-19感染症が5類感染症に指定されたのを機に、入院診療数、新たな外来診療プロジェクトが活性化し始めている。

また2023年4月より、専攻医課程を修了した前西が大阪大学から常勤医として派遣された。それまでの常勤3名・専攻医1名から常勤医3名体制となったが、特に入院診療実数が増加したこともあり、労働集約性を発揮し、高い診療実績をあげた。

特徴的な診療分野としては、従来と同じく「認知症」、「産業精神医学」を掲げる。

まず「認知症」について、脳神経外科、脳神経内科、神経科・精神科で構成する脳機能センターの診療実数は外来を中心に維持している。指導者は芳川センター長、森悦郎先生、池田学先生で、定期的なセンターカンファレンスも行っている。

さらに、2024年春から行われる、大阪大学精神医学教室とその関連病院が連携して早期アルツハイマー病に対するレカネマブ診療・調査プロジェクトの準備を開始した。

次に「産業精神医学」では(1)産業医、関連・連携企業、院内からの紹介診療以外に、高橋は(2)予防医学センターと連携し、当院が各企業に派遣する産業医の業務を補助するセカンド=オピニオン外来を続け、(3)当院職員に生じた精神的問題への対応や、産業医業務の補助をさせて頂いている。

昨今は産業構造から、社員のメンタルヘルス問題が前景で精神科医の産業医も増えているが、高橋は「いわゆる純粋な精神疾患としてのアセスメントのみでは不十分で、社内環境や作業に固有の物理・化学・社会的要因に着目し、企業のリスクアセスメントと一体に神経精神医学的にアプローチすることがのぞましい」と考え、(1)～(3)のような事例対応にとどまらず、産業保健の重要なテーマである(4)職場改善方法の開発- 代表的には、職場復帰基準・手順の適正化実践、長時間労働に対する指導実践の他、ストレスチェック=データの独自解析法の開発に取り組む。また(5)産業精神保健の研究会を、当科前部長の江川、院外の精神科医・産業医と定期的に行っている。

また高橋は、(6)日本生命傘下の特例子会社(障害者重点雇用企業)の相談・指導・健康管理を行う他、健康経営のプログラムを作成している。これは、労働人口の高齢化を見据えた従来のトータル=ヘルス=プロ

モーション(THP)から、多様化を背景にした若年者・障害者向けバージョン拡充ともいえる。今年度は予防医学センターの関藤心理士の協力を得て睡眠習慣改善のプロジェクトを開始した。

有床総合病院精神科のルーティン業務(一般・専門外来診療、院内他科連携、入院診療)について報告する。

当科の一般外来では(1)うつ病・パニック障害などのうつ病圏、(2)全般的な不安障害などの神経症圏、(3)適応障害などストレス関連疾患の、診療所・院内他科からの紹介例が多い。

専門外来は一般診療の枠内で時間を確保して行っている。(4)「慢性疲労(症候群)」(高橋)では、一般の精神科では対応が難しい慢性疲労・各種の心身症(身体表現性障害)・一部の慢性疼痛などの紹介を総合病院・医療センター・大学病院等から受けてきた。(5)「認知症」は脳機能センターにかかわる医師全員が担当する。昨今は社会構造の変化を反映し、(1)～(4)に比して、認知症周辺の高齢者の精神的な問題(老年期うつ病など)の割合が著増しており、当院では精神科医が脳機能センターを兼務する枠組みにより対応できている。また高齢者の身体因性精神医学・神経精神医学的診療は院内他科との連携を通じて行うことが多い。また(6)顕在・潜在的な発達障害への対応は当科の課題であるが、症例数としてはそれほど多くない。

院内他科との連携には、(4)のように心身の問題を一元的に特定できない症例の併診(高橋)の他、コンサルテーション・リエゾン=サービス(CLS)や緩和ケアのコンサルテーション(相談)・リエゾン(直接診療)の枠組みも用いて対応している。他科入院患者が従来合併する精神疾患、せん妄・適応障害の新たな発症、高齢初発のてんかん(青木)など診療数も多く、他科からの転科入院も増えている。今年度から新たに前西が緩和ケアチームに参加し貢献している。

緩和ケア業務については、1. がん診療拠点病院の要件である当院主催の緩和ケア研修会に、高橋・青木・前西・丸山心理士が協力する。2. 前西・丸山が院内緩和ケア業務に定期参加している。3. 高橋は他病院が主催する研修会の精神・心理部門講師として協力している。

入院診療は、総合病院精神科の入院病床が全国的に減少しているため紹介入院先として機能している。一般医療法に基づき、他科との混合病棟体制であるため、受け入れには原則的にADLが概ね自立し行動制限の必要が無い症例との条件があり、心理教育的な症例が多

い。昨今入院患者の特性にも外来と同様(5)(6)の変化がある。(5)の入院や身体科からの転科などADL低下症例について、当科は病棟・病院全体と連携している。

2020年2月以来3年間あまりのCOVID-19感染症の蔓延により精神科の入院数が激減したが、2023年5月の5類感染症移行以後は順調に回復している。

2. 診療体制

常勤3名・専攻医1名から常勤医3名体制となった

1) 外来診療スケジュール(表1)

受け入れの円滑化をはかるために、初診患者はあったかサポートセンター経由の紹介を前提にしている。2診完全予約制であるが、随時予約外の対応は必要であり、診察室としてはDブロックの2～3診・カウンセリング室が常時稼働している。

心理検査・診療面において、脳機能センターと協働する業務も多い(脳機能センター山本)。また治療の質向上のため、完全予約制で心理士によるカウンセリングを行う症例もある(神経科・精神科丸山)。

2) 検査体制(表2)

当科では心理検査、脳波検査、脳画像検査を多用する。

まず心理検査は一般分野と認知機能分野に分かれる。一般分野では重症度(うつ状態など)の半定量的評価、性格・人格特性の定性的評価を行っている。認知機能分野では、「認知症専門」をうたう多くの病院でスクリーニングレベルの検査にとどまっているが、当院では高次機能障害や神経疾患を特定するための豊富なバッテリーを施行可能である。

次に脳波検査はてんかん診療や、他科連携における症候性・器質性病態の推定において有用である。

認知症に対する画像検査も頻用されている(頭部MRIの定量的計算・定性的評価法、脳血流SPECT、DLB/ParkinsonismへのDATscan, 心筋MIBG検査など)。

神経精神医学を重視する立場から検血・検尿など一般身体検査も行う。アルツハイマー病(AD)のリスクファクターは生活習慣病のそれと大きく重なり、初期認知症や軽度認知障害(MCI)の認知機能マネジメントのため生活習慣病モニタリングは有効である。

特殊な検査として、当科では以前より認知機能低下の生理学的評価を積極的に行っている(例:パルスオキシメトリーの援用、多重注意・遂行機能測定ソフトウェアの独自開発)。青木は認知症の客観的な初期診断・病態把握を可能にする脳波分析手法を開発したが、続々と研究論文を産出している。

3) 病棟体制

非常勤医を除いて、外来での主治医が入院加療

をも受け持ち、3名が10床前後で加療を行っている。

4) CLSおよび緩和ケア業務体制

前西・青木が中心になり、緩和ケア業務とCLSを一体化した枠組みでリエゾン(=直接診療)を行う他、主要メンバーが随時コンサルテーション(=相談)を受ける。丸山心理士は血液・化学療法内科と連携し「無菌室化学療法カウンセリング」を続けている。

5) 心理士業務体制

認知機能検査は2名の心理士が分担している。丸山は心理カウンセリング・一般心理検査・緩和ケア・産業精神保健・認知機能スクリーニングなど多彩な業務に従事する。山本は神経心理学を専門に研究しており、豊富な認知機能検査バッテリーを操る。

6) 教育体制の診療体制への包含

(1) 大阪大学医学部学生の臨床実習を毎年行っている。前述の業務のうち一般・専門外来診療・院内他科連携・心理検査・脳波検査)について、常勤医3名・心理士2名が、専門分野に応じて実習・講義を分担する。

(2) 精神科の前期研修は研修協力病院(水間病院・藍野病院)で行われるべき業務が殆どであるため、当科は精神科の最終レポート作成や評価過程のみにかかわるが、前期研修医にとって、院内他科連携の実務を通して得る精神科領域の経験は有意義と考えられる。

(3) 新専門医制度に関連して、学会による教育施設認定に積極的である。

1. 精神科を専門とする医師のための、日本精神神経学会の専門医研修(3年間の後期研修)認定施設(大阪大学、やまと精神医療センターとの連携型)である。

2. 神経・社会精神医学のサブスペシャリティを目指す精神科上級医のための、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設になっている。

3. 公認心理士制度に関連して、武庫川女子大学大学院の修士学生を対象に、公認心理師資格取得のための病院実習を行っている。

4. 脳機能センターではカンファレンスを月1回行っている。神経科・精神科内では薬物療法・臨床精神医学全般に関する勉強会を月2回程度行っている。

3. 診療実績

1) 外来診療実績(表3)

2) 入院診療実績(表3、4)

前述のように回復傾向である。

なお従来、数少ない府内の市中病院の精神科病床を有効に利用するための方法論として、近医精神科との情報交換・勉強会などネットワーク強化

化から紹介入院の促進に努めてきた。

さらにレカネマブ診療プロジェクトを機に、大学病院を中心とした総合病院精神科のネットワークも始まっている。

4. 認定医・専門医など

- ・日本精神神経学会専門医 2名（高橋・青木）
- ・同 指導医 1名（高橋）
- ・日本総合病院精神医学会専門医 1名（高橋）
- ・同 指導医 1名（高橋）
- ・精神保健指定医 1名（青木）
- ・日本医師会認定産業医 2名（高橋・青木）
- ・厚生労働省 労働衛生コンサルタント 1名（高橋）

5. 業績

論文・著書

1. Aoki Y, Takahashi R, Suzuki Y, Pascual-Marqui RD, Kito Y, Hikida S, et al : EEG resting-state networks in Alzheimer's disease associated with clinical symptoms., Scientific Reports, 13 (1) : 3964, 2023年
2. 前西真梨子, 埜奔大喜, 佐藤俊介, 佐竹祐人, 鐘本英輝, 吉山顕次, 岩瀬真生, 橋本 衛, 池田 学 : 幻聴と隣人への被害妄想が前景に立ったアルツハイマー型認知症の一例, 老年精神医学雑誌, 34 (10) : 993-1000, 2023年

研究会発表

1. 高橋 励 : 座長講演, 第7回大阪地区精神医学研究会, 2023年4月, 大阪
2. 高橋 励 : 総合病院精神科と便秘, ビアトリス製薬社内研修会, 2023年6月, 大阪
3. 丸山加奈 : ストレスとの付き合い方について, 大阪難病相談支援センター講演会, 2023年9月, 大阪
4. 高橋 励 : 進捗状況と気づき-早期ADへのレカネマブ診療, 大阪大学DMT講習会, 2023年12月, 大阪
5. 高橋 励 : 講義「気持ちのつらさ」・「せん妄」, 日本生命病院緩和ケア研修会, 2024年2月, 大阪
6. 高橋 励 : 座長, 日本生命病院緩和ケア講演会, 日本生命病院緩和ケア講習会, 2024年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
高橋			火曜日医	前西	前西	前西	青木	青木	高橋	高橋
青木			臨時医		高橋		池田 [*] (物忘れ 外来)		前西	青木
竹田										

※①7日、28日は休診

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
脳波				○診		○診		○診		○診
心理テスト	○診	○診	○診	○診			○診	○診	○診	○診
認知機能検査	○診	○診			○診	○診	○診	○診	○診	○診

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	14,848	14,482	14,612	14,754	13,225
入院	4,012	3,280	2,308	2,754	3,705

表4 2023.4～2024.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均 在院日数
うつ病エピソード	49	48
身体表現性障害	9	20
その他の不安障害	5	28
重度ストレスへの反応および適応障害	4	17
摂食障害	2	107
広汎性発達障害	2	85
基底核のその他の変性疾患	2	39
アルツハイマー〈Alzheimer〉病	2	10

脳 神 経 外 科

スタッフ 部長：鶴園浩一郎（診療情報管理室長）（～2023年10月）
田村和義（2023年11月～2024年3月）

1. 診療内容

2018年4月に新設されて以来5年が経過しました。2024年からは部長交代し引き継いでいます。徐々に外来患者も増えており、一般脳外科診療・外来診療は軌道に乗ってきたと思われます。

認知症疾患は総合的に診療し、慢性硬膜下血腫、水頭症については手術対応が可能です。とくに正常圧水頭症におけるシャント術においては、脳機能センターとの連携で、綿密な治療・評価ができます。頭痛疾患においても、鑑別診断、それに応じた治療が可能です。

予防医学センター経由で、内頸動脈疾患、未破裂脳動脈瘤が最も多く受診がありますが、カテーテルを用いた血管内治療が必要となった場合、大阪大学および関連施設の協力を得て治療しています。脳腫瘍については、放射線治療科により定位照射で対応したり、髄液播種の場合はオンマヤ貯留槽設置や髄腔化学療法も可能です。摘出が必要となった場合は、大阪大学および関連施設の協力を得ます。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2、3）

4. 認定医・専門医など

日本脳神経外科学会専門医	2名（鶴園、田村）
日本脳卒中学会専門医・指導医	1名（田村）
日本認知症学会専門医・指導医	1名（田村）
日本脊椎脊髄外科専門医	1名（鶴園）
日本脊髄外科学会認定医	2名（鶴園、田村）

5. 業績

学会発表

1. 田村和義、鶴園浩一郎：正常圧水痘症患者の髄液除去試験（tap test）における、座位腰椎穿刺の有用性、日本脳神経外科学会第82回学術総会、2023年10月、横浜

研究会発表

1. 鶴園 浩一郎：脳卒中の発症予防・管理について～脳卒中治療ガイドライン2021より～、第154回日本生命病院医学セミナーUpdate、2023年3月、大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
				田村				田村	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	1,089	993	1,069	1,068	925
入院	1,016	911	880	1,055	589

表3 2023.4～2024.3－入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
水頭症	14	10
慢性硬膜下血腫	11	13
脳内出血	4	15
脳梗塞	2	28
脳および中枢神経系の性状不詳または不明の新生物	1	51
中枢神経系のその他の障害	1	41
その他の非外傷性頭蓋内出血	1	17
脳実質外動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	1	2

整 形 外 科

スタッフ 部長：西原俊作（救急総合診療センター副センター長）
副部長（部長待遇）：行方雅人、辻 成佳（リハビリテーション科部長、リハビリテーション室長）
医 長：高見賢司
専攻医：大木莉夏

1. 診療内容

当科は、主に関節外科（股関節、膝関節）、脊椎外科、足の外科、骨折外傷を中心に診療してきた。

関節外科では股関節および膝関節の変形性関節症や関節リウマチに対して人工関節手術を施行してきた。2021年7月から筋腱温存前方アプローチ（DAA）による人工股関節置換術を開始し、脱臼のリスクをほぼなくし、従来と比較して早期の回復と早期の退院が可能となった。2021年12月から手術ナビゲーション（人工股関節）を導入し骨盤インプラント（カップ）を術前計画通りに正確に設置できるようになった。筋腱温存前方アプローチ（DAA）と手術ナビゲーションの導入により術後脱臼のリスクがほぼなくなり、初回手術においては術後の生活動作制限を撤廃した。

2022年8月から手術ナビゲーション（人工膝関節）を導入し、インプラント（大腿骨側、脛骨側）をニュートラルアライメントの通りに正確に設置できるようになった。長期耐久性や患者満足度の向上に貢献することが期待される。

脊椎外科では下肢痛、歩行困難を呈する腰部脊柱管狭窄症の患者さんに対して開窓術や椎体間固定術を施行している。また手の巧緻性障害、痙性跛行がある頸椎症性脊髄症の患者さんに対して頸椎椎弓形成術を施行している。

2022年6月から外反母趾や関節リウマチによる足部変形に対して矯正骨切り術を施行している。

外傷では高齢者の骨折が増加しており、麻酔科が許す範囲内で、できるだけ早期の手術を目標としている。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携し、早期退院・早期社会復帰を目標に治療している。手術患者さんに対しては手術前からリハビリテーションを行うだけでなく、術後早期から運動療法を集中し早期退院を図っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は28、常勤医4名が担当し診療を行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は前年度より増加した。

2) 入院診療実績（表4、5）

手術件数、入院患者数は前年度より減少した。

4. 専門医・指導医など

日本整形外科学会認定整形外科専門医

3名（西原、行方、辻）

日本人工関節学会認定医

2名（西原、辻）

日本リウマチ学会指導医

1名（辻）

日本脊椎脊髄病学会指導医

1名（行方）

5. 業績

論文・著書

1. Takami K, Tsuji S, Nishikawa M, Owaki H : Association of the Clinical and Radiographic Findings at Onset With Future Joint Destruction in Patients With Rheumatoid Arthritis, *Cureus*, 15 (5) : e39428, 2023年
2. Takami K, Tsuji S : Extensive subcutaneous emphysema of the thigh as a rare complication following total knee arthroplasty: A case report, *Int J Surg Case Rep*, 109 : doi: 10.1016/j.ijscr.2023.108466, 2023年
3. Takami K, Tsuji S, Owaki H : Preoperative degree of deformity and underlying disease affect the postoperative deformity of joint-preserving hallux valgus surgery, *J Orthop Surg (Hong Kong)*, 31 (3) : doi: 10.1177/10225536231206536, 2023年
4. Takami K, Okamoto K : Anti-NF- κ B peptide derived from nuclear acidic protein attenuates ovariectomy-induced osteoporosis in mice, *JCI Insight*, 8 (22) : e171962, 2023年
5. Takami K, Tsuji S : Real-world retention rates of biologics in patients with rheumatoid arthritis, *Sci Rep*, 13 (1) : 21170, 2023年
6. Takami K, Tsuji S, Sato S, Akaji K, Yamashita C, Hiroumi S, et al : Long-term retention rates of anti-TNF and anti-IL-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, *Mod Rheumatol*, doi: 10.1093/mr/road111 : Online ahead, 2023年
7. 辻 成佳 : 掌蹠膿疱症性骨関節炎, *リウマチ科70巻4号*, *リウマチ科編集委員会 編*, 370-375., 2023年, 科学評論社, 東京

学会発表

1. 菊池潤太, 高見賢司, 行方雅人, 西原俊作 : 大腿骨近位部骨折術後DVTにおけるD-dimer値の検討, 第140回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2023年4月, 奈良
2. 高見賢司 : The case of pustulotic arthro-osteitis of a 12-year-old female and whose symptoms improved after tonsillectomy, 第67回日本リウマチ学会, 2023年4月, 福岡
3. 辻 成佳 : PsA患者におけるRAPID3スコアのウパダシチニブとアダリマブの比較, 第67回日本リウマチ学会, 2023年5月, 福岡
4. 辻 成佳 : 皮膚科クリニックでのPaA (psoriatic arthritis)

関節診察について、第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会、2023年6月、札幌

5. 高見賢司：A novel small molecule anti-NF- κ B peptide derived from nucleic acid suppresses bone loss in postmenopausal osteoporosis mouse model, 第41回日本骨代謝学会、2023年7月、東京
6. 高見賢司, 辻 成佳：A case of extensive emphysema of the thigh after total knee arthroplasty, 第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会、2023年8月、奈良
7. 辻 成佳：掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き2022について、第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会、2023年8月、奈良
8. 辻 成佳：乾癬性関節炎における治療アプローチ～骨粗鬆症・骨量減少症を考える～、第38回日本乾癬学会学術大会スイーツセミナー、2023年8月、東京
9. 高見賢司, 辻 成佳：Long-term retention rates of anti-TNF and anti-IL-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, 第33回日本脊椎関節炎学会、2023年9月、神戸
10. 辻 成佳：掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き2022について、第33回日本脊椎関節炎学会、2023年9月、神戸
11. 辻 成佳：中等症から重症の掌蹠膿疱症患者に対するリサンキズマズの有効性と安全性、第33回日本脊椎関節炎学会、2023年9月、神戸
12. 辻 成佳：TNE Bs剤に効果不十分又は不耐の乾癬性関節炎患者における血清バイオマーカーに対するGuselkumabの影響：COSMOS試験の結果より、第33回日本脊椎関節炎学会、2023年9月、神戸
13. 辻 成佳：Bimekizumab (BKZ) で治療したPsA患者はPsAID-12質問票を使った評価で症状の持続的改善を示す：2つの第3相試験の1年結果、第38回日本臨床リウマチ学会、2023年11月、北九州
14. 井上健太, 大木莉夏, 高見賢司, 行方雅人, 辻 成佳, 西原俊作：IL36RN遺伝子ヘテロ接合体変異 (c.115+6T>C) を有する小児掌蹠膿疱症性骨関節炎の扁桃摘出術による治療が奏効した1例、第461回整形外科集談会 京阪神地方会、2024年2月、大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
行方 (初診)		西原 (初診)				行方 (予約)	特診脊椎 外来	西原 (予約)	特診関節 外来
大木 (予約)		高見 (予約)		交代 (初診のみ)		高見 (初診)	行方 (予約)	大木 (初診)	西原 (予約)
			乾癬性 関節炎外来 辻 (予約)			脊椎関節炎 外来 辻 (予約)	脊椎関節炎 外来 辻 (予約)		脊椎関節炎 外来 辻 (予約)

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		術前カンファ、 カルテ回診		抄読会	
午後					

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	12,846	11,459	11,510	12,498	12,992
入院	9,648	8,166	6,103	6,239	5,329

表4 2023.4～2024.3－入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
股関節症 [股関節部の関節症]	43	19
その他の脊椎障害	40	20
膝関節症 [膝の関節症]	32	24
その他の変形性脊柱障害	27	18
その他の関節リウマチ	18	29
大腿骨骨折	16	27
脊椎症	15	21
指および趾〈足ゆび〉の後天性変形	12	25
その他の椎間板障害	11	20
前腕の骨折	7	9
下腿の骨折、足首を含む	6	9

皮 膚 科

スタッフ 部長：東山真里（特任副院長、臨床研究管理室長、乾癬センター長）
副 部長：林 美沙、
副 医 長：赤路和哉・山下千佳紗（2023年5月～）
専 攻 医：佐藤祥奈（～2023年12月）

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹、円形脱毛症、尋常性白斑、強皮症などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し、病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月10日に「ニッセイ いい皮膚の日」として患者対象の学習会を皮膚科医師と看護師で開催。乾癬をテーマに講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）、全身型紫外線照射装置2機（UVA、ナローバンドUVB）、部分型紫外線照射装置、手足用ナローUVB/UVA照射装置、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

1. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】年間初診患者数は尋常性乾癬が約136名、乾癬性関節炎が31名で再診は延べ1000名余り。掌蹠膿疱症および掌蹠膿疱症性骨関節炎の初診も増加 (1) 治療内容 1. 外用療法 2. 光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト、手足用ナローUVB/UVA照射） 3. 内服療法（レチノイド、シクロスポリン、アプレミラスト、メトトレキサート） 4. 生物学的製剤。これらより個々の患者に最適な治療を選択 (2) 乾癬センターとして扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因や心血管系イベントを含む併存症につき関連診療科と連携して精査。(3) 重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、セトリズマブ・ウスチキヌマブ、セクキヌマブ、プロダルマブ、イキセキズマブ、グセルクマブ、リサンキズマブ、ビメキズマブなどの種々の生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏効。乾癬・掌蹠膿疱症に関する臨床試験や臨床研究も実施。(4) 乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。(5) 療養を支援する場として大阪大学 皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。【アトピー外来】重症例では光線療法やシクロスポリン療法、生物学的製剤、JAK阻害剤も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科診療科との連絡を密に総合的に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。重症のアトピー性皮膚炎に対して生物学的

製剤、JAK阻害剤を積極的に導入。【エキシマライト治療】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。

【皮膚外科手術】良性悪性腫瘍の切除術は皮膚科で可能な症例は大阪大学から皮膚外科医を週1回派遣いただき手術。ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。動脈硬化による下肢動脈狭窄症による足趾壊死や潰瘍は血管外科と密に連携して治療している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診察 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診察。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午前・午後）、木（午前・午後）、全予約制（ただし初診は、あったかサポートセンター経由のみ予約可）。アトピー外来は金（午前）

手術：水曜午前は局所麻酔

2) 病棟体制（表3、4）

病棟担当医は常勤医3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は15.3名/月、入院患者数年間のべ患者数は1907名、1日平均5.2名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、水痘、じんま疹、蜂窩織炎、薬疹、多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍/悪性腫瘍、下腿潰瘍、自己免疫性水疱症など。乾癬パス入院や、食物アレルギー、薬疹の原因薬精査なども行った。

形成外科と協力して褥瘡回診を行っている。

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。

表在エコー検査は随時。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2023年度の外来延べ患者数25376名、1日平均105.4名
紹介患者数 47.3名/月。

年間手術件数 234件

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 検査実績

皮膚生検数 300件/年

4. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 2名(東山、林)
2023.5月以降3名(東山・林・山下)

5. 業績

論文・著書

- Inoue E, Hiroumi S, Sato S, Hayashi M, Konaka H, Tsuji S, Higashiyama M: Palmoplantar pustulosis and pustulotic arthro-osteitis associated with multiple venous occlusion: A case report and literature review., J Dermatol, 50 (8): 1076-1080, 2023年
- 林 美沙, 佐藤祥奈, 井上栄美, 辻 成佳, 王 聡, 東山真里: BCG膀胱内注入療法施行後に急性増悪した乾癬性関節炎の1例, 日本脊椎関節炎学会誌, 10 (1): 2435-6778, 2023年
- 藤田悠花, 岡林 綾, 川合未紗, 渡邊美樹, 平田 央 (和泉市総合医療センター皮膚科): ポリコナゾールが原因と考えられた中毒性表皮壊死症の1例, 臨床皮膚科, Vol.77 No.12: 971-976, 2023年
- Wataya-Kaneda M, Maeda S, Nakamura A, Hayashi M, Fujimoto M: Verification of the efficacy of topical sirolimus gel for systemic rare vascular malformations: a pilot study., J Dermatol, 50 (12): 1619-1624, 2023年
- Takami K, Tsuji S, Sato S, Akaji K, Yamashita C, Hiroumi S, et al: Long-term retention rates of anti-TNF and anti-IL-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, Mod Rheumatol, doi: 10.1093/mr/road111: Online ahead, 2023年
- Asada H, Takahashi T, Hayashi M, Higashiyama M, Noujima M, Moritani S, Fujimoto N: Disseminated B-cell pseudolymphoma successfully treated with narrowband UVB., J Dermatol, 50 (12): e400-e401, 2023年
- 井上栄美, 田中久仁子, 林 美沙, 馬場圭太, 谷井啓一, 中井大介, 東山真里: 「角膜潰瘍を合併した持久性隆起性紅斑」, 皮膚病診療, 45: 817~821, 2023年
- 赤路和哉, 今中洋子, 星山寧子, 大畑千佳: 【神経症状を伴う皮膚病~重要な合併症を見逃さない~】無症候性神経梅毒, 皮膚病診療, 45: 1084-1087, 2023年
- Takami K, Tsuji S, Jokoji R, Okubo Y, Higashiyama M: Paediatric pustulotic arthro-osteitis patient with an IL36RN variant, heterozygous c. 115+6T>C, who was successfully treated with tonsillectomy: A case report and literature review, Exp Dermatol. 2024 Jan; 33 (1): e15016. doi: 10.1111/exd.15016
- Takami K, Higashiyama M, Tsuji S: Osteoporosis and Osteopenia in patients with psoriatic arthritis: a single-center retrospective study, Mod Rheumatol, doi: 10.1093/mr/roae028: Online ahead, 2024年
- 佐藤祥奈, 井上栄美, 林 美沙, 東山真里: 【水疱をきたす疾患】陰部に初発したエムボックス, 皮膚病診療, 46 (3): 228-231, 2024年

学会発表

- 佐藤祥奈, 赤路和哉, 井上栄美, 林 美沙, 東山真里: 陰部に初発したサル痘 (Mpox) の一例, 第497回日本皮膚科学会大阪地方会, 2023年5月, 大阪
- 佐藤祥奈, 井上栄美, 林 美沙, 東山真里: 高齢発症の線状苔癬の一例, 第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 2023年6月, 札幌
- 東山真里, 持田和伸, 磯ノ上正明, 山田秀和, 内田健一郎, 河合修三 (大阪皮膚科医会): 大阪府下の乾癬治療ネットワークの現状・変遷-第3回アンケート調査結果, 第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 2023年6月, 札幌
- 赤路和哉, 佐藤祥奈, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山真里, 辻 成佳: 関節症性乾癬 (PsA) に対し生物学的製剤使用中に発症した2期梅毒の1例, 116回近畿集談会, 2023年7月, 大阪

- 山下千佳紗, 東山真里, 佐藤祥奈, 赤路和哉, 林 美沙, 高見賢司, 辻 成佳: 当院における生物学的製剤を中止・休薬した乾癬性関節炎患者の経過・予後の解析, 第38回日本乾癬学会学術大会, 2023年8月, 東京
- 羽田基樹, 佐藤祥奈, 赤路和哉, 山下千佳紗, 東山真里: 5歳児に発症したV1領域の帯状疱疹の1例, 第499回日本皮膚科学会大阪地方会, 2023年9月, 大阪
- 藤田悠花, 水田栄樹, 松村 裕, 清原英司, 種村 篤, 藤本 学 (大阪大) 日野彬央 (同・血液腫瘍内科学教室): 急速に増大したCD3陰性の皮膚原発末梢性T細胞性リンパ腫の1例, 第499回日本皮膚科学会大阪地方会, 2023年9月, 大阪
- 佐藤祥奈, 赤路和哉, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山真里, 辻 成佳, 川上 学: TNF阻害剤とMTX併用療法中に医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患を発症した乾癬性関節炎の一例, 第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, 2023年8月, 奈良
- 東山真里: 気になる皮疹, 第33回 日本脊椎関節炎学会 市民公開講座, 2023年9月, 神戸
- 佐藤祥奈, 井上栄美, 林 美沙, 東山真里 (皮膚科), 辻 成佳 (整形外科): 多発関節炎を伴った化膿性汗腺炎の一例, 第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2023年10月, 京都
- 東山真里: 新しい内服療法ソーティクツ[®]への期待—治験データと自験例から, 第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会イブニングセミナー, 2023年10月, 京都
- 山下千佳紗, 東山真里, 佐藤祥奈, 赤路和哉, 林 美沙, 伊藤潤: 複数の成分に感作されたと考えられる点眼液による接触皮膚炎の1例, 第53回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 2023年12月, 千葉
- 佐藤祥奈, 赤路和哉, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山真里: 顔面に限局した非典型的な症状を呈した好酸球性膿疱性毛包炎の一例, 第500回 日本皮膚科学会 大阪地方会 - 第500回記念地方会 -, 2023年12月, 大阪
- 羽田基樹, 佐藤祥奈, 赤路和哉, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山真里, 丸岡真太郎 (同・放射治療科), 直原成美, 種村 篤, 藤本 学 (大阪大学): 放射線治療で縮小を認めた乳房外Paget病の1例, 第502回 日本皮膚科学会 大阪地方会, 2024年3月, 大阪

研究会発表

- 東山真里: どう使う? 進化する乾癬治療—外用剤治療を中心に, 第3回神戸市乾癬治療を考える会, 2023年4月, 神戸
- 東山真里: どう使う? 進化する乾癬治療—外用剤治療を中心に, 乾癬治療を考える会, 2023年5月, 大阪 (Web開催)
- 東山真里: QOL向上を目指した乾癬治療—アンメット・ニーズへの解決策は, UCB Dermatology Seminar in Tokyo, 2023年6月, 東京 (Web開催)
- 東山真里: 注意しよう! 乾癬治療のPitfall, 第7回 Osaka Dermatology Seminar, 2023年7月, 大阪
- 東山真里: どう使う? 進化する乾癬治療—外用剤治療を中心に, Psoriasis Expert Seminar, 2023年7月, 大阪
- 東山真里: 乾癬センターにおける病診連携, 地域で診る皮膚疾患Webセミナー, 2023年9月, 大阪
- 東山真里: 乾癬治療における新薬—ソーティクツの立ち位置, ソーティクツ発売1周年記念講演会in 大阪, 2023年10月, 大阪
- 東山真里: 皮膚の病気と関節炎は関係あるの?, 日本生命病院皮膚の日の催し, 2023年11月, 大阪
- 東山真里: 掌蹠膿疱症の診断と治療 ルミセフへの期待 (臨床試験結果より), 掌蹠膿疱症診療 Up to Date, 2023年12月, 大阪
- 林 美沙: 日本生命病院の乾癬診療について, 第9回リウマチセンター合同カンファレンス, 2024年2月, 大阪
- 東山真里: 乾癬センター設立への歩み, 第9回リウマチセンター合同カンファレンス, 2024年2月, 大阪
- 東山真里: 責任医師の立場より, 臨床治験委員会職員研修講演会 (院内), 2024年2月, 大阪

13. 林 美沙：失禁関連皮膚炎（IAD）とスキントケアと褥瘡の違いって何？～症例で学ぶ失禁関連皮膚炎とスキントケアの予防的・治療的スキントケア～、褥瘡対策委員会主催勉強会、2024年2月、大阪
14. 林 美沙：乾癬センターにおける乾癬診療の実態！、中国乾癬バイオリジクスセミナー、2024年2月、岡山
15. 東山真里：自験例からみるデュークラバシチニブの使いどころと期待、Dermatology conference-未来が広がる乾癬治療を、2024年2月、大阪
16. 東山真里：大阪府下の乾癬治療ネットワークの現状・変遷、地域で考える乾癬治療フォーラム in大阪、2024年3月、大阪

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
診察室	山下	検査 パッチ テスト 生検 等 (予約)	乾癬 外来 東山 (予約)	乾癬 外来 東山 (予約)	林	検査 光線 テスト 生検 (予約)	乾癬 初診 東山	乾癬 外来 東山 (予約)	平野 (初診)	検査 ・ 生検
	紹介 初診 東山 (予約)		乾癬 外来 辻 (予約)	乾癬 外来 林 (予約)	東山 (紹介 予約)		辻		アトピー 外来 山下 (予約)	
	赤路 (初診)		井上 (紹介初 診のみ)	関節性 乾癬 外来 辻	山下		乾癬 外来 林 (予約)		乾癬 外来 赤路 (予約)	
検査室						山下 (初診)			赤路	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○ 診								

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	20,722	21,815	23,327	25,463	25,376
入院	2,901	3,098	2,715	2,880	1,907

表4 2023.4～2024.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
带状疱疹 [帯状ヘルペス]	53	8
蜂巣炎 (蜂窩織炎)	43	12
乾せん (癬)	13	8
摂取物質による皮膚炎	11	9
丹毒	9	9
アトピー性皮膚炎	6	11
その他および部位不明の性状不詳 または不明の新生物	4	4
外科的および内科的ケアのその他の 合併症、他に分類されないもの	4	4

スタッフ 部長：垣本 健一（血液浄化センター副センター長）

副 部長：湊 のり子、王 聡

1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行なった。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、化学療法、免疫療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、泌尿器科癌に対する新規の抗癌剤、抗アンドロゲン剤、免疫療法薬が次々と承認されて治療選択肢が増加していることが特徴である。当科でも、最新の薬物治療と他の治療を組み合わせる集学的治療を積極的に行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

泌尿器科外来1～2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ10,355人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ3,558人であった。

3) 治療実績

経直腸の前立腺生検術は101例に対して行った。前立腺癌に対するロボット技術支援の腹腔鏡下前立腺全摘除術は32例に行った。去勢抵抗性前立腺癌に対しては新規ホルモン剤であるエンザルタミド、アピラテロン、アパルタミド、ダロルタミドを使用することで治療の幅を広げ良好な治療成績を収め、また患者数も着実に増加している。

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術81例、膀胱筋層浸潤のある進行膀胱癌に対する膀胱全摘除術および尿路変向術を4例に対して行った。膀胱癌、尿管癌の治療あるいは再発予防

として、BCG膀胱内注入療法（上部尿路がん症例には尿管ステント留置下）を施行した。局所浸潤膀胱癌に対しては原則、術前化学療法を施行した上で手術を行う方針とした。転移を有する尿路上皮癌症例に対してはシスプラチン（またはカルボプラチン）+ゲムシタピン療法でSD以上を維持している症例には新規承認の免疫療法薬であるアベルマブ維持療法を行い良好な効果を得た。また、アベルマブに続く3次治療として、抗体複合薬エンフォルツマブベドチンも積極的に使用した。

また新しく保険適用となった腎癌に対するロボット支援腎摘除術、腎盂尿管癌に対するロボット支援尿管全摘除術も開始し、それぞれ5例、7例に行った。特に、ロボット支援尿管全摘除術は、従来の方法よりも創部が小さくできるため、術後の回復が早くメリットが大きいと考えられた。

尿路結石（腎結石、尿管結石、膀胱結石）に対して経尿道的尿管碎石術を44例に、全例レーザーを用いた碎石を行った。腎臓の下腎杯に落ち込んだ結石に対しては最新型の細径軟性鏡を用いて良好な視野の下、破碎術を施行した。

その他、陰のう水腫根治術、精巣摘除術など陰囊内容陰茎、尿道に関する手術が17例であった。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医 3名（垣本、湊、王）

日本泌尿器科学会指導医 3名（垣本、湊、王）

ダビンチサージカルシステム認定資格

3名（垣本、湊、王）

日本がん治療認定医機構認定医 2名（垣本、王）

日本泌尿器科学会腹腔鏡技術認定医 2名（垣本、王）

5. 業績

論文・著書

1. Yamamoto Y, Ishii M, Yoshimura A, Hayashi T, Kawamura N, Kakimoto K, et al : Efficacy of cabazitaxel in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer: A single-center study in Japan. *Int J Urol*, 30 : 20-27, 2023年
2. Koyama J, Yamashita S, Kakimoto K, Uemura M, Kishida T, Kawai K, et al : Sexual function using the EORTC QLQ-T26 in testicular cancer survivors: A multi-institutional, cross-sectional study. *Int J Urol*, 30 : 1044-1050, 2023年

学会発表

1. 湊のり子, 王 聡, 垣本健一: 当科における転移性尿路上皮癌に対するアベルマブ維持療法の初期経験, 第110回日本泌尿器科学会総会, 2023年4月, 神戸
2. 柘津晋久, 山下慎一, 垣本健一, 植村元秀, 岸田 健, 河合弘二, 中村晃和, 後藤崇之, 大澤崇宏, 鈴鴨よしみ, 伊藤明宏, 荒井陽一: 精巣がんサバイバーでの経済毒性とQOL, 第110回日本泌尿器科学会総会, 2023年4月, 神戸

研究会発表

1. 湊のり子: 排尿障害の診断、治療と排尿自立支援について, 第158回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年8月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
湊	湊 (予約)	王	王	深江		湊	湊	王	垣本 (予約)
			垣本			垣本	垣本	藤田 (昌)※	

※1・3・5週のみ

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影*	○ 診		○ 診	○ 診	○ 診		○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○: 当院診察が必要 *は火曜午後のみ

表3 泌尿器科年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	11,507	10,855	10,435	10,355	10,183
入院	3,643	3,739	3,085	3,558	2,987

表4 2023.4~2024.3-入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	146	5
膀胱の悪性新生物	75	8
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	37	4
腎結石および尿管結石	25	6
腎盂の悪性新生物	21	11
腎盂を除く腎の悪性新生物	20	9
尿管の悪性新生物	17	9
急性腎盂腎炎	14	14
前立腺肥大(症)	10	4
過長包皮、包茎およびかんく嵌頓包茎	8	5
その他および部位不明の上皮内癌	6	4

眼 科

スタッフ 部長：川崎 諭
部長代行：谷井啓一（～2023年6月）
副 医 長：伊藤 潤
専 攻 医：熊ノ郷有希
主 任：天野知子（視能訓練士）

1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。

2016年度は、大阪大学眼科教室からの非常勤医師による外来診療のみであったが、2017年8月に谷井部長代行が赴任し、常勤医体制を再開した。2023年4月からは川崎が赴任し部長となった。

最新の設備を用いた質の高い医療の提供と、患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また、病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科 かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で診療を行っている。

ほぼ全ての診療科を網羅する日本生命病院の一診療科として、全身状態の不良症例や、眼科単科では対応困難な症例の眼科治療も他科・センターと連携しながら行っているとともに、ニッセイ予防医学センターとも協力し、眼底検診による疾患の早期発見・予防に努めている。また、眼科疾患の難病認定申請に関する検査および臨床調査個人票の発行や、身体障害者手帳申請に関する検査および診断書・意見書の発行も行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本眼科学会専門医 2名（川崎・伊藤）
 視覚障害者用補装具適合判定医師 1名（伊藤）
 臨床研修指導医 1名（川崎）

5. 業績

研究会発表

1. 川崎 諭：白内障手術と角膜移植手術, 第160回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年10月, 大阪

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
川崎		伊藤		川崎		川崎		伊藤	
熊ノ郷	手術	熊ノ郷	特殊検査	伊藤	手術	駒井	特殊検査	熊ノ郷	特殊検査

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
光凝固 YAG 蛍光造影 硝子体注射 ボトックス								○		○

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	11,418	11,444	11,711	11,775	11,768
入院	795	838	727	596	830

表4 2023.4～2024.3－入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	364	2
その他の機能性の挿入物の存在	4	2
角膜のその他の障害	3	14
水晶体のその他の障害	1	3
網脈絡膜の炎症	1	4

スタッフ 部長：小泉敏三（診療情報管理室長 2023年11月～）
 副部長：金澤成典（部長待遇）、中山彩子（～2024年1月）
 副医長：松山尚平（2023年3月～9月）、柳田真希（2023年10月～）

1. 診療内容

内耳疾患（突発性難聴、メニエール病、頭位めまい症など）、顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群など）、中耳疾患（慢性中耳炎、耳硬化症など）、頭頸部腫瘍・がん、および鼻疾患（慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎）等の診療に注力している。近年は耳疾患や顔面神経疾患に対する各種検査や画像検査、鼻疾患への画像検査、頭頸部腫瘍への穿刺針細胞診などは受診当日に実施し、患者への治療方針決定への根拠を即時に提示できる診療体制をとっている。また耳鼻咽喉・頭頸部外科におけるほぼ全領域での手術治療（鼓室形成術、メニエール病に対する内リンパ嚢開放術や顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術、耳硬化症へのアブミ骨手術、がんに対する再建を含めた拡大手術）に取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜am
 （火、木：手術日のため初診のみ）
 専門診療：腫瘍（月pm、水pm、金pm 金澤）
 めまい（月pm、水pm:小泉）
 難聴・中耳炎（月pm、水pm:小泉）
 甲状腺（月pm、水pm、金pm 金澤、柳田）
 補聴器（水pm 担当者）

初診時に原則的に耳鼻咽喉科領域の各専門の医師が診療を担当する方針としている。

2) 病棟体制

耳鼻咽喉・頭頸部外科は10床の定床数（9階病棟）で入院診療を行っている。外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として診療を行っている。頭頸部がん症例については、複数医師で患者を担当している。

3) 検査スケジュール

- ・聴力検査：月～金曜日am・pm
- ・めまい・平衡機能検査（カロリック、VEMP含む）：月～金曜日am・pm
- ・ABR検査：随時・即時
- ・ENOG検査：随時・即時
- ・内耳造影MRI検査：水・金曜全日
- ・超音波検査、鼻咽頭内視鏡検査：随時・即時
- ・嚥下内視鏡検査：随時・即時
- ・頸部造影CT：随時・即時
- ・頭頸部単純・造影MRI：随時
- ・PET：随時

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

耳鼻咽喉領域の急性難聴やめまいなどの耳疾患、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）については専門医が診療を担当している。他に鼻副鼻腔疾患や扁桃疾患に対しても手術体制が整っている。近隣の医療施設からの紹介や救急患者を随時受け入れ、その患者の症状が安定すれば逆紹介も行っている。大阪市西区やその周辺地域の基幹病院としての役割を果たしている。まためまい専門検査は大阪府広域からの患者を受け入れている。

2) 入院診療実績（表3、4）

近年、手術件数増加に伴い入院件数の増加もみられる。また、従来から急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、急性めまいや急性感音難聴、顔面神経麻痺の加療も実施している。他診療科と連携して、頭頸部がんに対する集学的治療も積極的に実施している。

3) 検査実績

聴力検査：1,702件
 めまいセット標準検査：51件
 VEMP,カロリック検査：117件
 シェロング 107件
 内耳造影MRI検査：59件
 頸部超音波検査：1,376件
 鼻咽頭内視鏡検査：1,543件

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
 2名（小泉、金澤）
 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医 1名（柳田）
 補聴器相談医 1名（小泉）
 補聴器適合判定医 1名（小泉）
 がん治療認定医 1名（金澤）
 頭頸部がん専門医・指導医 1名（金澤）
 身体障害者福祉法15条指定医 2名（小泉、金澤）
 めまい相談医 1名（小泉）
 耳科認定医 1名（小泉）

5. 業績

研究会発表

1. 中山彩子：気道閉塞への対応, 第159回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年9月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
小泉	金澤 (腫瘍) (予約)	非常勤 医 (初診のみ) 松村		小泉	小泉 (めまい・ 難聴・ 補聴器) (予約)	非常勤 医 (初診のみ) 清水		小泉	金澤 (腫瘍) (予約)
金澤	小泉 (難聴・ 中耳炎) (予約)			金澤	金澤 (腫瘍) (予約)			金澤	柳田
柳田				柳田	柳田			柳田	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
聴力検査 めまい平衡機能	○		○		○		○		○	
聴性脳幹反応		○		○		○		○		○
内耳造影MRI	○				○					

○：当院診察が必要

表3 耳鼻咽喉科年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	11,506	9,636	8,520	8,179	8,191
入院	2,051	3,009	2,301	2,850	3,168

表4 2023.4～2024.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	43	8
急性扁桃炎	17	6
慢性副鼻腔炎	15	7
甲状腺の悪性新生物	14	10
顔面神経障害	14	9
喉頭の悪性新生物	12	21
前庭機能障害	11	6
扁桃周囲膿瘍	10	6
乾せん〈癬〉	9	8
その他の難聴	8	7
梨状陥凹〈洞〉の悪性新生物	7	46
口腔および消化器の性状不詳または不明の新生物	7	9
反復性および持続性血尿	7	8
下咽頭の悪性新生物	6	26
化膿性および詳細不明の中耳炎	6	7

形成再建外科

スタッフ 部長代行：齋藤拓也

専攻医：北中涼太郎（～2023年9月）、吉池遙南（2023年10月～）

1. 診療内容

形成再建外科では体表の外傷や腫瘍、変形、異常を取り扱っている。また治らない傷や目立つ傷あと、眼瞼下垂、がんの切除およびその修復（頭頸部再建や乳房再建など）の治療も行う。疾患の根治のみでなく、整容性に配慮した治療を心がけている。

外傷については全身を対象に対応しており、特に露出部である顔面や四肢を多く治療している。擦過創、挫滅創、裂創、剥脱創、咬創、熱傷、凍傷など幅広い外傷に対応している。顔面骨骨折も変形や機能障害の程度に応じて手術をしている。皮膚、皮下腫瘍については理学所見を中心にエコー、CT、MRIなどの画像検査を組み合わせる複合的に病態を診断し、皮膚科と合同カンファレンスを行い、治療計画を立てている。また、切除した腫瘍については同カンファレンスにて病理診断の検討会を行っている。眼瞼疾患については眼瞼下垂を中心に、睫毛内反症などの治療を行っている。顔面神経麻痺においては静的再建やボトックスによる痙攣の治療を主に行っている。乳房再建では人工物や自家組織（広背筋皮弁、腹直筋皮弁、腹部穿通枝皮弁など）を用いた再建方法の中から患者に合った治療方法を選択している。褥瘡については皮膚科と合同で治療を行っており、入院患者の褥瘡治療は形成外科及び皮膚科、多職種を含めた褥瘡対策チームで対応している。糖尿病性足壊疽や重症虚血肢などの難治性創傷は他科と連携の上治療を行っている。この他にも副耳、耳瘻孔、ケロイド、腋臭症、陥入爪の治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診察は原則1診体制。初診、再診共に1診体制で対応している。月、水曜は齋藤が担当。火、金は吉池が担当。また緊急の外傷も随時引き受けて対応している。

2) 病棟体制

病棟は齋藤、吉池ともに担当。形成外科内でも情報を共有し、対応できるようにしている。共観患者に関しても同様に行っている。

3) 手術スケジュール

主には月曜日と金曜日午後に局所麻酔の手術、全身麻酔や臨時の局所麻酔の手術に関しては、全科共通枠で必要に応じ、対応している。手術は全て中央手術室で行っているが、外傷や緊急性のある小手術に対しては外来処置室にて対応している。

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表2）
- 2) 入院診療実績（表2）
- 3) 手術実績（表3）

4. 認定医・専門医など

日本形成外科学会専門医 2名（齋藤、吉池）
乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施医 2名（齋藤、北中）
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医 1名（齋藤）

5. 業績

研究会発表

1. 齋藤拓也：眼瞼下垂と床ずれ（それ形成外科で診ます）、第161回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年11月, 大阪
2. 齋藤拓也：「陰圧閉鎖療法が効果的なのはどんな創傷？ ～症例で学ぶ治療の戦略～」, 褥瘡対策委員会 勉強会, 2023年12月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
齋藤		吉池		齋藤				吉池	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	2,907	2,406	2,645	3,148	2,297
入院	869	528	324	506	670

表3 2023.4～2024.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
眼瞼のその他の障害	17	3
その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	11	3
皮膚のその他の悪性新生物	10	6
乳房の悪性新生物	7	16
毛嚢のう〈嚢〉胞	3	13
頭蓋骨および顔面骨の骨折	3	4
皮膚の上皮内癌	2	8

放射線診断・IVR科

スタッフ 部長：小林美登利（中央放射線部長）
副部長（部長待遇）：牧 大介 合田晴一

1. 診療内容

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、生検など）、核医学診断（SPECT、PET-CT）を行っている。

3名の放射線診断専門医（常勤）が、大阪大学ならびに大阪市立大学の専門医（非常勤）の支援を得て、質の高い画像診断とIVRを実践している。

2. 臨床実績（2023年4月1日から2024年3月31日）

- 1) 画像診断CT 18,163例、MRI 6,757例、単純X線1,565例、SPECT 552例、PET-CT 495例
- 2) 血管系IVR 6例（肝動脈塞栓術、止血術）
- 3) 非血管系IVR 5例（CT下生検（肺など）3例、経皮的膿瘍ドレナージ2例）

3. 認定医、専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 3名（小林、牧、合田）
日本IVR学会専門医 2名（牧、合田）
PET核医学認定医 1名（小林）

表1 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
IVR		○						○		

※放射線診断は毎日実施

表2 外来検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
単純撮影	★ 紹・予	★ 紹								
CT(単・造)	● 紹・予									
MRI(単・造)	● 紹・予									
骨塩定量	● 紹・予									
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
RI	● 紹・予									
PET-CT	● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可

表3 年度別外来延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
放射線診断・IVR科	1,166	1,006	1,013	1,190	1,230

放射線治療科

スタッフ 部長代行：丸岡真太郎

1. 診療内容

2017年4月より「放射線治療科」を新設し、診療を開始した。

がん治療の三本柱の一つである放射線により各種がんに対する放射線治療を行っており、根治目的の放射線治療だけでなく、がんによる各種症状を和らげるための緩和的照射も行っている。2018年5月より新リニアック装置TrueBeamに機器更新を行い、体幹部定位照射をはじめとした高精度放射線治療を行っている。

2022年4月よりⅢ期肺癌に対する高精度放射線治療を開始した。

主な対象疾患は下記の通り

頭頸部腫瘍、消化器腫瘍（食道癌、膵臓癌、肝臓癌等）、泌尿器科腫瘍（前立腺癌、膀胱癌等）、婦人科腫瘍（子宮頸癌、卵巣癌等）などの悪性腫瘍に対する放射線治療、頭蓋内腫瘍、体幹部腫瘍（肺、肝臓等）、Oligometastasisに対する定位放射線治療、ケロイド等良性疾患に対する放射線治療、骨髄移植前処置としての全身照射

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

総計227件

造血器・リンパ	29件
婦人科	6件
頭頸部	20件
乳腺	26件
消化器	17件
泌尿器	42件
肺縦隔	87件
うち	
定位照射 転移性脳腫瘍	5件
原発性肺癌・肝癌	12件
全身照射	9件

4. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線科専門医	1名（丸岡）
日本医学放射線学会放射線治療専門医	1名（丸岡）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
丸岡	丸岡	立川	丸岡						

表2 年度別外来延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
放射線治療科	2,624	2,721	2,722	2,718	2,761

スタッフ 部 長：花田留美（中央手術管理部部長代理）
副 部 長：玉井 裕（部長待遇）、藤原優子、日野未来
常勤嘱託：清水梨江

1. 診療内容

診療内容としては、主に手術麻酔管理、ペインクリニック外来、緩和医療をおこなっている。2023年度は5月にCOVID-19が5類へ移行したこともあり罹患患者の挿管症例に対して、オンコールでの緊急の挿管対応の患者はなく経過した。

1) 手術麻酔管理

手術時の麻酔だけでなく、術前評価、手術麻酔、術後診察を一連として麻酔管理としている。

予定手術においては、外来受診可能な状態の患者の術前診察を麻酔科外来で週5日行っている。術前診察で、患者の全身状態の評価を行い、最も適した麻酔法を選択する。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・神経ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。麻酔法およびその合併症について患者さんに十分に説明し、理解していただく。信頼関係を確立するためにも術前診察は非常に重要であり、時間をかけている。

できるだけベストな状態で手術に臨めるように他部門とも連携している。まず、術前問題点を早期に把握するため麻酔科管理症例については、2017年より全例入退院センターにてスクリーニングを兼ねて麻酔科術前問診票を記入いただき、術前問題点があれば各科に連絡し、早期に手術認定看護師の介入、術前禁煙指導、呼吸器内科での治療や呼吸器リハビリ、術前体重コントロールのための栄養指導、薬剤部へ入院前の内服薬の把握などを依頼し、麻酔科での術前診察が行われるまでに問題点が少しでも改善され、周術期合併症のリスク軽減がなされるようなシステムを構築している。緊急手術では、適宜術前診察を行うが、当日緊急手術においても、迅速に効率よく手術まで行えるように手順を整理している。

術後疼痛管理も以前から積極的に行ってきた。必要時はPCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用しているが、2023年度からは術後疼痛管理チーム立ち上げて、まずはフェンタニルでの静注PCA症例、硬膜外麻酔併用症例において看護師だけでなく、臨床工学技士、薬剤師にも術後疼痛管理チームスタッフとして参加してもらい、チーム

での介入を本格的に実施し始めている。2023年度の介入件数の実績は、694件となっている。

2) ペインクリニック外来

2023年度も週4日開設し、他科、他院からの紹介患者を主に診察している。外来では、硬膜外ブロック、エコー下ブロックなどを行い、必要時は週1～2回水曜日（月曜日）午後より、放射線科での透視下ブロックをおこなっている。2021年度までは、透視下ブロックを手術室で行っていたが、2022年度からは手術室運用見直しとともに透視下ブロックは放射線科のアンギオ室を使用させていただくこととなり、ブロックのための時間がしっかり確保できたので、水曜午後からすべて透視下ブロックの枠に変更し、透視下ブロック件数は増加してきている。2022年度の透視下ブロック件数は、124件であったが、2023年度は134件となっている。また、ペインクリニック診療と並行して、緩和ケアチーム介入症例での外来受診時の麻薬調整などの疼痛コントロールも行っている。

3) 緩和医療

2008年2月より緩和ケアチームが発足し、入院中は依頼患者に主治医と連携しながら直接介入で対応し、主に身体症状の軽減に携わっている。日々の回診は、担当麻酔科医と専従の緩和ケア認定看護師で行っているが、チーム全体での回診とカンファランスは、週に1回月曜日に行い、薬剤部、認定看護師、ソーシャルワーカー、放射線治療医、臨床心理士と常に連携しよりよい症状緩和を目指している。また、緩和ケア研修会（PEACE）も2015年度より麻酔科医減少のため一時中断していたが、スタッフの増加に伴い、2020年度から再開している。2021年度はCOVID-19感染対応の影響を受け、2021年度の緩和ケア研修会の開催はやむなく中止となったが、2022年度、2023年度は予定通り開催することができた。そして、2023年度は2024年2月10日のがん患者の診療に携わる当院の医師、看護師のみならず、地域医療を担う訪問看護師の方にもご参加いただき、いろいろな立場からの活発なグループワークを行うことができた。

4) その他

当院のプログラムでは初期研修中の1年目の1ヶ月は麻酔科を研修する。初期研修中に到達すべき経験目標としての基本的な手技のうち、気道確保、

静脈ルート確保、腰椎穿刺、気管挿管の技術に関しては、当科にて身につけさせるように指導している。1ヶ月では、なかなか技術の習得までは難しいが、その後の研修の基礎となるような指導を心がけている。また、将来どの診療科に進んでも役に立つように緩和医療に関しても興味がある初期研修医には、さらに1か月麻酔科を選択していただき、緩和ケアチームに積極的に参加してもらい、基本的な医療用麻薬の使い方やその他の症状緩和への対応などができるように指導している。

COVID-19への対応以降、手術室では、マスク換気、挿管操作などエアロゾルによる感染リスクが高いという認識が定着し、COVID-19感染患者のみならず、そのほかの感染症にも対応できるように、すべての全身麻酔管理症例において、挿管、抜管時の防護具の装着は2020年度からずっと継続している。

そのほか、救急救命士の挿管実習は2019年度から2022年度まで外部からの研修の受け入れは困難と判断してお断りしていたが、2023年度からは1名のみではあるが受け入れを行い、再開した。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール (表1)
- 2) 病棟体制

2020年度からは緩和ケアチームの回診を1名/日交代で担当している。緩和ケアチーム介入患者の疼痛などの身体症状管理を緩和ケア認定看護師と連携して行っている。

3. 診療実績

新病院への移転後、2020年度からはCOVID-19の影響を受けて麻酔科管理症例の予定手術は減少傾向であったが、2022年度からは徐々に増加している。総手術件数3559例、うち麻酔科管理手術件数は2122例、緊急手術は63例と緊急手術は減少傾向であったが、予定症例は増加となり、コロナ以前の状態に徐々に回復しつつある。(2022年度は、総手術件数3433例、うち麻酔科管理手術件数2085例、緊急症例は97例であった。)

当院では、血液浄化センターを併設していることも有り、症例も重症化、複雑化、多様化し、透析患者の手術症例も増えて来ていたが依然としてその傾向がある。

緩和ケアチーム依頼患者は、2023年度は、入院は222例、そのうち、がん患者は201例、非がん患者(慢性心不全、末梢血管障害、透析患者など)は21例、外来は22例となっている。(2022年度は、入院はのべ241例、そのうち、がん患者は224例、非がん患者は17例、外来は30例の患者に対応した。)2022年度より症例数は減少しているが、非がん患者の症例は微増しており、非がん患者の身体的苦痛に対しての緩和ケアにも注目されるようになってきたと思われる。今後も非がん患者で

の症状コントロールの依頼が増加すると思われる、引き続き対応していく必要がある。

ペインクリニック外来では、2018年度より大阪大学から月曜日にペインクリニック専門医を招聘し、手術室での外来透視下ブロック、超音波ガイド下ブロックなども積極的におこなってきたが、2022年度からは2週間に1回の水曜日に西宮市立中央病院から松村陽子先生に来ていただき、午前は外来、午後からはアンギオ室での透視下ブロックの指導を行っていただくことにより技術の向上が見られ、スタッフのみでのブロック件数も徐々にふえてきている。外来患者の延べ人数も2023年度は4652件と、2022年度の3728件を上回り、コロナ前の水準に戻りつつある。2022年度のブロック件数は、超音波ガイド下240例、透視下124例、高周波熱凝固30例、硬膜外ブロックなどのその他のブロックは103例であったが、2023年度は、超音波ガイド下290例、透視下134例、高周波熱凝固32例、その他のブロック109例とすべてのブロックの件数が増加している。また、初診は紹介患者のみとしているが、院内紹介は2022年度63例、2023年度63例と横ばいだが、院外からは2022年度10例に対して、2023年度は16例と少しずつ院外からの紹介も増えてきている。

緩和ケアにおいては、ペイン患者での透視下ブロック枠があるため、院内の緩和ケア介入患者への不定期な内臓神経ブロックなどの透視下ブロックも以前より積極的に行える体制となっているが、2023年度は症例がなく経過した。今後は、厚生労働省からもがん患者の痛みへの対応について、地域で連携することにより神経ブロック等活用していくことが通達されており、他院からの緩和ケア患者への神経ブロック依頼も増えたと予想され、受け入れる体制作りが必要と考えている。

- 1) 外来診療実績 (表2)
- 2) 入院診療実績 (表2)

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医・専門医

6人(花田、玉井、藤原、日野、清水、佐藤)

日本緩和医療学会認定医

2人(花田、玉井)

麻酔科標榜医

6人(花田、玉井、藤原、日野、清水、佐藤)

日本ペインクリニック学会専門医

3人(花田、清水、松村)

5. 業績

学会発表

1. 日野未来, 玉井 裕, 藤原優子, 清水梨江, 三上麻紀子, 花田留美: 硬膜外麻酔後の広範な知覚低下からカテーテルの硬膜下腔迷入を疑い、X線透視およびCT撮影を行いカテーテル位置を確認した1例, 第69回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 2023年9月, 大阪

研究会発表

1. 清水梨江, 松村陽子：慢性腰痛の治療に難渋した症例, 疼痛勉強会, 2024年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
佐藤 (術前)	佐藤 (術前)	日野 (術前)	日野 (術前)	藤原 (術前)	藤原 (術前)	玉井 (術前)	藤原 (術前)	清水 (術前)	清水 (術前)
清水 (ペイン)	透視下 (ブロック)	玉井 (ペイン)	玉井 (術前)	日野 松村 (ペイン)	透視下 (ブロック)			花田 (ペイン)	花田 (術前)

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	4,704	4,296	3,600	3,728	4,652
入院	37	36	5	0	6

表3 2021.4~2022.3 ブロック実績

ブロック名	件数	
	2022年	2023年
超音波ガイド下ブロック	240	290
透視下神経ブロック	124	134
高周波熱凝固（パルス高周波を含む）	30	32
その他外来ブロック	103	109

リハビリテーション科

スタッフ 部長：辻 成佳（リハビリテーション室室長）

1. 診療内容

当院のリハビリテーション診療の目標は、各診療科と連携し、入院患者さんを中心に最適な状態で日常生活が過ごせるように入院患者さんを中心にサポートすることであり、その目標のために理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が共同して適切なリハビリテーションの質と量で患者さんをサポートしていく体制をとっています。

リハビリテーション科診療

入院患者さんを中心に以下の業務を行っています。

- ①急性期疾患で入院された方の回復を促進するリハビリテーション。
- ②慢性疾患の急性増悪で入院された方に、在宅生活につなげるリハビリテーション。
- ③急性期から回復期・維持期へ移行する患者さんは、退院調整看護師、MSWと連携し、転院先へ繋がります。また在宅復帰される患者さんは、在院中に日常生活動作を確認し、速やかに地域包括支援センター等と連携し、在宅支援の引継ぎを推進。

リハビリテーション科・室の“ミッション”

上記の診療を行っていくうえで当院のリハビリテーション科・室では、

“当科のミッション”として

“患者さんの身体を癒し、心を豊かに活力のあるものにする”を掲げています。

そのための“5つの約束”を決めています。

- ①お互いに尊厳と承認の心をもって接し、働きやすい環境を作る。
- ②医療上で不可欠な要素として、多様性を積極的に受け入れる。
- ③リハビリテーション技師として常に最高級レベルの治療技術を目指す。
- ④患者さんが心から満足するサービスを常に提供する。
- ⑤地域社会や環境保護に積極的に貢献する。

患者さんにより良い医療サポートを提供できるよう、リハビリテーション科・室スタッフは一丸となって取り組んでいます。

代表的な対象疾患は以下の通りです

- 運動器リハビリテーション・・・骨折、人工関節、脊椎疾患（腰、頸部）、筋・腱外傷など
- 脳血管疾患等リハビリテーション・・・脳卒中、脳外傷、水頭症、パーキンソン病、脳脊髄変性疾患など
- 心大血管リハビリテーション・・・心大血管疾患、

急性心筋梗塞や心臓手術後、心不全の増悪、末梢血管閉塞など

- 廃用症候群リハビリテーション・・・消化器疾患・感染症・各疾患手術後などに生じる廃用症候群。
- がん患者リハビリテーション・・・各領域のがん治療。
- 呼吸器リハビリテーション・・・肺炎、慢性閉塞性肺疾患の急性増悪、外科手術の周術期の呼吸機能障害など

当院の特徴的な取り組みとして

- ①骨盤底筋リハビリテーション・・・婦人科・外科・泌尿器科などにおける疾患・術後の骨盤底筋の機能低下およびその障害など
- ②乾癬センターの一部門として乾癬患者の体幹および関節障害に対するリハビリテーション・・・乾癬センター通院中の乾癬性関節炎患者さんの体幹・四肢関節障害など

下記3の診療実績に見られるように、幅広いリハビリテーションが可能になり増加しています。

2. 診療体制

外来診察スケジュール、月曜から金曜の午前中に実施。

3. 診療実績

2023年4月～2024年3月

運動器リハビリテーション	7,045件
脳血管疾患等リハビリテーション	4,341件
心大血管疾患リハビリテーション	2,767件
呼吸器リハビリテーション	7,846件
廃用症候群リハビリテーション	7,312件
がん患者リハビリテーション	7,046件
合計	36,357件

2023年4月～2024年3月

リハビリテーション実施によるADL（日常生活動作）の変化	BI点数（初回）	BI点数（リハ後）	利得点数
運動器リハビリテーション	71.9点	86.3点	14.4点
脳血管疾患等リハビリテーション	51.8点	69.0点	17.2点
心大血管疾患リハビリテーション	61.8点	80.6点	18.8点
呼吸器リハビリテーション	53.4点	67.3点	13.9点
廃用症候群リハビリテーション	48.1点	64.9点	16.8点
がん患者リハビリテーション	76.7点	86.3点	9.6点

BI：Barthel Index、バーセル指数はリハビリテーション領域のADLの評価方法のひとつで、100点を満点で自立としています。利得は、BI利得＝（BIリハ後－BI初回）の計算で求め、高値はリハビリテーション効果を出し生活動作の各項目が自立していることとなります。

4. 担当医師 専門医・認定医など

辻 成佳 (つじ しげよし)

理事：日本脊椎関節炎学会

評議員：日本リウマチ学会・日本骨関節感染症学会・

日本リウマチの外科学会

日本臨床栄養学会

指導医：日本化学療法学会 / ICD

専門医：日本整形外科学会・日本人工関節学会・

日本骨粗鬆学会

からだ運動器の痛み専門医療者・サルコペニア

フレイル指導士

5. 業績

論文・著書

1. Isoda K, Tsuji S, Harada Y : Potential of the prognostic nutritional index to determine the risk factor for severe infection in elderly patients with rheumatoid arthritis, *Mod Rheumatol*, 33 (1) : 88-95, 2023年
2. Suzuki M, Asai S, Hara R, Hirano Y, Nagamine S, Tsuji S, et al : Choice of and response to treatment in patients with early-diagnosed rheumatoid arthritis: Real-world data from an inception cohort in Japan (NICER-J) , *J Orthop Sci* ,29 (3) : 921-926, 2023年
3. Takami K, Tsuji S, Nishikawa M, Owaki H : Association of the Clinical and Radiographic Findings at Onset With Future Joint Destruction in Patients With Rheumatoid Arthritis, *Cureus*, 15 (5) : e39428, 2023年
4. 辻 成佳, 東山眞里 : 医療ルネッサンス 乾癬 ② “乾癬性関節炎”, *読売新聞 全国版 朝刊*, 8020 : 12, 2023年
5. Higuchi Y, Hirao M, Noguchi T, Etani Y, Ebina K, Tsuji S. : Early mobilization of dorsiflexion from 3 days after cemented total ankle arthroplasty with modified antero-lateral approach, *J Orthop Sci*, 29 (3) : 874-879, 2023年
6. Mease P, Setty A, Papp K, Van den Bosch F, Tsuji S, Keiserman M, et al : Upadacitinib in patients with psoriatic arthritis and inadequate response to biologics: 3-year results from the open-label extension of the randomised controlled phase 3 SELECT-PsA 2 study, *Clin Exp Rheumatol*, 41 (11) : 2286-2297, 2023年
7. Takami K, Tsuji S : Extensive subcutaneous emphysema of the thigh as a rare complication following total knee arthroplasty: A case report, *Int J Surg Case Rep*, 109 : doi: 10.1016/j.ijscr.2023.108466, 2023年
8. Inoue E, Hiroumi S, Sato S, Hayashi M, Konaka H, Tsuji S, Higashiyama M : Palmoplantar pustulosis and pustulotic arthro-osteitis associated with multiple venous occlusion: A case report and literature review, *J Dermatol*, 50 (8) : 1076-1080, 2023年
9. Fujita S, Honjo H, Takada R, Hara A, Masuta Y, Tsuji S, et al : Ulcerative Colitis-associated Spondyloarthritis Successfully Treated with Infliximab in the Absence of Enhanced TNF- α Responses, *Intern Med*, 62 (17) : 2493-2497, 2023年
10. Takami K, Tsuji S, Owaki H : Preoperative degree of deformity and underlying disease affect the postoperative deformity of joint-preserving hallux valgus surgery, *J Orthop Surg (Hong Kong)* , 31 (3) : doi: 10.1177/10225536231206536, 2023年
11. 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 廣田将史, 泉本亮二, 田中孝, 新井聖章, 藤岡栄悟, 藪田拡武, 世博智貴, 阪本拓也, 四釜淳子, 清水晴奈, 辻 成佳 : 要介護認定のない入院患者にお

ける Phase angle と筋量・運動機能との関連性について－横断研究－, *日本生命病院医学雑誌*, 51 : 31-35, 2023年

12. 辻 成佳 : 掌蹠膿疱症性骨関節炎, *リウマチ科*, 70 (4) : 370-375, 2023年
13. 辻 成佳 : 整形外科医が診る乾癬性関節炎 乾癬と骨・関節～専門医の視点から～, *PS JAPAN : 乾癬患者の生活サポートマガジン*, 29 : 22-30, 2023年
14. Takami K, Tsuji S : Real-world retention rates of biologics in patients with rheumatoid arthritis, *Sci Rep*, 13 (1) : 21170, 2023年
15. Takami K, Tsuji S, Sato S, Akaji K, Yamashita C, Hiroumi S, et al : Long-term retention rates of anti-TNF and anti-IL-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, *Mod Rheumatol*, doi: 10.1093/mr/roae003 : Online ahead, 2023年
16. 辻 成佳 : 【脊椎関節炎診療のupdate】乾癬性関節炎, 炎症と免疫 2024年1月号, *Vok*, 32, No.1 : 44-48, 2023年
17. Tsuji S, Okubo Y, Kishimoto M, Taniguchi Y, Ishihara Y, Tamura M, et al : Modified Pustulotic Arthro-Osteitis diagnostic guidance 2022 -Modified Sonozaki criteria- Secondary publication, *Mod Rheumatol*, doi: 10.1093/mr/roae003 : Online ahead, 2024年
18. Sakata M, Hirao M, Noguchi T, Okamura G, Takami K, Tsuji S, et al : Early full weight-bearing and gait exercise after cemented total ankle arthroplasty with modified antero-lateral approach, *Mod Rheumatol*, doi: 10.1093/mr/roae005 : Online ahead, 2024年
19. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S : Osteoporosis and Osteopenia in patients with psoriatic arthritis: a single-center retrospective study, *Mod Rheumatol*, doi: 10.1093/mr/roae028 : Online ahead, 2024年
20. 大出佳寿, 谷口義典, 辻 成佳, 小林茂人 : 下肢に著明な異所性骨形成をきたし, 診断に苦慮したSAPHO症候群と考えられた一例, *日本脊椎関節炎学会誌*, 10 (1) : 57-64, 2023年

学会発表

1. 福西香栄 (近畿大学消化器内科), 本庶 元, 岡井夏輝, 河野匡志, 鎌田 研, 三長孝輔, 米田頼見, 辻 成佳, 渡邊智裕, 工藤正俊 : 腸内細菌に対する炎症性サイトカイン応答の増強を示すクローン病関連脊椎関節炎の一例, *日本消化器病学会近畿支部例会*, 2023年2月, 大阪
2. 辻 成佳, 前田悠一, 高見賢司, 富田哲也 : 歯根嚢胞部の16S rRNA解析を行った掌蹠膿疱症性骨関節炎の一例, *日本骨免疫学会 WINTER SEMINAR*, 2023年2月, 長野
3. Takami K, Tsuji S : EXAMINATION OF NUTRITIONAL STATUS OF PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS IN NINJA 2019, *CORA 2023*, 2023年3月, Turin
4. 高見賢司, 辻 成佳 : The case of pustulotic arthro-osteitis of a 12-year-old female and whose symptoms improved after tonsillectomy, *第67回日本リウマチ学会*, 2023年4月, 福岡
5. Philip J. M, Kim P, Tsuji S, William T : Long-term Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis Refractory to Biologic Therapies: 2-Year Results From the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, *British Society for Rheumatology*, 2023年4月, Manchester
6. Rodrigo LA, Philip J.M, Tianming G, Tsuji S, William T, Filip VB : Efficacy Of Upadacitinib In Patients With Psoriatic Arthritis And Prior Exposure To Anti-Tnf Therapy In The Select-PsA 2 Trial Through 2 Years, *PANLAR 2023*, 2023年4月, RiodeJaneiro
7. 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 安達幸恵, 廣田将史, 泉本亮二, 田中 孝, 新井聖章, 藤岡栄悟, 藪田拡武, 世博智貴, 辻 成佳 : 入院関連機能障害の予防にむけた今後の取り組み, *日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会*, 2023年5月, 大阪
8. 辻 成佳, Laura C Coates, Arthur Kavanaugh, Erin McDearmon-blondell, William Tillet : PsA患者における

RAPID3スコアのウパダシチニブとアダリマブの比較, 第67回日本リウマチ学会, 2023年5月, 福岡

9. 辻 成佳：皮膚科クリニックでのPaA (psoriatic arthritis) 関節診察について, 第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 2023年6月, 札幌
10. Philip J. M. Kim P, Tsuji S, William T : Safety and Efficacy of Upadacitinib in Patients with Psoriatic Arthritis and Inadequate Response to Biologics: 3-Year Results from the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, EULAR2023, 2023年6月, Milan
11. 高見賢司, 辻 成佳：A novel small molecule anti-NF- κ B peptide derived from nucleic acid suppresses bone loss in postmenopausal osteoporosis mouse model, 第41回日本骨代謝学会, 2023年7月, 東京
12. 高見賢司, 辻 成佳：A case of extensive emphysema of the thigh after total knee arthroplasty, 第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, 2023年8月, 奈良
13. 辻 成佳：掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き2022について, 第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, 2023年8月, 奈良
14. 辻 成佳：乾癬性関節炎における治療アプローチ～骨粗鬆症・骨量減少症を考える～, 第38回日本乾癬学会学術大会スイーツセミナー, 2023年8月, 東京
15. 高見賢司, 辻 成佳：Long-term retention rates of anti-TNF and anti-IL-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, 第33回日本脊椎関節炎学会, 2023年9月, 神戸
16. 辻 成佳：掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き2022について, 第33回日本脊椎関節炎学会, 2023年9月, 神戸
17. 辻 成佳：中等症から重症の掌蹠膿疱症患者に対するリサンキズマズの有効性と安全性, 第33回日本脊椎関節炎学会, 2023年9月, 神戸
18. 辻 成佳：TNE Bs剤に効果不十分又は不耐の乾癬性関節炎患者における血清バイオマーカーに対するGuselkumabの影響：COSMOS試験の結果より, 第33回日本脊椎関節炎学会, 2023年9月, 神戸
19. 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 安達幸恵, 廣田将史, 泉本亮二, 田中 孝, 新井聖章, 藤岡栄悟, 藪田拓武, 世博智貴, 辻 成佳：急性期病院入院患者におけるPhase angleと入院関連機能障害との関連性について－予備的検証－, 日本予防理学療法学会学術大会, 2023年10月, 函館
20. 辻 成佳：Bimekizumab (BKZ) で治療したPsA患者はPsAID-12質問票を使った評価で症状の持続的改善を示す：2つの第3相試験の1年結果, 第38回日本臨床リウマチ学会, 2023年11月, 北九州
21. 廣田将史, 藤岡栄悟, 麦田盛穂, 田中 孝, 白川 桂, 新井聖章, 藪田拓武, 世博智貴, 片岡宏一郎, 辻 成佳：間質性肺炎患者に対し自己効力感に着目した介入で運動耐容能・ADL向上に繋がった一症例, 日本呼吸器学会近畿地方会第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会 合同学会, 2024年1月, 大阪
22. 井上健太, 大木莉夏, 高見賢司, 行方雅人, 辻 成佳, 西原俊作：IL36RN遺伝子ヘテロ接合体変異 (c.115+6T>C) を有する小児掌蹠膿疱症性骨関節炎の扁桃摘出術による治療が奏効した1例, 第461回整形外科集談会 京阪神地方会, 2024年2月, 大阪

研究会発表

1. 辻 成佳：脊椎関節炎 (SpA: Spondyloarthritis) および掌蹠膿疱症性骨関節炎について, 第153回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年2月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
		辻		交代 (初めの方のみ)		辻		辻	

表2 年度別外来延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	4,015	3,607	3,522	2,786	1,253

救 急 総 合 診 療 科

スタッフ 主任部長：岸 正司（副院長、救急総合診療センター長、集中治療室長、医療安全対策室長）
 副 部 長：宇都佳彦（臨床研修部長代行）
 副 医 長：暮部裕之
 副 医 長：高森啓成
 専 攻 医：熨斗 優（2024年2月）、橋本紘宣（2023年4月～7月、2023年12月～2024年1月）、
 阿部凌子（2023年10月～11月）、山下千賀子（2023年8月～9月）

1. 診療内容

救急外来初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、臨床研修医のプライマリケア、救急全般に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムも担っている。

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
高森/岸	暮部/高森	暮部/岸	高森/(宇都、岸)	高森/宇都	暮部/(宇都)	高森/岸	高森/暮部	高森(暮部)/岸	暮部/(宇都)

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	3,745	5,613	6,152	5,601	5,088
入院	6,559	1,532	2,903	3,059	4,849

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

4. 認定医・専門医など

日本救急医学会指導医 1名（岸）
 日本専門医機構救急科専門医 1名（岸）
 日本内科学会認定専門医 1名（宇都）
 日本内科学会認定内科医 2名（宇都、暮部）
 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名（暮部）
 日本専門医機構内科専門医 1名（高森）

5. 業績

論文・著書

1. 岸 正司, 暮部裕之, 宇都佳彦, 中川 厚, 新谷 隆, 水野 均: 当院における中心静脈カテーテル挿入認定制度の策定, 大阪救急, 108: 10-15, 2023

学会発表

1. 新名航平, 宇都佳彦, 高森啓成, 暮部裕之, 岸 正司: 遊走性紅斑を欠くライム病の一例, 第243回日本内科学会近畿地方会, 2024年3月, 大阪

研究会発表

1. 岸 正司: 大切な人に急なことが起きたら、あなたは どうしますか, 30分でよくわかる健康講座, 2023年6月, 大阪
 2. 岸 正司: 外傷初期診療ガイドラインの概説 - 専門医ではなくけがの患者を診療する可能性のある医師へ向けて -, 第163回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年1月, 大阪

検査診断科

スタッフ 部長：大山摩佐子（予防医学センター副センター長）

1. 診療内容

日常診療において、診断・治療を行うには、正確かつ迅速な検査が求められる。

当院は地域医療支援病院として病診連携を進める上で、高度で専門的な検査を行うことや、患者さんへの継続的なケアを安定して受けていただくために、病診連携検査（CT、MRI、消化管検査、生理検査）を行っている。

検査診断科では、特に地域のかかりつけ医の先生方へ生理検査として、各種超音波検査（頸部エコー、甲状腺エコー、心エコー、腹部エコー、血管エコー）や呼吸器、循環器、神経学的検査を病診連携検査として行っている。

地域の様々な医療機関がその機能を十分に発揮しながら相互に連携することで、地域の患者さんを総合的、効果的かつ継続的にケアし、患者さんのための医療を目指していく。

病 理 診 断 科

スタッフ 部長代行：城光寺龍

1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、病理診断管理加算Ⅰの算定を行なっているほか、病理部門システム（松波ガラス Pathwindow）にて、標本作製過程へのバーコード導入により検体取り違い防止のための機構を導入しているほか、デジタル画像の報告書への添付も行っている。

新規診療内容としては、液状化細胞診（Thinprep）を非婦人科以外の材料へ広げ、標本作製の標準化および省力化を行っている。

一部医療機関との間で検査（免疫染色）の受託を行っている。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師 1名（大阪警察病院より）

臨床検査技師（中央検査部兼任）：

6名（細胞検査士4名）

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：6,417件

細胞診断：9,718件

術中迅速診断：177件

病理解剖：5件（内科系5件、剖検率2.3%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
R01	5,715	11,307(4,602)	124	10
R02	6,060	9,670(3,402)	195	4
R03	6,069	9,696(4,146)	171	8
R04	6,479	9,752(4,266)	213	5
R05	6,417	9,718(4,342)	177	5

2023年度はCPCの開催は7回行われ、内容は下記の如くであった。

第319回 6月30日：血胸（呼吸器・免疫内科）

第320回 9月1日：急性心筋梗塞（循環器内科）

第321回 10月6日：肺癌（呼吸器・免疫内科）

第322回 11月21日：骨髄異形成症候群（血液内科）

第323回 12月26日：出血性胆嚢炎（消化器内科）

第324回 2月20日：肺癌（呼吸器・免疫内科）

第325回 3月19日：睪臓NET（腎臓内科）

4. 業績

論文・著書

1. 山下晋也, 水野 均, 城光寺龍：術前診断に難渋した虫垂子宮内膜症による虫垂重積の1切除例, 日本大腸肛門病学会雑誌, 76：359-367, 2023年
2. 山下晋也, 松下和子, 北田隆起, 城光寺龍, 河田奈都子, 若原ちか, 永井健一, 太田英夫, 生島裕文, 有坂好史, 水野 均：術前診断に難渋した4型直腸癌の1切除例, 癌と化学療法, 50：532-534, 2023年
3. Yanagisawa A, Kinehara Y, Tanaka M, Ninomiya R, Nishioka M, Ochiai S, et al：Candida Pneumonia in a Young Vegan Man with Diabetic Ketoacidosis, Internal Medicine, 62 (24)：3679-3683, 2023年
4. Takami K, Tsuji S, Jokoji R, Okubo Y, Higashiyama M：Paediatric pustulotic arthro-osteitis patient with an IL36RN variant, heterozygous c.115+6T>C, who was successfully treated with tonsillectomy: A case report and literature review, Exp Dermatol, 33 (1)：e15016, 2024年

学会発表

1. 城光寺龍：Papillary renal neoplasm with reverse polarityの1例, 第112回日本病理学会総会, 2023年4月, 下関
2. 中嶋七海, 城光寺龍：喉頭腫瘍の1例, 第104回病理学会近畿支部学術集会, 2024年2月, 大阪

予 防 診 療 科

スタッフ 部 長：栗波仁美（予防医学センター長）
 松岡洋人（予防医学センター副センター長）
 梅下光子

1. 2023年の概要

予防医学センターにて健診を行い要治療、要精密検査となった受診者に対しては主に日本生命病院の各専門診療科へ予約紹介を行っているが、専門診療科を受診する必要性が明らかでない検査異常について再検査を行う外来診療科として予防診療科を2022年に新設した。現在は週1回水曜午後、予防医学センターからのみの紹介を受けており2023年度は初診154件、再診176件の計330件の診療を行った。予防診療科への依頼で最も多かったのは表1の通りSCC（腫瘍マーカー）高値37件、CEA（腫瘍マーカー）高値26件、末梢血液検査（白血球、血小板）異常23件、CRP高値15件、脂質異常および糖代謝異常の6ヶ月後再検査14件であった。2022年度最も多かった肝機能異常が今回上位にあがっていないのは、2023年度から肝機能異常は消化器内科へ紹介することとなったためである。予防診療科にて再検査、精密検査を行った結果専門診療科へ紹介となったのは140件で2022年度の106件を上回った。専門科紹介のうちドックや健診結果に基づくものは132件、精密検査を行った結果新たに見つかった所見について紹介したものが8件あった。予防診療科から紹介した先の診療科内訳を表2-1、2-2に示す。2023年度も一番多い紹介先は消化器内科であった。肝機能異常を当科で見なくなったにも関わらず消化器内科への紹介が多いのは消化器に関する腫瘍マーカー検査の再検査を当科にて行うことが関係すると思われる。

なお禁煙外来は現在休止中であるが、今後は薬剤供給の目処がつき次第行っていく予定である。

表1 予防診療科紹介内訳

NO	科への依頼内容	% (占率)	件数
1	SCC高値	24.0%	37
2	CEA高値	16.9%	26
3	末梢血液 (WBC,Plt) 異常	14.9%	23
4	CRP高値	9.7%	15
5	脂質異常6ヶ月後再検査	9.1%	14

表2-1 予防診療科から他科への紹介
(ドック、健診結果に基づくもの)

NO	診療科	人数
1	消化器内科	42人
2	血液・化学療法内科	14人
3	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	10人
4	内分泌・代謝内科	6人
4	乳腺外科	6人
4	産婦人科	6人
7	呼吸器・免疫内科	4人
7	泌尿器科	4人

表2-2 予防診療科から他科への紹介
(検査にて新たに見つかった所見)

NO	診療科	人数
1	呼吸器・免疫内科	3人
2	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2人
3	循環器内科	1人
3	血液・化学療法内科	1人
3	整形外科	1人

救急総合診療センター

スタッフ センター長：岸 正司（副院長、救急総合診療科部長、集中治療室長、医療安全対策室長）
副センター長：中川 厚（循環器内科担当部長）、西原俊作（整形外科部長）
医師：宇都佳彦、暮部裕之、高森啓成、橋本紘宜（救急総合診療科）
森本祐太郎（消化器内科）、楠下 萌、落合 進、熨斗 優、森田香菜子
（内分泌・代謝内科）、柳澤篤志、神島 望（呼吸器・免疫内科）、
赤井奎太、阿部凌子（血液・化学療法内科）、平井祐里、山下千賀子（腎臓内科）、
大木莉夏（整形外科）、佐藤祥奈（皮膚科）
看護師：酒井亜紀子、牧田佐和子、湯浅賀容子、河合洋子、黒塚恭子
薬剤師・医療技能職：玉川雄一（中央臨床検査部）、田中恵介（臨床工学室）、
藤丸泰一（中央放射線部）、坂本彩弥（栄養管理室）、足立充司（薬剤部）
事務 務：吉永純一（総務人事G）、森本太輔（医事サービス部）

1. センターの概要

地域の救急医療における役割を意識しながら、その中核として円滑に機能するよう心がけている。

センター長（救急科専門医、指導医）、救急診療科スタッフのみならず、関連する診療科を代表する副センター長、内科当番医、外科系・内科系各科担当医（これらの指導の下で臨床研修医等も）が、総合力で救急患者の診療にあたっている。

2. 主な対象疾患

- ・重症度、内因・外因を問わず、当センター受診が必要と判断される急性病態
- ・紹介すべき診療科が特定しづらい病態

3. 主な検査と治療

- ・救急室における呼吸・循環管理（人工呼吸器など）
- ・ポータブル画像撮影
- ・超音波検査
- ・創傷処置
- ・小手術
- ・洗浄処置

がん治療センター

スタッフ センター長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、輸血管理室長、化学療法室長）
医 師：田中敏雄（消化器内科）、甲原雄平、二宮隆介（呼吸器・免疫内科）、
水野 均（消化器外科）、富田栄美子（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、
橋本奈美子（産婦人科）、高橋 励（神経科・精神科）、垣本健一（泌尿器科）、
金澤成典（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、小林美登利（放射線診断・IVR科）、
丸岡真太郎（放射線治療科）、花田留美、玉井 裕、日野未来、
清水梨江（麻酔・緩和医療科）
看 護 師：小山佐知子、高橋かおり、玉井千春、村上弘子、西川由佳子、増田ますみ、
阪井理恵、土井美奈子、鄭 恩愛（看護部）
薬剤師・医療技能職：田中 孝（リハビリテーション室）、浅井正宏（中央臨床検査部）、
矢野勝之（中央放射線部）、西本絵実（営業管理室）、宮麻紀子（薬剤部）、
本家裕子（あったかサポートセンター）、丸山加奈（神経科・精神科）
事 務：阿瀬康治（予防医学センター）、新村愛佑美（医事サービス部）、山口美里、
熊田洋子（あったかサポートセンター）

1. 診療内容

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

【主たる業務】

- 1) がんに関する集学的治療の充実
- 2) 緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する教育研修
- 3) がん治療に関する相談対応、情報提供
- 4) がん登録の推進

【具体的内容】

1) 集学的治療

- ①多診療科・多職種が参加するキャンサー・ボードを月1回の頻度で開催した。当番診療科（表1）の経験症例を中心に、それ以外の診療科における症例や緩和ケアチームが介入した症例に関する診断・治療方針の検討を行った。

②レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

2) 緩和ケア

- ①緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスを開催した。緩和ケアチーム依頼件数は244件（入院：222件、外来：22件）であった。

②緩和医療啓発のための講演会の開催

2024年3月15日 緩和ケア講演会開催
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター 心療・緩和科部長 和田信先生
「せん妄の評価と対応—投薬からケアのかかわりまで」

- ③がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく緩和ケア研修会

2024年2月10日に開催し、20名が参加した。

3) 相談支援

- ①がん患者指導管理料イの算定

がんの診断を受けた患者に対して、PEACE研修会

を受講した医師と有資格看護師（がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師・がん薬物療法看護認定看護師）とが共同して指導した場合に算定できるものであるが、404件に対して行った。

- ②がん患者指導管理料ロの算定

がん患者の心理的不安を軽減するための指導を386件に対して行った。

- ③がん患者指導管理料ハの算定

抗悪性腫瘍の投薬又は注射の必要性などについての説明を3件に対して行った。

- ④がん相談

がん治療に伴って生じる様々な相談を2598件受けた。治療・副作用、緩和ケア、ギアチェンジ・ACP、在宅医療・ホスピス等の療養の場、就労や医療費、アピアランス等の相談があった。

- ⑤がんサロン（あったか茶論）の企画・運営

2023年7月より対面形式での運営を再開した。2024年3月にはリンパドレナージ体験を始めとした様々な体験コーナーや15分ずつのミニレクチャー、個別相談会など、2時間の拡大イベントを企画・実施した。（表2）

- 4) がん登録

がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

表1 キャンサーボード

開催月	当番診療科	参加人数
2023年		
4月	乳腺外科	26名
5月	がん治療センター	29名
6月	麻酔・緩和医療科	32名
7月	開催なし	
8月	消化器内科	33名
9月	血液・化学療法内科	34名
10月	泌尿器科	36名
11月	呼吸器・免疫内科	44名
12月	呼吸器外科	39名
2024年		
1月	開催なし	
2月	消化器外科	33名
3月	産婦人科	25名

表2 がんサロン

開催月	テーマ	講師
2023年		
7月	管理栄養士が提案する「がん患者さんの栄養と食事の工夫 Part1	管理栄養士 坂本彩弥
8月	～治療中も自分らしく～ ～ここがポイント！ 簡単メイク編	元化粧品メーカー美容 部員 久木結香
9月	～ヨガ体験～椅子に 座ってできるやさしい ヨガ	ヨガインストラクター Miyako
10月	～がんの薬物療法シ リーズ①～免疫療法つ てなに？	がん薬物療法認定薬 剤師 六車裕一
11月	～指先を大切に～ 末梢神経障がいのか ケアと予防策	がん化学療法看護認定 看護師 玉井千春
11月	手先のリハビリ～ 折り紙でペンギンを作 ろう～	ボランティア団体： よつばのクローバー 湯浅秀雄
12月	～副作用対策～ 『口腔ケアのポイント を知って、毎日実践し よう』	大阪府歯科衛生士会 戸田ちか子
2024年		
2月	放射線治療専門放射線 技師に聞こう！『放射 線と治療』	がん放射線治療専門 放射線技師 新谷泰正
3月	がん茶論（サロン）特別版 『病気や治療、療 養生活のこと～情報提供・相談・体験～』	
	ミニ講座①「がんの痛 みとケア」	がん性疼痛看護認定 看護師 小山佐知子
	ミニ講座②「治療中も 運動しよう！」	理学療法士 新井聖章
	ミニ講座③「治療の副 作用～吐気～」	がん薬物療法看護認定 看護師 鄭 恩愛
	リハビリカラー診断& おしゃれケア帽子	ひとりプロジェクト 川西真寿美
	リンパドレナージ 体験	がん化学療法看護認定 看護師 玉井千春
	アロマセラピー体験	緩和ケア認定看護師 土井美奈子
		医療ソーシャルワ ーカー 本家裕子
	個別相談	理学療法士 新井聖章 認定看護師 小山佐知子／鄭 恩愛
	アピアランスケア 相談	(株)スヴェンソン

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：橋本奈美子（産婦人科部長）

医師：高山敬範、八田幸治、田中絢香、小和貴雄、宮本真由子、角田紗保里、金光麻衣、高木江利華、植田真帆、北山和樹、藤崎佳乃（産婦人科）、山下晋也（消化器外科）、垣本健一、湊のり子（泌尿器科）

看護師：吉岡真奈、麦田友里、藤本玲奈、久井貴美子、石井広美、岩崎由希子（看護部）

薬剤師・医療技能者：藤岡栄悟、安達幸恵（リハビリテーション室）、倉本訓子（中央臨床検査部）、山田純子（中央放射線部）、松村寿美（栄養管理室）、森岡浩子（薬剤部）

事務：津野百合香（医事サービス部）

1. 診療活動

我が国における高齢化は様々な問題を引き起こしており、婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50歳以上の女性の11%が手術を受けているという報告がある。

骨盤内臓器脱は直接的な死因にはならないが、QOL（生活の質）をひどく低下させる疾患である。疾患の特徴として、婦人科または泌尿器科のどちらを受診するかを迷い、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの、受診をためらう女性が多い。

当センターは、これらの疾患を治療しより良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートするために設立された。

手術療法の適応とならない軽症例については、リハビリテーション室にて指導を行い、再発予防のための減量目的に主に手術患者さんを対象に栄養指導も行っている。

1) 治療部門

〈外科的治療〉

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）：腹腔鏡下ロボット支援仙骨脛固定術（LSC, RSC）、腔式子宮全摘術、脛壁形成術、会陰形成術、ル・フォー中央脛閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁：中部尿道スリング手術（TOT手術）

●LSC（腹腔鏡下仙骨脛固定術）について

2020年度診療報酬改定により、ロボット支援下手術（RSC）が保険収載予定となり、当院でも2020年3月より導入している。

【2023年度 入院手術件数】

LSC/RSC	22件
脛壁形成（膀胱瘤手術）他	14件
腔式子宮全摘（VT）	13件
TOT	7件
脛閉鎖	3件
合計	59件

〈保存的治療〉

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁、過活動性膀胱（OAB）に対する薬物治療
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー修復・指導

【2023年度 栄養指導件数】

合計 7件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	1	3	0	0	1	0
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	1	0	1	0	0

【2023年度 リハビリ：骨盤底筋運動指導人数】合計75件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	12	10	5	4	2	8
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	6	5	4	6	8	5

2) 広報（サービス）部門

総合受付、予防医学センターでのパンフレット配布

糖尿病・内分泌センター

スタッフ センター長：橋本久仁彦

(副院長、内分泌・代謝内科部長、栄養管理室長、あったかサポートセンター長)

医師：中川 厚 (循環器内科)、宇都佳彦 (救急総合診療科)、宇津 貴、水本 綾、
光本憲祐、西垣内俊也 (腎臓内科)、中長摩利子 (小児科)、垣本健一 (泌尿器科)、
川崎 諭 (眼科)、齋藤拓也 (形成再建外科)、大畔健太 (内分泌・代謝内科)、
高森啓成 (救急総合診療科)、松島 希 (予防医学センター)、楠下 萌、落合 進、
熨斗 優、森田香菜子、橋本紘宣 (内分泌・代謝内科)、

看護師：下山優子、角南ちえ子、秦久美子、高山由美子、町田友里、石井泉美 (看護部)

管理栄養士：松村寿美、坂本彩弥、西本絵美 (栄養管理室)

薬剤師・医療技能職：森岡浩子 (薬剤部)、麦田盛穂、倉本訓子 (リハビリテーション室)

事務：木下奈美 (医事サービス部)、熊田洋子 (あったかサポートセンター)、
藤田陽平 (総合企画部)

1. 診療内容

糖尿病・内分泌センターにおいては、糖尿病および内分泌疾患を有する患者を中心として、専門性を有する院内の各診療科医師および各部門のメディカルスタッフにより、患者個人個人に合わせたオーダーメイドの質の高い診療を展開している。

2. 診療体制

糖尿病および内分泌疾患を有する患者の中でも、過食・偏食・運動不足などの生活習慣が影響を及ぼす糖尿病・肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などを有する患者を主体に、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士などによるチームが患者の状態を評価し生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑止し少しでも健康に近づけるような診療を目指している。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～金曜日の5日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、内分泌・代謝内科、腎臓内科、看護部、栄養管理室、リハビリテーション室、中央臨床検査部、薬剤部が協力しながら、糖尿病に関する集団指導 (糖尿病ふれあい教室) を週2日実施した。またセンター長による回診 (COVID-19流行後は単独で診察) を毎週月曜日に行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

①オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測

定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。2023年度に当センターを受診した患者数は延べ1,973名 (2022年度は2,198名) であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した (糖尿病合併症管理)。2023年度における実施件数は128件 (2022年度は191件) であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した (糖尿病透析予防指導管理)。2023年度における実施件数は544件 (2022年度は796件) であった。

2) 入院患者の診療

①糖尿病集団指導

〈糖尿病ふれあい教室講師〉

- ・内分泌・代謝内科：大畔、落合、楠下、熨斗、森田、橋本 (紘)
- ・腎臓内科：宇津、光本、平井
- ・薬剤師：古久保、森岡、野村、内藤、宮原、
- ・理学療法士：麦田、廣田、安達、新井、
- ・検査技師：浅野、倉本、玉川、大嶽、小西、大澤、山添、渡辺、鈴木、山崎
- ・管理栄養士：松村、西本、岩田
- ・看護師：高山、角南

2023年度における糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ225名 (2022年度は200名) であった。

3) 活動

①日本生命病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を実施した。当セン

ターのスタッフを中心に、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

〈日時〉2023年11月17日（金）11：30～13：30

〈場所〉日本生命病院1F あったかふれあいホール

〈内容〉

- ・血糖測定
- ・筋肉量・握力測定
- ・血管年齢測定
- ・栄養相談、ベジチェック（野菜摂取量チェック）
- ・服薬相談
- ・医師相談
- ・ミニセミナー など

②公開セミナーの開催

例年、患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催しているが、2023年度は引き続きCOVID-19感染状況から開催を中止した。

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：有坂好史（消化器内科主任部長）

医師：田中敏雄、若原ちか、河田奈都子、萩巢恭平、北田隆起、板東正貴、森本祐太郎（消化器内科）、楠下 萌（内分泌・代謝内科）、宇都佳彦（救急総合診療科）、水野 均、生島裕文、太田英夫、星野宏光、山下晋也（消化器外科）、栗波仁美、大山摩佐子（予防医学センター）

看護師：芳賀宣子、榎本知奈美、村上真紀、杉浦理絵、森 エミ、阪井理恵、木下恵利子、西田幸子、酒井亜紀子（看護部）

薬剤師・医療技能職：浅野正宏（中央臨床検査部）、足立充司（薬剤部）、加藤千尋（臨床工学室）

事務：上田俊樹（総合企画部）、阿瀬康治（予防医学センター）

1. 診療内容

消化器内視鏡センターは、日本生命病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指している。安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。日本生命病院での内視鏡検査、加療、ならびに予防医学センターでの人間ドック、企業健診を行い、消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療を目指す。また、地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約できるよう便宜をはかり、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本大腸肛門病学会、日本消化管学会、日本膵臓学会、日本胆道学会の指導施設としての役割を果たしている。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

膵・胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ

管腔内超音波検査法（IDUS）

下部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

超音波内視鏡（EUS）

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：カンファレンス

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

血 液 浄 化 セ ン タ ー

スタッフ センター長：宇津 貴（副院長、内科統括、腎臓内科部長、臨床工学室長）

副センター長：垣本 健一（泌尿器科部長）

医 師：吉川秀人（循環器内科）、水本 綾、光本憲祐、西垣内俊也、平井祐里、
山下千賀子（腎臓内科）、新谷 隆（心臓血管外科）、湊のり子、
王 聡（泌尿器科）

看 護 師：高崎かおり、河村理香、柏井由美子、安藤圭子、神谷香里、新部里美、宇埜美奈子

薬剤師・医療技能職：池田久雄、加藤千尋、田中恵介、坂本彩弥、田口貴大

事 務：萩原佑気

1. 診療内容

腎臓内科・泌尿器科の医師スタッフ、看護部、ME部門、薬剤部、栄養管理部などの他職種が共同して診療を行うことを特徴としている。新病院移転後は外来透析を開始し、透析ベッドも3床から20床へ増床したため、他施設での外来透析患者の入院対応など幅広く対応している。2018年4月から心臓血管外科医師も当センターのメンバーに加わり、ブラッドアクセスの造設・再検を積極的に行っている。また生理検査室の協力を得て、SPPを用いたフットケアなどにも新しく取り組んでいる。

集中治療室での血液浄化療法においても、持続血液濾過透析（CHDF）のみでなく、血液透析（HD）にも対応可能となっている。

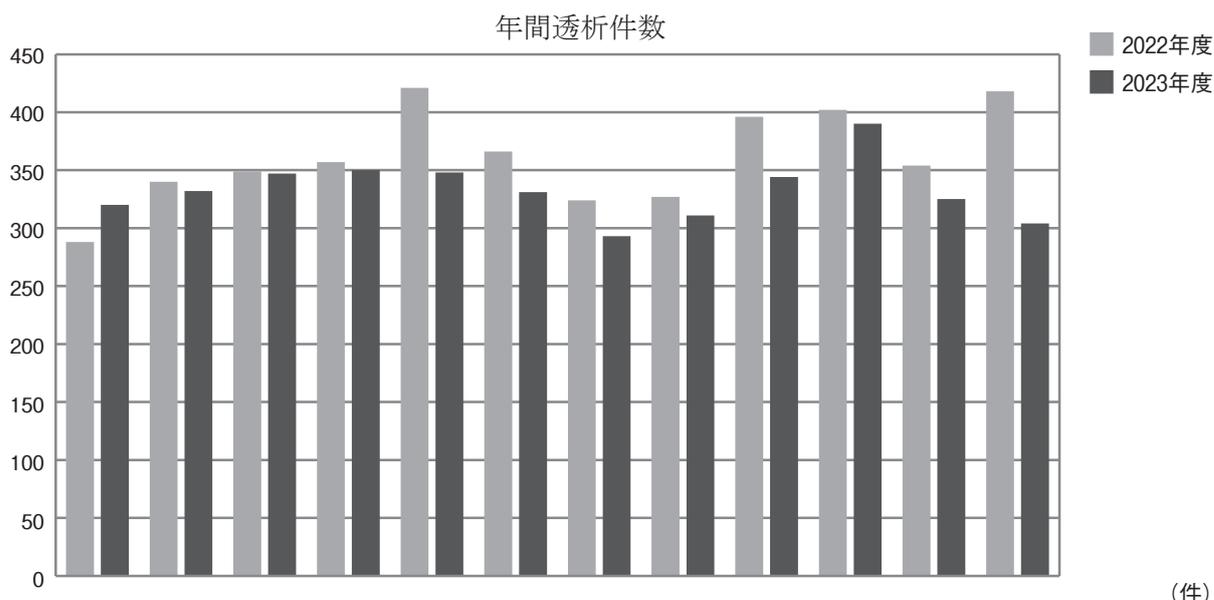
2. 診療実績

透析導入患者	31名
内シャント手術件数	38件
シャントPTA件数	76件

3. 専門医・指導医など

日本透析医学会専門医・指導医 2名（宇津・水本）

図1 2023年度 月別血液透析延べ件数



(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
2022年度	288	340	349	357	421	366	324	327	396	402	354	418	4,342
2023年度	320	332	347	350	348	331	293	311	344	390	325	304	3,995

脳機能センター

スタッフ センター長：芳川浩男（特任副院長、脳神経内科部長）
顧問：森悦朗
医師：仁科拓也、塚原彰弘（脳神経内科）、高橋勲、青木保典、前西真梨子
（神経科・精神科）、鶴藺浩一郎、田村和義（脳神経外科）
看護師：酒井亜紀子、森藺祐子、井上けい子、安藤圭子（看護部）
薬剤師・医療技能職：山本論希、福庭加奈（あったかサポートセンター）、
千原亜紀子（薬剤部）
事務：堀本政希（予防医学センター）

1. 診療内容

新病院の新築・移転に際してはその基本構想に「高齢社会を支える診療機能の強化」「健康寿命延伸に向けた予防医療・先制医療の推進」を掲げ、認知症に係る診断・治療の強化を重点課題とした。この目的のために2017年4月に認知症疾患医療センター準備室（室長：森悦朗顧問）を新設し、具体的な検討と準備を進めてきた。

そして2018年4月に、認知症の予防・早期診断・治療を中心に脳機能障害をきたし得る疾患について幅広く診療する観点から、名称を「脳機能センター」とし、脳神経内科、神経科・精神科、脳神経外科の各診療科と看護部を中心としたチームによる体制を整備し診療を開始した。2019年11月芳川特任副院長が脳神経内科主任部長に赴任後は、笠山院長から芳川特任副院長にセンター長が変更された。

脳機能センターでは、種々の認知症性疾患や軽度認知障害（認知症前駆状態）、さまざまな原因による記憶障害、言語障害、高次脳機能障害に対する診療・セカンドオピニオン・コンサルテーションを実施してきた。治療法のみならず介護法にも原因疾患の診断と病態の把握が大きく関わるため、専門医による診察、詳細な神経心理評価、先進的な画像検査などを用いることにより原因疾患を診断することが重要である。認知症性疾患に対する治験から介護法や社会資源の利用についての指導までを含め、病態に合わせた治療を実施した。

2. 診療体制

外来診療では、脳神経内科および神経科・精神科の両診療科で、対象疾患の診療を行ってきた。特に、毎週月曜日午前と火曜日午後には神経科・精神科による「物忘れ外来」、水曜日午後には脳神経内科による「物忘れ外来」、木曜日午後には「脳機能障害外来」の専門外来を実施した。

認知症性疾患の診療においては、脳神経内科医、神経・精神科医、脳神経外科医が連携し診療を行った。3.0テスラMRI、脳血流SPECT、DATスキャン、MIBG心筋シンチグラムなどの高度医療器を用いた画像診断を行うとともに、公認臨床心理師および言語聴覚士による認知機能評価、認知症看護認定看護師による看護

を実施した。

正常圧水頭症が疑われた患者については入院により精密検査を行い、適応となる患者に対しては脳神経外科でシャント手術を施行した。

3. 診療実績

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、前頭側頭型認知症、原発性進行性失語症、特発性正常圧水頭症、脳血管障害や外傷性脳損傷などに伴う高次脳機能障害などの診療を中心に行ってきた。入院および外来患者数を含む診療実績は脳神経内科および神経科・精神科の項に記す。

また、1ヵ月に1～2回、脳機能センターの全体カンファレンスを実施し、診断・治療困難な症例についての検討、診療技術の向上のための勉強会および情報共有を行った。

また、レビー小体型認知症を対象とした新規薬剤の臨床治験に参加した（継続中）。

令和6年3月12日より、アルツハイマー病患者に対するレカネマブ治療を開始した。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会専門医	3名（森、芳川、仁科）
日本神経学会指導医	3名（森、芳川、仁科）
日本認知症学会専門医	1名（森）
日本認知症学会指導医	1名（森）
日本老年精神医学会専門医	1名（芳川）
日本脳卒中学会専門医	2名（森、田村）
日本脳神経外科学会専門医	2名（田村、鶴藺）
日本精神神経学会専門医	1名（高橋）
日本精神神経学会指導医	1名（高橋）
PET核医学認定医	1名（芳川）

5. 業績

論文・著書

- Ikada M, Mori E, Orimo S, Yamada T, Konishi O : Efficacy of Adjunctive Therapy with Zonisamide Versus Increased Dose of Levodopa for Motor Symptoms in Patients with Dementia with Lewy Bodies: The Randomized, Controlled,

Non-Inferiority DUEL Study, J Alzheim Dis, 95 (1) : 251-264, 2023年

2. Aoki Y, Takahashi R, Suzuki Y, Pascual-Marqui RD, Kito Y, Hikida S, et al : EEG resting-state networks in Alzheimer's disease associated with clinical symptoms., Scientific Reports, 13 (1) : 3964, 2023年
3. Watanabe H, Hikida S, Ikeda M, Mori E : Aphasic mild cognitive impairment in prodromal dementia with Lewy bodies, Front Neurol, 14 : 1128566, 2023年
4. Watanabe H, Uchiyama M, Yokoi K, Mamiya Y, Narita W, Mori E, et al : Behavioral and neural correlates of pareidolic illusions in dementia with Lewy bodies, Parkinsonism Relat Disord, 113 : 105513, 2023年
5. Ishikawa M, Mori E : Association of gait and cognition after surgery in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus, Sci Rep, 13 : 18460, 2023年
6. 森 悦朗 : 特発性正常圧水頭症の症候学, BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩, 76 (2) : 101-107, 2024年
7. Taomoto D, Sato S, Kanemoto H, Suzuki M, Hirokawa N, Mori E, et al : Utility of the Japanese version of the Clinical Dementia Rating® plus National Alzheimer's Coordinating Centre Behaviour and Language Domains for sporadic cases of frontotemporal dementia in Japan, Psychogeriatrics, 24 : 281-294, 2024年
8. Mori E, Ikeda M, Ohdake M : Donepezil for dementia with Lewy bodies: meta-analysis of multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled phase II, III, and, IV studies, Psychogeriatrics, doi: 10. 1111/psyg. 13101 : Online ahead, 2024年
9. Mori E, Ikeda M, Iseki E, Katayama S, Nagahama Y, Ohdake M, Takase T : Efficacy and safety of donepezil in patients with dementia with Lewy bodies: results from a 12-week multicentre, randomised, double-blind, and placebo-controlled phase IV study, Psychogeriatrics, doi: 10. 1111/psyg. 13091 : Online ahead, 2024年
10. 森 悦朗 : 臨床神経心理士制度と公認心理師への期待, 脳の働きに障害を持つ人の理解と支援: 高次脳機能障害の実際と心理学の役割, 日本心理学会監修, 松井三枝, 緑川 晶 編., 82-90., 2023年, 誠信書房, 東京
11. 森 悦朗 : 血管性認知症の症候学, 症候学から見極める認知症, 池田 学 編., 48-56., 2024年, 新興医学出版社, 東京
12. 森 悦朗 : 認知症診療における症候学的重要性, 症候学から見極める認知症, 池田 学 編., 14-22., 2024年, 新興医学出版社, 東京

乾癬センター

スタッフ センター長：東山眞里（特任副院長、皮膚科部長、臨床研究管理室長）

医師：林 美沙、赤路和哉、佐藤祥奈（皮膚科）、辻 成佳（整形外科）、
小中八郎（呼吸器・免疫内科）、和田有希（循環器内科）、北田隆起（消化器内科）、
宇津 貴（腎臓内科）、川崎 諭（眼科）

看護師：高山由美子、丸岡 綾、秋山 麗、林恵理子

薬剤師・医療技能職：千原亜紀子、片岡宏一郎、廣田将史、中村由美、松榮優子

事務：山下智咲

1. センターの概要

乾癬は炎症性角化症に分類される難治性皮膚疾患で、約12%以上の患者に関節炎を併発する。いまだ完全に病因は解明されていない。皮膚症状、関節症状のため乾癬患者さんのQOLは身体的、精神的にも著しく障害されている。また有病率は増加傾向にあり人口の0.34%、43万人と推定される。乾癬の治療は最近10年で生物学的製剤の登場など新薬の開発も進み治療は飛躍的に進歩した。患者の重症度に応じた積極的な治療が求められる。一方近年乾癬は多くの併存症（メタボリック症候群、高脂血症、心血管系障害、糖尿病、関節炎、ぶどう膜炎、肺気腫、慢性腎不全、炎症性腸炎、骨粗鬆症、鬱病など）があり全身の炎症性疾患と認識されている。乾癬は皮膚のみならずトータルマネジメントを要する疾患である。乾癬患者のQOL及び生命予後の改善をめざして①最適な治療により早期かつ安全に皮膚症状・関節症状を寛解に導く②併存症の早期診断や治療により乾癬患者の健康状態の改善を図るとともに、合併症の発症を予防し心身ともに健全な状態に導く③大学やその他の医療機関と協力して乾癬に関する病態の解明、治療の進歩に貢献しうる臨床研究・臨床治験を行うことを目標に2019年4月に乾癬センターを開設した。当センターでは院内関連診療科、多職種との密なる連携による乾癬のトータルマネジメントを実践している。また掌蹠膿疱症と掌蹠膿疱症性骨関節炎についても診断・治療を行っている。

2. 診療内容

1) 乾癬の皮疹の治療

適切な重症度の評価（皮疹の重症度・QOL障害・併存症）のもと、個々の患者のニーズに応じた最適な治療を患者とともに決定。外用治療、外用指導を重視し光線治療はエキシマライト、手足型光線照射機器、全身型ナロー照射機器、入浴PUVA療法などを選択。内服療法（エトレチナート・シクロスポリンA、アプレミラスト、メトトレキサート）は重症度、合併症、年齢などを考慮し選択。また既治療で効果不十分な患者には生物学的製剤も積極的に使用。

皮膚疾患ケア看護師（日本皮膚科学会認定）が、外

用指導、看護相談、生物学的製剤自己注射指導も行ない、患者さんの早期寛解をサポートしている。

2) 乾癬性関節炎の早期診断・治療と掌蹠膿疱症性骨関節炎の診断と治療

辻成佳医師（整形外科・リウマチ医）が火曜日に乾癬センターで乾癬性関節炎の患者の診断と治療を行っている。皮膚科医と密な連携により治療方針を決定。乾癬性関節炎の早期診断・治療に努めている。診察・関節エコー・骨単純撮影・MRI・血液検査などを実施し診断。治療は内服薬・生物学的製剤・リハビリテーションなどを行う。

3) 併存症の早期診断・予防

1. 院内関連診療科とのチーム医療

初診時 採血（高脂血症・糖尿病・肝機能障害・高尿酸血症・腎障害・感染症）血圧・体重・身長・BMI・腹囲測定、症例により頸部動脈エコーを施行。併存疾患が疑われると院内関連診療科へ紹介。紹介頻度の高い診療科—整形外科・リハビリ科・総合内科・循環器内科・腎臓内科・耳鼻科・脳神経内科・精神科・予防医学センターなどと横断的に乾癬患者の併存症の予防と治療を行う。また年に2回、関連診療科、コメディカルスタッフとのカンファレンスを開催。関節炎カンファレンスを皮膚科・整形外科・免疫内科医師で行っている。掌蹠膿疱症では耳鼻科と連携し扁桃炎などの病巣感染につき精査・治療を行った。

2. 外来での集団患者指導プログラム

2019年度は乾癬・乾癬性関節炎の早期改善・悪化予防・併存症の治療のため栄養指導・リハビリ指導・看護指導・看護相談・薬剤指導などを火曜日と木曜日の午後に集団で指導していたが、2023年度も2022年度と同様、感染対策のため集団指導は実施せず。指導の必要な患者にはリハビリテーション科に紹介して作業指導、運動指導を行った。看護師による生活指導や外用指導、管理栄養士による栄養指導（糖尿病・高脂血症・高尿酸血症・肥満など）も個人単位で行った。

4) 乾癬に関する乾癬に関する病態の解明、治療に関する臨床研究・臨床治験

乾癬の病態や治療については、まだ完全に解明されはしない。当センターでは大阪大学や全国の乾癬治療施設と協力して乾癬に関する病態の解明、

治療に関する共同研究を行っている。また院内の他科連携により臨床研究も今後すすめて行く予定。また乾癬・乾癬性関節炎掌蹠膿疱症の新薬の臨床治験も実施した。

5) 地域医療機関との連携

2018年11月より乾癬、乾癬性関節炎に特化した、セミナーを当院で主催し、2022年11月10日に第5回「あわぎ乾癬セミナーをハイブリッド形式で開催。治療、診断について、講演や症例検討を行った。

3. 診療実績

①2023年度初診患者数

乾癬	149名
乾癬性関節炎	31名
掌蹠膿疱症	26名
掌蹠膿疱症性骨関節炎	16名

臨床研修部

スタッフ 部長代行：宇都佳彦（救急総合診療科副部長）

医師：中川 厚（循環器内科担当部長）、水野 均（副院長、外科統括、消化器外科部長、中央手術管理部長）、八田幸治（産婦人科）、岸 正司（副院長、救急総合診療科部長）

初期研修医：2年目 井上健太、中嶋七海、羽田基樹、板東雅樹、本郷卓英

1年目 阿坂 玲、多田詩野、中本和宏、新名航平、村上萌恵、村上友美、眞鍋珠美、柳 晴奈

事務：谷由美子（総務人事G主任）

1. 活動内容

新研修制度の開始に伴い、2005年度臨床研修部が創設された。各年度当院単独型（日本生命病院研修プログラム）での定員5名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすきがけ研修医が当院で研修を行う。ローテート科の変更など、個々の研修医の要望に柔軟に対応している。2018年度より、2年目研修医に日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）の基本的臨床能力評価試験を受験してもらい（2021年度からは1年次・2年次共受験）、研修医の臨床能力評価と研修プログラムの評価・改善に役立てることとした。

2019年度にはより一層の研修環境の充実を目指し、卒後臨床研修評価機構（略称JCEP）を受審し、認定を受けた。

2. 実績

1) マッチング試験（2023年8月19日）

男性21名 女性28名、計49名が受験した。

内容：筆記試験・小論文・面接・適性検査

募集定員6名マッチし、出身大学は 大阪大学2名、大阪市立大学1名、神戸大学1名、福井大学1名、高知大学1名であった。

2) JAMEP基本的臨床能力評価試験受験（2024年1月24日26日・2年次研修医5名受験、1年次研修医8名受験）

3) 病院見学学生

男性：62名 女性：93名 計155名。

4) 病院説明会への参加

レジナビフェア2023（2023年7月2日）

6年生：4名 5年生：88名 4年生：9名
計101名

近畿厚生局臨床研修病院説明会（2024年2月24日）

5年生：17名 4年生：6名

阪大病院および関連臨床研修病院による内科系

合同説明会（2024年3月2日）

5年生：14名

3. 業績

学会発表

1. 本郷卓英：院外心停止を来した重症冠攣縮性狭心症が疑われた一例、第135回日本循環器学会近畿地方会、2023年7月、大阪
2. 本郷卓英：乳癌治療を契機に自己免疫性肺蛋白症が寛解した一例、第101回日本呼吸器学会近畿地方会、2023年7月、神戸
3. 羽田基樹：5歳児に発症したV1領域の帯状疱疹の1例、第499回皮膚科学会大阪地方会、2023年9月、大阪
4. 板東雅樹：著明な乳酸アシドーシスを呈したCOVID-19の1例、第241回日本内科学会近畿地方会、2023年9月、大阪
5. 阿坂 玲：腎生検にて診断し得たゲムシタピン（GEM）長期投与中に生じた血栓性微小血管（TMA）の1例、第241回日本内科学会近畿地方会、2023年9月、大阪
6. 中嶋七海：尿意切迫感が冠微小循環評価に影響を与えた一例、第136回日本循環器学会近畿地方会、2023年12月、大阪
7. 中本和宏：冠微小循環障害評価が鑑別に有用であった3症例、第136回日本循環器学会近畿地方会、2023年12月、大阪
8. 多田詩野：気管支鏡検査から診断し得た多発性骨髄腫の1例、第102回日本呼吸器学会近畿地方会、2024年1月、大阪
9. 中嶋七海：喉頭腫瘍の一例、第104回日本病理学会近畿支部学術集会、2024年2月、大阪
10. 井上健太：IL36RN遺伝子ヘテロ接合体変異（c.115+6T>C）を有する小児掌蹠膿疱症性骨関節炎の扁桃摘出術による治療が奏効した1例、第461回整形外科集談会京阪神地方会、2024年3月、大阪
11. 羽田基樹：放射線治療で縮小を認めた乳房外Paget病の1例、第502回皮膚科学会大阪地方会、2024年3月、大阪
12. 板東雅樹：イキセキズマブ投与後早期に全身性エリテマトーデスを発症した乾癬性関節炎の1例、第243回日本内科学会近畿地方会、2024年3月、大阪
13. 中本和宏：Edwardsiella Tarda感染による菌血症を繰り返した2型糖尿病の一例、第243回日本内科学会近畿地方会、2024年3月、大阪
14. 新名航平：典型的皮疹を認めなかったライム病の1例、第243回日本内科学会近畿地方会、2024年3月、大阪
15. 村上萌恵：ロータブレードによる冠動脈穿孔に対し、ガイドプラスでカバードステント留置に成功し、ベイルアウトできた冠動脈硬化症の1例、第42回CVIT近畿地方会、2024年3月、大阪
16. 村上萌恵：重積により肛門外脱出を伴うS状結腸癌に対してロボット支援下S状結腸切除術を施行した1例、第653回大阪外科集談会、2024年3月、大阪

輸 血 管 理 室

スタッフ 室 長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、がん治療センター長、化学療法室長）
玉川雄一（中央臨床検査部）

1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

①担当技師

玉川が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

②責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

③輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヵ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	2,990単位
自己血	50単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	574単位
③血漿交換療法におけるFFP	276単位
④アルブミン	4,143単位
濃厚血小板	9,155単位

*FFPおよびアルブミン製剤の使用量は、適正とされる基準

$$\text{FFP/RBC比} = (\text{②} - \text{③}) / \text{①} = 0.14 < 0.54$$

$$\text{アルブミン/RBC比} = \text{④} / \text{①} = 0.49 < 2$$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RBC 18単位、FFP 16単位、PC 10単位

3) 2023年度における変更点

①血液製剤を患者に割り当てる際に発行される「割

当票」から血液型の記載をなくした。その理由は、血液製剤を払い出す際には、「血液製剤ラベル」と「出庫リスト」とで読み合わせを行い、それぞれに記載されている血液型が一致していることを確認するべきであるが、「割当票」と「出庫リスト」で読み合わせを行う間違えがあり得るため。

②輸血療法マニュアルにおいて以下の内容を追記した。

・輸血後検査の項に「輸血実施後1ヶ月程度を目安に不規則抗体検査を行う事が望ましい」と追記した。

・RhD陽性の患者にRhD陰性血液を割当ての際に、許可を得た旨を電子カルテの技師記録に記載し、血液製剤の払い出し時にカルテに記載がある旨を看護師に伝えることを追記した。

③輸血の説明・同意書に、RhD陽性の患者に対するRhD陰性血の輸血を含めた異型適合血、及び異型不適合濃厚血小板を輸血する可能性があることを追記することとした。

4. その他

1) 院内にて献血を2回行った。

2023年8月8日 28名（受付38名）

2024年3月13日 16名（受付20名）

の職員から献血をさせていただいた。

2) 輸血教育講演会（年1回）

2024年1月18日に以下の演題と演者で講演を行った。①演題：「輸血用血液製剤ができるまで」 演者：大阪府赤十字血液センター 学術情報・供給課 楠見智子、②「2023年度輸血療法マニュアル変更点」 演者：中央臨床検査室 玉川雄一 参加者は44名であった。

化学療法室

スタッフ 室長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、がん治療センター長、輸血管理室長）
看護師：玉井千春（がん化学療法看護認定看護師）、増田ますみ、里井景子（以上看護部）
西野仁美（事務）

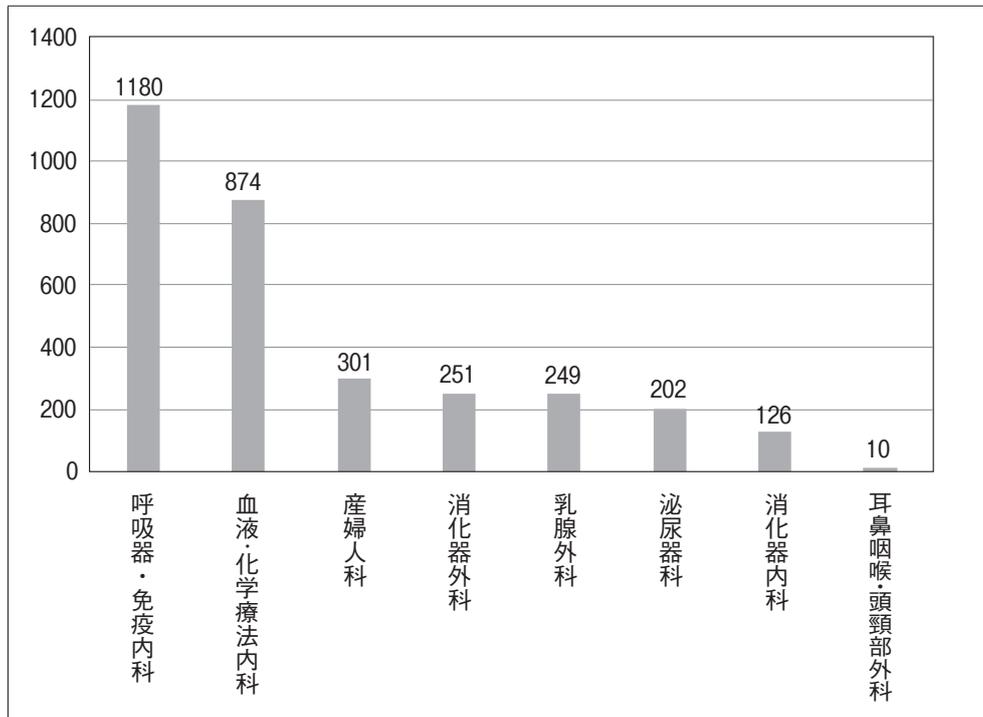
1. 診療内容

外来通院での抗がん剤治療、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与などの専用治療室として運用、外来化学療法加算を算定している。疾患や治療に対する不安が強い患者さんに対しては、が作用の対処は随時電話相談を受けながら、速やかに対応できる体制を整えている。また、2022年度より受付に事務を配置し、来室した患者さんがスムーズに治療を開始できるよう配慮している。

2. 診療実績

化学療法室利用者件数は、総数3,193件（前年度比－301件）で、その内化学療法加算の算定（点滴抗がん剤の投与）件数は 262件（前年度比－7件）で、診療科別の内訳は図1の通りであった。尚、呼吸器・免疫内科、消化器内科、皮膚科の集計には、各々関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎、乾癬に対する生物学的製剤の投与が含まれている。

図1 2023年度 診療科別化学療法加算算定件数



リハビリテーション室

スタッフ 室長：辻 成佳（リハビリテーション科部長）
副室長：片岡宏一郎（リハビリテーション室技師長）
理学療法士：麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、安達幸恵、泉本亮二、
新井聖章、藪田拓武、世傳智貴
作業療法士：鶴谷高志、阪本拓也、平賀絢史朗、渡辺のあ
言語聴覚士：四釜淳子、清水晴奈

1. 診療内容

各診療科からのリハビリテーション（以下 リハ）依頼に対し、身体機能の向上を目標に理学療法士と作業療法士、言語聴覚士が連携し合いながら最良のリハ医療を提供してきた。

リハの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・悪性疾患・循環器疾患の患者などを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器リハは関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、高齢者の方の運動器不安定症などの患者が対象となり、2023年度は7,045件の実績があった。脳血管疾患等リハは脳梗塞、脳出血、ギランバレー症候群等、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの患者が対象となり、4,341件の実績があった。呼吸器リハは肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、全身麻酔手術をする患者の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者が対象となり、7,846件の実績があった。がんリハは消化器疾患、呼吸器疾患、血液疾患、乳がん、婦人科疾患などの患者に対し治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動機能の低下や生活機能の低下予防・改善を目的とする患者が対象となり、7,046件の実績があった。心大血管疾患リハは、心筋梗塞、心不全、不安定狭心症、閉塞性動脈硬化症、ペースメーカー植込み術などの患者に対し、運動耐容能の向上や運動習慣の習得を目標とする患者が対象となり、2,767件の実績があった。廃用症候群リハは、外科の開胸開腹手術、泌尿器科手術、婦人科手術後などの廃用予防、嚥下障害、脱水症、皮膚疾患、胆のう炎などの患者が対象となり、7,312件の実績があった。

総合計件数は36,357件の実績があった。

早期リハを継続して行うために、連休を中心に休日にもリハを実施し、早期離床を促した。

地域連携としては、退院後の生活について不安を抱いている入院患者に対して退院前に自宅を訪問し、手すりなどの環境整備を確認したり、自助具の活用方法について指導を行った。退院後の生活においてADLなどの支障が出た場合は訪問看護ステーションの訪問看護師を通じて、間接的に患者に指導をすることでADLの改善に努めた。地域への情報発信として運動領域における講演

を院内外で行った。

予防領域においては、ウィークエンド糖尿病・メタボ精査入院などにおいて、個々の患者に対する運動機能評価を行い、その結果をもとにオーダーメイドの運動指導を行った。

チーム医療においては、リハカンファレンスの定期的な開催や循環器内科部長回診・乳腺外科部長回診・整形外科部長回診・NST回診・RST回診などに同行するとともに、緩和ケアカンファレンスなどへの参加を行い、ADLを阻害している現象の把握や原因の追求を行った。また、糖尿病ふれあい教室での運動指導、女性骨盤底センターからの紹介に対する骨盤底筋体操の指導など、他職種との連携を図りながらリハの専門性を発揮した。言語聴覚士による言語機能訓練や摂食嚥下機能療法を実施し、口腔機能の改善や食糧提案に向けて取り組んだ。

リハの質向上においては、院内での勉強会はさることながら院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、最新の情報を収集し、その内容をスタッフ間で共有した。さらに認定理学療法士（2名）、登録理学療法士（8名）、心臓リハ指導士（1名）、呼吸療法認定士（3名）、糖尿病療養指導士（1名）、がんのリハビリテーション研修会修了者（15名）などの資格を有するとともに、関連学会である日本リハビリテーション医学会、日本心臓リハビリテーション学会、呼吸ケアリハビリテーション学会、ペインクリニック学会などに所属し、最良の医療が臨床の中で活かせるよう努めた。学術活動においては、病院の特性を生かした症例を対象にデータを集め、リハ医療を向上させるために関連学会にて発表や論文投稿を行った。

リハ教育分野においては、リハ関連学科の大学や専門学校から実習生を積極的に受け入れ、教育しやすい環境を整備した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）

3. スタッフ資格など

- ・片岡宏一郎 リハビリ室副室長 兼 技師長・理学療法士
登録理学療法士
介護支援専門員
がんのリハビリテーション研修修了
- ・麦田盛穂 次席技師長・理学療法士
修士号（健康科学：畿央大学）
認定理学療法士（代謝）
登録理学療法士
心臓リハビリテーション指導士
3学会合同呼吸療法認定士
日本糖尿病療養指導士
緩和ケア研修修了
がんのリハビリテーション研修修了
- ・廣田将史 主任理学療法士
登録理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
健康運動実践指導者
がんのリハビリテーション研修修了
- ・安達幸恵 主任理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・白川 桂 主任理学療法士
認定理学療法士（介護予防）
登録理学療法士
地域ケア会議推進リーダー
介護予防推進リーダー
がんのリハビリテーション研修修了
- ・泉本亮二 理学療法士
登録理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・田中 孝 理学療法士
登録理学療法士
第一種衛生管理者
衛生工学衛生管理者
がんのリハビリテーション研修修了
- ・藤岡栄悟 理学療法士
登録理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・新井聖章 理学療法士
登録理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・藪田拓武 理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・世傳智貴 理学療法士
福祉住環境コーディネーター2級
がんのリハビリテーション研修修了
- ・鶴谷高志 主任作業療法士
理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・阪本拓也 作業療法士

- がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士
- ・平賀絢史朗 がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士
- ・渡辺のあ がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士
- ・四釜淳子 がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士
- ・清水春奈 がんのリハビリテーション研修修了

4. 業績

論文・著書

1. Isoda K, Tsuji S, Harada Y : Potential of the prognostic nutritional index to determine the risk factor for severe infection in elderly patients with rheumatoid arthritis, *Mod Rheumatol*, 33 (1) : 88-95, 2023年
2. Suzuki M, Asai S, Hara R, Hirano Y, Nagamine S, Tsuji S, et al : Choice of and response to treatment in patients with early-diagnosed rheumatoid arthritis: Real-world data from an inception cohort in Japan (NICER-J) , *J Orthop Sci* , 29 (3) : 921-926, 2023年
3. Takami K, Tsuji S, Nishikawa M, Owaki H : Association of the Clinical and Radiographic Findings at Onset With Future Joint Destruction in Patients With Rheumatoid Arthritis, *Cureus*, 15 (5) : e39428, 2023年
4. 辻 成佳, 東山真里 : 医療ルネッサンス 乾癬 (2) “乾癬性関節炎”, *読売新聞 全国版 朝刊*, 8020 : 12, 2023年
5. Higuchi Y, Hirao M, Noguchi T, Etani Y, Ebina K, Tsuji S, : Early mobilization of dorsiflexion from 3 days after cemented total ankle arthroplasty with modified anterolateral approach, *J Orthop Sci*, 29 (3) : 874-879, 2023年
6. Mease P, Setty A, Papp K, Van den Bosch F, Tsuji S, Keiserman M, et al : Upadacitinib in patients with psoriatic arthritis and inadequate response to biologics: 3-year results from the open-label extension of the randomised controlled phase 3 SELECT-PsA 2 study, *Clin Exp Rheumatol*, 41 (11) : 2286-2297, 2023年
7. Takami K, Tsuji S : Extensive subcutaneous emphysema of the thigh as a rare complication following total knee arthroplasty: A case report, *Int J Surg Case Rep*, 109 : doi: 10.1016/j.ijscr.2023.108466, 2023年
8. Inoue E, Hiroumi S, Sato S, Hayashi M, Konaka H, Tsuji S, Higashiyama M : Palmoplantar pustulosis and pustulotic arthro-osteitis associated with multiple venous occlusion: A case report and literature review, *J Dermatol*, 50 (8) : 1076-1080, 2023年
9. Fujita S, Honjo H, Takada R, Hara A, Masuta Y, Tsuji S, et al : Ulcerative Colitis-associated Spondyloarthritis Successfully Treated with Infliximab in the Absence of Enhanced TNF- α Responses, *Intern Med*, 62 (17) : 2493-2497, 2023年
10. Takami K, Tsuji S, Owaki H : Preoperative degree of deformity and underlying disease affect the postoperative deformity of joint-preserving hallux valgus surgery, *J Orthop Surg (Hong Kong)* , 31 (3) : doi: 10.1177/10225536231206536, 2023年
11. 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 廣田将史, 泉本亮二, 田中孝, 新井聖章, 藤岡栄悟, 藪田拓武, 世傳智貴, 阪本拓也, 四釜淳子, 清水晴奈, 辻 成佳 : 要介護認定のない入院患者におけるPhase angleと筋量・運動機能との関連性について－横断研究－, *日本生命病院医学雑誌*, 51 : 31-35, 2023年

12. 辻 成佳：掌蹠膿疱症性骨関節炎，リウマチ科，70（4）：370-375，2023年
13. 辻 成佳：整形外科医が診る乾癬性関節炎 乾癬と骨・関節～専門医の視点から～，PS JAPAN：乾癬患者の生活サポートマガジン，29：22-30，2023年
14. Takami K, Tsuji S：Real-world retention rates of biologics in patients with rheumatoid arthritis, Sci Rep, 13（1）：21170，2023年
15. Takami K, Tsuji S, Sato S, Akaji K, Yamashita C, Hiroumi S, et al：Long-term retention rates of anti-TNF and anti-IL-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, Mod Rheumatol, doi: 10. 1093/mr/road111：Online ahead, 2023年
16. 辻 成佳：【脊椎関節炎診療のupdate】乾癬性関節炎，炎症と免疫 2024年1月号，Vok. 32. No.1：44-48，2023年
17. Tsuji S, Okubo Y, Kishimoto M, Taniguchi Y, Ishihara Y, Tamura M, et al：Modified Pustulotic Arthro-Osteitis diagnostic guidance 2022 -Modified Sonozaki criteria-Secondary publication, Mod Rheumatol, doi: 10. 1093/mr/roae003：Online ahead, 2024年
18. Sakata M, Hirao M, Noguchi T, Okamura G, Takami K, Tsuji S, et al：Early full weight-bearing and gait exercise after cemented total ankle arthroplasty with modified antero-lateral approach, Mod Rheumatol, doi: 10. 1093/mr/roae005：Online ahead, 2024年
19. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S：Osteoporosis and Osteopenia in patients with psoriatic arthritis: a single-center retrospective study, Mod Rheumatol, doi: 10. 1093/mr/roae028：Online ahead, 2024年
20. 大出佳寿, 谷口義典, 辻 成佳, 小林茂人：下肢に著明な異所性骨形成をきたし，診断に苦慮したSAPHO症候群と考えられた一例，日本脊椎関節炎学会誌，10（1）：57-64，2023年

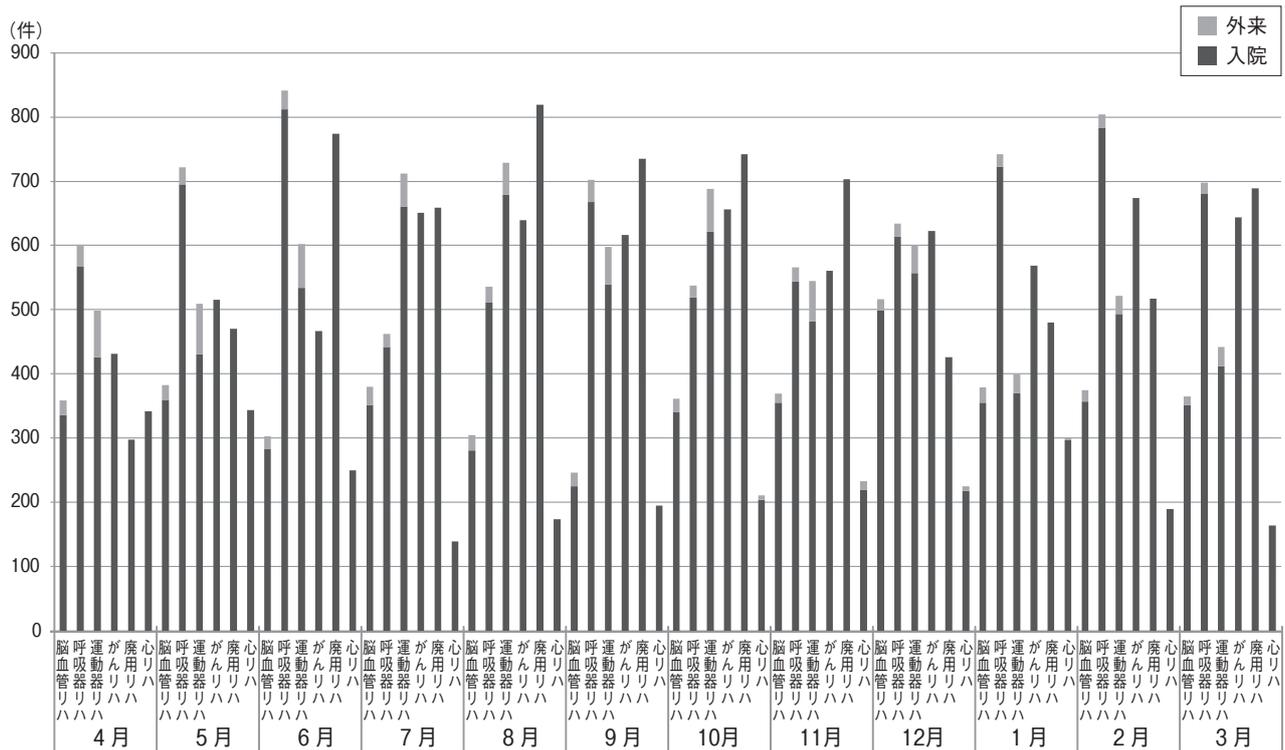
学会発表

1. 福西香栄（近畿大学消化器内科），本庶 元, 岡江夏輝, 河野匡志, 鎌田 研, 三長孝輔, 米田頼晃, 辻 成佳, 渡邊智裕, 工藤正俊：腸内細菌に対する炎症性サイトカイン応答の増強を示すクローン病関連脊椎関節炎の一例，日本消化器病学会近畿支部例会，2023年2月，大阪
2. 辻 成佳, 前田悠一, 高見賢司, 富田哲也：歯根嚢胞部の16S rRNA解析を行った掌蹠膿疱症性骨関節炎の一例，日本骨免疫学会WINTER SEMINAR, 2023年2月，長野
3. Takami K, Tsuji S：EXAMINATION OF NUTRITIONAL STATUS OF PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS IN NINJA 2019, CORA 2023, 2023年3月，Turin
4. 高見賢司, 辻 成佳：The case of pustulotic arthro-osteitis of a 12-year-old female and whose symptoms improved after tonsillectomy, 第67回日本リウマチ学会，2023年4月，福岡
5. Philip J. M, Kim P, Tsuji S, William T：Long-term Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis Refractory to Biologic Therapies: 2-Year Results From the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, British Society for Rheumatology, 2023年4月，Manchester
6. Rodrigo LA, Philip J.M, Tianming G, Tsuji S, William T, Filip VB：Efficacy Of Upadacitinib In Patients With Psoriatic Arthritis And Prior Exposure To Anti-Tnf Therapy In The Select-PsA 2 Trial Through 2 Years, PANLAR 2023, 2023年4月，RiodeJaneiro
7. 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 安達幸恵, 廣田将史, 泉本亮二, 田中 孝, 新井聖章, 藤岡栄悟, 藪田拓武, 世博智貴, 辻 成佳：入院関連機能障害の予防にむけた今後の取り組み，日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会，2023年5月，大阪
8. 辻 成佳, Laura C Coates, Arthur Kavanaugh, Erin Mcdearmon-blondell, William Tillet：PsA患者におけるRAPID3スコアのウパダシチニブとアダリマブの比較，第67回日本リウマチ学会，2023年5月，福岡
9. 辻 成佳：皮膚科クリニックでのPaA（psoriatic arthritis）関節診察について，第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会，2023年6月，札幌
10. Philip J. M, Kim P, Tsuji S, William T：Safety and Efficacy of Upadacitinib in Patients with Psoriatic Arthritis and Inadequate Response to Biologics: 3-Year Results from the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, EULAR2023, 2023年6月，Milan
11. 高見賢司, 辻 成佳：A novel small molecule anti-NF- κ B peptide derived from nucleic acid suppresses bone loss in postmenopausal osteoporosis mouse model, 第41回日本骨代謝学会，2023年7月，東京
12. 高見賢司, 辻 成佳：A case of extensive emphysema of the thigh after total knee arthroplasty, 第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会，2023年8月，奈良
13. 辻 成佳：掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き2022について，第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会，2023年8月，奈良
14. 辻 成佳：乾癬性関節炎における治療アプローチ～骨粗鬆症・骨量減少症を考える～，第38回日本乾癬学会学術大会スイーツセミナー，2023年8月，東京
15. 高見賢司, 辻 成佳：Long-term retention rates of anti-TNF and anti-IL-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, 第33回日本脊椎関節炎学会，2023年9月，神戸
16. 辻 成佳：掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き2022について，第33回日本脊椎関節炎学会，2023年9月，神戸
17. 辻 成佳：中等症から重症の掌蹠膿疱症患者に対するリサンキズマズの有効性と安全性，第33回日本脊椎関節炎学会，2023年9月，神戸
18. 辻 成佳：TNE Bs剤に効果不十分又は不耐の乾癬性関節炎患者における血清バイオマーカーに対するGuselkumabの影響：COSMOS試験の結果より，第33回日本脊椎関節炎学会，2023年9月，神戸
19. 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 安達幸恵, 廣田将史, 泉本亮二, 田中 孝, 新井聖章, 藤岡栄悟, 藪田拓武, 世博智貴, 辻 成佳：急性期病院入院患者におけるPhase angleと入院関連機能障害との関連性について～予備的検証～，日本予防理学療法学会学術大会，2023年10月，函館
20. 辻 成佳：Bimekizumab（BKZ）で治療したPsA患者はPsAID-12質問票を使った評価で症状の持続的改善を示す：2つの第3相試験の1年結果，第38回日本臨床リウマチ学会，2023年11月，北九州
21. 廣田将史, 藤岡栄悟, 麦田盛穂, 田中 孝, 白川 桂, 新井聖章, 藪田拓武, 世博智貴, 片岡宏一郎, 辻 成佳：間質性肺炎患者に対し自己効力感に着目した介入で運動耐容能・ADL向上に繋がった一症例，日本呼吸器学会近畿地方会第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会 合同学会，2024年1月，大阪
22. 井上健太, 大木莉夏, 高見賢司, 行方雅人, 辻 成佳, 西原俊作：IL36RN遺伝子ヘテロ接合体変異（c.115+6T>C）を有する小児掌蹠膿疱症性骨関節炎の扁桃摘出術による治療が奏効した1例，第461回整形外科集談会 京阪神地方会，2024年2月，大阪

研究会発表

1. 辻 成佳：脊椎関節炎（SpA: Spondyloarthritis）および掌蹠膿疱症性骨関節炎について，第153回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年2月，大阪

図1 2023年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ・廃用リハ・心リハ件数



	4月						5月						6月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	336	568	426	431	298	342	360	695	430	515	470	344	283	812	534	467	774	250
外来	23	33	73	0	0	0	23	27	79	0	0	0	20	29	68	0	0	0

	7月						8月						9月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	352	442	661	651	659	139	281	511	679	639	819	174	225	668	539	616	735	195
外来	28	20	51	0	0	0	24	25	50	0	0	0	21	34	59	0	0	0

	10月						11月						12月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	340	519	622	656	742	204	355	544	482	561	703	220	499	614	557	623	426	218
外来	21	19	66	0	0	7	14	22	63	0	0	13	17	20	43	0	0	7

	1月						2月						3月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	355	723	370	569	480	297	357	783	493	674	517	190	352	681	412	644	689	164
外来	24	19	29	0	0	3	18	21	29	0	0	0	13	17	30	0	0	0

中央手術管理部

スタッフ 部長：水野 均（副院長、外科統括、消化器外科部長）
部長代理：花田留美（麻酔・緩和医療科）
医師：富田栄美子（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、新谷 隆（心臓血管外科）、
橋本奈美子（産婦人科）、鶴藪浩一郎（脳神経外科）、西原俊作（整形外科）、
東山眞里（副院長、皮膚科）、垣本健一（泌尿器科）、川崎 諭（眼科）、
小泉敏三（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、齋藤拓也（形成再建外科）
看護師：木下園子、二井千里
医療技能職：足立充司（薬剤部）、三木和美 北濱知美（臨床工学室）
事務：高松由夫（情報システムG）、田中大輔、梅村 匠（施設用度G）

1. 概要

中央手術管理部は手術室の効率的な運営等を目的として、2015年4月に中央管理部門の一つとして新設され、現在に至っている。2023年度の手術件数は3,559例で、このうち全身麻酔手術数は1,950例であった。

2. 診療内容

〈主たる業務〉

- 1) 医療機器、手術材料、薬剤並びに手術枱等、手術室全般の適切な運営管理
- 2) 安全で質が高くかつ効率的な手術室運営の企画実施

3. 診療実績

- 1) 毎月第2週月曜日に「中央手術管理部定例会」を開催し、効率的な運営のために各診療科の実績や要望に応じて手術枱の変更を随時行った。

2) 2023年度のロボット支援手術が139件と前年度よりも増加傾向であったため、術中の大量出血など開腹手術へのコンバージョンを想定した、医師・看護師・臨床工学技士等の多職種協働で緊急ロールアウトのシミュレーションを施行した。今後に向けて指摘された改善点を協議し、知識の共有を行った。

3) 手術看護認定看護師が実施している、術前看護外来を認定看護師とともに他のスタッフも実施し、今後外来から周術期看護に関わることのできる基本システムを構築した。

中央臨床検査部

スタッフ 部長：岡部太一（循環器内科部長兼任）
精度管理担当医：永瀬寿彦
医療技能部長兼技師長：浅野正宏

1. 組織体制

常勤：32名（うち産・育休：1名）、パート・再雇用：3名（2024年3月末時点）

2. 全体の主な実績

- 2023年度の行動テーマは、2022年度の利用者価値に基づいた価値提供行動の実践から得た医療サービスの向上とPDCAサイクルの可視化とした。具体的には検体系検査（生化・免疫、血液、尿、輸血、遺伝子、病理細胞診、微生物）のTAT；Turn Around Timeの定期的な（10月）運用と手順書の見直し、臨床検査ニュースによる情報の発信数増大（50報、前年38、前々年19）、各部門における精度管理調査へ主体的に取り組むことができた。コロナ禍およびポストコロナにおいてもBCP；Business Continuity Planの実践効果よりスタッフ増員を図ることはなかった。個々のスタッフの能力発揮度向上による要因が大きかったと振り返ることができる。
- 中央臨床検査部の主な検査の実績として、採血者数、検体検査、微生物検査の主たる項目は前年を上回った。一方、生理検査のそれは同等もしくはやや減じられた。詳細は別表「2023年度 主な実績」を参照にされたい。
- SARS-CoV2核酸増幅検査の呼吸器パネル検査Film Array（ピオメリュー）のリアルタイム測定は5月8日の感染症分類5類移行後、主たる検査法をインフルエンザ/SARS-CoV2の鼻咽頭ぬぐい液による迅速抗原検出法に代替した。しかし小児科、血液内科を主とした呼吸器系疾患においては呼吸器パネル検査の依頼が30件/月程度で推移しており、ウイルス・細菌等の同時項目核酸検出法を活用している。また髄膜炎・脳炎が疑われる患者に対する髄液パネル検査（細菌6種、ウイルス7種の同時検出）も同様に診療の質の向上に寄与している。
- クリニカルパスの臨床検査領域の状況を把握し委員会へ見解を提示した。
- 抗アルツハイマー薬の投与時におけるアポリポタンパクE4 genotype遺伝学検査のあり方を病院運営会議で提唱した。
- 学術活動では学会発表は3題。中央臨床検査部主催以外の研修会等に一人平均16回（前年11.6）参加した。院内治験研修会で検体検査と生理検査部門

で各々講師を担った。

- 2023年3月に始めた10分間勉強会（主に隔週にスタッフ全員が順送りで講師。テーマは自由設定。日常業務において部門を超えて知っておくとよい疾患とその検査意義と見方、検査データを供覧し考察する）を35回開催した。
- リハビリテーション室の協力を得て、2023年度もリハ士によるベッド移乗研修を1回行った。
- 臨床検査技師養成機関の臨地（学生）実習、2大学、1専門学校の計7名を受入れた。

3. 各部門の主な実績

検体検査：

- 5年経過の検査オーダー画面における項目コードを整理した（全141項目）。
- 予防医学センター受診者に対する「緊急連絡報告値（健診部門における即時対応すべき検査値）」の運用を開始した。
- 血液凝固阻止剤入り血球数算定用の採血管EDTA-2Kの安定供給のため、メーカーをセキスイ社製に変更した。
- 測定済み検体の保存期間を5日から3日に変更した。冷蔵庫の買換をやめ、作業スペース確保に繋がった（後述のβ-Dグルカン測定装置設置場所に）。
- 退院後、初回外来における検体検査のオーダー不備による受付不可患者の対応として臨床検査技師による代行入力を時間限定で新規運用を開始した。
- 電子カルテの表示「グルコース（血糖）」と「空腹時血糖」を前者に統一（変更）した。
- 栄養状態管理マーカーCONUT（アルブミン値、総リンパ球数、総コレステロール値によるスコア化）を新規開始した。
- 検査ラボ・エスアールエル、ビーエムエルの臨床検査依頼伝票についてプライバシー保護（疾患名と検査項目名が同一の場合など）と適切な会計処理のため、作成後の伝票を検査室管理とした。
- 血液ガス検体の凝固等の試料不良によるコメントを適切な検査報告の観点より全項目「測定不可」と表示変更した。
- EDTA偽性血小板減少症に対する依頼法と採血管をEDTA2K,クエン酸Na、ヘパリン加に変更した。
- 尿中有形成成分分析装置USCANNER premio（東洋紡）を新規導入し検討を開始した。

この自動化により検査結果報告時間の短縮と安定、スタッフの他への業務移行が期待できる（スタッフは後述のβ-Dグルカン；用手検査に移行した）。

- 12) APTT：活性化部分トロンボプラスチン時間の現行試薬販売中止のため、新試薬「レボヘム」（シスメックス社）への移行運用が構築され、試行開始となった。
- 13) β-Dグルカン検査を内製化（2回/日/測定）し、検査結果の早期報告に繋げた。
- 14) 尿沈渣の新分類、糸球体型・非糸球体型赤血球の定性評価の新運用が構築された。
- 15) TATの目安「検体到着」確認において「検体受取時刻」を「検体到着」に変更した。

微生物検査：

- 1) アンチバイオグラム2023年度版の運用を開始した。
- 2) 結核菌検出時の日当直を含む院内連絡方法を変更した。
- 3) センシディスクの試薬不良に伴う出荷停止の代替法が2024年1月中頃まで続き、診療にマイナスの影響を与えた。
- 4) 血液培養ボトルの検査マニュアル（視覚的デザインのバーコードラベル貼付位置の変更と注意喚起の啓発）を改訂した。

生理検査室：

- 1) 呼気中一酸化窒素濃度測定（装置は2023年11月末に使用権終了）について呼吸器診療に関わるガイドライン遵守より検査体制を継続した。
- 2) 生理検査室におけるパニック値の設定の見直しと項目をあらため（全51項）、明文化した。
- 3) 超音波検査装置によるエラストグラフィ検査を新規開始した。
- 4) 肺機能検査装置の後継機FUDAC-7PlusD（フクダ電子）の運用を開始した。検査説明はイラスト入りで4カ国語（日、英、中、韓国語）対応となっているため、グローバル対応で精度の高い検査が可能となった。
- 5) 脳波検査の報告用CDの保存期間を5年間に変更した。

病理検査室と輸血検査、予防医学センター検査室：

病理診断科と輸血管理室、予防医学センターの項を各々参照にされたい。

4. 精度管理

- 1) 臨床検査の第三者評価として、2023年度に参加した外部精度管理調査は、日本臨床検査技師会、日本医師会、大阪府臨床検査技師会、大阪府医師会のほか、日本超音波検査学会画像サーベイ、日本病理精度機構免疫染色サーベイに参加した。いずれも精度管理調査は良好な結果が得られた。また結果に基づき、技術、検査の解釈、運用等の見直しを行い、その成果や対策は臨床検査適正化委員会で報告し、フィードバックを受ける仕組みとし

ている。

- 2) リウマチ因子；RAの測定器ラボスペクト（HITACHI社）のパラメーターをスプライン法に変更した。

5. 業績

学会発表

1. 佐古大輔, 横田明希, 若原達哉, 小西美香, 浅野正宏：薬剤感受性分析装置変更に伴うアンチバイオグラムの活用と試薬経費削減について, 第15回日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
2. 堤涼一郎, 隅田裕子, 高橋信明, 大嶽雄也, 水口洋一：自動免疫染色装置を用いた2重染色法（細胞内局在が異なる2種の抗原染色法）, 第72回日本医学検査学会, 2023年5月, 群馬
3. 山崎篤司, 大澤由布子, 玉川雄一, 八瀬山宏治：血清亜鉛の院内測定への導入, 第7回大臨技医学検査学会, 2024年2月, 大阪

2023年度（年間）主な実績（件）

部門	領域	項目名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2022年度比 (%)	項目名
検体検査	生化学	血糖	93,721	95,738	102,325	91,498	94,611	98,964	100,883	101.9	血糖
		HbA1c	56,101	59,658	61,959	55,165	58,438	61,064	62,398	102.2	HbA1c
		総蛋白	92,625	96,563	102,106	97,496	101,442	105,379	110,272	104.6	総蛋白
		電解質	93,818	97,629	102,163	97,155	99,856	103,282	107,057	103.7	電解質
		APTT	10,961	11,739	13,120	13,147	15,352	16,377	16,751	102.3	APTT
	血液学	血液ガス（動・静・臍帯）	3,991	5,024	6,553	6,737	8,144	7,985	8,559	107.2	血液ガス（動・静・臍帯）
		血算	121,833	127,567	128,373	111,263	123,662	129,068	132,472	102.6	血算
	一般（尿）	尿定性	51,449	56,753	42,754	41,197	43,236	45,542	45,798	100.6	尿定性
	便潜血	ヒトヘモグロビン	29,961	32,845	33,063	27,230	30,182	1,427	1,239	86.8	ヒトヘモグロビン
	免疫学	アデノウイルス（迅速抗原検出キット）	679	656	423	69	104	123	246	200.0	アデノウイルス（迅速抗原検出キット）
		RSウイルス（迅速抗原検出キット）	173	176	101	11	40	26	45	173.1	RSウイルス（迅速抗原検出キット）
		インフルエンザウイルス（迅速抗原検出キット）	1,700	1,180	1,128	30	13	185	220	118.9	インフルエンザウイルス（迅速抗原検出キット）
		SARS-CoV2/インフルエンザウイルスA/B（迅速抗原検出キット）							2,383	—	SARS-CoV2/インフルエンザウイルスA/B（迅速抗原検出キット）
		StreptA（迅速抗原検出キット）	730	669	472	89	114	109	286	262.4	StreptA（迅速抗原検出キット）
		CEA	11,110	12,401	15,620	14,432	15,742	16,212	16,516	101.9	CEA
		CA19-9	5,480	6,386	8,124	7,949	8,387	8,322	8,659	104.0	CA19-9
		シフラ	728	1,557	1,988	1,942	2,173	2,564	2,974	116.0	シフラ
		ProGRP	1,194	1,338	1,515	1,414	1,522	1,885	2,261	119.9	ProGRP
		PSA	6,296	6,566	7,338	6,761	6,548	6,624	6,928	104.6	PSA
		TSH	13,634	15,178	16,634	14,913	16,027	16,776	17,160	102.3	TSH
インスリン		6,451	6,462	7,158	5,618	7,812	6,545	6,431	98.3	インスリン	
HB s Ag		13,922	15,396	15,791	13,782	15,298	15,559	15,500	99.6	HB s Ag	
HCVAb		13,412	14,568	14,922	13,059	14,655	14,638	14,516	99.2	HCVAb	
輸血学		血液型	5,340	6,296	6,184	5,726	6,329	6,423	7,729	120.3	血液型
	交差適合試験	1,533	1,668	1,893	1,895	2,052	2,234	1,833	82.1	交差適合試験	
遺伝子・核酸	呼吸器パネル				606	1,782	2,118	288	13.6	呼吸器パネル	
微生物検査	一般細菌培養	呼吸器	2,220	2,372	2,634	2,289	2,044	2,268	2,836	125.0	呼吸器
		消化器	744	968	931	1,010	889	880	883	100.3	消化器
		泌尿器・生殖器	1,948	2,390	2,388	2,741	2,717	2,703	2,829	104.7	泌尿器・生殖器
		血液・穿刺液	3,746	4,159	4,614	5,282	5,370	5,472	5,600	102.3	血液・穿刺液
		その他	1,359	1,684	1,681	1,866	1,780	1,708	1,345	78.7	その他
超音波	心臓	3,550	3,923	3,950	3,916	4,080	4,215	4,106	97.4	心臓	
	頸動脈	1,110	1,093	1,056	942	1,049	1,349	1,354	100.4	頸動脈	
	四肢血管（下肢静脈・下肢動脈・シャント）	956	1,369	1,252	1,092	1,184	1,262	1,297	102.8	四肢血管（下肢静脈・下肢動脈・シャント）	
	経食道心臓	17	14	17	8	6	2	1	50.0	経食道心臓	
	腹部	4,919	5,073	4,991	4,697	4,745	4,654	4,678	100.5	腹部	
	腎動脈	101	197	255	277	274	264	244	92.4	腎動脈	
	膀胱精密	136	80	92	103	34	60	61	101.7	膀胱精密	
	腹部造影	26	24	19	16	33	30	24	80.0	腹部造影	
	体表	719	718	715	621	648	747	714	95.6	体表	
	安静	11,195	12,090	12,297	11,461	12,075	12,973	13,340	102.8	安静	
心電図	CVR-R（自律神経R-R間隔）	192	180	175	150	220	305	327	107.2	CVR-R（自律神経R-R間隔）	
	マスター運動負荷試験	341	277	200	149	168	180	120	66.7	マスター運動負荷試験	
	トレッドミル運動負荷試験	206	126	116	136	155	138	107	77.5	トレッドミル運動負荷試験	
	一般	4,321	4,909	4,688	3,452	2,603	2,996	3,039	101.4	一般 肺機能	
肺機能	呼気中一酸化窒素濃度（NO）	2,030	1,978	2,334	1,338	349	277	339	122.4	呼気中一酸化窒素濃度（NO）	
	精密	67	52	55	64	50	18	45	250.0	精密	
他の循環器・呼吸器系生理	24時間ホルター心電図	275	257	180	203	228	227	178	78.4	24時間ホルター心電図	
	24時間自動連続血圧	68	35	43	24	11	12	6	50.0	24時間自動連続血圧	
	簡易睡眠時無呼吸（SAS）	87	92	91	76	55	58	57	98.3	簡易睡眠時無呼吸（SAS）	
	ABI・TBI（足関節上腕血圧比・足趾上腕血圧比）	1,394	1,332	1,136	998	1,209	1,439	1,341	93.2	ABI・TBI（足関節上腕血圧比・足趾上腕血圧比）	
	SPP/TCPO2（皮膚還流圧測定/経皮酸素分圧測定）	—	54	62	60	63	43	98	227.9	SPP/TCPO2（皮膚還流圧測定/経皮酸素分圧測定）	
	CPX（心肺運動負荷試験）	8	13	33	0	2	1	3	300.0	CPX（心肺運動負荷試験）	
	アデニン負荷心筋シンチ	138	118	87	58	64	31	28	90.3	アデニン負荷心筋シンチ	
神経系生理	神経伝導	234	234	205	190	178	178	176	98.9	神経伝導	
	脳波	274	299	305	250	235	303	260	85.8	脳波	
耳鼻科系生理	平衡機能検査（VOG、重心動揺、VEMP）	206	346	389	444	437	460	454	98.7	平衡機能検査（VOG、重心動揺、VEMP）	
	聴力検査（純音、語音、ティンパノ、OAE）	1212	1,747	1,881	1,912	1,964	1,654	1,752	105.9	聴力検査（純音、語音、ティンパノ、OAE）	
	神経検査（ABR、味覚、ENoG）	21	25	32	20	21	17	11	64.7	神経検査（ABR、味覚、ENoG）	
中央採血室 採血患者数			※65,829	73,514	69,682	70,073	73,134	75,540	103.3	採血室患者数	

中央放射線部

スタッフ 部 長：小林美登利（放射線診断・IVR科部長）
担当部長兼技師長：長澤浩造
副技師長：新谷泰正
次席技師長：矢野勝之、藤丸泰一
主任：安部 弘、山田純子、中農智絵、北埜希望、勘田雅浩
 坂田奈菜、芝 理賀、安藤 真、奥 昂祐、越智由知、坂田航矢、土山裕生、北山 瑛、
 草野麗夏、武内真優、山中翔太

1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 診療体制（機器）

CT	2台（320列・320列）
MRI	2台（3.0T・1.5T）
PET/CT	1台
RI	1台
リニアック	1台
治療計画用CT	1台（16列）
一般撮影	2台
X線TV	2台
乳房撮影	1台
骨塩定量	1台
アンギオ	2台
結石破碎	1台
外科用イメージ	3台
ポータブル	2台

4. その他

1) 取得資格

第1種放射線取扱主任者	2名
健診マンモグラフィ認定技師	6名
放射線治療専門放射線技師	3名
放射線治療品質管理士	2名
胃がんX線検診技術部門B資格	1名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	1名
X線CT認定技師	3名
臨床実習指導教員	1名
診療放射線技師実習施設指導者	9名

5. 業績

研究会発表

1. 長澤浩造：日本生命病院におけるアミロイドPET検査～検査の概要から読影について～, 日本メジフィジクス社 社員教育講演, 2023年3月, 大阪（Web開催）
2. 長澤浩造：医療分野での放射線利用, 30分でよくわかる健康講座, 2023年9月, 大阪
3. 新谷泰正：放射線とがん治療～放射線治療について～, 日本生命病院 がんサロン, 2024年2月, 大阪
4. 長澤浩造：CT・MRI装置の軌跡と最新技術について, 第165回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年3月, 大阪

3. 診療実績（2023年度 検査件数）

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
CT	1,431	1,494	1,522	1,477	1,531	1,484	1,542	1,483	1,585	1,513	1,558	1,545	18,165
MRI	590	609	647	563	626	574	639	603	492	331	480	602	6,756
RI	45	55	62	51	47	45	54	42	40	36	41	35	553
PET/CT	42	37	45	34	35	40	42	39	32	45	37	67	495
単純X線	2,657	3,005	3,013	2,868	2,928	2,913	2,846	2,726	2,817	2,882	2,928	2,893	34,476
MMG	106	109	109	102	90	115	113	96	78	73	63	65	1,119
リニアック（新患）	19	22	20	16	25	18	21	24	12	22	17	13	229

栄 養 管 理 室

スタッフ 栄養管理室長：橋本久仁彦（副院長、内分泌・代謝内科部長、糖尿病・内分泌センター長）
スタッフ：松村寿美、坂本彩弥、中村由美、西本絵実、岩田真季、植田早紀
*栄養サポートチーム（NST） 水野 均、森山綾乃、藤井克至、窪田由夏、中村由美、
西本絵実、植田早紀

1. 診療内容

糖尿病、腎臓病、心臓病、脂質異常症など食事療法を必要とする患者に対する個別栄養指導及び集団栄養指導を実施している。

また、入院患者には、栄養管理計画書を作成し、栄養管理によって疾患の治療に貢献できるように努めている。栄養サポートチーム（NST）ラウンドを通して、必要な患者に対して低栄養の改善、食事内容の見直し、栄養補給法について検討している。周術期栄養管理加算では医師と連携し、術前・術後の患者さんの栄養管理を行っている。早期栄養介入加算では集中治療室入室後、早期に栄養管理を行っている。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

栄養指導室で外来個別栄養指導、糖尿病・内分泌センターで外来個別栄養指導と透析予防指導を行っている。また、腎臓病、糖尿病は集団栄養指導を実施している。

2) 病棟体制（表2）

病棟を担当制として、受け持ち病棟の対象患者を中心に入院個別栄養指導を適宜行っている。

3. 診療実績

各診療科で栄養指導を行った結果は以下の内容である。

1) 入院個別栄養指導の実績（表3）

95件/月

2) 外来個別栄養指導の実績（表3）

85件/月

3) 集団栄養指導の実績（表3）

6件/月

4) 診療科別個別栄養指導の実績（表4）

前年度に比して消化器外科、小児科の指導件数は増加している。栄養指導だけでなく周術期栄養管理加算、早期栄養介入加算の算定が加わることで診療実績が増加している。

5) 入院食事提供の実績

表5参照

6) 病棟での取り組み

患者給食について、選択食のアレルギー表を改定した。

7) 新しい取り組み

- ・周術期栄養管理加算（2022年5月～）
- ・早期栄養介入管理加算（2023年10月～）

8) その他 活動

1. 2023年7月19日

ニッセイあったか茶論

「がん患者さんの栄養と食事の工夫Part1」

坂本彩弥

2. 2023年11月17日

糖尿病フェア

「ベジチェック」・・・カゴメより機器をレンタルし野菜の摂取状況を簡易的に測定し、結果をふまえて栄養相談を実施した。機器の導入という新しい試みで例年よりも反響が良かった。

3. 2024年3月9日 世界腎臓デー 講演

「腎臓を守る減塩のポイント」坂本彩弥

4. 2024年3月21日 がん茶論～特別版～

「治療中の食事の工夫（BCAAについて）」

岩田真季

*院外敷地内阿波座大食堂とのコラボ事業

昼食メニュー「バランス定食」監修を毎月

（献立内容、献立・栄養バランス、栄養価計算を含む）

*あったかサポート通信 依頼時に執筆

9) イベント食と行事食カードおすすめメニューの提供・行事食に加え、食育イベント食と行事食カードを提供した。さらには、検食を実施した医師におすすめメニューを選んでもらい、それらについてコメントを記載した「おすすめメニュー」というイベントカードも提供。イベント食の充実へつながった。

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会 3名

日本臨床栄養代謝学会 4名

日本栄養士会 2名

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士 4名

栄養サポートチーム（NST）専門療法士 2名

病態栄養専門管理栄養士 1名

5. 業績

研究会発表

1. 坂本彩弥：腎臓を守る減塩のポイント，市民健康セミナー よくわかる健康講座 世界腎臓デー市民公開講座，2024年3月，大阪
2. 岩田真季：治療中の食事の工夫（BCAAについて），がん茶論～特別版～，2024年3月，大阪
3. 松村寿美，坂本彩弥，中村由美，西本絵実，岩田真季：昼食メニュー「バランス定食」監修（献立内容・栄養価計算）院外敷地内 あわぎ大食堂とのコラボ事業，2018/5月～2024/3月，大阪

表1 個別栄養食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
外来 栄養指導室	西本 植田	中村	松村 岩田	坂本	松村 中村
糖尿病・内分泌 センター	中村 岩田 坂本	坂本	西本	松村	坂本 岩田

回診業務 木曜午前 (NST) 午後 (褥瘡/口腔ケア)

表2 担当病棟

病棟	担当
HCU	中村
7階	坂本
8階	中村
9階	西本
10階	岩田 植田
11階	岩田 西本
12階	岩田 坂本
13階	西本 植田
14階	坂本

表3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
入院個別	100	87	108	109	101	106	100	90	85	87	79	89	1,141	95	1,361	113
外来個別	80	86	94	93	98	75	96	75	88	81	63	79	1,008	84	1,142	95
DM外来個別	90	91	94	78	94	81	87	83	96	69	91	70	1,024	85	1,092	91
DM透析予防	43	45	48	37	53	43	45	50	48	45	48	39	544	45	634	53
栄養サポートチーム加算	52	44	69	55	14	29	60	60	43	44	60	52	582	49	477	40
周術期栄養管理実施加算	20	26	21	21	23	19	17	23	19	18	29	30	266	22	193	16
早期栄養介入実施加算							19	29	40	29	21	33	171	29		
集団	4	6	7	6	4	1	9	5	8	11	6	6	73	6	66	6
合計	389	385	441	399	387	354	433	415	427	384	397	398	3,668	306	4,965	

疾患別個別栄養指導件数 (糖尿病・内分泌センター/集団指導含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
がん	1	3	6	12	5	5	6	3	4	7	1	2	55	5	28	2
胃腸病	54	44	55	47	53	61	57	45	35	35	41	38	565	47	643	54
肝臓病	2	3	3	5	4	4	5	2	5	2	1	4	40	3	37	3
糖尿病	59	47	69	56	54	33	57	43	59	51	33	44	605	50	766	64
高血・心臓・高脂	26	36	37	44	41	32	36	32	38	32	29	28	411	34	419	35
腎臓病	23	22	21	28	24	25	19	21	20	22	17	19	261	22	414	35
膵臓食	4	4	6	4	4	8	2	5	5	5	4	4	55	5	62	5
貧血食	10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	11	1	0	0
肥満症	0	8	1	0	10	9	10	4	6	12	14	21	95	8	86	7
母子栄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
嚥下	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	1	1	7	1	0	0
低栄養	0	0	0	2	1	3	3	5	0	1	1	1	17	1	7	1
アレルギー	1	5	0	4	1	0	1	4	0	0	0	6	22	2	13	1
その他	0	0	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	5	0	25	2
合計	180	173	202	202	199	181	196	165	173	168	142	168	2,149		2,500	

表4 診療科別個別栄養指導実績（糖尿病内分泌センター・集団含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	14	13	12	14	13	18	10	16	15	18	11	18	172	14
消化器内科	45	47	52	50	48	55	55	44	33	35	37	24	525	44
内分泌内科	39	27	41	33	38	16	44	25	42	40	24	25	394	33
呼吸器内科	3	4	15	11	10	9	8	2	1	4	2	5	74	6
血液内科	3	5	4	4	4	4	6	5	3	3	4	2	47	4
腎臓内科	21	16	22	22	21	25	18	19	20	20	16	19	239	20
脳神経内科	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
消化器外科	12	8	13	16	14	17	15	12	11	15	15	18	166	14
整形外科	1	5	2	4	0	1	2	1	1	0	1	2	20	2
精神科	2	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	10	1
皮膚科	8	18	12	14	17	10	13	13	13	13	10	10	151	13
泌尿器科	0	0	0	1	1	0	1	0	3	4	1	4	15	1
産婦人科	14	13	14	16	17	17	16	17	13	6	6	15	164	14
乳腺外科	2	2	1	2	0	0	5	0	0	0	0	0	12	1
救急診療科	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	7	1
小児科	6	7	6	9	6	3	0	6	10	6	3	19	81	7
耳鼻咽喉科	2	1	2	1	4	1	0	0	1	0	2	0	14	1
麻酔科	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	1	7	1
呼吸器外科	0	1	1	0	2	1	0	1	0	0	1	1	8	1
形成外科	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0
その他	5	1	5	5	3	2	1	2	3	1	4	2	34	3
合計	180	173	202	202	199	181	196	165	173	168	142	168	2,149	

表5 患者給食数

患者給食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年累計
常食	7,980	7,688	9,160	8,769	8,414	7,109	7,838	6,980	7,148	6,554	7,418	7,650	92,708	92,018
軟菜食	3,596	5,172	5,030	5,079	4,865	4,799	5,010	4,726	5,123	5,194	5,310	5,722	59,626	53,695
特食	7,866	7,518	7,631	7,905	7,921	7,043	6,694	6,699	8,496	8,320	7,414	8,537	92,044	92,611
合計	19,442	20,378	21,821	21,753	21,200	18,951	19,542	18,405	20,767	20,068	20,142	21,909	244,378	238,324
調乳本数	1,636	1,631	2,699	2,840	1,478	2,288	2,376	2,349	2,524	1,427	1,804	2,024	25,076	21,844
特食加算率	40.5%	36.9%	35.0%	36.3%	37.4%	37.2%	34.3%	36.4%	40.9%	41.5%	36.8%	39.0%		

薬 剤 部

スタッフ 薬剤部長：足立充司
課 長：池田久雄
主 任：古久保有希子、宮麻紀子、平田貴宏
薬 剤 師：六車裕一、千原亜紀子、平田亜紀、森岡浩子、内藤 睦、小寺由香、藤井克至、
宮原阿友美、神原弘和、藤田真弓、奈良味菜子、野村暢彦、窪田由夏、徳力麻希、
神村真由、清水 咲、橋爪 香
パート薬剤師：辻 俊美、中野 静香
事 務 員：岩城淳子

1. 業務内容

本年度は、医薬品に関する運用について、薬剤師のみならず、医師、看護師など多職種チームのもとに策定し、安全かつ確実な運用を実現した。医薬品の適正な在庫管理、法令を遵守した保管管理のもと調剤、病棟業務を通して、医薬品の安定供給、適正使用、チーム医療へ参画に継続的に取り組んだ。2022年4月からの診療報酬改定で薬剤師が算定取得可能な「周術期薬剤管理加算」「術後疼痛管理チーム加算」に対して体制作りに取り組み、算定が可能となった。

手術決定時の入院前服用薬の確認業務で、手術決定後、入院前に術前休薬必要薬を確認することで、手術を安全に行えるように支援した。医薬品安全管理について、職員への医薬品安全管理の講演や、医師を含む多職種をメンバーとした医薬品安全管理ワーキングによる院内ラウンドの実施、疑義照会の一元管理可能なデータベース化による、問題点の把握と共有など、業務改善ができる取組みを継続した。DIニュースの定期的な発行で院内の情報発信が円滑に行うことができた。また最適使用推進ガイドラインの遵守確認、糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などのチーム医療への参画により医薬品の適正使用を図った。

また、一般名処方加算を維持するために外来処方へ一般名名称で院外処方を入力できるようマスタ整備を実施した。

がん化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請レジメン21件（一部変更申請レジメン7件）の承認審査並びに登録を行うと共に、オーダ内容の確認・承認、抗癌剤の調製から、被曝・拡散防止など、安全で安心な薬物療法の更なる向上に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての有用性や安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。新規市販された同効製品の購入にも積極的に関わり、製剤業務量の軽減・効率化を引き続き図った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は前年度並で推移している。

採用医薬品の製品回収（クラスⅡ）や特に後発医薬品メーカーにおける出荷調整が今年度も継続して発生し、回収に伴う院内の対応、運用の変更や他メーカーへの切り替えなど調剤薬局との連携を図りながら患者さんの不利益にならないよう十分な配慮を行いながら対応した。

医療外業務として薬学部5年次学生1期（11週）3～4名の病院実務実習の受け入れ体制を継続した。

COVID-19ワクチンの管理、調製作業を行いスタッフが安全に実施できるよう対応した。

今後も、医薬品情報の有用かつ適時な情報管理の強化により、安心で安全な薬物療法の実践を更に深化する組織体制を発展させると共に、常に「患者さんのために何ができるか」を考えて行動できる人材育成を行う。

2. 業務体制

1) 人員配置 2024年3月時点

人員：薬剤師24名（パート2名を含む）、事務員1名
配置：調剤・製剤業務12名、薬剤管理指導業務9名
DI（薬品情報室） 1名
臨床研究管理室（事務局） 1名
薬品管理 事務員 1名
外来薬剤指導 1名

2) 病棟体制

新病院より専任薬剤師8名とし病棟業務実施加算体制を継続。手術予定患者の入院前持参薬の確認、薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施し、適正かつ、安心・安全な薬物療法に努めた。

周術期薬剤管理加算を維持継続するため担当者1名を配属し病棟専任薬剤師と周術期に必要な薬学的管理を実践した。

3. 活動内容

1) 日常業務

外来処方箋枚数 227枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数 245枚/日
入院注射処方箋枚数 874枚/日
服薬指導件数 856件/月（薬剤管理指導業務）
抗癌剤調製件数 446件/月

2) 院内学術活動（講演）

医療安全講演会・医薬品安全管理講習会、
よくわかる健康講座

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報）	9 通
DSU（医薬品安全対策情報）	9 通
新規採用薬情報	4 通
お薬ニュース	4 通

4. 認定薬剤師など

日本医療薬学会専門薬剤師	2 名
がん薬物療法認定薬剤師	3 名
感染制御認定薬剤師	2 名
抗菌化学療法認定薬剤師	1 名
日本糖尿病療養指導士	6 名
日本循環器学会心不全療養指導士	1 名
認定実務実習指導薬剤師	4 名
日本病態栄養学会認定NST研修終了者	1 名
日本臨床栄養代謝学会認定NST研修終了者	1 名
日本麻酔科学会認定術後疼痛管理研修終了者	1 名

(2024年3月31日現在)

5. 論文・学会発表など

学会発表

1. 野村暢彦：シンポジウム9；低血糖・シックデイの患者指導～実践編～「日本生命病院における低血糖・シックデイに関する経験」，第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会，2023年9月，神戸
2. 神村真由，窪田由夏，池田久雄，平田貴宏，神原弘和，宇津 貴，足立充司：甲状腺機能低下症の既往があった患者で、ロキサデュスタット投与後に甲状腺ホルモンが基準値以下に低下した一例，第33回日本医療薬学会年会，2023年11月，仙台
3. 池田久雄，平田貴宏，千原亜紀子，森岡浩子，宮原阿友美，神原弘和，足立充司：日本生命病院の周術期薬剤管理加算業務における、術前中止薬と術後感染予防薬の適正使用の調査，第33回日本医療薬学会年会，2023年11月，仙台
4. 清水 咲，徳力麻希，池田久雄，平田貴宏，神原弘和，宇津 貴，足立充司：院内製剤「26%塩化カリウム液」を用いた透析液カリウム濃度補正の有用性，第33回日本医療薬学会年会，2023年11月，仙台

研究会発表

1. 足立充司：バイオシミラーを取り巻く環境と今後，第9回 リウマチセンター合同カンファレンス，2024年2月，大阪
2. 六車裕一：連携充実加算における当院の薬剤師業務について，2023年度地域薬業連携研修会，2024年2月，大阪

薬剤関係件数

摘要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計		
処方箋	外来	枚数	4,083	4,582	4,330	4,663	5,121	4,580	4,585	4,615	4,959	4,729	4,464	4,633	55,344	51,953	
		件数	5,333	5,934	5,669	5,981	6,670	6,034	6,168	6,367	6,566	6,311	6,095	6,227	73,355	69,995	
	1日当り	枚数	204	229	197	233	233	229	218	231	236	249	235	232	2,726	2,559	
		件数	267	297	258	299	303	302	294	318	313	332	321	311	3,614	3,449	
	入院	総数	枚数	6,923	7,726	7,781	7,625	7,804	7,262	7,670	6,626	7,700	7,467	7,396	7,801	89,781	86,549
			件数	11,065	12,790	13,166	12,705	12,932	12,144	12,796	11,175	12,824	12,490	12,219	13,223	149,529	142,965
		1日当り	枚数	231	249	259	246	252	242	247	221	248	241	255	252	2,943	2,846
			件数	369	413	439	410	417	405	413	373	414	403	421	427	4,902	4,700
注射	総数	枚数	23,889	24,733	25,555	26,465	26,422	27,469	25,935	24,060	27,316	28,041	30,661	29,179	319,725	310,924	
	1日当り	枚数	796	798	852	854	852	916	837	802	881	905	1,057	941	10,490	10,227	

摘要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	843	823	835	794	884	791	844	791	897	941	980	853	10,276	9,295
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	266	246	238	235	250	264	305	306	278	284	304	295	3,271	3,471
(入院化学療法)	147	204	175	198	170	156	153	170	178	153	197	175	2,076	1,931
TPN調製件数	38	47	58	21	27	7	23	16	51	47	80	17	432	508

摘要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計	
麻薬処方箋	外来	内用	0	2	0	0	0	1	0	1	0	3	0	7	2	
		外用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		注射	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	4	1
	入院	内用	106	137	146	156	119	59	98	87	123	133	117	117	1,398	1,482
		外用	9	6	2	11	17	6	6	11	15	9	15	9	116	187
		注射	425	426	418	385	488	382	406	409	432	416	432	448	5,067	4,852

製剤室

摘要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
一般製剤	件数	19	12	21	19	19	20	18	15	11	10	9	13	186	216
無菌製剤	件数	5	4	5	6	5	7	6	6	1	0	0	0	45	89

[薬剤部]

臨床工学室

スタッフ 室長：宇津 貴（副院長、内科統括、腎臓内科部長、血液浄化センター長）
次席技師長：田中恵介
主任：加藤千尋、三木和美
岡崎浩也、宮崎理恵、田口貴大、吉岡佑太、地田紬、北濱知美、佐藤栄次郎

1. 診療内容

臨床工学室は、2017年4月より中央臨床検査部から独立し新設された。現在10名の臨床工学技士が様々な臨床業務に関わり、医師・看護師や各種医療技術者と共に治療に携わっている。

2. 診療体制

1) 臨床業務

主に下記の臨床業務に関わっている。

①手術室

手術支援ロボット手術、血管外科による血管内治療、術中自己血回収術

②血管造影室

心臓カテーテル検査・治療、心臓ペースメーカーの植込み・ジェネレーター交換、植込み型心臓モニタの植込み、心臓電気生理学的検査、血管内治療

③集中治療室

血液浄化（血液透析、持続血液濾過透析法、血漿交換療法）、補助循環業務（IABP・ECMO）

④血液浄化センター

血液透析・オンラインHDF、特殊血液浄化（顆粒球除去療法、血漿交換療法、LDL吸着療法、末梢血幹細胞採取、顆粒球採取）

⑤外来

ペースメーカー外来、ペースメーカーMRI対応

⑥その他

腹水濾過濃縮、術前術後・緊急時のペースメーカーチェック、人工呼吸器・経鼻高流量酸素療法（HFNC）使用時対応、RST（呼吸サポートチーム）ラウンド

2) 医療機器の保守・修理・点検業務

外来・病棟や手術室・集中治療室などで使用する様々な医療機器の保守・修理・点検を行い、医療機器がいつも清潔で安全に使用できるよう管理運用している。

医療機器のトラブルや不具合に院内で対応し、医療機器のダウンタイムを削減している。

看護師に向けて医療機器に関する勉強会を定期的に行い、医療機器を安全に正しく使用出来る環境作りに努めている。

「臨床工学室のお知らせ」として年に4回程度、医療機器に関する様々な情報発信を行っている。

3. 認定資格

透析技術認定士	7名
心血管インターベンション技師	4名
3学会呼吸療法認定士	5名
臨床ME専門認定士	1名
第1種消化器内視鏡技師	1名
認定血液浄化臨床工学技士	1名
周術期管理チーム臨床工学技士	1名

臨床研究管理室

スタッフ 室 長：東山真里（特任副院長、皮膚科部長、乾癬センター長）

CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子

川上奈緒美（主任 看護師）（2023年8月31日まで）

寺西由加里（臨床検査技師）

千澤口真美（看護師）

事務局：藤田真弓（薬剤師）、小原秀子（ソラスト）

1. 活動内容

臨床研究管理室では、治験審査委員会・倫理委員会の事務局として治験、臨床研究、製造販売後調査の窓口業務を行っている。新規治験受託に関しては、受託可能な疾患を調査し病院HPに公開している。また治験依頼者（製薬会社）やCRO（開発業務受託機関）へ直接打診したり、すでに契約しているSMO（治験施設支援機関）からも治験案件の紹介を受けながら新規案件を受託し院内全体の治験件数の増加に向けて取り組んでいる。さらに治験依頼者との調整が円滑に運べるよう病院HPには施設情報チェックリストも公開している。

治験事務局として今年度立ち上げた利益相反委員会に検討会メンバーとしても貢献した。

昨年度よりIRBの業務効率化と書類のペーパーレス化のため治験文書管理の電磁化（DDworks）の導入に向けて検討していたが、今年度より運用を開始することが出来た。

日常業務では、CRCが治験受託時から治験終了まで、安心・安全で質の高い治験・臨床研究が提供できるよう被験者対応、治験依頼者対応、治験責任医師・分担医師への対応を行っている。また、院内各部署との調整を行い、工夫・改善しながらチームとして治験が推進出来るよう支援している。昨年度より企画準備していた医師主導治験（リハビリテーション科）の立ち上げも滞りなく運び、被験者登録及び治験薬投与まで実施することができ現在進行中である。

また、臨床研究管理室会議を1回/月開催し、運営等について協議している。

治験標準業務手順書、事務局マニュアル、CRC業務マニュアルの改訂も行った。

院内職員向けの治験研修会では、例年とは異なり治験に携わっている各部署のスタッフより「臨床治験における各職種の役割」について発表していただいた。

2. 活動実績

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 治験審査委員会（IRB） | 13回開催 |
| 倫理委員会 | 12回開催 |
| 2. 年間治験実施件数 | 19件 |
| （前年度からの継続実施12件、2023年度新規受託7件） | |
| 3. 製造販売後調査 新規契約 | 18件 |
| 4. 臨床研究 実施件数 | 47件 |

新規受託件数は7件であり前年より上回った。

年間治験実施件数は19件であり、2018年から2023年までの6年間をみると多少増減はあるもののほぼ横ばいである。臨床研究実施件数はやや増加、製造販売後調査新規契約は前年と比べやや減少している（図1）。

治験における被験者対応人数がやや減少しているの

は、新規案件の1試験あたりの契約被験者数が少ないためである。

また、モニター対応時間に関しては、COVID-19感染拡大以来、依頼者側がモニターの来院を制限していることにより感染症法の位置付けが5類感染症に変更しても昨年とほぼ変わらない事及び依頼者からリスクの低い治験実施施設として評価を受けているため、モニターの来院回数が少ない理由でもある。（図2）。

3. 認定

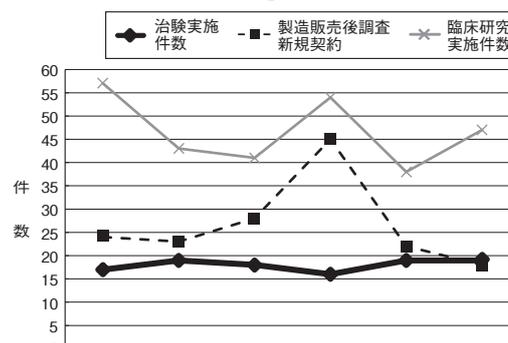
日本臨床薬理学会認定CRC

2名

（谷口真理子）

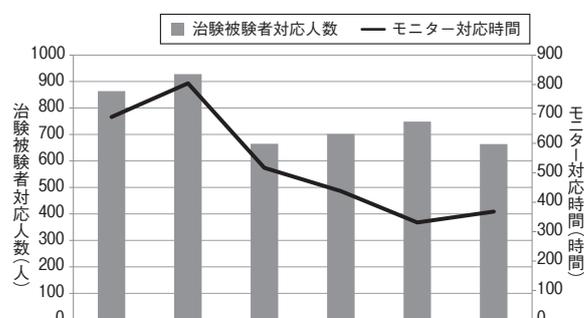
（寺西由加里）

【図1（治験・臨床研究等実施状況）】



年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
治験実施件数	17	19	18	16	19	19
製造販売後調査 新規契約	24	23	28	45	22	18
臨床研究実施件数	57	43	41	54	38	47

【図2（治験被験者対応人数・モニター対応時間）】



年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
治験被験者対応人数	864	928	665	702	749	664
モニター対応時間	689.75	804	517	438	331.5	368

医療安全対策室

スタッフ 室 長：岸 正司（副院長、救急総合診療科部長、救急総合診療センター長、集中治療室室長）
 医療安全管理者：賀戸ひとみ（副看護部長）
 室 員：足立充司（薬剤部長）、近石克也（医事サービス部長）

1. 概要

インシデント・アクシデントレポート及びオカレンスレポートについての分析・情報共有を「医療安全ミーティング」として医療安全対策室で週単位に実施、再発防止策を検討した。また多職種によるワーキング活動を引き続き行っている。医療安全対策地域連携加算Ⅰを継続した。

2. 活動内容

- 1) 以下の医療安全管理マニュアルの見直し、改訂
 - ①カラーシリンジルールの具体運用
 - ②救急カートの整備・管理基準
 - ③アレルギー反応・アナフィラキシーショック時の対応
 - ④アナフィラキシーフローチャート
 また、医療の質の向上をより一層図るためAIによる胸部X線画像診断を3月18日より導入した。
- 2) 医療安全管理者の育成
 看護部安全対策委員会では、毎月、事例の共有及び検討を行った。看護管理者のリスクのとらえ方や医療安全管理に対する意識が高まるように働きかけた。
- 3) 医療安全対策地域連携加算Ⅰ
 - ①Ⅰ－Ⅰ連携 JCHO大阪みなと中央病院
 - ・12月13日 JCHO大阪みなと中央病院から当院へ訪問審査
 - ・1月17日 JCHO大阪みなと中央病院を訪問審査
 - ②Ⅰ－Ⅱ連携 大野記念病院
 - ・2月20日 大野記念病院を訪問審査
- 4) ワーキング・チーム活動
 医療安全管理委員会では、下部組織として2017年度より、医薬品安全管理ワーキング、転倒・転落防止ワーキング、2019年度にVTE予防ワーキング、2020年度にCVC認定ワーキングという4つの実働的な多職種ワーキンググループを設置、活動を開始した。医薬品安全管理ワーキングでは、定期的なラウンドを行い、薬剤に関するインシデント事例の検討等を行った。転倒・転落防止ワーキングでは、毎月病棟のラウンドを行い、療養環境の確認、薬剤やりハビリの情報共有、看護計画の見直し等を行った。VTE予防ワーキングでは、入院患者のリスク評価を行うと共に、医師、看護師への周知、看護師向けの勉強会を開催した。CVC認定ワーキングでは、11月9日、10日に、CVC認定の為の講習会を開催し、12名が参加した。また、新たに5名のCVC認定の承認を行った。また、2021年度より虐待対策チームを設置し年2回研修を行い、職員への周知を図った。

5) 医療安全ミーティング

週単位でのインシデント・アクシデントレポートの分析、事例の検討を毎週1回開催した。さらに、2017年度11月より合併症の報告促進を目指して導入した、オカレンス報告は2022年度は35件、2023年度は11件の報告があり、検討を行った。

◆インシデント・アクシデント報告の推移 (2021年度～2023年度)

	薬 剤	転 倒 ・ 転 落	輸 血	治 療 ・ 処 置	ド レ ン ・ チ ュー ブ	検 査	医 療 機 器	療 養 上 の 世 話	そ の 他	合 計
2021年度	447	349	7	61	150	119	44	89	107	1,373
2022年度	450	375	12	44	188	113	35	105	118	1,440
2023年度	566	352	9	56	163	152	26	137	144	1,605

6) 医療安全研修

【第1回】2023年9月14日（木）17：15～18：00

1. テーマ：「安全な医薬品管理～医療安全情報から」
講 師：薬剤部長 足立充司
2. テーマ：「児童虐待と発達障害の複雑な関係について」
講 師：小児科部長 西垣敏紀
参加者：815名（ビデオ視聴含む）
受講率 99%
総合評価：「良い」99%

【第2回】2024年2月1日（木）17：15～18：15

1. テーマ：「虐待チームの活動報告」
講 師：MSW 福庭加奈
2. テーマ：「医療被ばくの基礎知識と被ばく低減に向けて」
講 師：中央放射線部 技師長 長澤浩造
3. テーマ：「ノド・頸部に関わる呼吸困難 酸素飽和度は正常 あなたはどのように対応しますか」
講 師：耳鼻咽喉・頭頸部外科部長 小泉敏三
参加者：792名（ビデオ視聴含む）
受講率 98.3%
総合評価：「良い」99%

感 染 対 策 室

スタッフ 室 長：西垣敏紀（インфекションコントロールドクター、小児科部長）
副 室 長：大野典子（副看護部長、感染症看護専門看護師）
薬 剤 師：池田久雄（抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師）
看 護 師：堤 早苗
検査技師：佐古大輔

1. 活動内容

感染対策室は病院の理念に基づき「最良の医療サービス」を目標に日々の感染症予防と感染が発生した場合の拡大防止、感染症の診断及び治療、適切な抗菌薬使用支援といった役割を担う。

昨年度と同様に、感染防止策の徹底と環境整備、外来トリアージの整備と職員の不安・負担の軽減、日常診療機能が維持できるよう支援した。

国際化に備え、髄膜炎菌ワクチンの接種を対象職員へ開始した。（対象者107名、接種人数：102名）

2023年5月、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）が5類となり、通常の医療提供体制に移行したことから、当院での対応は、従来の標準予防策へ移行していくものとした。入院隔離期間は10日間から7日間に短縮し、面会・外出泊は感染対策上の制限は不要、ユニバーサルマスクングは継続とした。患者・職員のCOVID-19孤発事例はあったが院内感染の事例はなかった。

ラウンドではカンファレンス結果に基づいた診療支援、と看護感染委員をはじめとする現場からの質問や提案などの確認評価、時に微生物検査や抗菌薬使用状況に関する情報を提供した。また、本年度からは看護感染委員が当番制でICT/ASTカンファレンス及びラウンドに参加する体制を新たに開始し、ラウンドの評価がタイムリーにスタッフへ届きやすくなった。

社会的活動としては、外来加算連携医療期間への訪問、地域に向けた学習会の企画開催、地域医療機関からの相談の受け付けなどを行った。

2. 活動体制

感染対策室は医師、看護師、薬剤師、微生物検査技師、事務職員から構成されるAST/ICTと連携し、感染症診療や感染防止に関する支援・介入を速やかに開始できる体制となっている。

また、患者の最も近くで感染リスクを評価している看護感染委員が、異常を察知すれば速やかに感染対策室へ報告できる体制をとっている。

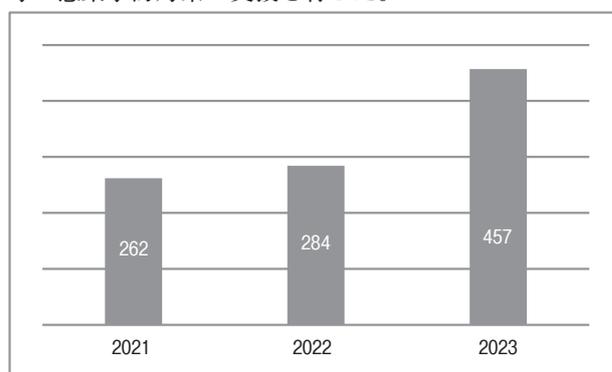
院内感染およびアウトブレイク発生時等において、ICT/AST、看護感染委員では対応が困難と判断した場合は、院内感染対策委員会の臨時の開催を召集し早急な対応が可能な体制をとっている。

3. 活動実績

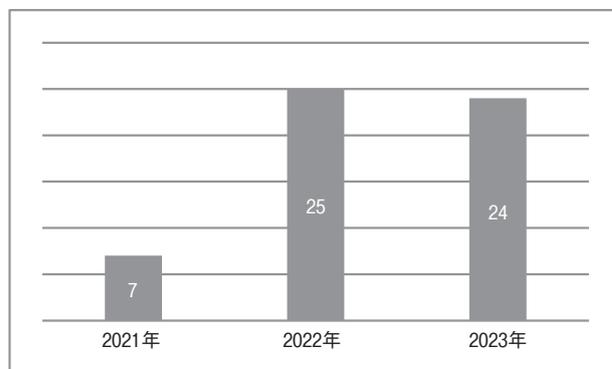
【感染症診療の支援】

ICT/ASTの介入件数は457件（COVID-19対応除く）（平均38件/月）であった。（図1）介入内容は、届け出

抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択と効果判定などであった。今年度は、結核発生患者数は昨年度と比較すると横這いだが、2021年度と比較すると3倍以上の増加で、昨年度に引き続き、接触者の調査等について介入を行った。（図2）また、ウイルス性感染症等の感染予防対策の支援を行った。

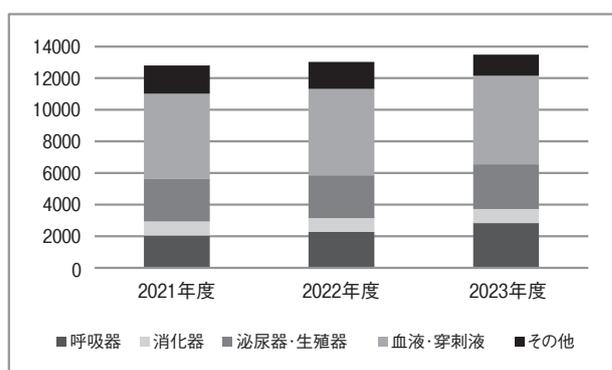


（図1）ICT介入件数（COVID-19除く）



（図2）結核患者発生数

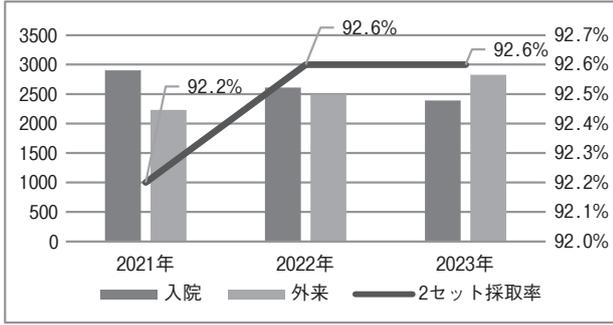
感染症診療において重要な指標となる微生物検査では、入院・外来患者において泌尿器・生殖器では減少しているが他においては増加傾向であった。（図3）



（図3）微生物検査数 入院・外来

血液培養検査は5217検体、2セット採取率は92.6%で

昨年度と同様のセット率であるが、検査数では100件程度増加した。(図4)



(図4) 血液培養検査検体数 セット率

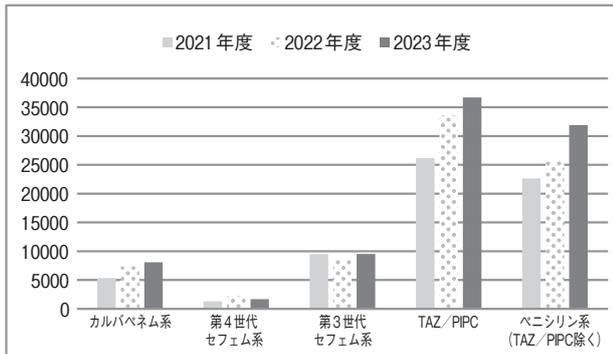
【耐性菌検出抑制、集団感染防止に対する取り組み】

今年度は、MRSAは入院69株、外来145株（2022年入院77株、外来134株）、ESBL産生菌 (*Escherichia coli*) は、入院47株、外来105株（2022年入院55株、外来91株）、ESBL産生菌 (*Klebsiella pneumoniae*) は、入院14株、外来14株（2022年入院16株、外来8株）であり昨年度と比較し大きな増減はなかった。また、耐性菌の孤発症例はあったが、同一部署・診療科での集積はなかった。抗菌薬関連下痢症の起因菌となる *Clostridioides difficile* 陽性数は8件/176検体（2022年12件/139検体）で昨年度に比べると減少傾向である。

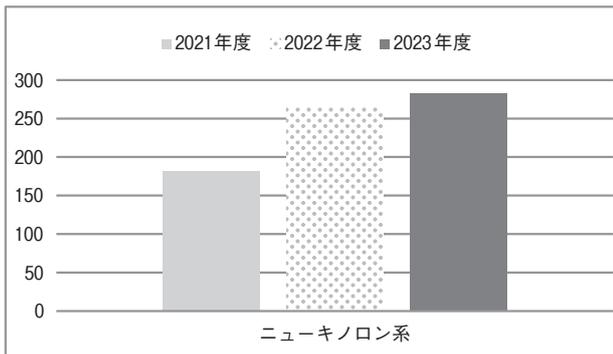
【抗菌薬適正使用に対する取り組み】

届出抗菌薬の年間総使用量はカルバペネム系抗菌薬8096g（2022年度7344g）、タゾバクタム・ピペラシリン36686g（2022年度33581g）、ペニシリン系抗菌薬31886g（2022年度25797g）、は増加傾向、第三世代セファロスポリン系抗菌薬9526g（2022年度8529g）は横合いであった。(図5) キノロン系抗菌薬は283g（2022年度264g）(図6) と増加した。

年間抗菌薬使用量 (g)



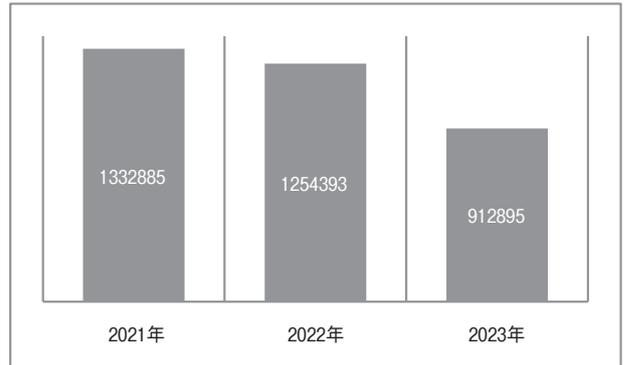
(図5) 全抗菌薬（キノロン系除く）使用量 (g)



(図6) キノロン系抗菌薬年間使用量 (g)

【手指衛生徹底への取り組み】

病棟・外来部門擦式手指消毒剤の年間購入量は大幅に減少した。(図7)



(図7) 病棟・外来部門擦式手指消毒剤年間購入量 (ml)

【地域連携施設における取り組み】

今年度は、2023年10月10日～10月24日までに指導強化加算における外来加算連携医療機関である地域連携6診療所へ訪問し感染対策支援を実施した。また、医師会と連携し、感染対策や抗菌薬適正使用に関連した研修会を企画開催、西区内の感染対策向上加算1取得の3病院と連携し「ICT便り」を発刊した。感染対策向上加算1取得病院との相互ラウンドは12月に大阪府済生会野江病院を訪問した。大阪掖済会病院による当院の訪問において、7階病棟処置室の内診台直下にある床のコンセント差し込み口を漏電防止のためフィルムでカバーしている件について改善の取り組みが必要と指摘があった。施設用度Gでコンセントの差し込み口のシートを貼り替え、壁にあるコンセントで対応していくこととなった。内診台直下のコンセントは撤去予定である。感染対策向上加算2及び3取得の病院との合同カンファレンスは5施設と計4回開催した。

【職員教育】

- ・第48回院内感染対策委員会教育講演（2023年6月6日）国際的に脅威となる感染症（ICT講演），感染対策室 大野典子：出席者736名（対象者853名）出席率86.3%
- ・第49回院内感染対策委員会教育講演（2023年8月17日）感染症の病態把握と抗菌薬適正利用～グラム染色を最大に利用する～，大阪大学医学部附属病院感染制御部 山本剛：出席者261名（対象者873名）出席率29.9%
- ・第50回院内感染対策委員会教育講演（2024年2月6日）微生物検査の流れと検体採取の重要性、微生物検査室兼感染対策室 佐古大輔，洗浄せずに消毒するべからず（ICT講演），感染対策室 大野典子：出席者731名（対象者857名）出席率85.3%
- ・新採用者研修 大野典子・堤早苗：出席者44名（対象者45名）出席率97.8%
- ・リハビリテーション室勉強会，手指衛生と手袋の適切な使用（2024年1月16日）大野典子：16名

4. 業績

論文・著書

1. 池田久雄, 平田貴宏, 大野典子, 堤 早苗, 小中八郎, 佐古大輔, 岡 美希, 西垣敏紀: 抗菌薬届出書を用いた, 広域抗菌薬と抗methicillin-resistant Staphylococcus aureus薬の処方時に想定される感染病巣や使用目的の調査, 日本生命病院医学雑誌, 51: 12-18, 2023年

学会発表

1. 大野典子: 新興感染症発生時に市中の急性期病院が診療機能を維持するために求められること, 日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
2. 堤 早苗, 大野典子, 佐古大輔, 池田久雄, 西垣敏紀: COVID-19流行前から現在までの擦式手指消毒剤使用量の比較, 日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
3. 佐古大輔 薬剤感受性分析装置変更に伴うアンチバイオグラムの活用と試薬経費削減について, 第15回日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
4. Michiko Ito, Akane Ninomiya, Kazuko Ishii, Akie Shimada, Noriko ohno, Atuhiro Kanayama, Shunji Hayashi: Bacterial contamination of holder bags to carry antiseptic hand rub bottles, The 19th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection, 2023年7月, Seoul, Korea

あ っ た か サ ポ ー ト セ ン タ ー

スタッフ センター長：橋本久仁彦

(副院長、内分泌・代謝内科部長、糖尿病内分泌センター長、栄養管理室長)

部 長：重谷政憲

(1) 地域医療サービスグループ

看護師：久留明子

事務員：西岡千幸、山下智咲、山口美里、熊田洋子、岡山麻未 (2023年7月～)、真宮恭子、山田早織 (2023年6月～)、渡辺喜代美、谷川志津香、横山麻紀子

(2) 入退院支援センター

看護師：阿部恭子 (統括師長)、小山佐知子、土井美奈子、湯阪久美子、鳴原景子、田村千穂、中田宏美、川端千里 (2023年4月～8月)、田畑文子、岩本真澄、八尾みゆき

事務員：小谷五月、幸得明美、高山あゆみ (～2023年10月)、大塚まゆみ (2023年10月～)

(3) 医療福祉相談グループ (入退院支援センター兼務)

医療ソーシャルワーカー：本家裕子 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員)、

(Medical Social Worker:MSW) 松榮優子 (社会福祉士・介護支援専門員)、

福庭加奈 (社会福祉士・精神保健福祉士)、

黒川曜子 (社会福祉士)、大島友貴 (社会福祉士)、

菊池蒔子 (社会福祉士・精神保健福祉士)、谷岡あすか (社会福祉士)、

浅井菜摘 (社会福祉士) (～2023年7月)、

茨木真規子 (社会福祉士) (2023年6月～)

※患者サポートスタッフ：中野敬子、藤原裕美子 (～2023年6月)、角野摩貴子、大槻三代 (2023年6月～)

1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- a. 地域の医療機関からの診療・検査予約
- b. 紹介患者の受付
- c. 紹介患者の受診結果報告
- d. かかりつけ医の紹介 (歯科含む)
- e. 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力
- f. 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急時入院希望の登録・契約手続き

g. 開放型病院登録医の共同診療時の対応

h. 病院紹介冊子の作成

i. 地域医療NETWORKの運用・管理

j. セカンドオピニオンの受付・他院への申込

2) サービス広報

a. 医療機関向け診療案内の発行

b. 登録医への診療日程案内・情報提供

c. 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行

■ 2023.4～2024.3 診療科別紹介・逆紹介患者数、あったかサポートセンター経由患者数 (年間)

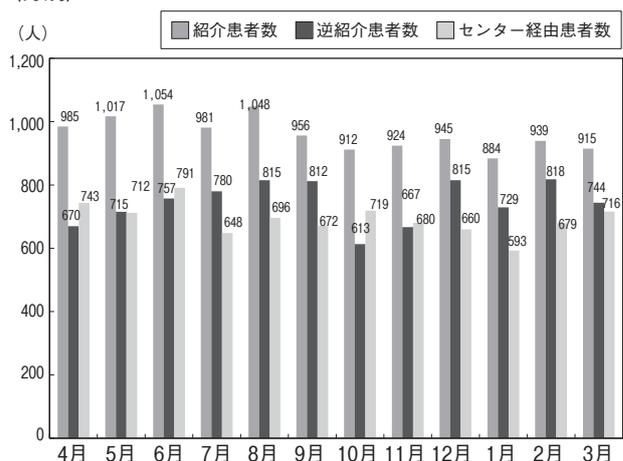
〈年間〉

科別	紹介患者数※1 (救急車搬入患者含む)	逆紹介患者数	あったかサポートセンター経由紹介患者数※2
循環器内科	335	576	332
消化器内科	619	562	711
内分泌・代謝内科	321	468	220
呼吸器・免疫内科	800	555	719
血液・化学療法内科	230	354	210
脳神経内科	295	218	309
腎臓内科	207	702	202
消化器外科	92	234	105
呼吸器外科	41	113	56
乳腺外科	122	370	112
心臓血管外科	80	152	103
産婦人科	1,911	1,841	1,259
小児科	396	156	340
神経科・精神科	109	168	135
脳神経外科	37	58	45
整形外科	406	544	366
皮膚科	622	280	560
泌尿器科	291	286	321
眼科	253	530	242
耳鼻咽喉・頭頸部外科	686	320	463
形成再建外科	235	61	129
放射線診断・IVR科	972	21	1,211
放射線治療科	2	15	5
麻酔・緩和医療科	15	17	17
救急総合診療科	2,466	334	120
リハビリテーション科	0	0	0
検査診断科	17	0	17
合計	11,560	8,935	8,309

※1 紹介患者数は初診算定数。

※2 センター経由患者数は再診を含む。

〈月別〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	985	1,017	1,054	981	1,048	956	912	924	945	884	939	915
逆紹介患者数	670	715	757	780	815	812	613	667	815	729	818	744
センター経由患者数	743	712	791	648	696	672	719	680	660	593	679	716

- d. 市民健康セミナー等の開催、開催協力 (P153、P154参照)
- e. 地域医療機関等の情報収集・調査
- f. 患者の声、意見収集等を踏まえた患者サービス体制管理
- g. 院内イベント企画・開催、開催協力
- h. 図書・情報コーナーの管理
- i. ボランティアの受付・調整

2. 入退院支援センターの活動内容

2016年より入退院支援センターを開設し8年目となった。入退院支援センターは、入院決定時から各職種が連携して安心して入院生活が送れるよう支援すること、入院時から退院後の生活をふまえた退院支援を実践し、より質の高い医療サービスを提供することを目的としている。

2023年10月から、PFM (Patient Flow Management) を開始した。

1) 業務内容

- a. 医事部門・入院受付
 - ①入院申し込み、入院当日の入院手続き、病室希望の把握、入院生活のご案内
 - ②無料低額診療事業等の紹介
- b. 看護師
 - ①入院センター：患者基礎情報の収集、術前オリエンテーション、クリニカルパスの説明
2023年10月より、入院時支援の対象を従来の手術

(全身麻酔・腰椎麻酔)目的の入院患者から全予定入院患者(産科・小児科を除く)へ拡大した。それに伴い、入院療養計画書の作成及び説明を行い、必要時に入院前から専門チームや認定看護師等へ連携している。2024年1月からは、全てのクリニカルパスの説明を開始した。

- ②入院受付：病床管理 看護相談
- ③医療連携：紹介患者の受診・入院の受け入れ調整
- ④退院調整看護師：退院支援・退院調整
- ⑤がん相談・緩和ケアチーム：がん治療センター参照

c. 薬剤師

- ①術前内服確認

d. MSW

- ①退院支援・退院調整
- ②ソーシャルワーク業務

2) 活動実績

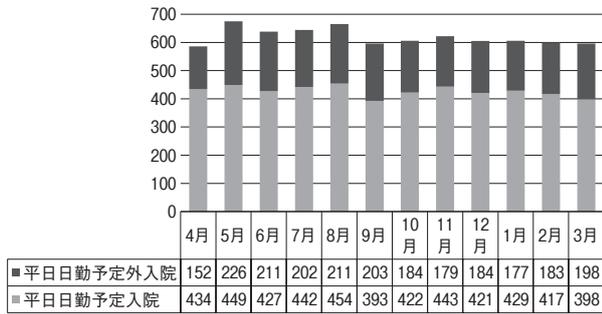
時間内(平日日勤)の入院患者数は月平均620件(昨年度586件)であった。

入院センターでの対応件数(周術期対応件数は含まず)は、月平均302.3件(4~9月平均198.8件、10~3月平均405.8件)(昨年度175.2件)であった。

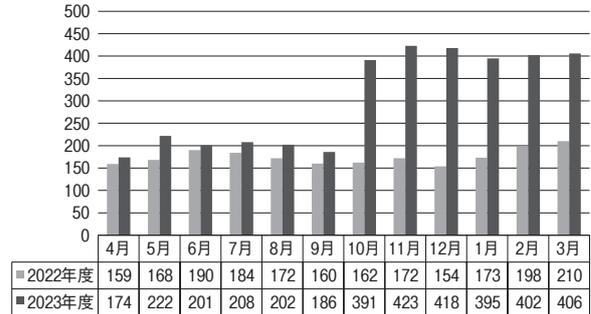
入退院支援加算1は月平均411.2件(4~9月平均237.6件、10~3月平均584.6件)(昨年度194.3件)、入院時支援加算1・2は月平均211.8件(4~9月平均100件、10~3月平均323.6件)(昨年度53.1件)であった。

■入退院支援センター 活動状況 (2023.4~2024.3)

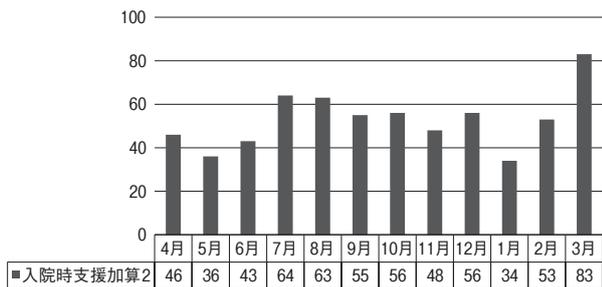
2023年度 平日日勤(8:30~17:00)入院患者数



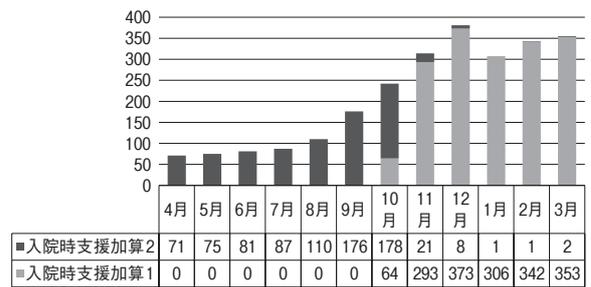
入院センター(入院時支援)対応件数



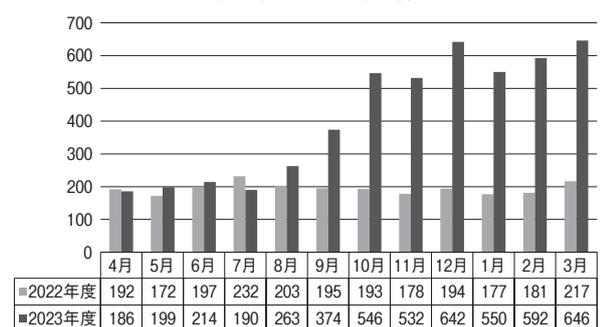
2022年度 入院時支援加算2 算定件数



2023年度入院時支援加算1・2 算定件数



入退院支援加算1 算定件数



3. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

a. 相談援助総件数

2023年度は総数16,021件（1日平均60.7件、月平均1335.1件）の相談を受けた。

b. 新規相談

2023年度の新規相談は4,076件（昨年：4,752件）であった。紹介経路別にみると、看護師（1,055件）、医師（684件）およびその他の職員を含めた院内スタッフからの支援依頼が47.7%（昨年：50.9%）を占め、本人（678件）と家族（506件）からの相談が29.0%（昨年：28.5%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が40.4%と最も多く、次いで無料・低額診療に関する相談援助（15.9%）、介護保険、身体障がい者手帳、指定難病、精神保健等の諸制度に関する説明や

申請援助（15.3%）、受診・受療に関する問題調整（12.4%）となった。

2) 地域活動

- a. 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進
- b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区障がい者・高齢者虐待防止専門部会参画による地域の高齢者施策等への貢献
- c. 西区在宅医療・介護連携推進会議等への参画、地域の在宅医療の普及と医療・介護連携の推進
- d. ニッセイケアプランセンター介護支援専門員（ケアマネジャー）兼務による在宅生活の支援
- e. 大阪市子ども虐待医療支援検討会、大阪府児童虐待防止医療ネットワーク事業連絡会参加による各関係機関との児童虐待対応の連携強化
- f. 脳卒中地域連携パス、大腿骨頸部骨折地域連携パスへの参画、脊椎椎体骨折地域連携パスの活用による円滑な地域医療連携の促進

□ 医療福祉相談グループ

〈相談援助件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	109	111	102	81	95	102	82	87	73	85	59	69	1,055	1,350
消化器内科	70	67	104	136	132	83	86	75	87	77	83	66	1,066	1,318
内分泌・代謝内科	117	103	142	94	185	133	121	73	74	92	99	74	1,307	1,120
呼吸器・免疫内科	310	275	314	256	218	213	269	243	194	212	194	226	2,924	3,277
血液・化学療法内科	116	141	132	105	151	111	128	85	124	125	142	125	1,485	1,681
脳神経内科	99	67	93	89	121	86	115	99	102	80	86	122	1,159	1,428
腎臓内科	41	64	73	65	102	68	36	44	80	109	98	85	865	1,176
消化器外科	35	47	74	94	66	36	54	41	73	71	58	62	711	684
呼吸器外科	7	6	11	11	24	26	21	16	17	2	2	2	145	73
乳腺外科	37	22	20	52	47	38	53	29	16	7	0	6	327	449
心臓血管外科	8	5	9	6	19	43	51	46	16	23	13	4	243	87
脳神経外科	20	9	9	20	12	6	1	1	2	0	4	2	86	244
産婦人科	67	40	44	39	52	65	44	38	54	36	40	45	564	461
小児科	35	29	18	14	21	20	20	32	59	29	11	7	295	341
神経科・精神科	43	47	67	40	63	85	49	66	84	46	95	59	744	812
整形外科	62	58	37	48	57	56	62	55	50	48	34	37	604	1,005
皮膚科	22	13	13	17	26	20	26	29	39	2	10	21	238	469
泌尿器科	21	32	39	46	59	31	44	56	44	31	23	38	464	406
眼科	6	2	0	10	13	3	7	4	2	0	4	12	63	65
耳鼻咽喉・頭頸部外科	18	52	29	32	19	28	19	44	37	34	12	21	345	349
形成再建外科	8	3	11	7	3	3	13	0	0	3	1	4	56	54
放射線診断・IVR科	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	7
放射線治療科	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	3
麻酔・緩和医療科	1	1	0	0	0	0	9	9	15	9	7	2	53	19
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急診療科	42	59	54	82	105	87	64	64	46	55	64	63	785	500
不明・その他	41	41	31	42	43	36	40	51	47	25	17	16	430	605
合計	1,335	1,297	1,426	1,386	1,634	1,379	1,414	1,287	1,337	1,202	1,156	1,168	16,021	17,983

※2021年10月～総合内科より内分泌・代謝内科、呼吸器・免疫内科へ分科

〈新規相談件数（紹介経路別）〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他																					
本人	38	3	0	39	5	1	44	8	1	82	12	2	111	5	0	55	13	0	39	11	1	42	4	0
家族	23	12	1	29	9	1	28	12	1	44	8	0	54	8	1	35	10	0	32	11	1	46	5	0
医師	26	22	0	27	46	0	19	34	0	21	31	0	26	29	0	18	30	1	22	37	0	21	28	1
看護師	26	63	0	17	63	0	24	73	0	30	87	0	26	76	0	23	82	0	21	50	1	20	51	0
その他院内職員	12	6	0	7	10	0	9	6	0	11	10	0	15	4	0	10	6	0	15	7	0	5	7	0
保健福祉関係機関	9	6	4	9	7	1	12	16	0	3	5	0	11	4	0	9	8	0	4	14	0	9	12	1
医療機関	4	6	0	6	6	1	11	3	0	9	3	1	16	4	0	9	5	0	9	6	0	13	4	2
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0
介護保険施設・事業所	7	22	0	19	19	0	23	19	1	20	22	1	24	25	0	17	25	0	16	22	1	21	26	0
その他	1	3	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	2	2	0	1	2	0	2	2	1
小計	146	143	5	153	167	4	170	171	4	220	179	4	285	156	1	179	181	1	160	160	5	179	139	5
総合計	294			324			345			403			442			361			325			323		

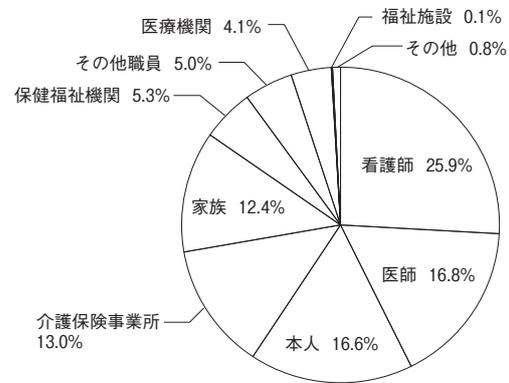
	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他									
本人	53	4	1	31	6	0	24	5	0	28	9	1	586	85	7	618	133	9
家族	42	17	1	11	9	0	16	6	2	19	11	1	379	118	9	469	116	8
医師	18	34	1	20	41	0	24	48	0	22	37	0	264	417	3	339	440	1
看護師	13	66	0	28	76	1	16	59	0	13	50	0	257	796	2	251	1,098	3
その他院内職員	8	10	0	8	6	0	8	9	1	5	8	0	113	89	1	126	158	2
保健福祉関係機関	6	9	0	11	12	1	5	9	0	8	12	0	96	114	7	112	142	4
医療機関	7	2	0	18	2	0	5	2	3	5	5	0	112	48	7	117	85	2
福祉施設	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	1	1	3	7	1
介護保険施設・事業所	17	26	0	14	31	1	22	26	1	23	36	1	223	299	6	215	262	8
その他	2	1	0	2	2	0	1	1	0	1	0	0	14	17	2	13	5	5
小計	166	169	3	144	185	3	121	165	7	124	169	3	2,047	1,984	45	2,263	2,446	43
総合計	338			332			293			296			4,076			4,752		

〈相談援助件数（年度比較）〉

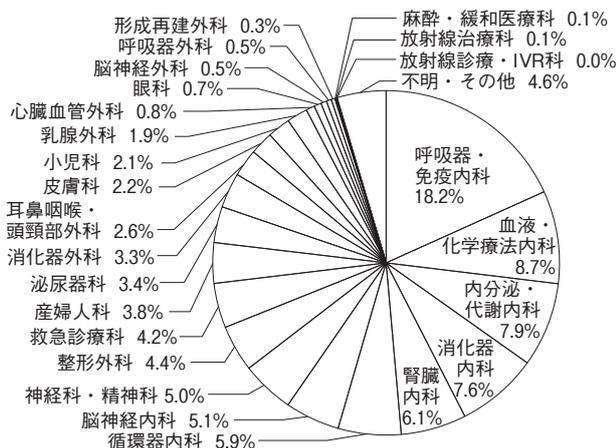
	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
循環器内科	1,055	1,350	1,321	940	541
消化器内科	1,066	1,318	644	589	502
内分泌・代謝内科 ^(※1)	1,307	1,120	2,461	2,733	1,684
呼吸器・免疫内科 ^(※1)	2,924	3,277			
血液・化学療法内科	1,485	1,681	1,428	1,232	1,170
脳神経内科	1,159	1,428	578	928	1,012
腎臓内科	865	1,176	965	990	416
消化器外科	711	684	518	629	407
呼吸器外科	145	73	39	60	34
乳腺外科	327	449	233	314	195
心臓血管外科	243	87	221	132	63
脳神経外科 ¹	86	244	243	185	194
産婦人科	564	461	497	553	498
小児科	295	341	357	481	373
神経科・精神科	744	812	915	885	748
整形外科	604	1,005	995	1,238	747
皮膚科	238	469	357	254	301
泌尿器科	464	406	461	544	353
眼科	63	65	66	69	86
耳鼻咽喉・頭頸部外科	345	349	290	406	256
形成再建外科	56	54	38	32	31
放射線診療・IVR科	4	7	3	14	1
放射線治療科	3	3	0	0	2
麻酔・緩和医療科	53	19	19	14	23
リハビリテーション科	0	0	0	1	1
救急診療科	785	500	349	170	548
不明・その他	430	605	547	708	579
合計	16,021	17,983	13,545	14,101	10,765

※1 2021年10月～総合内科より分科

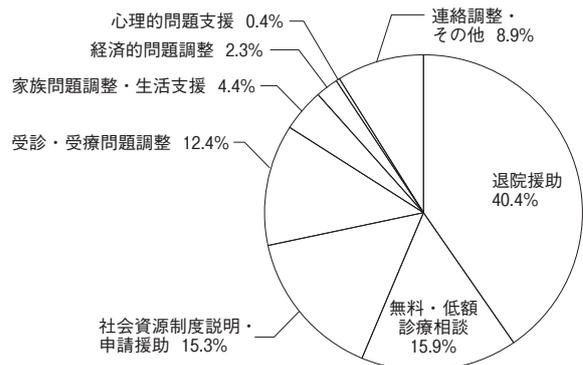
〈新規相談（紹介経路別）〉



〈新規相談（診療科別）〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(464名)

[敬称略](2024.3.31現在)

西 区 87	近江眼科クリニック	近江 源次郎
	健クリニック	三木 基子
	やまもとクリニック	山本 忍
	すぎた内科クリニック	杉田 潔
	医療法人 敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	京町堀整形外科	牧野 正
	大谷クリニック	大谷 眞一郎
	藤野歯科医院	藤野 明
	えのもとクリニック	榎本 準
	奥町内科	奥町 富久丸
	ISクリニック	糸原 房宣
	福中クリニック	福中 道男
	阿波座診療所	藤井 省治
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	かおるレディースクリニック	岡本 薫
	(医) 良和会 松浦内科クリニック	松浦 良和
	あわぎこどもクリニック	田中 篤志
	うつぼ本町キッズクリニック	辰巳 貴美子
	クリスタル本町クリニック	田中 健太郎
	九間クリニック	九間 祥一
	ながお医院	永尾 尚子
	王内科胃腸科クリニック	王 康義
	藤本クリニック	藤本 聡
	曲淵ペインクリニック	曲淵 達雄
	医療法人翠真会 桃源会クリニック	駒倉 啓大
	新町クリニック	濱田 和哉
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 博規
	耳鼻咽喉科さとうクリニック	佐藤 一雄
	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合	蒲生 健
	ふじわら整形外科	藤原 桂樹
	めぐみ耳鼻咽喉科・アレルギー科	巽 恵美子
	やだクリニック	矢田 知恵
	さゆり女性クリニック	後安 聡子
	西長堀やましたクリニック	山下 正真
	(医) 天野医院	天野 良亮
	(医) 天野医院	天野 祥子
	いぬい小児科	乾 一郎
	坪井眼科	坪井 俊児
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	上嶋内科消化器科クリニック	上嶋 弾
	耳鼻咽喉科 みやざきクリニック	宮崎 裕子
四ツ橋 腎泌尿器科 こじまクリニック	児島 康行	
北堀江奏でレディースクリニック	寺田 裕之	
(医) 治生会 石村クリニック	石村 順治	
耳鼻咽喉科岸本医院	岸本 勝	
西長堀医院	則武 正三	
いとう消化器クリニック	伊藤 裕之	
(医) 三慧会 IVFなんぼクリニック	森本 義晴	

西 区 87	島野医院	島野 直人
	下條内科クリニック	下條 信雄
	(医) 丹生医院	丹生 純一
	(医) 丹生医院	丹生 真理子
	じっしょう内科	實正 哲
	平山眼科クリニック	平山 優子
	(医) 長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	本城整形外科	本城 昌
	はらだこどもクリニック	原田 由利香
	医療法人渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕
	後藤こころのクリニック	後藤 康人
	(医) 佐々木会 佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	吉川病院	吉川 守
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	北川医院	北川 久能
	回生会 河野外科	河野 実
	医療法人 佐々医院	佐々 仁美
	医療法人 佐々医院	佐々 成太郎
	さかさきこどもクリニック	坂崎 弘美
	(医) 杉本眼科	杉本 英之
	(医) フジイ内科クリニック	藤井 繁樹
	藤田外科胃腸科	藤田 宗行
	整形外科 おうクリニック	王 正道
	くらち皮フ科クリニック	倉知 貴志郎
	坂井医院	坂井 貴子
	九条サクラ診療所	中川 真宗
	ほりえキッズクリニック	山下 純英
	京町堀内科外科クリニック	矢田 章人
	かもめクリニック第3	米虫 良允
	医療法人福仁会ウエナ工産婦人科	大川 貴之
	本町ファミリークリニック	河合 茂明
	本町ふしたに内科・消化器内視鏡クリニック	伏谷 英朗
	慶生会クリニック大阪	奥田 由佳
	医療法人悠千会 めぐみ皮膚科・アレルギー科	巽 一啓
	みよし眼科	三好 秀幸
	つじもと眼科クリニック阿波座院	西村 瑤子
	(医) 生野内科クリニック	生野 善康
	(医) 前田診療所	前田 勉
	(医) 頼医院	頼 明信
	脳神経外科たかせクリニック	高瀬 卓志
	塩見医院	塩見 啓二
	天斗会 中山医院	中山 富雄
北代診療所	北代 勇夫	
北代診療所	北代 修司	
みなと生協診療所	倉澤 高志	
(医) 大和医院	大和 直久	
(医) 信愛会大和診療所	大和 宗久	
義元診療所	義元 徳祥	
えさきクリニック	江崎 秀和	
いはら内科	井原 義二	
野洲クリニック	野洲 武司	

港 区 60	かもめクリニック	中濱 瑛太郎
	かもめクリニック	石本 英之
	かもめクリニック	木下 啓太
	坂元内科クリニック	坂元 一夫
	香山医院	香山 仁志
	(医) 西診療所	西 紀
	澤田内科クリニック	澤田 光孝
	聖愛会 山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞
	南労会 松浦診療所	新井 孝和
	太田整形外科クリニック	太田 信彦
	しん眼科クリニック	秦 尚修
	溝口内科	溝口 理映子
	島崎診療所	島崎 久美子
	大塚医院	大塚 穎宏
	大塚医院	大塚 欣敏
	岸医院	岸 良治
	(医) 小嶋整形外科	小嶋 博司
	山田医院	山田 卓
	(医) ゆうあい会 宮岡クリニック	宮岡 哲郎
	社団緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦
	社会福祉法人 秀生会ザイオン診療所	中山 秀雄
	金谷内科医院	金谷 英夫
	(医) 大奈会 やすだ耳鼻咽喉科	安田 大作
	やぎクリニック	八木 隆
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎
	(医) 隆明会 やぎ眼科クリニック	八木 明恵
	笹尾医院	出雲谷 剛
	(医) 堀井耳鼻咽喉科	堀井 睦
	谷内医院	石井 登志枝
	(医) 尚信会 整形外科河村医院	河村 禎人
	(医) 喜馬外科	喜馬 秀樹
	(医) 鈴木医院	鈴木 稔也
	土田クリニック	土田 茂
	西山眼科	西山 和夫
	やながクリニック	弥永 邦彦
	大阪医院	大阪 正視
	賀来医院	賀来 清高
	龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘
	金田クリニック	金田 眞一
	古林内科	古林 芳範
	北村医院	北村 雅哉
	(医) ほのぼの会 にいつクリニック	新津 建樹
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優
	(医) 三愛会 中山整形外科	中山 博堯
	あや内科クリニック	篠原 亜弥
大 正 区 45	医療法人邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	アダチ眼科医院	郡 千栄
	(医) 田邊耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
	横山医院	横山 正博
	足立医院	足立 俊之
	(医) 秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸
	考優会 五味クリニック	五味 正裕

大 正 区 45	北新会 藤原耳鼻咽喉科医院	藤原 隆行
	加納レディーズクリニック	加納 英男
	よしむら整形外科	吉村 弘治
	しまもとクリニック	島本 敬三
	しまもとクリニック	島本 里絵
	柿原医院	柿原 幸司
	西平診療所	西平 守也
	西平診療所	西平 香代
	西平診療所	西平 守和
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸
	大阪きつがわ医療福祉生活協同組合	鈴木 昇平
	杏山会 山北内科クリニック	山北 哲也
	杏山会 山北内科クリニック	山北 直子
	一ノ名医院	一ノ名 正
	小正医院	小正 尚裕
	(医) 良仁会 西村外科	西村 良彦
	山北整形外科	山北 真也
	ひらいけ内科	平池 豊
	石村整形外科	石村 俊信
	船井医院	船井 俊彦
	(医) 松原皮膚科医院	松原 爲明
	(医) 健人会 弘田医院	弘田 俊行
	港南会 金城外科脳神経外科	金城 康夫
	北村診療所	北村 彰英
	久志会 黒川眼科	志水 一夫
	(医) 得伊会 中山診療所	中山 秀雄
	(医) 吉祥会 藤吉医院	藤吉 庸雅
	本山診療所	本山 忠
	本山耳鼻咽喉科	本山 壯一
	安井整形外科クリニック	安井 明
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	マツオ整形外科	松尾 澄治
	光風会 江口医院	江口 隆
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙
	よし内科クリニック	山田 義明
	医療法人結新会 結新会ホームケアクリニック	片上 大輔
	医療法人薫風会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	佐久間医院	佐久間 靖博
	本田クリニック	本田 秀明
	井上医院	井上 宏之
	川田医院	川田 信哉
	(医) 沢井眼科	澤井 貞子
	竹中医院	竹中 秀裕
浪 速 区 27	耳鼻咽喉科 中村クリニック	中村 泰久
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	なんば胃腸科内科クリニック	山口 貴也
	小池クリニック	小池 洋志
	えびす診療所	久保田 泰弘
	橋村医院	橋村 直隆

浪速区 27	医療法人理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫	
	笹岡医院	笹岡 英明	
	入野医院	入野 宏昭	
	(医) 瑠香会 あーべいんクリニック	池田 秀博	
	かねだクリニック	金田 高次	
	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史	
	(医) 菱川クリニック	菱川 秀夫	
	(医) 岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正	
	医療法人 孝尽会 透析クリニック大正橋	杉浦 清史	
	(医) 満領会 有田医院	有田 繁広	
	(医) 徳田クリニック	徳田 修	
	(医) 徳田クリニック	徳田 好勇	
	桜川よしえクリニック	金子 良恵	
	福島区 23	林クリニック	林 為仁
		泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
		成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
田仲循環器科・内科医院		田仲 輝光	
福島アイクリニック		衆山 泰明	
医療法人優幸会 中村クリニック		中村 幸生	
医療法人臨研会 今川クリニック		福本 素由己	
まさこレディースクリニック		霞 雅子	
江頭医院		江頭 明盛	
よこいクリニック		横井 秀保	
(医) 愛幸会 くまだ内科・小児科クリニック		木畑 正彦	
森山眼科		森山 穂積	
福島医療生活共同組合 野田診療所		小濱 譲次	
ちもりメディカルクリニック		千森 弘子	
あおやま医院		青山 晃子	
クダラ医院		百濟 尊彦	
猿渡レディースクリニック		猿渡 善治	
松下医院		松下 正幸	
中島小児科診療院		中島 滋郎	
イシイ内科クリニック		石井 誠剛	
住之江区 10	阪神野田駅前ファミリークリニック	衣畑 成紀	
	森山眼科	辻川 睦	
	医療法人好輝会 梶本クリニック	岡田 倫之	
	てづか内科クリニック	宇津 典明	
	医療法人 桑江クリニック	桑江 秀樹	
	長谷川内科	長谷川 精一	
	長谷川内科	長谷川 浩司	
	(医) 中島クリニック	中島 静一	
	岡村クリニック	岡村 弘光	
	はなのまちファミリークリニック	杉本 匡弘	
中央区(東) 37	森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニック	久保 忠彦	
	医療法人西山産婦人科医院	西山 勇一	
	中道眼科	中道 明	
	財団法人洪庵記念会 産婦人科	緒方 高志	
中央区(東) 37	かただクリニック	堅田 明浩	
	ながかわ中之島クリニック	中川 晶	
	(医) 西恵会 西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸	
	岩間クリニック	岩間 令道	
	大阪婦人子供既製服健康保険組合	間島 行春	

中央区(東) 37	船場森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
	一般財団法人 大阪府結核予防会 大阪健康相談所	寺坂 邦広
	塩野義製薬株式会社	秋岡 壽
	トミタクリニック	富田 忠宏
	日本生命健康管理所	石神 真人
	医療法人政明会 春次医院	春次 智三郎
	小川眼科	小川 憲治
	ラ・クオール本町クリニック	瀧野 敏子
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
	本町 林クリニック	林 宏明
	医療法人アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	なかむらクリニック	山本 昌弘
	医療法人紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	(医) 高折医院	高折 和男
	たがや内科	多賀谷 昌史
	森ノ宮胃腸内視鏡ふじたクリニック	藤田 実
	こうむら女性クリニック	甲村 弘子
	なかじまちあき内科クリニック	中嶋 千晶
	山口あきこクリニック	山口 晶子
	よどやばしメディカルクリニック	田中 基幹
	大織診療所	藤原 大美
	前久保クリニック	前久保 邦昭
	ウィメンズクリニック本町	藤野 祐司
	浅田クリニック	浅田 洋造
	こもれびレディースクリニック大阪本町	萬代 喜代美
	医療法人 むらのクリニック	村野 実之
	医療法人 むらのクリニック	村野 直子
	医療法人佳樹会 のりおかクリニック	則岡 直樹
	(株)大林組大阪診療所	高島 義嗣
	上町しまぶくろ眼科	北川 幹子
	(医) 山田医院	山田 洋
	(医) 田中小児科医院	田中 祥介
	医療法人 松本内科クリニック	松本 淳
	きむ医療連携クリニック	金 永進
	岩佐クリニック	岩佐 厚
	谷口レディースクリニック	谷口 幸一
河合皮フ科医院	河合 公子	
(医) 岩佐診療所	岩佐 真人	
なんばくるとびハートクリニック	黒飛 俊哉	
寺内クリニック	寺内 勇	
心齋橋いぬい皮フ科	乾 重樹	
春木レディースクリニック	春木 篤	
大須賀内科	大須賀 康文	
東迎クリニック	東迎 高意	
益田クリニック	益田 元子	
さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子	
さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀	
みつもとレディースクリニック	光本 隆吉	
すとうレディースクリニック	周藤 雄二	
廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二	
ふじたクリニック	藤田 富雄	

中央区 (南)	31	(医) 大生會 さくま診療所	佐久間 航
		小島クリニック	小島 昭重
		創正会 イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
		大島内科医院	大島 久明
		安田クリニック	安田 光隆
		川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
		早川クリニック	早川 謙一
		早川クリニック	早川 潤
		松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
		医療法人晴愛会 大阪リウマチ・膠原病クリニック	西本 憲弘
北区	23	湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
		(医) 豊仁会 荻野レディースクリニック	荻野 瑠美
		北中レディースクリニック	北中 孝司
		田中内科	田中 裕也
		(有) 阪神労働衛生コンサルタント	廣部 一彦
		医療法人聖授会フェスティバルタワークリニック	八木 美佐子
		中之島フェスティバルタワー・さくらクリニック	苗村 敏
		HORACグランフロント大阪クリニック	森本 義晴
		(医) ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	井手 一夫
		志村ウイメンズクリニック	志村 研太郎
		天満SORAクリニック	森田 哲史
		堂山レディースクリニック	本間 裕朗
		本出診療所	本出 肇
		ふくだあやレディースクリニック	福田 綾
		南森町レディースクリニック	平井 光三
		天神橋ゆかこレディースクリニック	南 裕佳子
		江川メンタルクリニック	江川 功
		双日株式会社大阪診療所	橋本 久仁彦
		小西統合医療内科	小西 康弘
		医療法人華美会 ほその耳鼻咽喉科	細野 研二
てんじん整形外科リウマチ科	史 賢林		
加納内科	加納 康至		
西梅田静脈瘤・痛みのクリニック	小田 晃義		
旭区	3	(医) 圭香会 梅寄クリニック	梅寄 圭吾
		うつのみやクリニック	宇都宮 健弘
		医療法人昭征会 新森透析クリニック	神原 直樹
城東区	4	つくもクリニック	新開 健司
		金井産婦人科	金井 宏之
		医療法人島田クリニック クローバークリニック	荒木 良守
		医療法人あとま会 かねみつクリニック	金光 俊行
東成区	5	山崎診療所	連 美知子
		中山医院	津久井 伸一
		中山医院	津久井 幾奴子
		いながきレディースクリニック	稲垣 実
天王寺区	13	古武診療所	古武 敏彦
		上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
		おおさき内科クリニック	大崎 匡
		遠藤クリニック	遠藤 友一郎
		(医) 瑞穂会 ともの木クリニック	三浦 一浩
		ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
		池田クリニック	池田 光慶
宮原レディースクリニック	宮原 義良		

天王寺区	13	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
		小出内科神経科	小出 泰道
		夕陽ヶ丘佐藤クリニック	佐藤 利彦
		てんのうじ ちひろウイメンズクリニック	宇垣 弘美
生野区	4	みぞぐち循環器クリニック	溝口 裕規
		ゆきこ&ようこレディースクリニック	岡本 由記子
		岸田内科	岸田 泰弘
		(医) 協同診療所	稲次 征人
阿倍野区	6	医療法人祐星会 桃クリニック	後藤 克子
		医療法人弘善会 弘善会クリニック	伊藤 章
		湖崎眼科	湖崎 亮
		(医) 柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
東住吉区	3	医療法人心明会レディースクリニックさわだ	澤田 育子
		れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
		よりおか胎児クリニック	依岡 寛和
		医療法人平治会 SALAレディースクリニック	榎田 充彦
平野区	2	(医) 山口クリニック	山口 時雄
		山田医院	山田 和彦
		にしかわクリニック	西河 潤
		元林産婦人科内科	元林 和彦
此花区	15	日野レディースクリニック	日野 晃治
		栗栖クリニック	栗栖 孝一
		(医) 奥見診療所	奥見 敏彦
		(医) 良純会 朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
		こじまクリニック	小島 研太郎
		医療法人微生会 村上内科	村上 毅
		柳産婦人科医院	柳本 時廣
		(医) 森内科	森 滋喜
		木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
		大庭眼科医院	大庭 省三
		(医) 板東医院	板東 博志
		はやしだ診療所	林田 嘉彦
		医療法人 松井クリニック	松井 清明
		(医) 小山医院	小山 高澄
		(医) 小山医院	小山 貴子
谷本医院	谷本 尚穂		
淀川区	6	医療法人医誠会 新大阪医誠会クリニック	横田 甚
		希咲クリニック	山分 ネルソン祥興
		かわばたレディスクリニック	河端 良一
		なかにしキッズクリニック	中西 康詞
東淀川区	1	医療法人良樹会T内科クリニックよどがわ院	徳嶋 良輔
		さくらレディースクリニック	香林 正樹
西淀川区	7	医療法人 タツミ医院	巽 壽一
		じくはら医院	竺原 俊光
		医療法人 福田診療所	福田 弥一郎
		(医) 北野クリニック	北野 英基
		医療法人 若杉診療所	若杉 太郎
		(医) 善心会 いせき整形外科	井石 聡
		(医) 松仁会 大和田診療所	藤原 久義
高岡診療所	高岡 均		

西成区 4	イワタ医院	岩田 以津子
	腎・泌尿器科 安本クリニック	安本 亮二
	医療法人ばばやクリニック	馬場谷 勝廣
	(医) 純和会 竹本診療所	八木 純
1 住吉区	桂診療所	桂 勇人
1 都島区	祐クリニック	道清 勉

大阪市外

豊中市 5	ふなこし呼吸器内科	船越 俊幹
	(医) 上宮医院	上宮 正直
	槇野クリニック	槇野 淑子
	(医) 廣仁会 直原ウィメンズクリニック	直原 廣明
	ポブラクリニック	山内 菜都美
	池田市 2	やまだクリニック
	松崎産婦人科クリニック	松崎 昇
1 吹田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊吏
2 茨木市	中尾内科クリニック	中尾 誠
	大河内医院	大河内 寿一
1 高槻市	なかにし産婦人科クリニック	中西 一吉
1 寝屋川市	森田医院	森田 真也
1 大東市	松下診療所	松下 和広
東大阪市 9	医療法人三慧会 IVF大阪クリニック	福田 愛作
	由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
	(医) 近藤医院	近藤 和秀
	森産婦人科	森 政雄
	医療法人弘和会 いわさきクリニック	岩崎 弘登
	永井医院	山崎 章子
	田路医院	田路 秀明
	西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
	西岡医院	西岡 良泰
1 松原市	医療法人光仁幸会 西本産婦人科	西本 関男
八尾市 3	なかじまレディースクリニック	中嶋 康雄
	萩原クリニック	萩原 正久
	きくちレディースクリニック	菊池 知之
1 藤井寺市	数尾診療所	数尾 展
1 狭山市	たかはしクリニック	高橋 徹
堺市 4	清水レディースクリニック	清水 千賀子
	典子エンジェルクリニック	船越 典子
	医療法人俊仁会 きららファミリークリニック	吉良 俊彦
	小野クリニック	小野 晃範
1 岸和田市	医療法人仁睦会 岡森医院	岡森 仁昭

他府県

奈良県 4	宇山内科クリニック	宇山 宏和
	田中泌尿器科医院	田中 雅登
	久産婦人科・内科	久 靖男
	久産婦人科・内科	久 裕
兵庫県 7	宮本内科	宮本 裕之
	黒田医院	黒田 昌男
	にしな内科・糖尿病内分泌クリニック	仁科 周平
	玉田クリニック	玉田 大介
	玉田クリニック	北村 哲宏
	風川医院	安田 雄紀
	(医) 社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之
1 京都府	やつい眼科クリニック	谷井 啓一

ニッセイ訪問看護ステーション

- スタッフ 統括責任者：二艘舟浩子（看護部長兼務）
調査役：水上洋子（訪問看護ステーション兼ケアプランセンター担当部長）
（保健師・介護支援専門員）
常勤看護師：丸山洋子（訪問看護ステーション師長、ケアプランセンター兼務）
酒井希代子（リンパ浮腫療法士）、吉井好夏、渡部美沙、小森奈緒子
非常勤看護師：山内祐子、永田悦子、笹内 舞、巽 陽子、青木絵里子、
小島加津代（介護支援専門員有資格）、田 弓子（保健師・介護支援専門員有資格）
岡村 要
訪問リハビリ：（日本生命病院リハビリテーション科兼務、理学療法士）
片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将司、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、安達幸恵、
泉本亮二

1. 活動報告

地域医療支援病院併設の訪問看護ステーションとして、「予防から治療、在宅まで一貫した総合的な医療サービス」を提供するとともに、地域住民の暮らしを繋ぐ役割を担う医療者として、地域の行政、他機関、多職種と連携を図りながら、住民に寄り添う医療体制を整備し、地域から必要とされる看護が提供できるよう効率的で質の高い訪問看護を提供し、地域の人々の健康維持に努めた。

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象とし、医療依存度の高い利用者や、がん・非がんの終末期、認知症、精神疾患など重度化・多様化・複雑化する医療ニーズに対応するために、訪問看護師と訪問リハビリテーションが協働して自立機能の維持とQOLの向上に配慮した在宅療養の継続に努めた。

月平均利用者数は168名、月平均訪問回数は988件（リハビリテーション0件）であった。介護保険利用者は月平均111名（介護予防16名 介護95名）、医療保険利用者は月平均60名であった。（表1） 退院後の在宅移行期の医療的ケアの取得及び介護体制の整備や病状の悪化等により、特別指示書が発行された件数は月平均4件であった。

日本生命病院を主体としつつ、西区を中心とした西部医療圏において多くの医療機関や居宅介護支援事業所と連携を図っている。利用者の居住地は西区が最も多く、次いで港区、大正区の順であった。（表2）

新規利用者の約半数が、日本生命病院から依頼を受け、主治医及び病棟看護師、あったかサポートセンターとの協働による切れ目のない医療・看護の提供及び連携強化に努めた。（表3）

看取りを含め、安心して在宅療養が継続できるよう緊急時及び24時間対応体制を充実させ約6割の利用者が契約している。また、医療機関及び在宅療養診療所との連携、日本生命病院における救急外来との連携や後方支援病院としての入院病床の確保などを行ない日本生命済生会全体として地域の在宅医療の推進に努めた。

在宅での看取り件数は36件/年であった。

2. 訪問体制

1) 営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、年末年始は除く）また、状況に応じては、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外も対応している。

希望者には電話等により24時間常時電話連絡が可能な体制を整備し、事業所の電話以外に法人契約の携帯電話2台で対応している。

2) 通常の実施地域（概ね事業所より半径3km圏内）

大阪市西区、浪速区、港区、大正区、中央区、福島区、此花区

3. 地域包括ケアシステムへの貢献

地域に開かれた訪問看護事業所として人材育成や教育機関として多機能化への取り組みと地域ネットワーク事業への参画に尽力した。

1) 教育機能

- 看護学生の実習受け入れ：森ノ宮医療大学、大阪福祉専門学校、大阪医専
- 日本生命病院看護部退院支援研修：講義及び訪問看護ステーション実習
- 大阪府訪問看護実践研修（教育ステーション）事業として地域の訪問看護ステーションや介護事業所を対象に研修を実施
 - 災害研修
 - 自己評価ガイドライン研修
 - 在宅医療推進のための研修
- 訪問介護事業所への喀痰吸引指導

2) 地域ネットワーク事業への参画

- 西区在宅医療連絡部会、西区在宅医療・介護連携相談支援事業、認知症等高齢者支援地域連携事業連絡会、認知症初期集中支援事業に参画し地域の高齢者施策へ貢献

表1 保険種別割合 (n=168)

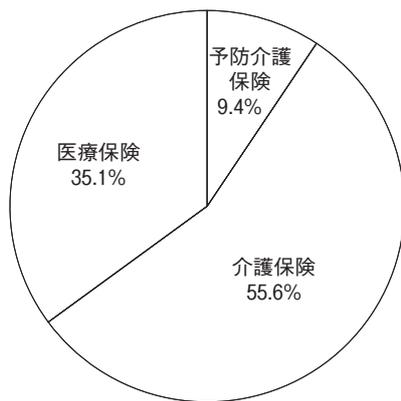


表2 利用者の住居地別割合 (n=168)

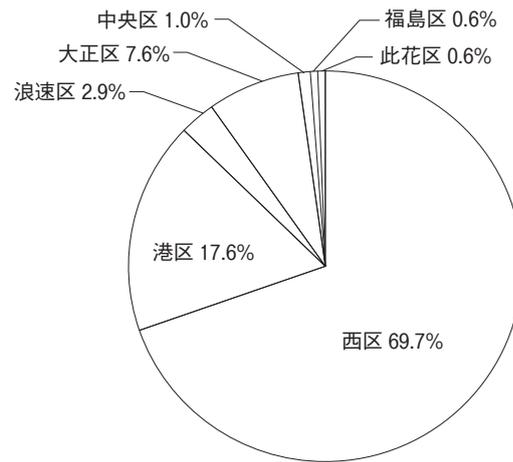


表3 新規利用者 (n=90)

依頼経路		人	割合	
日本生命病院	医師	5	5.6%	40%
	あったかサポートセンター	31	34.4%	
他医療機関医師		10	11.1%	12.2%
他医療機関相談員		1	1.1%	
行政・地域包括支援センター		1	1.1%	
本人・家族		5	5.6%	
訪問看護師		0	0%	
ケアマネジャー・相談支援センター		37	41.1%	
計		90	100%	

ニッセイケアプランセンター

- スタッフ 管理者 水上洋子：保健師・介護支援専門員
(訪問看護ステーション調査役兼任)
- スタッフ 丸山洋子：看護師 介護支援専門員
(訪問看護ステーション師長兼任)
- 本家裕子：社会福祉士・精神保健福祉士、介護支援専門員
(あったかサポートセンター医療福祉相談グループ副部長兼務)
- 松栄優子：社会福祉士・介護支援専門員
(あったかサポートセンター医療福祉相談グループ兼務)
-

2000年4月の開設以来、ニッセイケアプランセンターは、病院併設の居宅介護支援事業所として、医療ニーズの高い利用者への医療と介護と福祉の連携強化ができるよう地域の医療機関や介護サービス提供機関との連携を図り、「自立支援」と「尊厳の保持」を尊重し、要介護状態の悪化の予防と維持改善を図るケアプランの立案を行ってきた。

2024年3月末をもって、要件を満たす管理者が不在となること、また利用者の経済面・生活面の状況把握、サポートや地域の介護事業者との連携はこれまで通り院内のソーシャルワーカーが行う中で、ケアプランの作成については連携する院外事業者が対応していくことが可能であること等を踏まえ、「ニッセイケアプランセンター」を収束した。

看護部

スタッフ	看護部長	二艘舟浩子		
	副看護部長	(感染管理室副室長)	大野典子	
	副看護部長	(医療安全担当)	賀戸ひとみ	
	副看護部長	島津庸子		
	調査役	前川明子		
	7階病棟看護師長	依田恵美	11階病棟看護師長	森菌祐子
	8階病棟看護師長	大和由紀子	12階病棟看護師長	下山優子
	9階病棟看護師長	篠部郁	13階病棟看護師長	石井広美
	10階病棟看護師長	戸田陽子	14階病棟看護師長	神谷香里
	集中治療室看護師長	千嶋しおり	手術室統括看護師長	木下園子
	外来・救急外来統括看護師長	高崎かおり・酒井重紀子		
	入退院支援センター看護師長	阿部恭子		

1. 看護部の理念

当院を頼りにして下さる皆さんに安心していただける看護を提供します。

国際化、多様化に対応できる豊かな人間性と高い倫理観を持った専門職者を育成し、病院と看護の発展に寄与します。

〈基本方針〉

1. 当院を頼りにして下さる方々に寄り添った、安全で安心な看護サービスを提供します。
2. 患者の生命と生活、権利を尊重し、「その人らしく生きる」を支えます。
3. 専門職として研鑽し、持てる力を最大限発揮することが職務満足につながる職場を目指します。
4. 人々の多様な価値観を理解し、関わるができる柔軟性、自律性、創造性、倫理観を持った看護者の育成に取り組みます。
5. 他職種と協働し、チーム医療の発展に貢献します。

2. 2023年度看護部目標

2023年度は、これまでの歴史を大切にしつつ、新たな成長を目指して、看護部理念と基本方針を一新した。そして、看護部理念や各年度目標の達成に向けて部内の会議が有機的に機能するよう目的別に「運営会議」、「課題別会議」、「専門チーム会」、「連絡調整会」に分け、各種委員会を設置した。併せて、変更した教育理念と整合するよう現任教育システムもレベル別、役割別に看護部が求める職務遂行能力（臨床看護実践力、社会人基礎力）を明文化し、新たに設置した看護教育企画・倫理委員会で集合研修プログラムやねらいの見直しを行った。

さらに、全職種共通で使用していた目標管理シートを変更し、キャリア支援や人事評価とうまく連動していなかった点の改善を試みた。そうすることで個々に何が求められ、どう評価されるのかの見える化を図った。

看護部目標

- 1) 新たな看護部理念、教育理念を看護管理者がスタッフに自分の言葉で説明できる。
- 2) 安全な医療や患者のニーズに対応できる看護提供体

制か評価する。

- 3) アセスメントシート（転倒転落、薬剤管理etc.）の有効性と看護実践フローを評価し、レベル2以上の転倒・転落事故を前年比20%減らす。
- 4) 看護師要因の薬剤関連インシデントを前年度比30%減らす。
- 5) 予測可能な急変事象を減らすため、RRSの基準を導入する。
- 6) 正確で、確実な情報伝達システムの再構築と運用ができる。
- 7) ルールや手順の目的を理解した上で、遵守すべきこと、そうでないことを判断し、自分の考えをしかるべき人に伝えたり、会議で発言できる。
- 8) 継続看護委員会、各専門チーム会で看護が継続できるシステムを再構築する。
- 9) 特に夜間、休日に当院で治療が必要な入院患者を断らない体制を作る。
- 10) 標準予防策、感染経路別予防策を遵守し、院内感染の発生を前年度以下に抑制する。
- 11) 病院の方針に沿って外国人患者受け入れへの準備を行う。
- 12) 時間外勤務を前年度より30%減、有休消化率80%獲得のために現状の評価と業務改善を行う。
- 13) 勤務管理や電子カルテシステム・医事システムなどの隠れた機能を発掘し、効率性、安全性を高める。
- 14) チャレンジを歓迎する風土を作る。
- 15) タスクシフト/シェア推進のための看護補助者の確保と定着対策を立案、実施する。
- 16) 当院に必要な専門性を持った人材の発掘と計画的な育成を行う。
- 17) 看護職全体の離職率を10%以内にする。
- 18) 5S運動に取り組み、支出削減に努める。
- 19) 入院単価増、増収に取り組む。

3. 看護部の概要

施設基準：急性期一般入院料	7：1
夜間看護体制加算	12：1
急性期看護補助体制加算	25：1

看護体制：二交代制（夜勤時間16時間）
看護方式：固定チームナーシング（ベアナース制）受け持ち制

・日本看護協会（神戸）認定看護師教育課程；がん薬物療法看護課程

4. 看護職員数（2024年3月31日現在）

看護師・助産師・准看護師：347名
看護補助者：42名

5. 研修・学会参加状況

- 1) 院内研修（別表1）
- 2) 院外研修（別表2）
- 3) 学会発表 4題

6. 看護基礎教育、認定・専門看護師実習受け入れ状況

- ・甲南女子大学；慢性期、母性
- ・森之宮医療大学；成人Ⅰ急性期、老年、母性、主題Ⅰ
- ・関西医療大学；慢性期、母性
- ・四條畷学園大学；母性
- ・南大阪看護専門学校（3年課程）；小児
- ・大阪医専（3年課程）；成人Ⅰ急性期、成人Ⅱリハビリ期、成人Ⅲ慢性期、老年Ⅱ、小児、統合
- ・大阪保健福祉専門学校（3年課程）；成人Ⅰ慢性期、母性
- ・大阪府病院協会看護専門学校（3年課程）；成人Ⅲ慢性期Ⅱ、母性

7. 看護フェア

COVID-19は5類に移行したが、前年度も引き続き、デジタルサイネージによる当院の看護のPRを行った。次年度は、平時に戻した形で開催を計画する予定である。

8. 日本生命病院地域連携看護セミナー

- 第14回 2023年6月30日（参加者97名）
「浮腫を知ろう！～様々な浮腫の原因とケア方法を考える～」
がん化学療法看護認定看護師、LETTA・リンパ浮腫指導技能者養成協会認定セラピスト 玉井千春
- 第15回 2023年9月29日（参加者69名）
「ストーマケア こんな時、どうする？
～ストーマケア時の観察ポイント・トラブル時の対応～」
皮膚・排泄ケア認定看護師 岩崎由希子
- 第16回 2023年12月15日（参加者56名）
「最良の状態です手術をむかえ、元の生活に戻るために」
手術看護認定看護師 二井千里
- 第17回 2024年3月22日（参加者67名）
「〈感染のしくみ〉と〈からだを守るしくみ〉」
感染症看護専門看護師 大野典子

9. 病棟、外来の状況

	定床	2023年度 平均患者数	平均病床稼働率	平均在院日数	看護職配置数 内（ ）パート	入院基本料1（7：1）	
						平日日勤配置	夜勤配置（12：1）
7階	41	35	85.8	5.5	31	12～14	4
8階	44	38	86.9	8.7	28	12～13	3～4
9階	43	36	83.4	14.1	25	12～13	3～4
10階	42	37	84.6	14.7	25	11～13	3～4
11階	43	38	86.6	14.5	26	12～13	3～4
12階	44	36	81.4	12.7	24	12～13	3～4
13階	43	36	82.7	9.4	30 (1)	15～16	3～4
14階	42	35	83.8	10.4	27	12～13	3～4
ハイケアユニット 看護配置（4：1）	8	3	42.1	13.5	19	6	3
外来救急診療センター	-	-	-	-	54 (17)		
手術室	7室	-	-	-	25 (1)		
計	350	291.9	83.4	10.3	314(19)		

10. 委員会活動

- 1) 看護教育委員会 大和 由紀子

〈目標〉

- ①各研修のねらいを理解し、各部署で受講生に対して動機づけが行える。
- ②研修中の受講生の発言、態度など参加状況を観察し、研修の理解度と合わせた研修評価が行える。

〈活動報告〉

- ①看護教育委員会にて研修の企画意図やねらいを共有し、各部署で受講生に対して委員の個人差はあ

るものの動機づけを行えるよう努めることができた。

- ②予定していた研修は計画通り実施できた。研修中の受講生の態度や受講後のアンケート結果を合わせて全ての研修の報告、評価を行えた。研修内容や研修時期に関しては、概ね妥当であったと評価している。

- 2) 看護記録委員会 戸田 陽子

〈目標〉

- ①看護記録の質的監査が行える

- ②看護記録マニュアルの見直し、修正ができる
- ③継続看護につながるような退院・転院時看護要約の記録ができる

〈活動報告〉

- ①看護記録監査の形式監査の内容・方法・対象患者を見直し、新しい形式監査を作成した。質的監査の内容の検討は、新しくなった形式監査が定着後、次年度以降に取り組む。
- ②看護記録マニュアルは「看護サマリー」「転棟サマリー」について修正し、承認された。その他の項目も追加・修正が承認され次第順次変更していくが、看護記録マニュアルの内容は多いため、どの項目から取り組んでいくかの優先順位を決めて進めていく。
- ③看護サマリーについては、継続看護につながるような内容、記載例を作成中である。外来や継続委員会とも連携し、意見を聞きながら修正、活用していく。

3) 看護CS委員会 森蘭 祐子

〈目標〉

- ①リソースナース会と連携し、地域連携看護セミナー、看護フェアを企画・運営することで当院の看護を知ってもらう。
- ②社会情勢や学生のニーズに応じた病院見学会や就職説明会などを企画・運営することで人材確保に寄与する。
- ③CSに関する接遇等の内容、対応を教育、啓発することで職業人としての倫理観を高める。

〈活動報告〉

- ①計画通りに地域連携看護セミナーは開催でき、当院の看護を知ってもらう機会になっている。看護フェアについては、昨年同様デジタルサイネージで実施（病棟看護師の1日）したため、目標達成できたかの評価は困難であった。
- ②病院見学会を4回実施し、参加者は57名であった。4年ぶりに病棟見学を再開し、参加者からは「病棟の雰囲気わかり就職後のイメージがしやすかった」等の好意的な感想が多く聞かれた。また、2月にマイナビ主催の合同就職説明会に参加し、108名の参加者、180部のパンフレットを配布できた。
- ③これまでの身だしなみモデルを修正し、接遇についてはeラーニングを視聴した。さらに、患者アンケートを基に接遇に対する自己評価に取り組んでいる途中であり、評価には至っていない。

4) 看護安全委員会 篠部 郁

〈目標〉

- ①アセスメントシート（転倒転落、薬剤管理など）の有効性と看護実践フローを評価し、レベル2以上の転倒・転落事故を前年比20%減らす。
- ②看護師要因の薬剤インシデント（注射・内服）を前年度比30%減らす。

〈活動報告〉

- ①薬剤インシデントを30%減らすことを目標に6Rの確認と指差呼称の実施を開始した。実施状況の

確認時には指差呼称を行っているものの定着しておらず、目標達成には至っていない。今年度の分析結果を踏まえ、インシデントの要因をどのように改善していくかが次年度の課題である。

- ②転倒・転落インシデントでは、前年度と比較して件数は減少した。ただし、どのような効果があったか減少したかは明らかでない。今年度はインシデント分析から転倒・転落の要因を再検討し、アセスメントシートの修正案を作成中である。今後は転倒・転落アセスメントの評価フローを作成し、適切な時期にアセスメントを行い、対策を検討できるようにしたい。また、患者にも転倒のリスクがあることを理解してもらうために入院時の転倒予防の案内放送の活用をスタッフへ周知したため、実際に活用できているか評価を行い、有効な活用方法を検討していく。

5) 看護感染委員会 依田 恵美

〈目標〉

- ①手指消毒を正しいタイミング、正しい使用量でスタッフが実施できるよう伝道し実施率を上げる。
- ②膀胱留置カテーテル・CVカテーテルについてケアの見直しを行う。
- ③ICT、AST、感染委員によるラウンド結果を各部署にフィードバックし対策を委員会で共有する。
- ④廃棄物の分別が正しくできるよう現状を各部署にフィードバックし、部署での対策を委員会で共有する。

〈活動報告〉

手指衛生について、各部署で勉強会や直接観察法の実施に取り組み、知識の普及はできたと考えているが、手指消毒剤の増加には繋がっておらず、次年度も引き続き活動を継続する。膀胱留置カテーテル、CVカテーテルについては、挿入患者をICTメイトで把握し観察・アセスメントを強化した。必要な患者は専門ケアチームに繋げることができた。また今年度はICT/ASTカンファレンス・ラウンドに参加し、院内の感染対策に関心を持ち、ラウンドでの指摘事項を自部署で検討、改善することができた。

感染性廃棄物については、勉強会、ラウンドでの確認、正しい廃棄場所のラミネート作成を行った。未だ分別の間違ひがあるため次年度も活動を継続する予定である。

6) 継続看護委員会 高崎 かおり

〈目標〉

- ①継続看護に必要な、病棟、外来、訪問看護各部門の機能と役割が理解できる。
- ②各所属スタッフへの退院調整、継続看護、倫理に関する教育・啓蒙活動が行える。
- ③退院・転院時看護要約の有効な活用について検討する。

〈活動報告〉

- ①自部署の役割と、看護を継続させるための取り組みを各部署で発表し委員メンバーで共有した。他部署のスタッフと話し合う場を設けることで自部署の役割を再認識する機会になった。

- ②継続した支援が必要な患者はどのような患者かを委員会で検討し「次の療養の場で治療の継続や生活に問題がある患者」とし、委員会内で勉強会を行った。退院調整では退院支援スクリーニングを行い退院支援計画書を作成する上での問題点を抽出し、検討した。
- ③退院・転院時看護要約の運用上の問題点を検討した。試験運用を行い、継続看護手順の作成を開始した。

7) リソースナース会 小山 佐知子

〈目標〉

- ①各専門分野の臨床看護実践の可視化に取り組むことができる
- ②異なる領域の認定看護師間の連携、協働を促進することができる。
- ③各チームの構成員が中心となり、自部署で専門分野の看護に積極的に参画できる動悸づけと支援を行う

〈活動報告〉

- ①CN, CNSの活動報告書の書式統一を図った。さらに、院内外にリソースナースの活動発信の場として、広報誌 (SAISEI RIMIN、NISSAY NURSE TIMES) での紹介、ホームページも活用して4回/年の地域連携看護セミナーを開催した (8. 参照)。また、統一されていなかったリソースナースの看護記録を見直すため、現在使用している記録の洗い出しを行った。
こうした様々な活動を通して、リソースナースの認知度向上と活用、管理者と課題を共有するため2024年5月師長会で実践報告会を実施する予定である。
- ②毎月のリソースナース会では様々な課題やテーマを取りあげ、意見の調整や考え方の共有を図ってきた。その結果、少しずつ各CNが活動上の困りごとや悩みを発言し、それに対する意見交換ができるようになってきた。
- ③各専門チームがそれぞれ課題をもってチーム運営が行えた。今後は、担当する専門チームで系統だてた教育を行い、リンクナースが現場の実践モデルとなるよう育成していくことが課題である。

11. 業績

学会発表

- 1. 大野典子：新興感染症発生時に市中の急性期病院が診療機能を維持するために求められること, 日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
- 2. 堤早 苗, 大野典子, 佐古大輔, 池田久雄, 西垣敏紀：COVID-19流行前から現在までの擦式手指消毒剤使用量の比較, 日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
- 3. 岩崎由希子, 田中敬子：当院におけるスキン-ケアの実態調査と保湿ケアの課題, 日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2023年5月, 大阪
- 4. Michiko Ito, Akane Ninomiya, Kazuko Ishii, Akie Shimada, Noriko ohno, Atuhiro Kanayama, Shunji Hayashi：Bacterial contamination of holder bags to carry antiseptic

hand rub bottles ,The 19th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection, 2023年7月, Seoul, Korea

- 5. 二井千里, 三木和美：術後疼痛管理チームで経験した硬膜外カテーテルの硬膜下迷入, 第45回日本手術医学会総会, 2023年11月, 横浜
- 6. 浅利めぐみ, 和田仁見, 大崎古都, 保坂 綾：褥瘡の新型コロナウイルス接種の実態調査～意思決定に影響する要因を明らかにし支援を考える～, 日本母性衛生学会, 2023年11月, 大阪
- 7. 高田真帆, 樽谷真由, 大熊菜々子, 姉川友里江, 上野 恵, 三好優子, 大和由紀子：初回食物経口負荷試験前に患児の保護者が抱く思い, 第11回大阪府看護学会, 2023年12月, 大阪

研究会発表

- 1. 田中敬子：治りにくい創傷（慢性創傷）への局所アプローチ～創傷領域における特定行為の実際～, 第152回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年1月, 大阪
- 2. 二艘舟浩子：タスクシェアとチーム医療, 第155回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2023年5月, 大阪

2023年度 看護部現任教育実績(院内)

研修対象	年月	内容	講師	参加者数
1年目	2023年4月	医療職としての接遇・マナー	あったかサポートセンター 西岡	43
	2023年4月	防災、非常時・緊急時の対応	総務人事G 阪本	43
	2023年4月	看護部理念／看護教育について	看護部長 二艘舟	22
	2023年4月	医療安全について	医療安全管理者 賀戸	43
	2023年4月	リスク管理について	総合企画 福井	43
	2023年4月	当院のネットワークシステムと電子カルテシステムの概要、サイボーズの使い方とマナー	情報システム 高松	43
	2023年4月	個人情報保護、著作権、SNSについて	総合企画 福井	43
	2023年4月	チーム医療	教育委員 大和	42
	2023年4月	安全な薬剤管理	薬剤部部長 足立	43
	2023年4月	放射線暴露防止	放射線科 技師長 長澤	36
	2023年4月	薬剤曝露防止	がん化学療法看護認定看護師 玉井 がん化学療法看護認定看護師 鄭	36
	2023年4月	院内感染対策	感染対策室 副室長 大野 ICTリンク ナース 堤	44
	2023年4月	看護記録	記録委員 戸田	22
	2023年4月	仲間作り研修	教育委員	22
	2023年4月	臨床倫理I	がん性疼痛看護認定看護師 小山	39
	2023年4月	静脈採血法と血糖測定	9階 次席師長 伊勢	30
	2023年4月	注射法(筋肉・皮下・静脈内)	外来 次席師長 新部	30
	2023年4月	電子カルテの基本操作	記録委員	22
	2023年4月	当院の看護過程と看護実践	教育委員 大和	22
	2023年4月	患者・家族と信頼関係を結ぶ基本	看護部長 二艘舟	22
	2023年5月	転倒転落予防と環境整備	10階 次席師長 宮田	22
	2023年5月	安全・安楽な体位変換と移乗、移送	理学療法士 田中	22

研修対象	年月	内容	講師	参加者数	
1年目	2023年5月	看護が見える看護記録	記録委員 戸田	21	
	2023年5月	安全な与薬と管理	12階 次席師長 秦	21	
	2023年6月	注射薬を正しく投与するための基本	外来 次席師長 野口	21	
	2023年6月	3ヶ月フォローアップ	教育委員	21	
	2023年6月	ヒューマンエラー	医療安全管理者 賀戸	21	
	2023年6月	ストレスマネージメント	臨床心理士 丸山	21	
	2023年7月	食べるということと栄養管理	摂食・嚥下障害看護認定看護師 森山	20	
	2023年7月	褥瘡予防と清潔ケア	皮膚・排泄ケア看護認定看護師 田中・岩崎	20	
	2023年7月	輸液ポンプとシリンジポンプの管理	臨床工学技師 田中	21	
	2023年7月	重症度、医療・看護必要度	12階 次席師長 源	21	
	2023年8月	せん妄予防と認知症ケアの基本	認知症看護認定看護師 井上	21	
	2023年8月	輸血療法、血液製剤について	7階 次席師長 藤本	20	
	2023年10月	リフレッシュ研修	看護部 教育委員会	21	
	2023年10月	フィジカルアセスメントI	11階 次席師長 岡部	21	
	2023年10月	12誘導心電図、モニターについて	12階・14階 次席師長 源・宇埜	21	
	2023年10月	急変時の予測と看護	救急看護認定看護師 HCU看護師 牧田・木村	21	
	2023年12月	多重課題	14階 次席師長 宇埜	20	
	2024年2月	看護を語る(経験から学ぶ)	教育委員	20	
	2年目	2023年6月	フォローアップ	手術室 看護師長 木下	29
		2023年6月	フォローアップ研修	看護部 教育委員 開	29
2023年6月		IVナース認定研修	看護部 教育委員 開・宇埜	29	

研修対象	年月	内容	講師	参加者数
2年目	2023年6月	急変時の看護	救急看護 認定看護師 牧田・木村	29
	2023年7月	看護研究の基礎①	12階 次席師長 小谷口	28
	2023年7月	事例から学ぶ医療安全	看護安全委 員会委員長 篠部	28
	2023年8月	人工呼吸器装着中の患者の看護	HCU 次席師長 原	29
	2023年9月	看護がの対象を観る (看護の質評価)	9階 看護師長 篠部	27
	2023年10月	臨床倫理II	がん性疼痛 看護認定 看護師 小山	26
	2024年2月	看護研究の基礎②	12階 次席師長 小谷口	26
	3年目	2023年5月	リーダーシップ論	7階 看護師長 依田
2023年7月		教えて育てということ	外来 統括師長 高崎	18
2023年10月		スペシャリストから学ぶア セスメント	せん妄認知症 看護認定看護師 井上 摂食・嚥下障害 看護認定看護師 森山 緩和ケア認 定看護師 土井 糖尿病看護 認定看護師 角南	19
2023年11月		アサーション	11階 看護師長 森園	19
2024年1月		急変時の技術を習得しよ う	救急看護 認定看護師 牧田	17
4年目	2023年6月	臨床倫理III	がん性疼痛 看護認定 看護師 小山	23
	2023年7月	アサーション	11階 看護師長 森園	22
	2023年8月	キャリアデザイン	13階 病棟師長 石井	21
	2023年11月	急変時の看護(マネジメ ント編)	救急看護 認定看護師 牧田	23
	2023年12月	リフレクション	12階 次席師長 小谷口	23
5年目	2023年7月	臨床倫理IV	がん性疼痛 看護認定 看護師 小山	13

研修対象	年月	内容	講師	参加者数
5年目	2023年8月	看護研究指導について	感染看護 専門看護師 大野	16
	2023年12月	災害シミュレーション	救急看護 認定看護師 牧田	15
チューター /教育担 当者/実 習指導者	2023年4月	新人教育担当者研修	看護部 教育委員 柱本	9
	2023年5月	実習指導者研修	11階 病棟次席師長 吉岡・一川	13
	2023年7月	チューターフォローアップ 研修	看護教育 委員長 大和	25
	2024年2月	次年度新人教育担当者 研修	教育委員 宇埜	8
主任	2023年 7・8月	主任研修	副看護部長 島津 14階 病棟師長 神谷 外来統括 師長 高崎	61
師長・ 次席師長	2023年4月 2023年5月	新任看護管理者研修I 新任看護管理者研修II	看護部長 二艘舟	11 14

2023年度 看護部教育実績(院外)

主催	研修テーマ	部署	氏名	研修期間
大阪府看護協会	魅力的な研修会の組み立て方	7階	依田恵美	6月5日
大阪府看護協会	新人看護職員教育担当者研修	集中治療室	松本美香	6月13・20・27日
大阪府看護協会	共に育つための教育の基本的知識～心理学的アプローチ～	手術室	草場成美	7月24日
大阪府看護協会	糖尿病重症化予防フットケア研修	13階	西川由佳子	8月18・19・20日
大阪府看護協会	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	10階	戸田陽子	11月14日
大阪府看護協会	看護管理者のリフレクション	12階	秦久美子	12月7日
大阪府看護協会	看護管理に大切な人材育成とチームマネジメント	集中治療室	原 実保	1月6日
大阪府看護協会	概念化スキル（コンセプトチュアルスキル）で問題解決・人材育成	13階	石井広美	1月17日
大阪府看護協会	データを制する看護管理者を目指す	7階 8階 9階 13階 集中治療室	依田恵美 大和由紀子 篠部 郁 石井広美 千嶋しおり	2月10日
大阪府看護協会	管理者のためのリスクマネジメント	10階	宮田 綾佳	2月20日
大阪府看護協会	組織の現状分析から変革につなげる看護管理	外来	野口夕香子	2月26日
全日本病院協会	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	12階	源 真子	12月18日
	厚生労働省が定める病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	10階 集中治療室	中村美智子 豊田浩子	10月19日
	厚生労働省が定める病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	10階 外来	久野 類 安藤圭子	3月11日
大阪府看護協会	新型コロナなど新興感染症等に係る看護職員等確保事業 大阪府災害支援ナース養成研修	外来	湯浅賀容子	12月20日
日本造血・免疫細胞療法学会	同種造血細胞移植後フォローアップのための看護研修会	9階	紫安あやみ 平谷 友理 高井 成美	10月7日
大阪府がんのリハビリテーション研修会	がんのリハビリテーション研修	10階	奥岡 美奈	9月10日

主催	研修テーマ	部署	氏名	研修期間
日本生命病院	日本生命病院緩和ケア研修会	11階 外来 訪問看護	柱本明子 高熊俊恵 酒井希代子	2月10日
大阪府看護協会	eラーニング活用型医療安全管理者養成研修	9階	篠部 郁	12月7日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	外来	新部里美	5月16日～6月29日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	10階	戸田陽子	7月19日～8月30日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	14階	宇埜美奈子	12月5日～1月30日
大阪府（事業委託）	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	8階	高田真帆	5月29日～7月6日
大阪府（事業委託）	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	10階	宇垣政江	9月15日～10月30日
大阪府（事業委託）	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	14階	小林桃香	1月5日～2月16日

※出張扱いのみ

各種学会	第66回日本糖尿病学会学術集会	外来	高山由美子	5月11日～13日
各種学会	第27回日本看護管理学会学術集会	看護部 8階	島津庸子・大和由紀子	8月25日～26日
各種学会	第64回日本母性衛生学会総会・学術集会	7階	浅利めぐみ・和田仁見・保坂 綾・大崎古都	10月13日～14日
各種学会	第37回日本手術看護学会年次大会	手術室	木下園子・二井千里・藪下里桜	10月27日～28日
各種学会	第45回日本手術医学学会総会	手術室	二井千里	11月24日～25日
各種学会	第18回医療の質・安全学会学術集会	9階・10階・8階	篠部 郁・宮田綾佳・栃谷恵麗	11月25日～26日
各種学会	第11回大阪府看護学会	8階	高田真帆・姉川友里江・上野 恵・樽谷真由・大熊葉々子・三好優子・大和由紀子	12月2日

国際室

スタッフ 室長 前田俊哉（事務局長兼事務管理部長兼任）
副室長 陶彬毅（国際医療コーディネーター）
中国語医療通訳 飯田香（常勤）、倉員郁絵（非常勤）

概要：

在日・訪日外国人の増加に伴い、言語の壁を無くし、日本語の不自由な患者さんが安全・安心な医療を受けられるように、2017年から非常勤中国語医療通訳を採用、中国語のサポートを開始した。更に、2019年4月から国際医療コーディネーターを配置するなど対応体制を充実し、中国語と英語のサポートを開始した。同年5月には、「大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関」に選定され、対応患者数が増加してきたため、医療の国際化への対応を推進すべく、同年10月に国際室を新設した。

2022年12月に遠隔通訳を導入し、対応言語は中国語と英語以外、韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語の7言語に拡大した。

2023年2月には、外国人患者受入れに適した医療機関として「ジャパンインターナショナルホスピタルズ（JIH）」推奨病院の更新を受審し、同年4月に認証された。

1. 業務内容

1) 言語サポート

日本語の不自由な患者さんが受診する際に、言語サポートを行っている。

①対面通訳

原則として、外来診療日の診療時間内では、中国語と英語の対面通訳が対応できる体制を整えている。

②ビデオ通訳

中国語・英語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語（24時間365日）
ベトナム語・ネパール語（平日9：00～17：30）

③電話通訳

英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語・タイ語・ロシア語・フランス語・タガログ語・インドネシア語・ドイツ語・イタリア語・マレー語・クメール語・ミャンマー語・モンゴル語・シンハラ語・ヒンディー語・ベンガル語の21言語（24時間365日）

④その他のツールの活用

・各現場に合わせ、オリジナルのコミュニケーションツール（指差しボード）を作成・活用している。
・通訳のニーズが高い部署には翻訳機器（ポケット、74言語対応）を配置し、簡単なコミュニケーションが現場で取れるようにしている。

2) 医療の国際化に対応する院内体制の整備

院内表示や院内書類の多言語化など、日本語の不自由な患者さんがスムーズに受け入れられる環境を整備している。

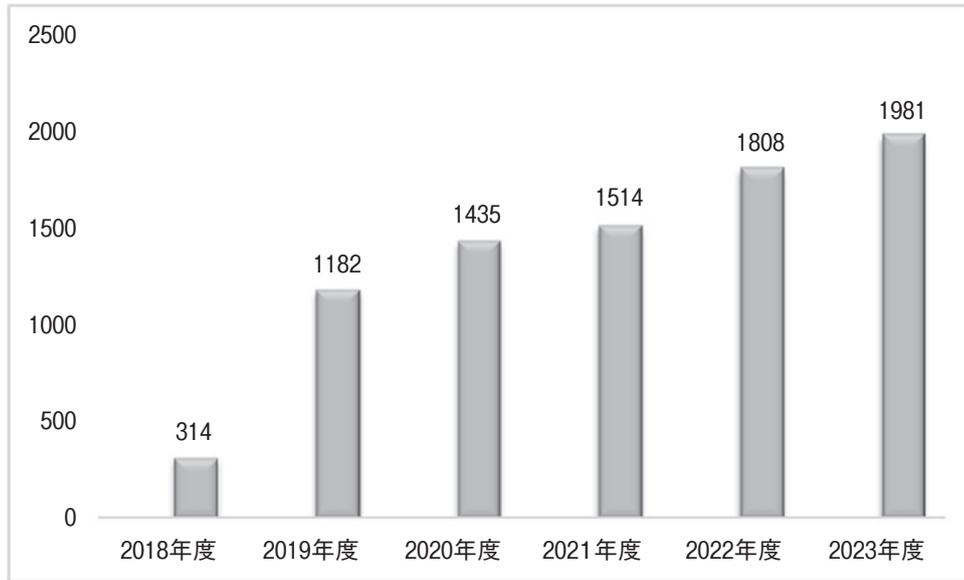
3) 国際関係の連絡窓口

日本語・中国語・英語での診療問合せ等（電話・メール）に対応している。

2. 業務実績

2023年度、国際室が対応したLJP患者の延べ件数は1,981件となり、コロナ禍でも過去最高となった。

年度別対応件数推移



ニッセイ予防医学センター

スタッフ センター長：栗波仁美

副センター長：大山摩佐子、松岡洋人

常勤医師：泉由紀子、浅野彰彦、梅下光子、松島 希、吉田好機、笠山宗正（名誉院長）、
中村秀次（顧問）、三木俊治

1. 2023年の概要

予防医学センターは2018年4月30日に新築開院した日本生命病院に移転後、人間ドックおよび定期健診受診者数は増加傾向にあったが、2019年に始まったコロナ禍により受診者数は一旦減少、その後徐々に回復し、2023年は13,839名となった。なお定期健診受診者は契約終了となった企業もあり19,587名と前年を下回る結果となった（表1）。

健診の質および快適な受診環境の維持・向上を目指して、専門医師による診察、内視鏡検査、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、放射線技師、臨床検査技師による専門的検査を行うようにしている。また人間ドックの午前3診体制を平日毎日実施するとともに、午後の診察も平日毎日実施し、受診者ニーズに応えるよう取り組んだ。上部消化管内視鏡検査は消化器内視鏡センターと緊密に連携しながら対応し、2022年からは火曜日午後にも検査を行える体制を組み、さらに2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となったことを受け、コロナ感染拡大時に縮小した午前ドックの上部消化管内視鏡枠を前年より拡大した結果4,597件となった。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科検診を平日毎日実施するとともに、レディースデイを月2回、2診体制としている。こうした取組みにより、2023年度の受診者リピート率は人間ドック全体で85.3%と2022年を上回った。メンタルヘルスサポート事業では、産業医受託企業を中心に36社、1万名弱のストレスチェックを実施し、そのうち16社で集団分析を実施し報告した。精神科医師、公認心理師によるコンサルテーションも実施し、メンタルサポート体制をより充実させ、産業医も含めてストレスチェックの実績は着実に積みあがっている。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として19施設、入所者847名を対象として無料健診を継続実施した。また、8月に行ってきた母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を2023年度も実施した。

日本生命と共同で開発し最新の情報通信技術を活用して遠隔指導を行う「糖尿病予防プログラム」に加え、2021年度からは「血糖変動チェックプラン」の提供を開始している。日本生命職員や地方自治体職員等を対象に実施し指導結果が判明している団体データでは体重や血糖値などで着実な改善が認められた。

2023年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。

人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で12.3%、51.5%であり、昨年度と比較すると前者がやや減、後者がやや増という結果であった。年代別、性別の要治療（D1）率、要精密検査（D2）率を表2に示す。要治療率は、男性は40～50歳未満が高く、女性は50～60歳未満が高い傾向がありこれらは例年と変わりがなかった。要精密検査率では、男性は40歳未満では38.8%だが、50歳未満は42.9%、50歳以上では53.2%、60歳以上で61.7%と年齢とともに増加傾向がみられた。女性の要精密検査率については、40歳未満は41.7%で、年齢とともに上昇して60歳以上では60.0%であった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。要治療では、男性はTop 5すべてが今年度も生活習慣病であり、1～5位まで昨年と同じであった。1位は高血圧で27.1%、2位は高コレステロール血症で20.5%、3位は高中性脂肪17.3%であった。4位は糖尿病で11.9%、5位は高尿酸血症で10.2%であった。女性も1～5位まで昨年と全く同じであった。高尿酸血症が女性では少なく男性で多いのは飲酒の影響と考えられた。また、女性で認められる血液疾患は貧血が多いことがその要因と考えられた。要精密検査では、眼科疾患が男女とも1位でそれぞれ30.5%、23.5%であった。男性では肝機能疾患が2位で16.6%、3位が肛門・大腸疾患、4位は腎・尿路疾患、5位が高血圧であった。女性では婦人科疾患が2位、3位が肝機能疾患、4位が腎・尿路疾患、5位が大腸疾患であった。

D1、D2判定者で日本生命病院各診療科に紹介した人間ドック受診者の内訳を表4に示す。病院の受診者数は1,555名と前年を上回っており、眼科、消化器内科、内分泌・代謝内科、産婦人科、予防診療科、乳腺外科が上位を占めた。精密検査の確実な実施を含めたD1、D2フォロー体制を強化するため、1か月後フォローの実施と3か月フォローの複数回勧奨を定着させ、人間ドック診察説明時の対応も工夫し、要治療要精検者の病院受診率の向上に努めている。

2. 業績

学会発表

1. 吉田好機、梅下光子、泉由紀子、浅野彰彦、三木俊治、松岡洋人、大山摩佐子、中村秀次、栗波仁美：当院において血算異常により要治療・要精密検査となった受診者の検討、第64回日本人間ドック学会学術大会、2023年9月、高崎
2. 松谷憲一、徳山由佳、南谷美樹、山下 唯、馬場里映、栗波仁美：当センターにおける異常値報告の取り組み、第64回日本

研究会発表

1. 梅下光子：人間ドックにおけるがん健診, 第164回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年2月, 大阪

表1 定期健康診断・人間ドック受診者数(運営会議資料抜粋)

	2023年度	対前年	備考
	名	%	
定期健康診断	19,587	93%	
人間ドック(日帰り)	7,461	100%	標準コースの人間ドック
人間ドック(生活習慣病)	6,335	100%	協会けんぽなどの簡易ドック
専門ドック(脳・肺ドック)	43	64%	
人間ドック 合計	13,839	100%	

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療と要精密検査の頻度

	要治療 (D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	10.7%	33	8.1%	28	9.3%	61
40-49歳	14.0%	108	13.3%	146	13.6%	254
50-59歳	13.2%	185	13.9%	197	13.6%	382
60歳以上	11.5%	130	9.0%	89	10.3%	219
総計	12.6%	456	11.9%	460	12.3%	916

	要精密検査 (D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	38.8%	119	44.2%	153	41.7%	272
40-49歳	42.9%	332	44.7%	492	44.0%	824
50-59歳	53.2%	744	51.6%	732	52.4%	1,476
60歳以上	61.7%	697	58.2%	574	60.0%	1,271
総計	52.4%	1,892	50.6%	1,951	51.5%	3,843

※健診システム(タック)より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1(要治療)、D2(要精密検査)を抽出
 %は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数*100
 総計の%は性別総計数/全受診者数*100

表3 性別による要治療(治療中含)・要精密検査の上位5項目(日帰り人間ドック受診者)

NO	男性			NO	男性		
	要治療(D1)	%	人数		要精密検査(D2)	%	人数
1	高血圧	27.1%	978	1	眼科疾患	30.5%	1,098
2	高コレステロール血症	20.5%	738	2	肝機能疾患	16.6%	598
3	高中性脂肪血症	17.3%	624	3	肛門・大腸疾患	5.7%	199
4	糖尿病	11.9%	428	4	腎・尿路疾患	5.2%	188
5	高尿酸	10.2%	366	5	高血圧	4.7%	168

NO	女性			NO	女性		
	要治療(D1)	%	人数		要精密検査(D2)	%	人数
1	高コレステロール血症	17.0%	655	1	眼科疾患	23.5%	903
2	高血圧	12.9%	496	2	婦人科疾患	13.2%	346
3	高中性脂肪血症	12.1%	463	3	肝機能疾患	6.5%	249
4	眼科疾患	5.3%	203	4	腎・尿路疾患	5.8%	222
5	血液疾患	4.0%	153	5	肛門・大腸疾患	5.1%	188

※各検査項目の数値・判定より抽出(センター医師による判断)
 要治療・要精密検査項目は治療中Eを含む
 %は各検査要治療受診者数/各検査受診者数*100 %は各検査要精密検査受診者数/各検査受診者数*100

表4 要治療・要精密検査判定者の日本生命病院への紹介(運営会議資料より抜粋)

総数	1,555人	
眼科	472人	呼吸器・免疫内科 69人
消化器内科	342人	腎臓内科 45人
内視鏡センター	37人	泌尿器科 15人
内分泌・代謝内科	180人	脳神経外科 6人
産婦人科	130人	
予防診療科	99人	
乳腺外科	82人	
循環器内科	78人	

表5 2023年度 人間ドック・協会けんぽリポート率

	前年リポート数	リポート率
人間ドック(日帰り)	6,361	85.3%
協会けんぽ(生活習慣病)	4,761	75.2%

リポート率は前年リポート数/人間ドック(協会けんぽ)総受診者数*100

1. 日本生命病院医学セミナーUpdate

開催月日	テ ー マ	講 師		参加人数
2023年5月12日	「タスクシェアとチーム医療 ～看護部長の立場から～」	看護部長	二艘舟浩子	119名
2023年6月2日	「生殖補助医療と周産期医療」	産婦人科 副部長	高山 敬範	49名
2023年7月7日	「当院における大腸癌手術の現状 ～ロボット手術も含めて～」	消化器外科 副部長 (部長待遇)	山下 晋也	77名
2023年8月4日	「排尿障害の診断、治療と排尿自立支援 について」	泌尿器科 副部長	湊 のり子	67名
2023年9月1日	「気道閉塞への対応」	耳鼻咽喉・頭頸部外科 副部長	中山 彩子	57名
2023年10月6日	「白内障手術と角膜移植手術」	眼科部長	川崎 諭	51名
2023年11月10日	「眼瞼下垂と床ずれ（それ形成外科で診 ます）」	形成再建外科 部長代行	齋藤 拓也	41名
2023年12月1日	「B細胞性腫瘍と抗体医薬」	血液・化学療法内科 副部長（部長待遇）	加藤 るり	55名
2024年1月5日	「外傷初期診療ガイドラインの概説～け がの患者を診療する可能性のある医師 へ向けて～」	副院長 救急総合診療科部長	岸 正司	59名
2024年2月9日	「人間ドックにおけるがん検診」	予防医学センター 副部長（部長待遇）	梅下 光子	64名
2024年3月1日	「CT・MRI装置の軌跡と最新技術につ いて」	中央放射線部 担当部長兼技師長	長澤 浩造	54名

2. 1年目研修医オリエンテーション

日程	時間	場所	研修内容	担当
4月1日(月)	8:30~8:45	5階 大会議室2	辞令交付	総務人事G
	9:00~10:05	5階 大会議室1	研修医の就業規則、入会書類説明、その他	総務人事G
	10:05~10:20		写真撮影	総務人事G
	10:20~11:05		社会保険、保険医登録、麻薬免許申請 等	総務人事G
	11:05~11:20		ロッカー案内	総務人事G
	11:20~12:00		勤務管理システム	総務人事G
	13:00~			入会式・オリエンテーション
	14:00~16:20	1階 あったかふれあいホール	社会・地域に求められる当院の役割と機能	事務長
			済生会におけるリスク管理・個人情報保護などに関わるマニュアル、他	事務担当者
16:30~17:10	5階 大会議室1	研修プログラム説明・4月オリエンテーション説明・ローテーション作り方	臨床研修部長	
17:15~18:15	1階 あったかふれあいホール	進発式	総合企画部・総務人事G	
4月2日(火)	8:30~9:50	1階 あったかふれあいホール	医療職としての接遇・マナー	あったかサポートセンター
	10:00~11:10		当院のネットワークシステムと電子カルテシステムの概要、サイボウズの使い方とマナー	情報システムG
	11:20~12:00		個人情報保護、著作権、SNSについて	総合企画部
	13:00~14:20		防犯・防災・非常時・緊急時の対応	総務人事G・看護部
	14:30~16:00		各職種への関連部署案内	部署所属長
	16:00~17:00		関連部署案内後の意見交換会	看護部教育委員会
4月3日(水)	8:30~17:00	1階 あったかふれあいホール	院内感染対策	感染対策室/看護部
4月4日(木)	10:30~	3階 予防医学センター	健康診断① (①か②へ参加)	
	16:00~17:00	5階 役員会議室	医療倫理:ヘルシンキ宣言、リスボン宣言(人間の尊厳、守秘義務、倫理的ジレンマ、利益相反、ハラスメント、不法行為の防止 等)	臨床研修部
4月5日(金)	8:30~9:30	1階 あったかふれあいホール	医療安全について	医療安全対策室
	9:40~12:30		チーム医療について	看護部教育委員会
	13:30~14:30		安全な薬剤管理	薬剤部
	14:40~15:40		放射線暴露防止	放射線科
	15:50~17:00		薬剤暴露防止	がん化学療法認定看護師
4月8日(月)	10:30~	3階 予防医学センター	健康診断② (①か②へ参加)	
	13:00~13:50	5階 大会議室1	電子カルテ基本操作	情報システムG
	14:00~14:50		救急診療	救急総合診療科
	15:00~15:50	5階 会議室3	時間外診療について	臨床研修部
16:00~17:00	死亡診断書、その他		臨床研修部	
4月9日(火)	9:00~9:50	5階 大会議室1	抗菌薬適正使用	感染対策委員会
	9:50~10:30		病診連携	あったかサポートセンター
	10:30~12:00	1階 あったかふれあいホール	臨床倫理 I	がん性疼痛認定看護師
	13:00~17:00		静脈採血法と血糖測定	看護部次席師長
4月10日(水)	8:30~12:00	1階 あったかふれあいホール	注射法(筋肉・皮下・静脈内)	看護部 次席師長 救急看護認定看護師
	13:30~16:00	4階 中央臨床検査部	剖検、CPC	病理診断科
			生化学・免疫学・血液学、輸血検査	中央臨床検査部
			血液ガス分析	
			生理学検査(心電図)	
16:30~17:00	5階 大会議室1	腹部・心エコー検査	中央臨床検査部	
		微生物(グラム染色)、病理検査		
4月11日(木)	9:00~9:50	5階 大会議室1	栄養指導	栄養管理室
10:00~10:50	退院支援・医療福祉相談・地域包括ケア		医療福祉相談G	
11:00~11:50	薬剤処方		薬剤部	
13:00~13:50	レセプト、医療費など		医事サービス部	
14:00~14:30	造影CT検査		放射線・IVR科	
15:00~15:50	リハビリ依頼について		リハビリテーション室	
4月12日(金)	16:00~16:40	5階 役員会議室	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室
	8:30~17:00	鶴見緑地公園	インフォームド・コンセント	臨床研修部
4月17日(水)	16:00~17:00	5階 トレーニングルーム	親睦を深める研修	看護部、教育委員会
			皮膚縫合	消化器外科

3. 実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
循環器内科	大阪医科薬科大学	2023.4.3～2023.4.28	2名
		2023.5.8～2023.6.2	1名
		2023.6.5～2023.6.30	1名
		2024.2.5～2024.3.1	2名
		2024.3.4～2024.3.29	1名
内分泌・代謝内科	大阪大学(4・5年次)	2023.4.24～2023.4.28	3名
呼吸器・免疫内科		2023.5.8～2023.5.19	1名
血液・化学療法内科	大阪大学(4・5年次)	2023.4.17～2023.4.28	1名
		2023.7.18～2023.7.28	2名
		2024.1.4～2024.1.12	2名
神経科・精神科	大阪大学(6年次)	2023.4.24～2023.4.27	1名
		2023.5.29～2023.6.1	1名
		2023.6.26～2023.6.29	1名
泌尿器科	兵庫医科大学(6年次)	2023.6.26～2023.6.30	1名
呼吸器・免疫内科		2023.9.25～2023.10.6	1名
内分泌・代謝内科	兵庫医科大学(6年次)	2023.5.8～2023.6.2	1名
血液・化学療法内科		2023.5.8～2023.6.2	1名
形成再建外科		2024.3.4～2024.3.8	2名
血液・化学療法内科	兵庫医科大学(5年次)	2024.3.4～2024.3.8	2名
		2024.3.11～2024.3.22	1名
内分泌・代謝内科	東京女子医科大学	2023.4.10～2023.4.22	2名
消化器内科	神戸大学(6年次)	2023.5.8～2023.6.2	1名
		2024.2.19～2024.3.1	1名
神経科・精神科	神戸学院大学(心理学研究科生)	2023.9.11	2名/日
		2023.9.25	
		2023.10.16	
		2023.10.23	
麻酔・緩和医療科	大阪市消防局(救急救命士)	2023.5.9～2023.6.8	1名
チーム医療	神戸大学・神戸薬科大学 合同	2023.9.5	8名
中央臨床検査部	大阪医療技術学園専門学校	2023.6.22～2023.9.8	4名
	関西医療大学保健医療学部	2023.10.2～2023.12.8	1名
	森ノ宮医療大学保健医療学部	2023.10.2～2023.11.30	2名
中央放射線部	森ノ宮医療大学	2023.5.15～2023.5.26	2名
		2024.1.15～2024.3.15	2名
	大阪行岡専門学校	2023.6.1～2023.10.31	4名
薬剤部	近畿大学	2023.9.25～2023.12.11	2名
		2023.5.22～2023.8.6	1名
	大阪大谷大学	2023.5.15(15:00から17:00)見学	2名
リハビリテーション室	摂南大学	2023.8.21～2023.11.5	1名
		2023.8.21～2023.11.5	1名
	大阪リハビリテーション専門学校	2023.4.3～2023.4.21	1名
	大阪医療技術学園専門学校	2023.11.1～2023.11.30	1名
	宝塚医療大学保健医療学部	2024.1.29～2024.2.25	1名
奈良学園大学	2024.2.19～2024.3.8	1名	
	森ノ宮医療大学	2024.2.5～2024.2.9	1名

部門	学校名	期間	人数
感染対策室	大阪公立大学大学院	2023.7.10～2023.8.4	1名
	南大阪看護専門学校	2023.5.11～2023.9.11	16名
看護部	大阪保健福祉専門学校	2023.7.3～2023.7.19	8名
		2023.8.14～2024.8.21	5名
	日本看護協会	2023.11.1～2023.12.4	2名
	四条畷学園大学	2024.1.15～2024.2.2	12名
	甲南女子大学	2023.8.28～2023.12.8	61名
	関西医療大学保健看護学科	2023.9.19～2023.12.13	21名
		2023.10.31～2023.12.20	14名
	大阪府病院協会看護専門学校	2023.5.8～2023.5.26	15名
	大阪府病院協会看護専門学校	2023.6.19～2023.7.7	5名
		2023.7.17～2023.8.4	5名
	森ノ宮医療大学	2023.5.29～2023.6.9	5名
		2023.10.10～2024.2.16(老年看護学)	24名
		2023.10.30～2024.2.15(成人看護学)	18名
		2023.10.10～2024.3.1(母性看護学)	34名
大阪医専	大阪府病院協会看護専門学校	2023.5.8～2024.2.14(老年Ⅱ)	13名
		2023.11.27～2024.3.6(成人・急性期)	8名
	大阪府病院協会看護専門学校	2023.5.8～2024.1.24(成人・慢性期)	14名
		2023.9.25～2023.10.11(成人・リハビリ)	4名
	大阪府病院協会看護専門学校	2023.10.10～2023.11.24(小児)	16名
	大阪府病院協会看護専門学校	2023.5.29～2023.6.9(統合)	10名
ニッセイ訪問看護ステーション	大阪保健福祉専門学校	2023.4.17～2023.4.26	2名
		2023.8.29～2023.9.8	2名
		2023.10.16～2023.10.26	2名
		2023.11.6～2023.11.17	2名
		2023.9.11～202.9.12	1名
		2023.9.14～2023.9.15	2名
		2023.9.25～2023.9.26	2名
	森ノ宮医療大学	2023.9.28～2023.9.29	2名
		2023.10.2～2023.10.3	2名
		2023.6.6～2023.6.15	2名
森ノ宮医療大学	2023.7.4～2023.7.13	2名	

4. 講演会・研修会

【院内職員対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
5月12日	2023年 第1回保険診療講習会 「5類移行に伴うCOVID-19に係る診療報酬上の臨時的取扱いについて」 講師：医事サービス部 村上 学	医事サービス部	あったかふれあいホール
6月6日	第48回院内感染対策委員会教育講演 「国際的に脅威となる感染症」 講師：感染対策室 大野典子	感染対策委員会	あったかふれあいホール
7月28日	「急性期病院における認知症ケア」研修会	脳機能センター 認知症ケアチーム	あったかふれあいホール
8月17日	第49回院内感染対策委員会教育講演 「感染症の病態把握と抗菌薬適正使用～グラム染色を最大限に利用する～」 大阪大学医学部附属病院感染制御部/大学院医学系研究科変革的感染制御システム開発学寄附講座 講師：山本 剛	感染対策委員会	あったかふれあいホール
9月14日	第1回 医療安全研修会 ①「安全な医薬品管理～医療安全情報から～」 講師：薬剤部長 足立充司 ②「児童虐待と発達障害の複雑な関係について」 講師：小児科部長 西垣敏紀	医療安全管理委員会	あったかふれあいホール
9月22日	2023年 第2回保険診療講習会 「入退院支援の運用について」 講師：入退院支援センター 阿部恭子	医事サービス部 入退院支援センター	あったかふれあいホール
10月12日	NST講演会 「高齢者に対する栄養管理～胃瘦を適正に使うことの意義～」 講師：千里金蘭大学栄養学部栄養学科 特別教授 井上善文	栄養・給食委員会	あったかふれあいホール
11月6日	2023年度クリティカルパス症例検討会 「肝臓肝手術パス」	クリティカルパス委員会	5階 大会議室 1・2
12月14日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 ・酸素ボンベの取扱いについて ・医療ガスでのヒヤリハット事例 ・医療ガスでの事故事例	事務管理部 施設用度G	あったかふれあいホール
1月19日	輸血療法講演会 ①「輸血用血液製剤のできるまで」 講師：大阪府赤十字血液センター 学術情報・供給課 楠見智子 ②「2023年輸血療法マニュアル変更点」 講師：中央臨床検査室 臨床検査技師 玉川雄一	輸血療法委員会	あったかふれあいホール
1月25日	2023年度 人権研修 「ハラスメント防止 ～様々な仕事内容・立場を認め合えるように～」 講師：公益財団法人21世紀職業財団 客員講師 深海慶子	総務人事G 教育委員会	あったかふれあいホール
1月26日	認知症ケア研修 「アルツハイマー病の新薬を一緒にまなびましょう！」 外部講師：エーザイジャパン 内部講師：脳機能センター長 芳川浩男	脳機能センター (緩和ケアチーム)	あったかふれあいホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
2月1日	第2回 医療安全研修会 ①「虐待チームの活動報告」 講師：MSW 福庭加奈 ②「医療被ばくの基礎知識と被ばく低減に向けて」 講師：中央放射線部 技師長 長澤浩造 ③「ノド・頸部に関わる呼吸困難 酸素飽和度は正常 あなたはどのように対応しますか」 講師：耳鼻咽喉・頭頸部外科部長 小泉敏三	医療安全管理委員会	あったかふれあいホール
2月6日	第50回院内感染対策委員会教育講演会 ●第一部 AST研修会 「微生物の流れと検体採取の重要性」 講師：中央臨床検査室 佐古 大輔 ●第二部 ICT研修会 「洗浄なしに消毒するべからず」 講師：感染対策室 大野 典子	感染対策委員会	あったかふれあいホール
2月16日	治験審査委員会院内研修会 「臨床治験における各職種の役割について」 講師：治験責任医師 東山真里	治験審査委員会	あったかふれあいホール
2月28日	倫理委員会院内講演会 「アドバンス・ケア・プランニングの理想と現実」 講師：地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター 緩和医療科部長 兼 緩和ケアセンター長 多田羅竜平	倫理委員会	あったかふれあいホール
3月5日	1年目研修医症例報告会	臨床研修部	あったかふれあいホール
3月12日	2年目研修医症例報告会	臨床研修部	あったかふれあいホール

【医療関係者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
6月30日	第14回 日本生命病院地域連携看護セミナー 「浮腫を知ろう!～様々な浮腫の原因とケア方法を考える～」 がん化学療法看護認定看護師 LETTA・リンパ浮腫 指導技術者養成協力認定セラピスト 玉井千春	看護部	あったか ふれあい ホール
7月22日	第24回 あわぎフォーラム 病診連携学術講演会 I. 講演会 「最近の肺がん手術」 富田部長代行 「日本生命病院における顔面神経麻痺診療」 小泉部長 II. 特別講演 「働き方改革と救急医療」 大阪大学大学院医学系研究科 救急医学 教授 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター センター長 織田 順先生	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
9月29日	第15回 日本生命病院地域連携看護セミナー 「ストーマケア こんな時、どうする？」 ～ストーマケア時の観察のポイント・トラブル時の対応～ 皮膚・排泄ケア認定看護師 岩崎由希子	看護部	あったか ふれあい ホール
12月15日	第16回 日本生命病院地域連携看護セミナー「最良の状態 で手術をむかえ、元の生活にもどるために」 手術看護認定看護師 二井千里	看護部	あったか ふれあい ホール
2月3日	第16回 日本生命病院産業医セミナー テーマ：『就労者におけるがん治療の取組み』 講演①『治療と就労の両立を支える連携』 あったかサポートセンター MSW 本家裕子 講演②『就労者におけるがん治療の現状 -血液悪性疾患 を中心に-』 血液・化学療法内科部長 川上 学 特別講演 『産業医に知っていただきたいがん医療の現状と課題』 大阪国際がんセンター 総長 松浦成昭 先生	予防医学センター	あったか ふれあい ホール
2月10日	日本生命病院「緩和ケア研修会」	がん治療センター	あったか ふれあい ホール
3月15日	日本生命病院「緩和ケア講演会」	がん治療センター	あったか ふれあい ホール
3月22日	第17回 日本生命病院地域連携看護セミナー ＜感染のしくみ＞と＜からだを守るしくみ＞ 感染症看護専門看護師 大野典子	看護部	あったか ふれあい ホール

【一般・患者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
4月21日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「医食同源～健康を保つ食事とは?～」 副院長 兼 内分泌・代謝内科 部長 橋本久仁彦	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
5月19日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「くすりの知識・豆知識」 薬剤部 古久保有希子	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
6月16日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「大切な人に急なことが起きたら、あなたはどうします か?」 副院長 兼 救急総合診療科部長 岸 正司	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
7月21日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「心房細動について ～脈をチェックして脳梗塞を予防しよう～」 循環器内科 部長 岡部太一	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
8月25日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「災害・地震は止められない！～今日から備える、第一 歩～」 救急看護認定看護師 牧田佐和子	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
9月22日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「医療分野での放射線利用 ～放射線を利用した画像診断のお話～」 中央放射線部 技師長 長澤浩造	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
10月20日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「メニエール病について」 耳鼻咽喉・頭頸部外科 部長 小泉敏三	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
11月10日	日本生命病院 いい皮膚の日 講演会 ○講演1：皮膚科医師による講演 「知っていますか？関節の痛みと皮膚の病気 は関係あるかも」 (講師：東山特任副院長) ○講演2：外来ナースチーム 「乾癬の日常生活の注意について」 (講師：外来看護師) ○講演3：病棟ナースチーム 「乾癬の入院パスについて」 (講師：病棟看護師)	皮膚科 あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
11月17日	西区健康セミナー日本生命病院 糖尿病フェア I 各種測定・相談 ・医師相談 ・血糖値・HbA1c測定 ・血管年齢測定 ・筋肉量・握力測定 ・栄養相談・ベジチェック ・お薬相談 II 医師によるミニセミナー 内分泌・代謝内科 森田香菜子	糖尿病・内分泌 センター あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
12月15日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「COPDってどんな病気？」 ニッセイ予防医学センター 松岡洋人 副センター長	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
1月19日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「転んでも骨折しない自信はありますか」 整形外科 部長 西原俊作	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
2月9日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「知って得する！転倒予防の秘訣 ～転ばないための身体づくり～」 リハビリテーション室 理学療法士 田中 孝	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
3月8日	日本生命病院 市民健康セミナー よくわかる健康講座 世界腎臓デー市民公開講座 「腎臓をまもろう」 講演1：「慢性腎臓病（CKD）って何ですか？」 講師：腎臓内科 宇津貴 部長 講演2：「腎臓はどうすれば守れるの？」 講師：腎臓内科 光本憲祐 副部長 講演3：「CKDの素朴なギモン」 講師：腎臓内科 水本 綾 副部長 講演4：「腎臓を守る減塩のポイント」 講師：栄養管理室 坂本彩弥 管理栄養士	腎臓内科 栄養管理室 あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール

5. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞

日本生命病院医学賞

所属	氏名	受賞内容
リハビリテーション科	辻 成佳	掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き2022

日本生命病院医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
呼吸器・免疫内科	柳澤 篤	症例報告 糖尿病性ケトアシドーシスとともにカンジダ肺臓炎を生じた 菜食主義男性患者の報告
腎臓内科	勝沼倫子	症例報告 長期間のゾレンドロン酸投与に関して生じたファンconi症候 群の1例

6. 地域活動等

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	10月15日(日) 10:00~17:00	巽 亜子	小児科担当
	中央急病診療所	1月13日(土) 15:00~22:00	西垣内俊也	内科担当
1歳6か月児健康診査	西区保健福祉センター	第4月曜日 午後	三浦夕子	年4回(6・9・12・3月) 実施
3歳児健康診査	西区保健福祉センター	第4月曜日 午後	三浦夕子	年8回(4・5・7・8・ 10・11・1・2月)実施
大阪西地域産業保健 センター 労働健康相談	西区民センター	9月21日(木) 17:30~19:30	高橋 励	産業医による小規模事業所 の労働健康相談
西区老人福祉セン ター医師会健康講座 「肺がんの診断と治 療」	西区老人福祉センター	10月31日(火) 14:00~15:00	立花 功	市民向け講演会
講演会 「認知症をよりよく 理解するために」	西区民センター	11月18日(土) 14:00~16:00	芳川浩男	「認知症等高齢者支援地域連 携事業」の市民向け講演会
予備自衛官活動	能登半島	1月10日(水)~ 1月19日(金)	辻 成佳	中部方面隊 自衛隊大阪地方 協力本部 予備二等陸佐として 能登半島地震に関わる災害派 遣活動に参加

7. ボランティアについて

地域に開かれた病院としてボランティアを一般市民から受け入れ、地域との信頼関係を強化し、より一層地域社会に貢献したい。

また、ボランティアは職員と協力し、患者さんが安心して治療を受けられるよう一人一人の患者さんにきめ細かいサービスを提供し、より良い療養環境を作り上げるよう努めていく。

コロナウイルス感染症拡大に伴い一部の活動を休止している。

■概要

名 称 「あったかサポートクラブ」

発 足 2001年（平成13年）

登録人数 12人（男性1人、女性11人）

活動内容

案内ボランティア

初再診手続きのサポート、車いす患者の介助、診察・検査等場所の案内

図書ボランティア（活動休止中）

外来図書コーナー、病棟図書コーナーの管理

ガーデンボランティア

ニッセイ四季彩ガーデンの手入れ

8. 広報関係（各種メディア、表彰等）

(1) 表彰

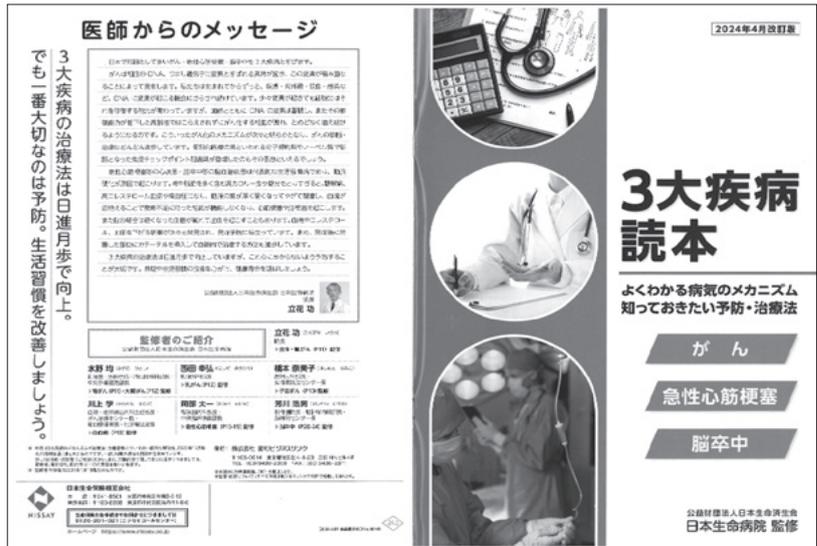
なし

(2) 監修（日本生命関連）

- ・ 3大疾病読本（2024年度版）
- ・ NISSAYデータブック（2024年度版）



NISSAYデータブック（2024年度版）



3大疾病読本（2024年度版）

9. 院内行事

〈2023年〉

4月3日	・2023年度新入職員入会式
4月3日	・2023年度進発式
4月19日	・CS・ES進発
4月21日	・よくわかる健康講座（4/21、5/19、6/16、7/21、8/25、9/22、10/20、12/15、1/19、2/9）
5月2日	・保険診療講習会「5類移行に伴うCOVID-19に係る診療報酬上の臨時的取扱いについて」
5月12日	・日本生命病院 医学セミナーUpdate（～3/1まで全11回）
5月29日	・日本生命済生会理事会
6月6日	・院内感染対策委員会 第48回教育講演
6月13日	・日本生命済生会評議員会
6月20日	・日本生命病院 地域医療支援運営委員会（6/20、9/19、12/19、3/19）
6月23日	・2022年度決算報告会ならびに度表彰式
6月30日	・日生稲荷神社・日生白玉神社 神事（稲荷祭）
6月30日	・CPC（6/30、9/1、10/6、11/21、12/26、2/20、3/19）
7月22日	・第24回あわぎフォーラム（特別講演：大阪大学大学院医学系研究科 救急医学教授 大阪大学医学部付属病院 高度救命救急センター センター長 織田 順先生）
7月23日	・開放型病院登録医総会、開放型病院運営委員会
7月28日	・脳機能センター認知症ケアチーム主催 「急性期病院における認知症ケア」研修開催
8月8日	・献血協力（大阪府赤十字血液センター）
8月17日	・院内感染対策委員会 第49回教育講演
8月25日	・消防・防災訓練（8/25、12/22）
9月14日	・第1回医療安全研修
9月22日	・保険診療講習会「入退院支援の運用について」
9月29日	・日本生命病院 地域連携看護セミナー（9/29、12/15、3/22）
10月11日	・新卒者合同研修「他職種協働で選ばれる病院を創る」
10月12日	・NST講演会「高齢者に対する栄養管理～胃瘻を適正に使うことの意義～」
10月20日	・2023年度下期進発式、日本生命病院医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
11月6日	・2023年度クリティカルパス症例検討会
11月8日	・篤志解剖者慰霊祭
11月10日	・日本生命病院 いい皮膚の日
11月16日	・接遇研修
11月17日	・糖尿病フェア
11月20日	・ニッセイ看護フェア（デジタルサイネージにて 11/20～12/1）
12月8日	・保健所立ち入り検査
12月14日	・医療ガスの安全な取扱い研修会

〈2024年〉

1月4日	・新年互礼会
1月19日	・輸血療法委員会「輸血用血液製剤のできるまで」「2023年輸血療法マニュアル変更点」
1月25日	・人権研修会「ハラスメント防止～様々な仕事内容・立場を認め合えるように～」
1月26日	・認知症ケア研修「アルツハイマー病の新薬を一緒にまなびましょう」
2月1日	・第2回医療安全研修
2月2日	・第9回 4病院リウマチ合同カンファレンス
2月3日	・日本生命病院 産業医セミナー
2月6日	・院内感染対策委員会 第50回教育講演
2月10日	・日本生命病院 緩和ケア研修会
2月16日	・治験審査委員会院内研修会
2月27日	・褥瘡対策委員会主催研修会
2月28日	・倫理委員会院内講演会
3月5日	・1年目研修医 症例報告会
3月6日	・ニッセイオレンジ茶論（認知症カフェ）
3月8日	・世界腎臓デー市民健康講座
3月12日	・2年目研修医 臨床研修発表会
3月13日	・献血協力（大阪府赤十字血液センター）
3月15日	・日本生命病院 緩和ケア講演会
3月22日	・日本生命済生会理事会・評議員会
3月26日	・防災管理委員会 教育研修

公益財団法人 日本生命済生会
日本生命病院年報
公第12巻（通算第23巻） 2024年9月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 年報WG
発 行 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院
住 所 〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番54号
T E L (06) 644-33-446（代表）
U R L <https://www.nissay-hp.or.jp/>

